

保健・福祉のまちづくりをすすめるための
市民アンケート調査報告書

令和5年3月

綾 瀬 市

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査の種類	1
3	調査対象者	1
4	調査の設計	2
5	回収状況	3
6	調査結果の表示方法	3
II	調査結果	4
1	就学前児童	4
(1)	回答者属性	4
(2)	保育の状況について	8
(3)	乳幼児のお子さんを保育園などに預けている方について	20
(4)	乳幼児のお子さんを保育園などに預けていない方について	21
(5)	子育ての状況について	23
(6)	母子保健事業について	34
(7)	今後の子育てに関することについて	44
2	地域福祉	52
(1)	回答者属性	52
(2)	近所づきあいや地域での暮らしについて	55
(3)	地域福祉について	66
(4)	災害時の対応について	81
(5)	新しい地域福祉の課題について	86
(6)	今後の福祉の方向について	103
3	保健医療	111
(1)	回答者属性	111
(2)	健康管理や健康観について	114
(3)	身長・体重について	123
(4)	生活習慣について	124
(5)	運動習慣について	128
(6)	ストレスについて	130
(7)	たばこについて	135
(8)	飲酒について	143
(9)	歯の健康について	145
(10)	薬や医療、保健サービスについて	149

4	ボランティア団体・NPO	171
	(1) 地域との関わりについて	171
5	福祉施設	186
	(1) 地域との関わりについて	186
Ⅲ	調査票	177
1	就学前児童	177
2	地域福祉	187
3	保健医療	201
4	ボランティア団体・NPO	211
5	福祉施設	215

I 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、「綾瀬市地域福祉計画」の見直しにあたり、本市に居住する就学前児童の保護者、市民、ボランティア団体・NPO、福祉施設を対象として、保健・福祉に対する意識及び保健・福祉サービスのニーズなどを把握し、計画策定の基礎資料を得ることを目的とするものです。

2 調査の種類

本調査は、以下の5種類の調査により構成されます。

- 保健・福祉のまちづくりをすすめるための市民アンケート調査（就学前児童）
- 保健・福祉のまちづくりをすすめるための市民アンケート調査（地域福祉）
- 保健・福祉のまちづくりをすすめるための市民アンケート調査（保健医療）
- 保健・福祉のまちづくりをすすめるための市民アンケート調査（ボランティア団体・NPO）
- 保健・福祉のまちづくりをすすめるための市民アンケート調査（福祉施設）

3 調査対象者

5種類の調査対象者は次のとおりです。

■ 調査対象者

調査種別	調査対象者
①就学前児童	市内在住の6歳以下就学前児童の保護者
②地域福祉	市内在住の20歳以上の市民
③保健医療	市内在住の15歳以上の市民
④ボランティア団体・NPO	市内で活動するボランティア団体・NPO（市社会福祉協議会へ登録している団体等）
⑤福祉施設	市内に立地する保育所を除く福祉施設

4 調査の設計

この調査は次のように設計しました。


■ 調査の設計

調査種別	項目	内容
①就学前児童	ア. 対象者数	1,000人
	イ. 抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出
	ウ. 調査地域	市内全域
	エ. 調査方法	郵送配布・郵送回収
	オ. 調査時期	令和4年12月12日～12月26日
②地域福祉	ア. 対象者数	1,500人
	イ. 抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出
	ウ. 調査地域	市内全域
	エ. 調査方法	郵送配布・郵送回収
	オ. 調査時期	令和4年12月12日～12月26日
③保健医療	ア. 対象者数	1,500人
	イ. 抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出
	ウ. 調査地域	市内全域
	エ. 調査方法	郵送配布・郵送回収
	オ. 調査時期	令和4年12月12日～12月26日
④ボランティア団体・NPO	ア. 対象者数	50団体
	イ. 抽出方法	無作為抽出
	ウ. 調査地域	市内全域
	エ. 調査方法	郵送配布・郵送回収
	オ. 調査時期	令和4年12月12日～12月26日
⑤福祉施設	ア. 対象者数	20か所
	イ. 抽出方法	無作為抽出
	ウ. 調査地域	市内全域
	エ. 調査方法	郵送配布・郵送回収
	オ. 調査時期	令和4年12月12日～12月26日

5 回収状況

調査種別	調査対象	配布数	有効回答数	有効回答率
①就学前児童	市内在住の6歳以下就学前児童の保護者	1000通	402通	40.2%
②地域福祉	市内在住の20歳以上の市民	1500通	462通	30.8%
③保健医療	市内在住の15歳以上の市民	1500通	518通	34.5%
④ボランティア団体・NPO	市内で活動するボランティア団体・NPO (市社会福祉協議会へ登録している団体等)	50通	27通	54.0%
⑤福祉施設	市内に立地する保育所を除く福祉施設	20通	10通	50.0%
合計		4,070通	1,419通	34.9%

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数を基数とした百分率(%)で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計(全体)の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを  で網かけをしています。(無回答を除く)

Ⅱ 調査結果

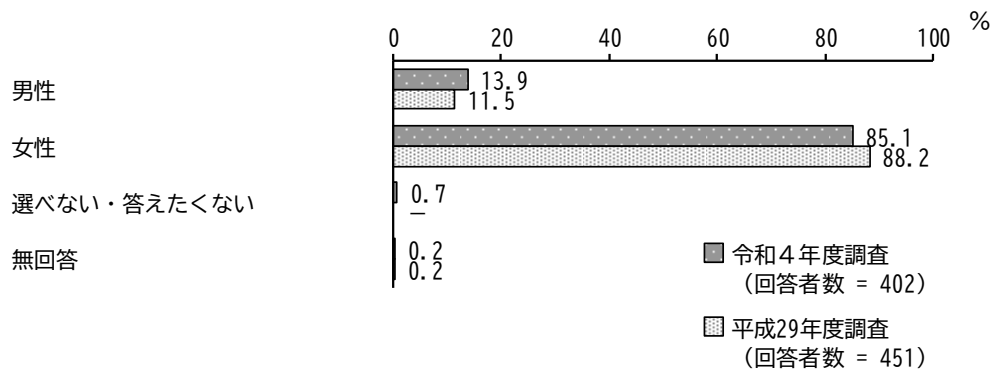
1 就学前児童

(1) 回答者属性

問1 あなたの性別は。(1つに○)

「男性」の割合が13.9%、「女性」の割合が85.1%、「選べない・答えたくない」の割合が0.7%となっています。

平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

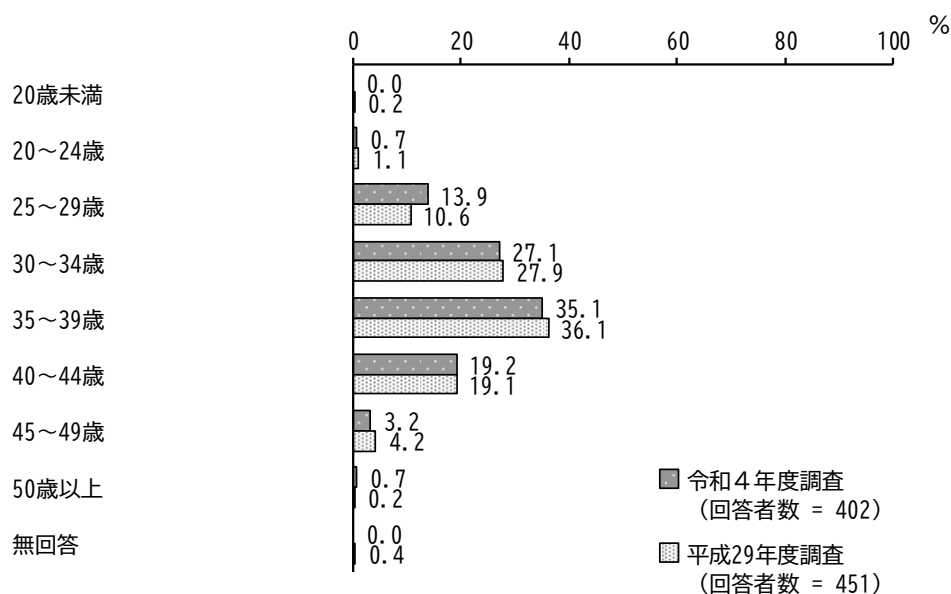


※平成29年度調査では「選べない・答えたくない」の選択肢はありませんでした。

問2 あなたの年齢は。(1つに○)

「35～39歳」の割合が35.1%と最も高く、次いで「30～34歳」の割合が27.1%、「40～44歳」の割合が19.2%となっています。

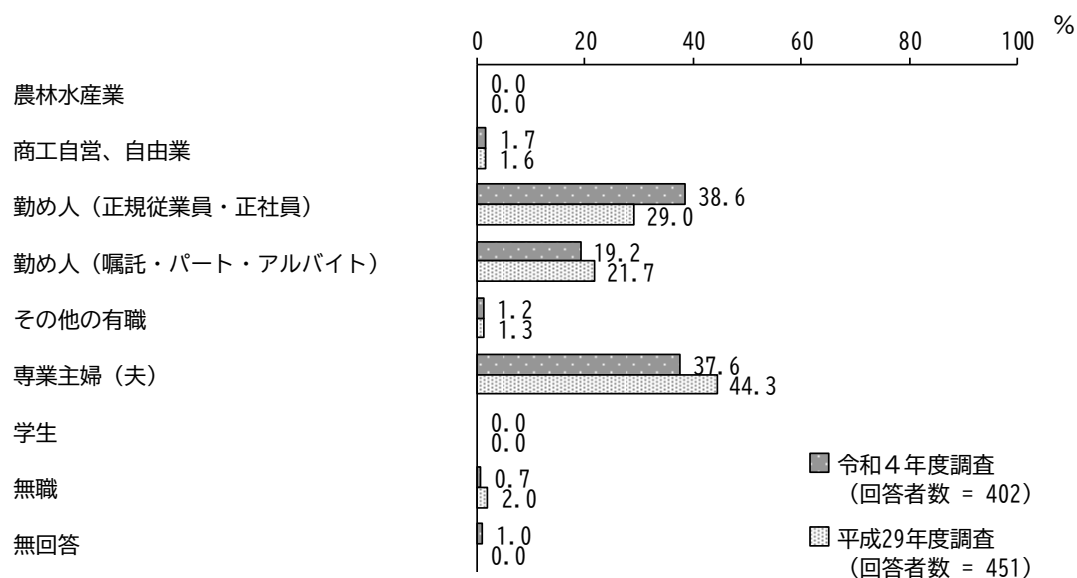
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問3 あなたの職業は。(1つに○)

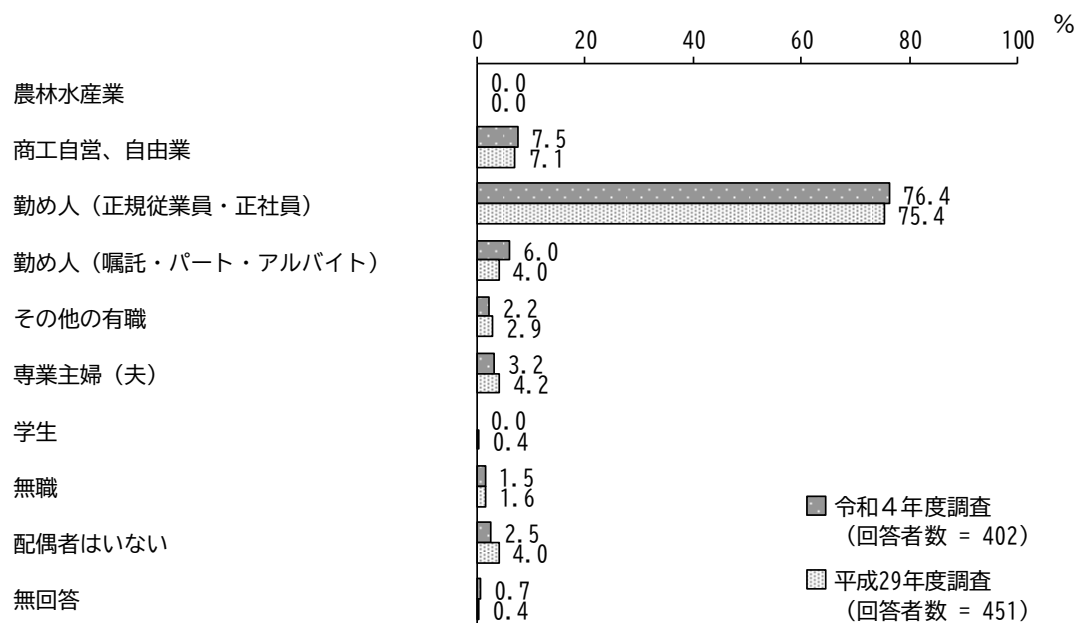
「勤め人（正規従業員・正社員）」の割合が38.6%と最も高く、次いで「専業主婦（夫）」の割合が37.6%、「勤め人（嘱託・パート・アルバイト）」の割合が19.2%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「勤め人（正規従業員・正社員）」の割合が増加しています。一方、「専業主婦（夫）」の割合が減少しています。



問4 配偶者の職業は。(1つに○)

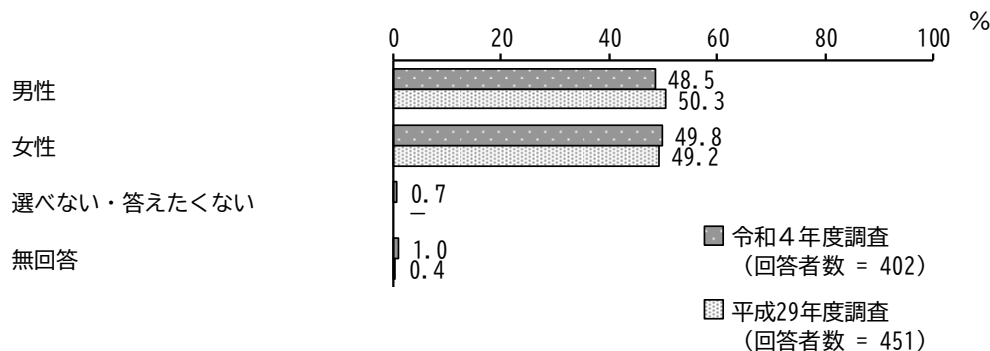
「勤め人（正規従業員・正社員）」の割合が76.4%と最も高くなっています。平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問5 お子さんの性別は。(1つに○) ※あて名のお子さんについてご記入ください。

「男性」の割合が48.5%、「女性」の割合が49.8%、「選べない・答えたくない」の割合が0.7%となっています。

平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

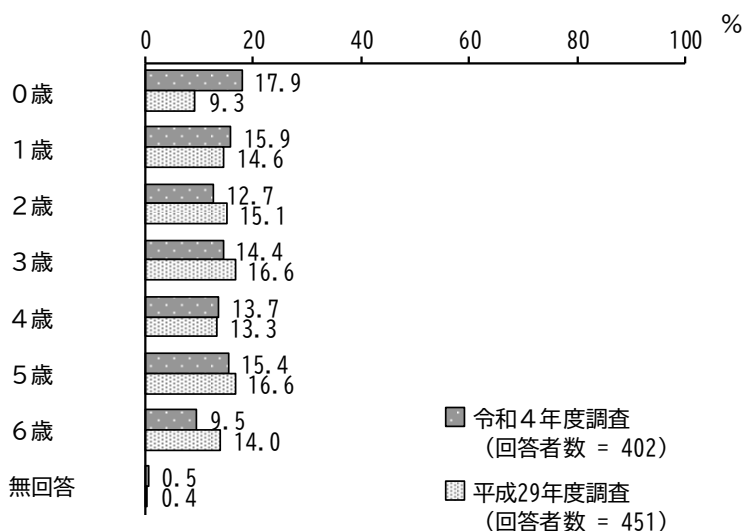


※平成29年度調査では「選べない・答えたくない」の選択肢はありませんでした。

問6 お子さんの年齢は(令和4年11月1日現在の満年齢)。(1つに○) ※あて名のお子さんについてご記入ください。

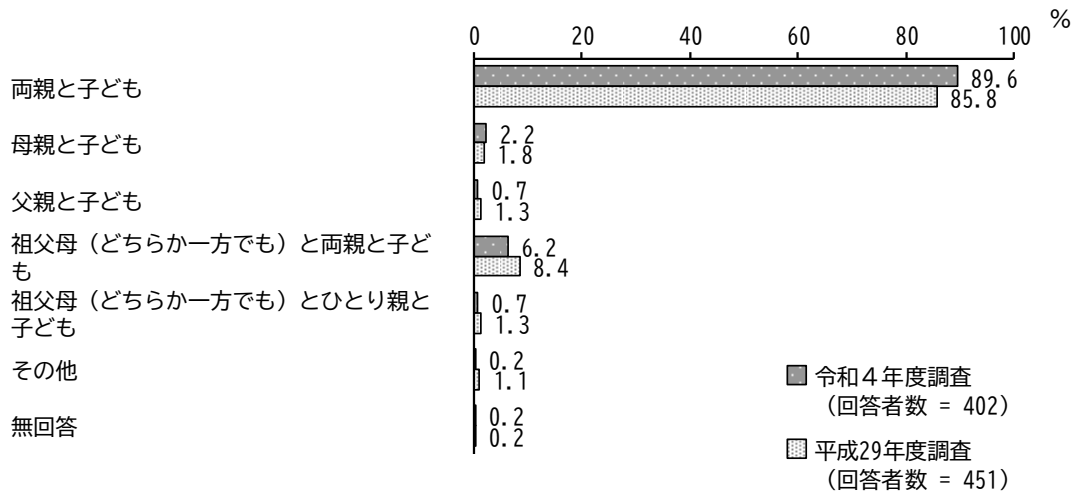
「0歳」の割合が17.9%と最も高く、次いで「1歳」の割合が15.9%、「5歳」の割合が15.4%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「0歳」の割合が増加しています。



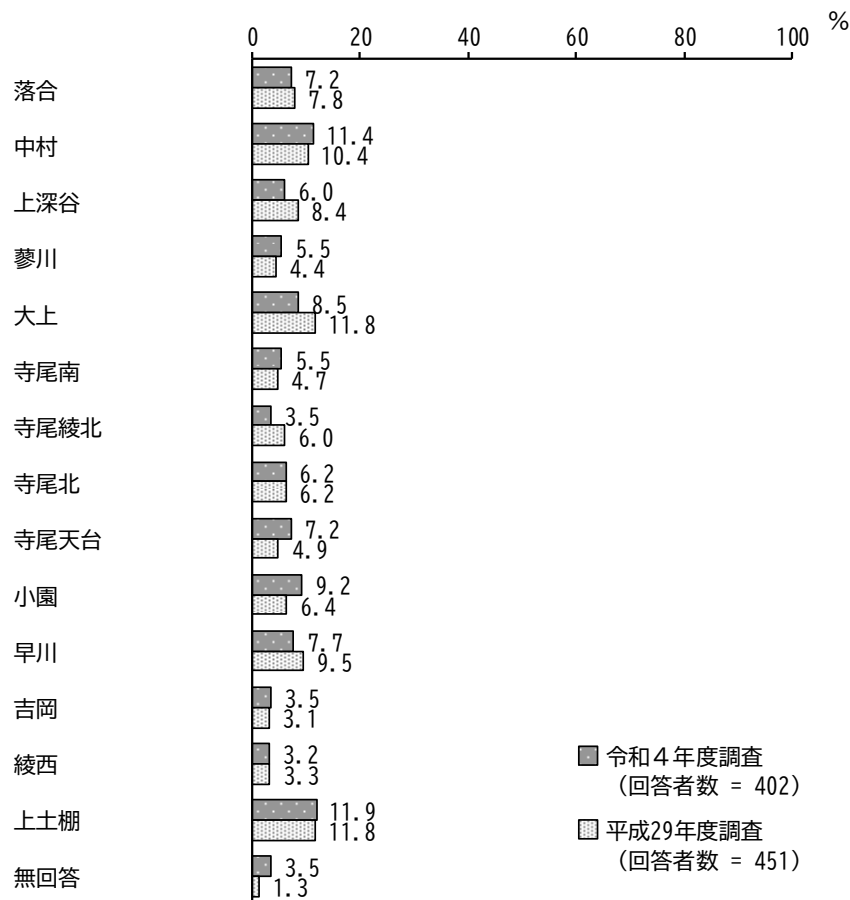
問7 ご家族の構成は。(1つに○)

「両親と子ども」の割合が89.6%と最も高くなっています。
 平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問8 あなたがお住まいになっている地域はどここの自治会区分ですか。(1つに○)

「上土棚」の割合が11.9%と最も高く、次いで「中村」の割合が11.4%となっています。
 平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

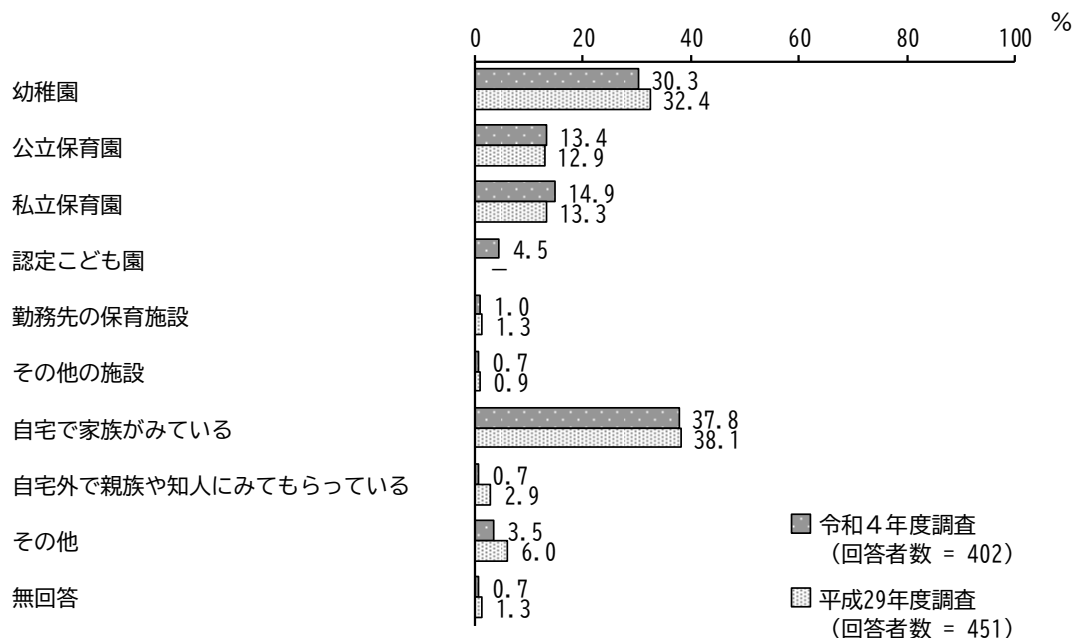


(2) 保育の状況について

問9 平日の昼間、お子さんの保育は主にどこで、またはどなたが行っていますか。(あてはまるものすべてに○)

「自宅で家族がみている」の割合が 37.8%と最も高く、次いで「幼稚園」の割合が 30.3%、「私立保育園」の割合が 14.9%となっています。

平成 29 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



※平成 29 年度調査では「認定こども園」の選択肢はありませんでした。

【子どもの年齢別】

子どもの年齢別にみると、他に比べ、0歳で「自宅で家族がみている」の割合が、4歳・6歳で「幼稚園」の割合が高くなっています。

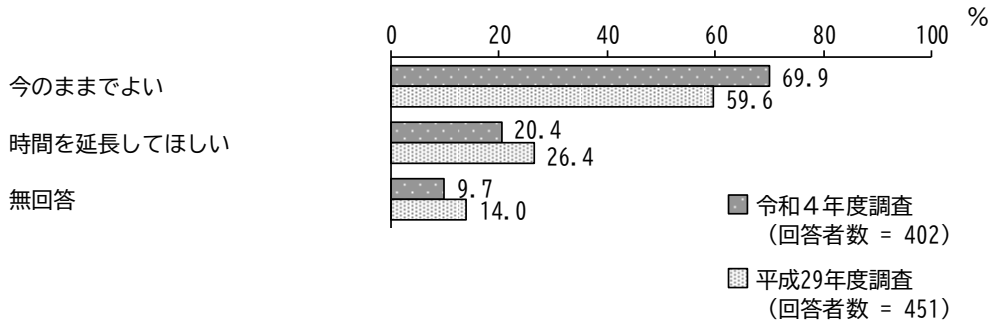
単位：%

区分	回答者数 (件)	幼稚園	公立保育園	私立保育園	認定こども園	勤務先の保育施設	その他の施設	自宅で家族がみている	自宅外で親族や知人にみてもらっている	その他	無回答
全体	402	30.3	13.4	14.9	4.5	1.0	0.7	37.8	0.7	3.5	0.7
0歳	72	2.8	4.2	2.8	-	1.4	-	91.7	1.4	6.9	1.4
1歳	64	4.7	17.2	15.6	3.1	1.6	-	62.5	-	3.1	1.6
2歳	51	9.8	23.5	7.8	7.8	2.0	5.9	49.0	-	3.9	2.0
3歳	58	32.8	17.2	17.2	6.9	1.7	-	25.9	1.7	1.7	-
4歳	55	60.0	3.6	27.3	5.5	-	-	5.5	-	5.5	-
5歳	62	58.1	14.5	16.1	8.1	-	-	3.2	1.6	1.6	-
6歳	38	60.5	15.8	23.7	-	-	-	2.6	-	-	-

問 10 現在の保育時間についてどのようにお考えですか。(1つに〇)

「今のままでよい」の割合が69.9%、「時間を延長してほしい」の割合が20.4%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「今のままでよい」の割合が増加しています。一方、「時間を延長してほしい」の割合が減少しています。



【利用施設別】

利用施設別にみると、他に比べ、私立保育園で「今のままでよい」の割合が、認定こども園で「時間を延長してほしい」の割合が高くなっています。

単位：%

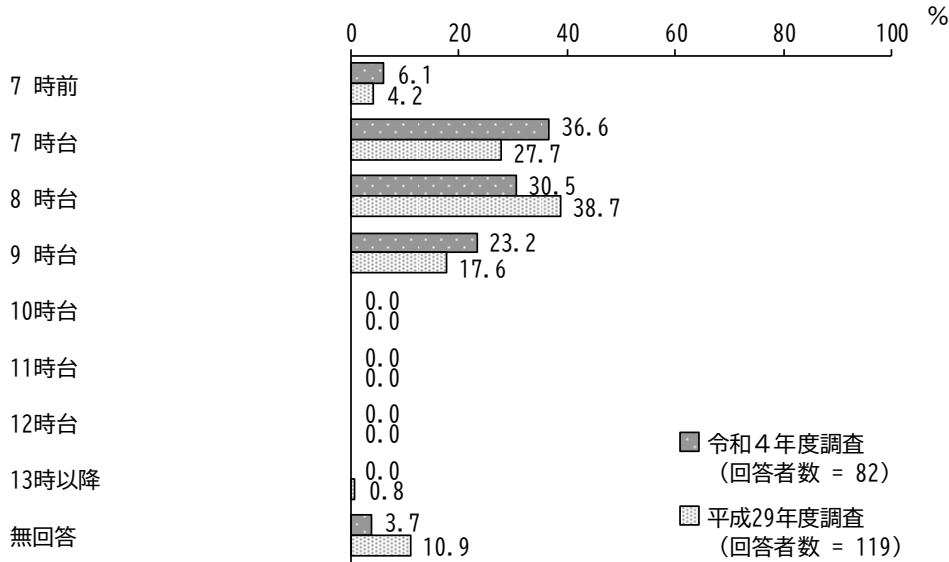
区分	回答者数 (件)	今のままでよい	時間を延長してほしい	無回答
全 体	402	69.9	20.4	9.7
幼稚園	122	70.5	29.5	—
公立保育園	54	75.9	22.2	1.9
私立保育園	60	83.3	16.7	—
認定こども園	18	61.1	38.9	—
勤務先の保育施設	4	100.0	—	—
その他の施設	3	100.0	—	—
自宅で家族がみている	152	63.2	14.5	22.4
自宅外で親族や知人にみてもらっている	3	—	100.0	—
その他	14	57.1	14.3	28.6

《問 10 で「2. 時間を延長してほしい」とお答えの方にお聞きします》

問 10-1 希望する保育時間について 24 時間制でご記入ください。

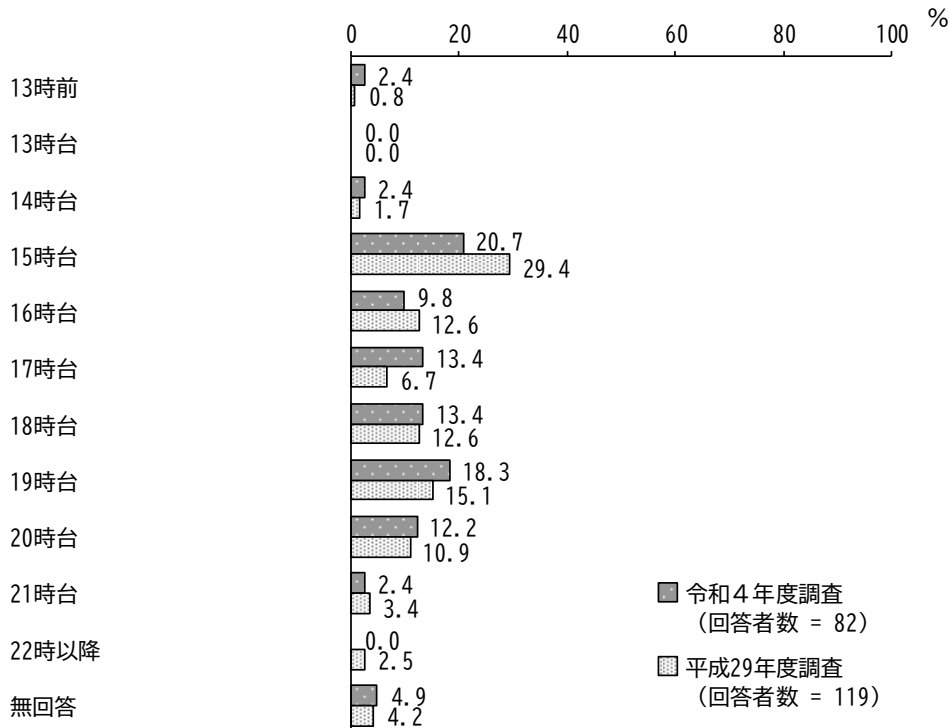
① 開始時間

「7 時台」の割合が 36.6%と最も高く、次いで「8 時台」の割合が 30.5%となっています。
 平成 29 年度調査と比較すると、「7 時台」「9 時台」の割合が増加しています。一方、「8 時台」の割合が減少しています。



② 終了時刻

「15 時台」の割合が 20.7%と最も高く、次いで「19 時台」の割合が 18.3%となっています。
 平成 29 年度調査と比較すると、「17 時台」の割合が増加しています。一方、「15 時台」の割合が減少しています。

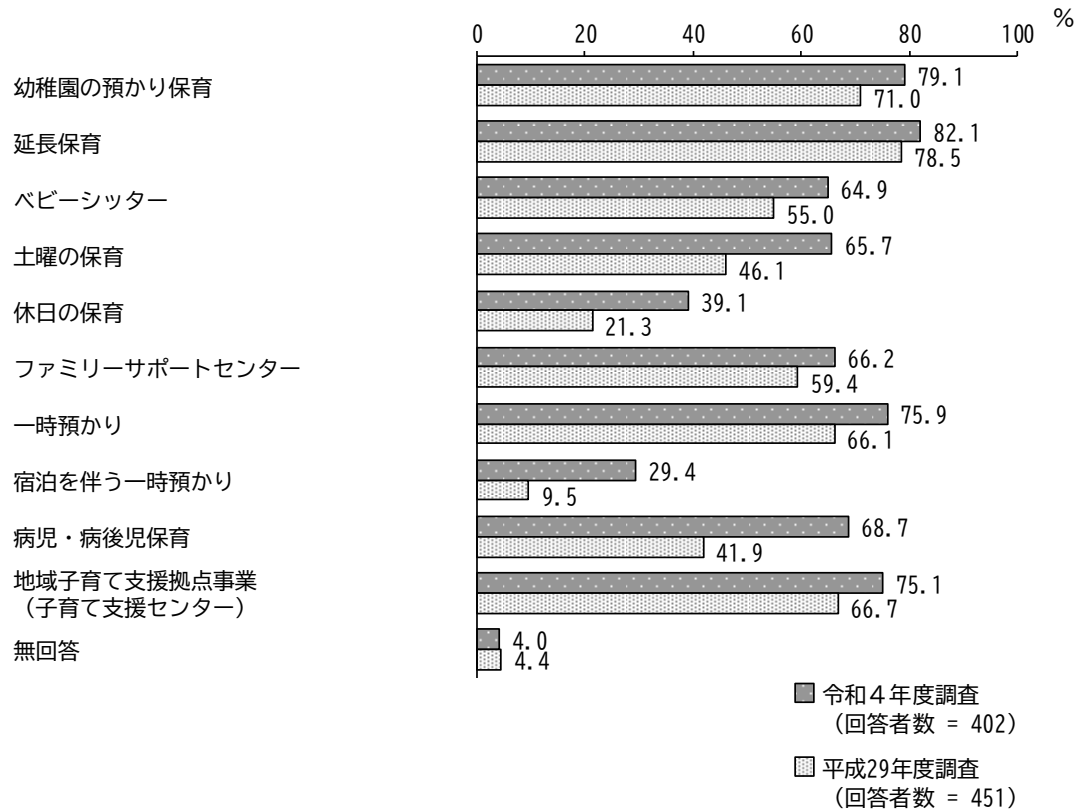


問11 保育サービス及び子育て支援サービスで知っているもの、これまで利用したことがあるもの、あなたのお考えに○をつけてください。(○は各項目で1つ)

1 知っている(あてはまるものすべてに○)

「延長保育」の割合が82.1%と最も高く、次いで「幼稚園の預かり保育」の割合が79.1%、「一時預かり」の割合が75.9%となっています。

平成29年度調査と比較すると、全ての項目の割合が増加しています。



【子どもの年齢別】

子どもの年齢別にみると、他に比べ、5歳で「ファミリーサポートセンター」「宿泊を伴う一時預かり」「地域子育て支援拠点事業（子育て支援センター）」の割合が高くなっています。

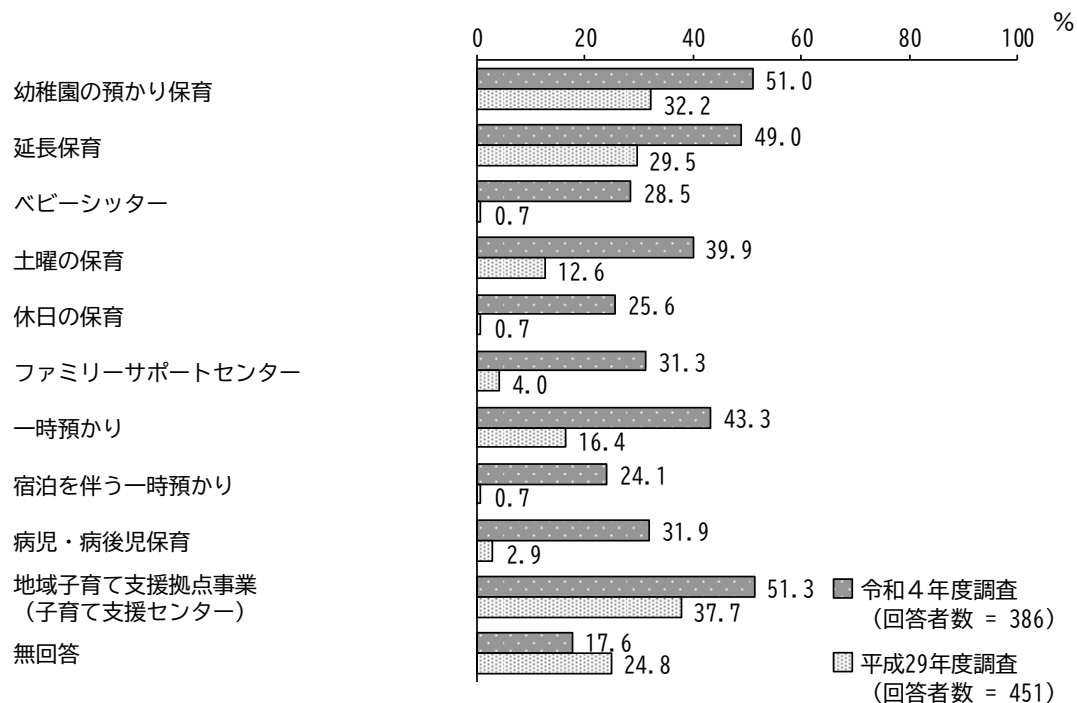
単位：％

区分	回答者数(件)	幼稚園の預かり保育	延長保育	ベビーシッター	土曜の保育	休日の保育	ファミリーサポートセンター	一時預かり	宿泊を伴う一時預かり	病児・病後児保育	地域子育て支援拠点事業 (子育て支援センター)	無回答
全 体	402	79.1	82.1	64.9	65.7	39.1	66.2	75.9	29.4	68.7	75.1	4.0
0歳	72	73.6	80.6	62.5	63.9	40.3	58.3	69.4	27.8	54.2	66.7	11.1
1歳	64	76.6	89.1	71.9	73.4	45.3	70.3	79.7	31.3	68.8	79.7	3.1
2歳	51	66.7	68.6	56.9	64.7	31.4	54.9	72.5	23.5	62.7	66.7	5.9
3歳	58	82.8	89.7	60.3	65.5	37.9	62.1	75.9	27.6	70.7	74.1	1.7
4歳	55	87.3	81.8	70.9	61.8	36.4	74.5	81.8	27.3	74.5	83.6	—
5歳	62	85.5	85.5	71.0	67.7	48.4	79.0	85.5	45.2	80.6	87.1	1.6
6歳	38	81.6	73.7	55.3	57.9	26.3	63.2	60.5	15.8	71.1	63.2	2.6

2 利用したことがある（あてはまるものすべてに○）

「地域子育て支援拠点事業（子育て支援センター）」の割合が 51.3%と最も高く、次いで「幼稚園の預かり保育」の割合が 51.0%、「延長保育」の割合が 49.0%となっています。

平成 29 年度調査と比較すると、全ての項目の割合が増加しています。



※令和4年度調査では「1. 知っている」と回答した方を対象としています。

【子どもの年齢別】

子どもの年齢別にみると、他に比べ、4歳・6歳で「幼稚園の預かり保育」の割合が、5歳で「地域子育て支援拠点事業（子育て支援センター）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	幼稚園の預かり保育	延長保育	ベビーシッター	土曜の保育	休日の保育	ファミリーサポートセンター	一時預かり	宿泊を伴う一時預かり	病児・病後児保育	地域子育て支援拠点事業 (子育て支援センター)	無回答
全 体	386	51.0	49.0	28.5	39.9	25.6	31.3	43.3	24.1	31.9	51.3	17.6
0歳	64	34.4	40.6	23.4	32.8	21.9	21.9	29.7	20.3	21.9	34.4	43.8
1歳	62	40.3	43.5	37.1	48.4	27.4	37.1	43.5	25.8	35.5	59.7	16.1
2歳	48	45.8	43.8	22.9	31.3	20.8	29.2	45.8	20.8	29.2	47.9	16.7
3歳	57	54.4	50.9	31.6	42.1	31.6	31.6	43.9	24.6	33.3	40.4	15.8
4歳	55	65.5	56.4	29.1	40.0	23.6	30.9	49.1	23.6	34.5	61.8	9.1
5歳	61	59.0	57.4	34.4	45.9	34.4	41.0	49.2	34.4	39.3	62.3	9.8
6歳	37	64.9	48.6	13.5	32.4	13.5	24.3	40.5	13.5	27.0	54.1	5.4

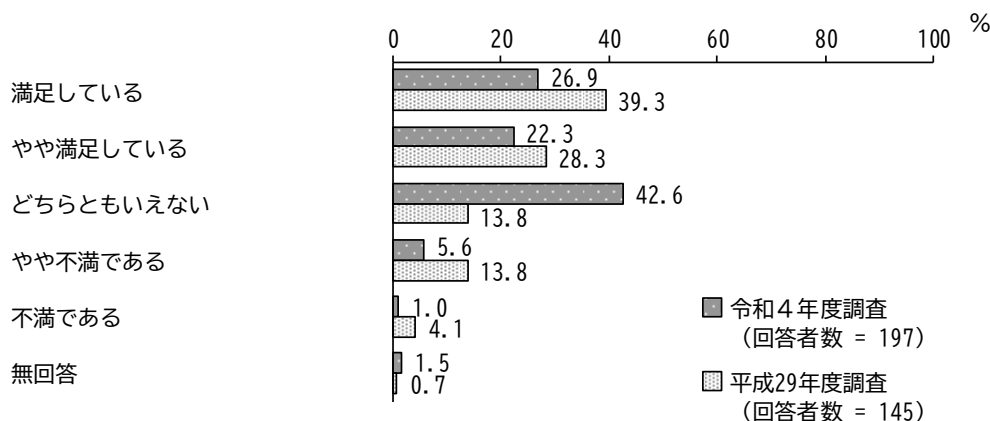
3 あなたのお考え（○は各項目で1つ）

※令和4年度調査では、「2. 利用したことがある」と回答した方を対象としています。

ア 幼稚園の預かり保育

「満足している」と「やや満足している」をあわせた“満足している”の割合が49.2%となっています。

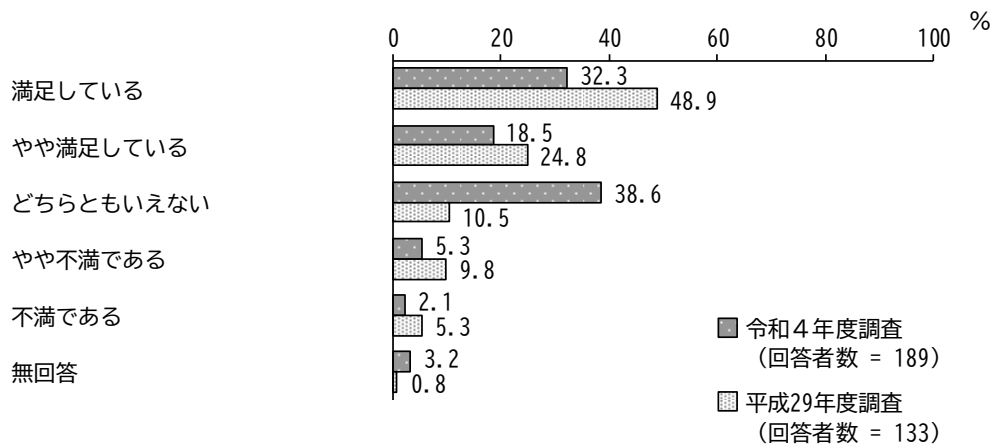
平成29年度調査と比較すると、「どちらともいえない」の割合が増加しています。一方、“満足している”、「やや不満である」と「不満である」をあわせた“不満である”の割合が減少しています。



イ 延長保育

「満足している」と「やや満足している」をあわせた“満足している”の割合が50.8%と、5割を超えています。

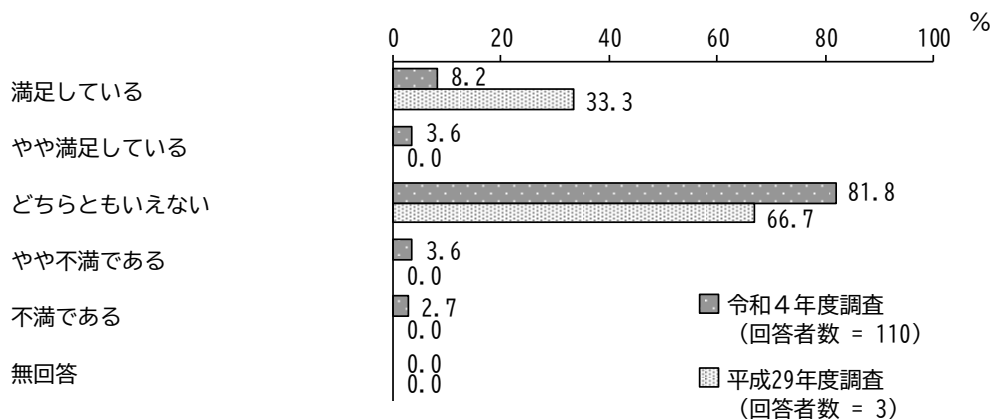
平成29年度調査と比較すると、「どちらともいえない」の割合が増加しています。一方、“満足している”、「やや不満である」と「不満である」をあわせた“不満である”の割合が減少しています。



ウ ベビーシッター

「どちらともいえない」の割合が81.8%と最も高く、次いで「満足している」と「やや満足している」をあわせた“満足している”の割合が11.8%となっています。

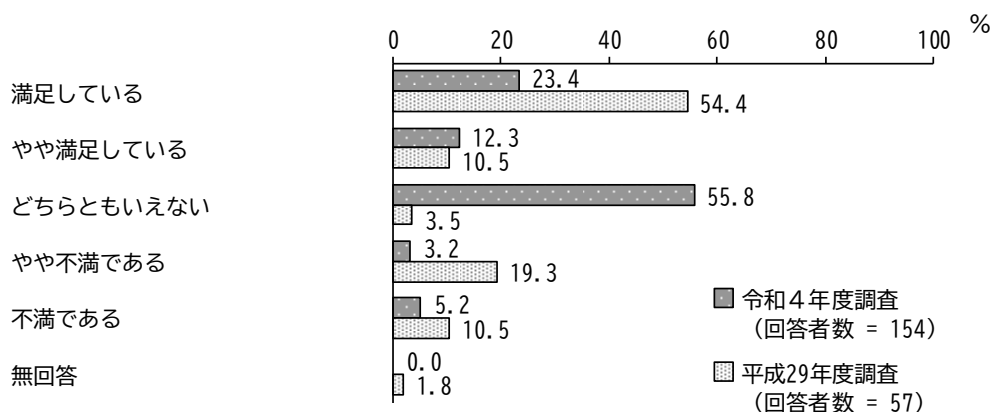
平成29年度調査と比較すると、「どちらともいえない」の割合が、「やや不満である」と「不満である」をあわせた“不満である”の割合が増加しています。一方、“満足している”の割合が減少しています。



エ 土曜の保育

「どちらともいえない」の割合が55.8%と最も高く、次いで「満足している」と「やや満足している」をあわせた“満足している”の割合が35.7%となっています。

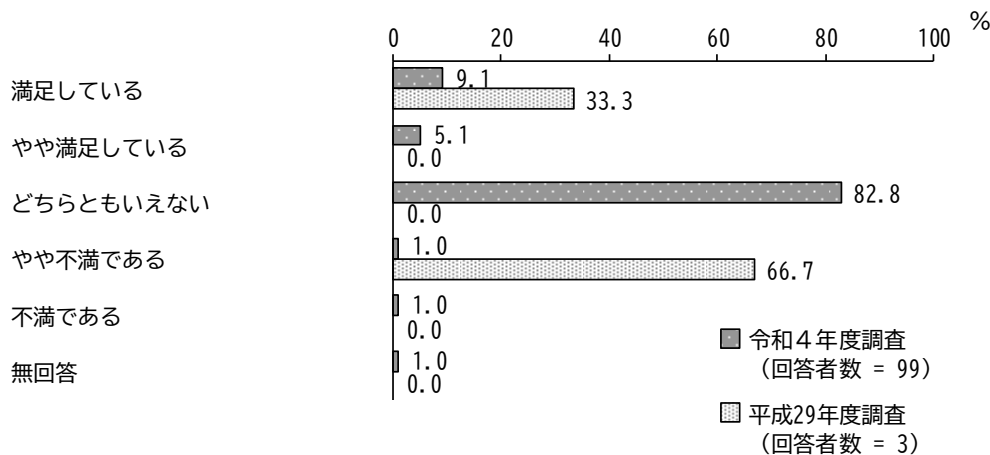
平成29年度調査と比較すると、「どちらともいえない」の割合が増加しています。一方、“満足している”、「やや不満である」と「不満である」をあわせた“不満である”の割合が減少しています。



オ 休日の保育

「どちらともいえない」の割合が82.8%と最も高く、次いで「満足している」と「やや満足している」をあわせた“満足している”の割合が14.2%となっています。

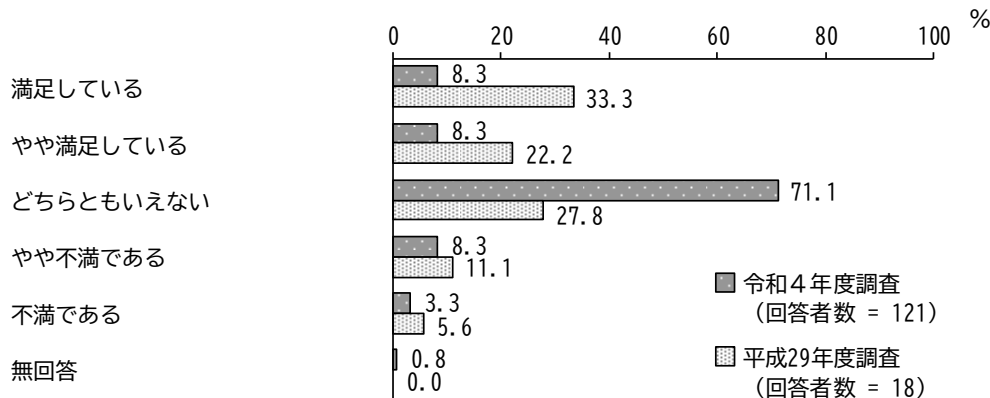
平成29年度調査と比較すると、「どちらともいえない」の割合が増加しています。一方、“満足している”、“やや不満である”と「不満である」をあわせた“不満である”の割合が減少しています。



カ ファミリーサポートセンター

「どちらともいえない」の割合が71.1%と最も高く、次いで「満足している」と「やや満足している」をあわせた“満足している”の割合が16.6%となっています。

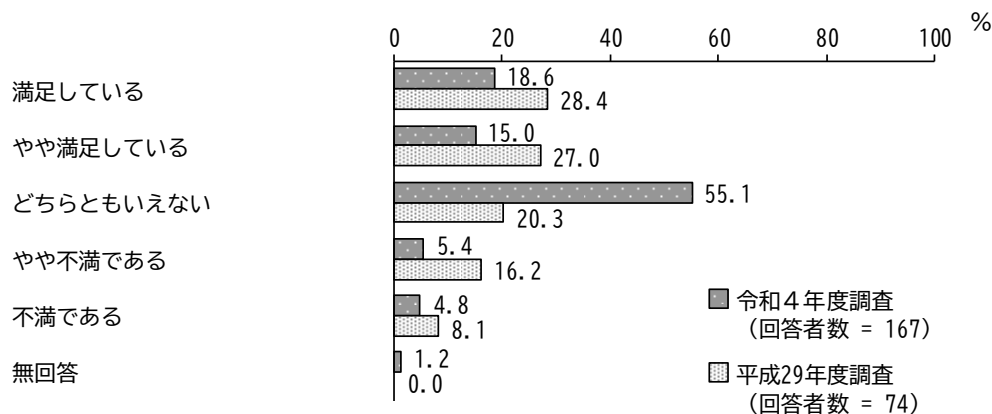
平成29年度調査と比較すると、「どちらともいえない」の割合が増加しています。一方、“満足している”、“やや不満である”と「不満である」をあわせた“不満である”の割合が減少しています。



キ 一時預かり

「どちらともいえない」の割合が55.1%と最も高く、次いで「満足している」と「やや満足している」をあわせた“満足している”の割合が33.6%となっています。

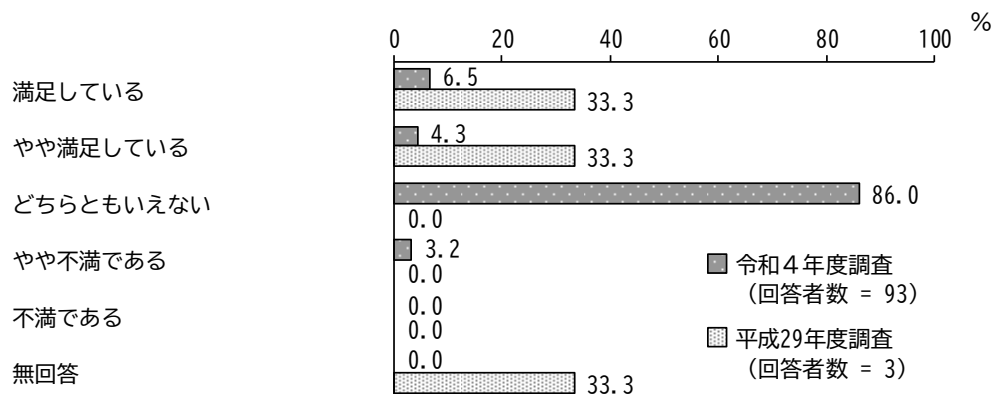
平成29年度調査と比較すると、「どちらともいえない」の割合が増加しています。一方、“満足している”、“やや不満である”と“不満である”をあわせた“不満である”の割合が減少しています。



ク 宿泊を伴う一時預かり

「どちらともいえない」の割合が86.0%と最も高く、次いで「満足している」と「やや満足している」をあわせた“満足している”の割合が10.8%となっています。

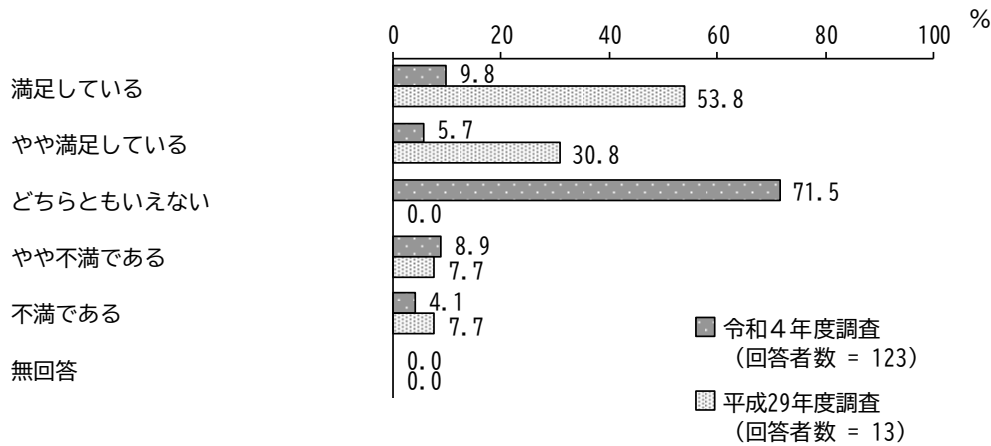
平成29年度調査と比較すると、「どちらともいえない」の割合が増加しています。一方、“満足している”の割合が減少しています。



ケ 病児・病後児保育

「どちらともいえない」の割合が71.5%と最も高く、次いで「満足している」と「やや満足している」をあわせた“満足している”の割合が15.5%となっています。

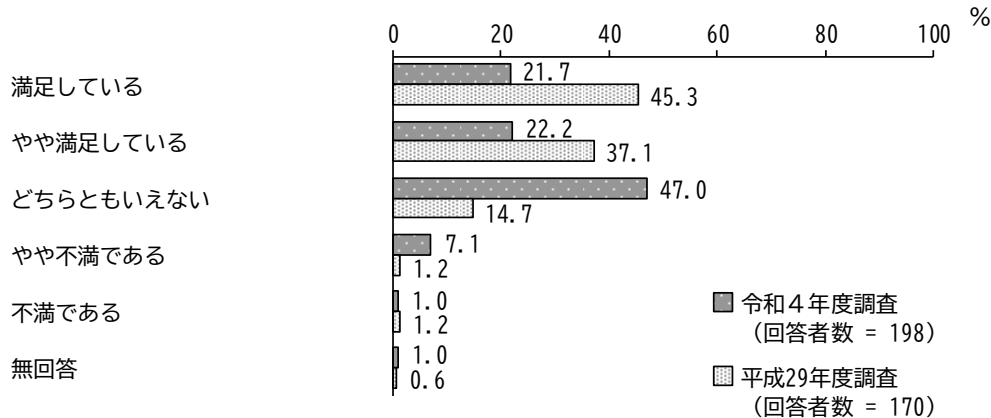
平成29年度調査と比較すると、「どちらともいえない」の割合が増加しています。一方、“満足している”の割合が減少しています。



コ 地域子育て支援拠点事業（子育て支援センター）

「どちらともいえない」の割合が47.0%と最も高く、次いで「満足している」と「やや満足している」をあわせた“満足している”の割合が43.9%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「どちらともいえない」の割合が増加しています。一方、“満足している”の割合が減少しています。

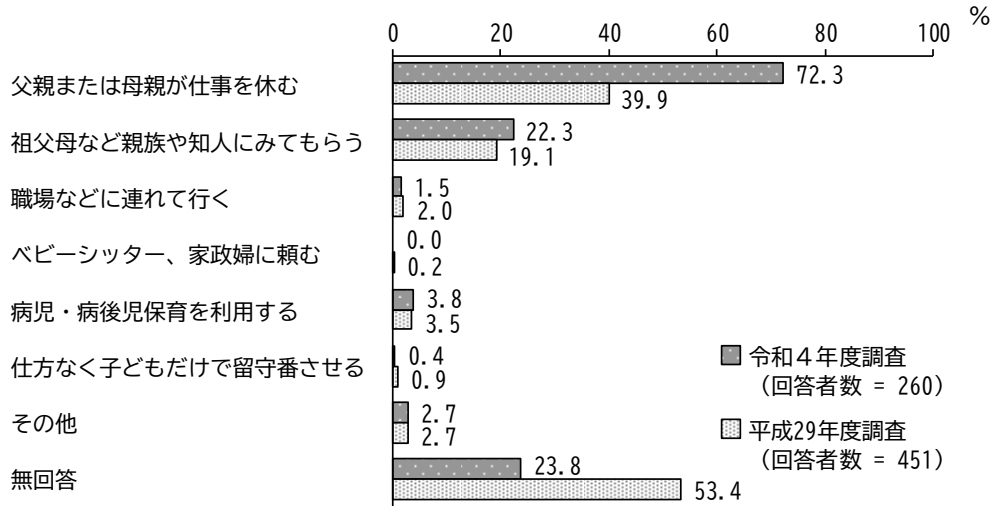


(3) 乳幼児のお子さんを保育園などに預けている方について

問12 お子さんがけがや病気になったときの対応はどのようにすることが多いですか。
 (あてはまるものすべてに○)
 ※令和4年度調査では問9で「1. 幼稚園」～「6. その他の施設」と回答した方を対象としています。

「父親または母親が仕事を休む」の割合が72.3%と最も高く、次いで「祖父母など親族や知人にみてもらう」の割合が22.3%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「父親または母親が仕事を休む」の割合が増加しています。



【子どもの年齢別】

子どもの年齢別にみると、他に比べ、1歳・3歳で「父親または母親が仕事を休む」の割合が、3歳で「祖父母など親族や知人にみてもらう」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	父親または母親が仕事を休む	祖父母など親族や知人にみてもらう	職場などに連れて行く	ベビーシッター、家政婦に頼む	病児・病後児保育を利用する	仕方なく子どもだけで留守番させる	その他	無回答
全体	260	72.3	22.3	1.5	—	3.8	0.4	2.7	23.8
0歳	8	75.0	12.5	—	—	12.5	—	—	25.0
1歳	27	88.9	18.5	—	—	3.7	—	—	11.1
2歳	29	79.3	24.1	—	—	6.9	—	—	13.8
3歳	43	86.0	32.6	2.3	—	4.7	—	—	11.6
4歳	53	75.5	17.0	1.9	—	1.9	—	5.7	18.9
5歳	60	60.0	20.0	1.7	—	1.7	—	6.7	33.3
6歳	38	55.3	23.7	2.6	—	5.3	2.6	—	44.7

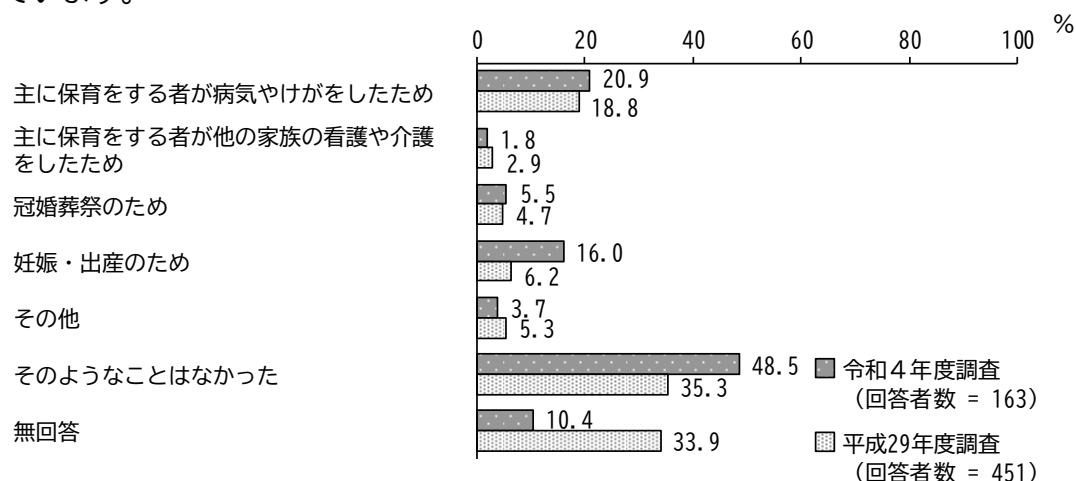
(4) 乳幼児のお子さんを保育園などに預けていない方について

問13 この一年間にお子さんの面倒をみられなかったことがありましたか。(あてはまるものすべてに○)

※令和4年度調査では問9で「7. 自宅で家族がみている」「8. 自宅外で親族や知人にみてもらっている」「9. その他」と回答した方を対象としています。

「そのようなことはなかった」の割合が48.5%と最も高く、次いで「主に保育をする者が病気やけがをしたため」の割合が20.9%、「妊娠・出産のため」の割合が16.0%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「妊娠・出産のため」「そのようなことはなかった」の割合が増加しています。



【子どもの年齢別】

子どもの年齢別にみると、他に比べ、1歳で「主に保育をする者が病気やけがをしたため」の割合が、3歳で「妊娠・出産のため」の割合が高くなっています。

単位：%

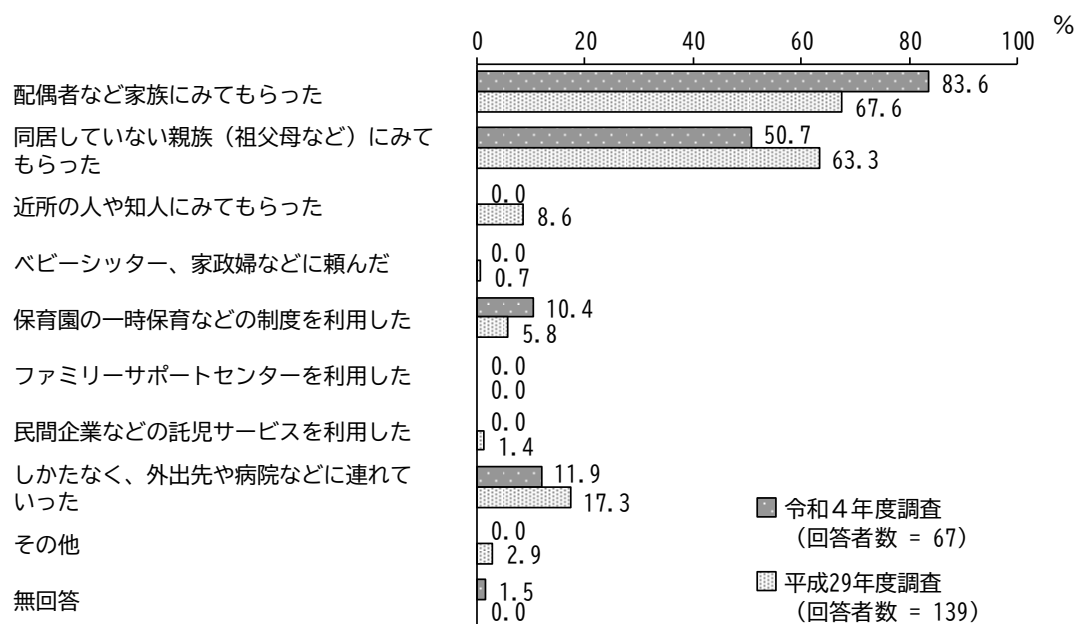
区分	回答者数(件)	主に保育をする者が病気やけがをしたため	主に保育をする者が他の家族の看護や介護をしたため	冠婚葬祭のため	妊娠・出産のため	その他	そのようなことはなかった	無回答
全体	163	20.9	1.8	5.5	16.0	3.7	48.5	10.4
0歳	70	18.6	2.9	5.7	15.7	1.4	52.9	8.6
1歳	41	39.0	—	—	12.2	2.4	46.3	4.9
2歳	27	14.8	3.7	11.1	18.5	7.4	48.1	11.1
3歳	16	6.3	—	12.5	25.0	12.5	37.5	12.5
4歳	5	—	—	—	20.0	—	40.0	40.0
5歳	3	—	—	—	—	—	66.7	33.3
6歳	1	—	—	—	—	—	—	100.0

《問13で「1. 主に保育をする者が病気やけがをしたため」～「5. その他」のいずれかをお答えの方にお聞きします》

問13-1 面倒がみられなくなったとき、どのように対応しましたか。(あてはまるものすべてに○)

「配偶者など家族にみてもらった」の割合が84.6%と最も高く、次いで「同居していない親族(祖父母など)にみてもらった」の割合が49.2%、「しかたなく、外出先や病院などに連れていった」の割合が12.3%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「配偶者など家族にみてもらった」「保育園の一時保育などの制度を利用した」の割合が増加しています。一方、「同居していない親族(祖父母など)にみてもらった」「近所の人や知人にみてもらった」の割合が減少しています。

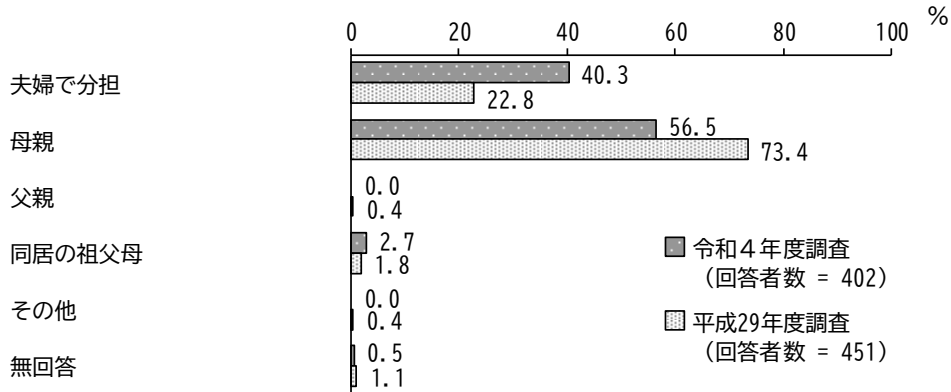


(5) 子育ての状況について

問 14 次のような家事や子育ては、主にどなたがなされていますか。
(○は各項目で1つ)

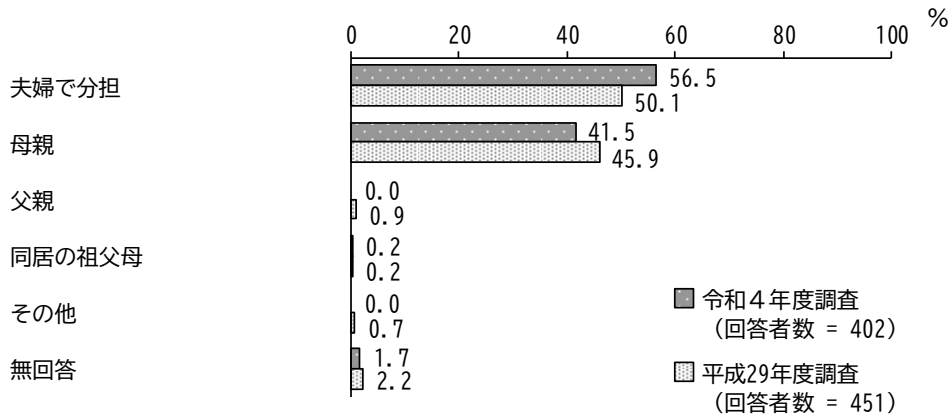
ア 家事全般

「母親」の割合が 56.5%と最も高く、次いで「夫婦で分担」の割合が 40.3%となっています。平成 29 年度調査と比較すると、「夫婦で分担」の割合が増加しています。一方、「母親」の割合が減少しています。



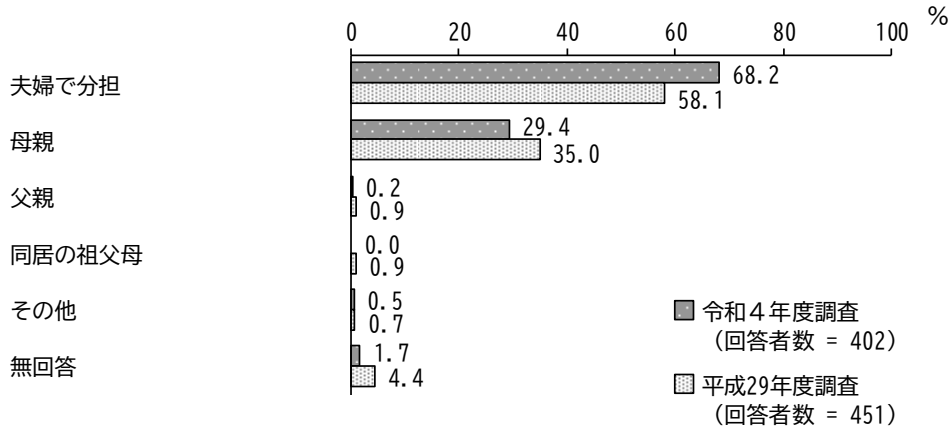
イ 子どもの生活習慣のしつけ

「夫婦で分担」の割合が 56.5%と最も高く、次いで「母親」の割合が 41.5%となっています。平成 29 年度調査と比較すると、「夫婦で分担」の割合が増加しています。



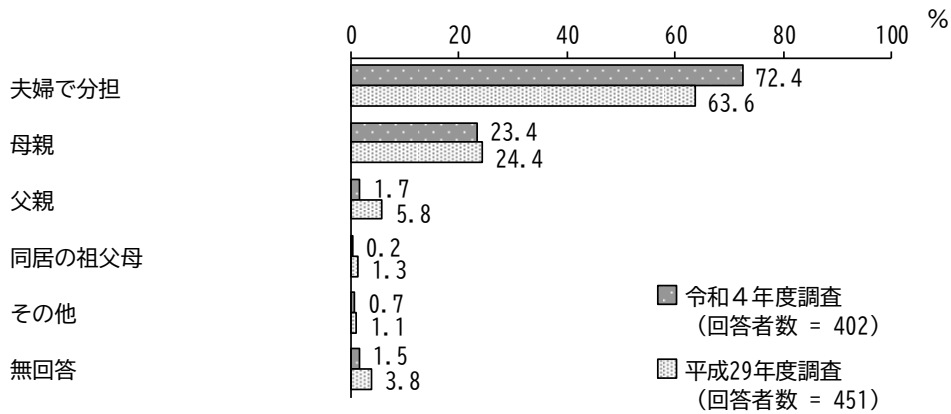
ウ 子どもの話し相手

「夫婦で分担」の割合が68.2%と最も高く、次いで「母親」の割合が29.4%となっています。平成29年度調査と比較すると、「夫婦で分担」の割合が増加しています。一方、「母親」の割合が減少しています。



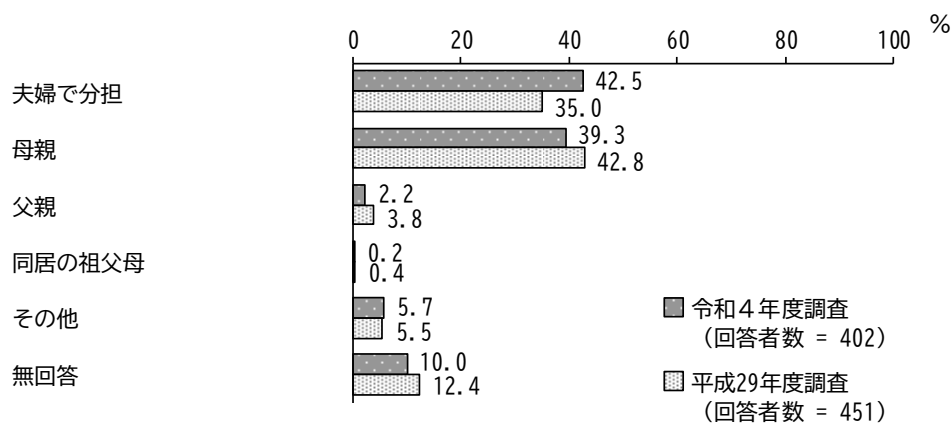
エ 子どもの遊び相手

「夫婦で分担」の割合が72.4%と最も高く、次いで「母親」の割合が23.4%となっています。平成29年度調査と比較すると、「夫婦で分担」の割合が増加しています。



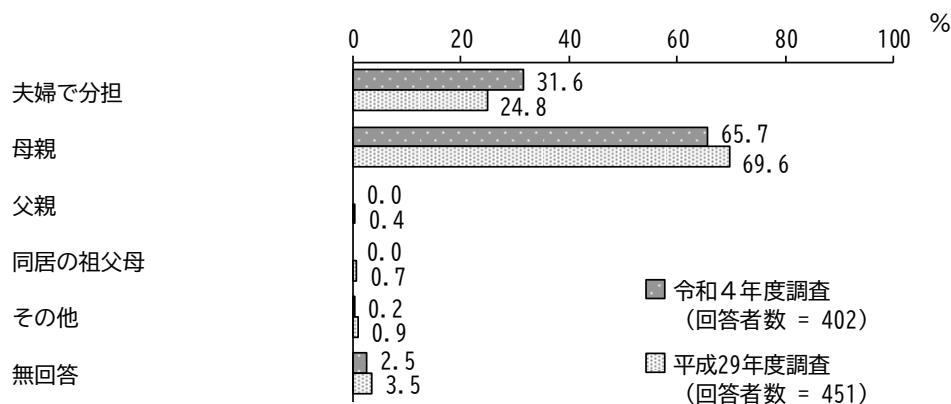
オ 子どもの勉強をみる

「夫婦で分担」の割合が42.5%と最も高く、次いで「母親」の割合が39.3%となっています。平成29年度調査と比較すると、「夫婦で分担」の割合が増加しています。



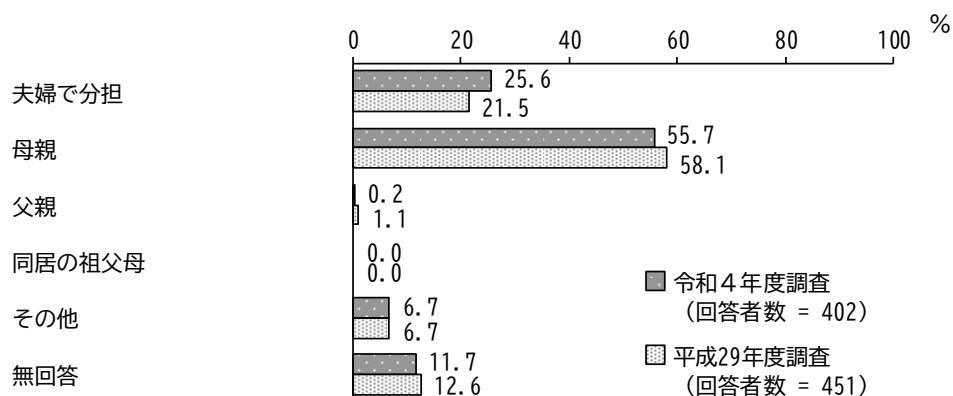
カ 子どもが病気のときの看病

「母親」の割合が65.7%と最も高く、次いで「夫婦で分担」の割合が31.6%となっています。平成29年度調査と比較すると、「夫婦で分担」の割合が増加しています。



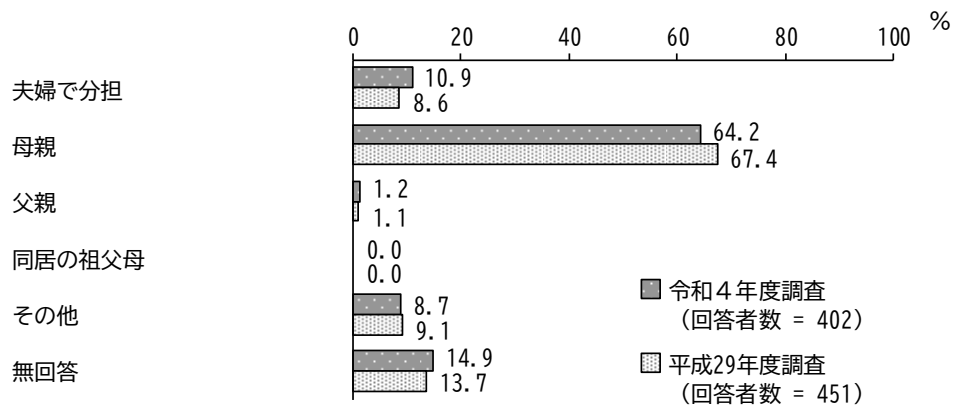
キ 保育参観・授業参観

「母親」の割合が55.7%と最も高く、次いで「夫婦で分担」の割合が25.6%となっています。平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



ク 保護者会（PTA）

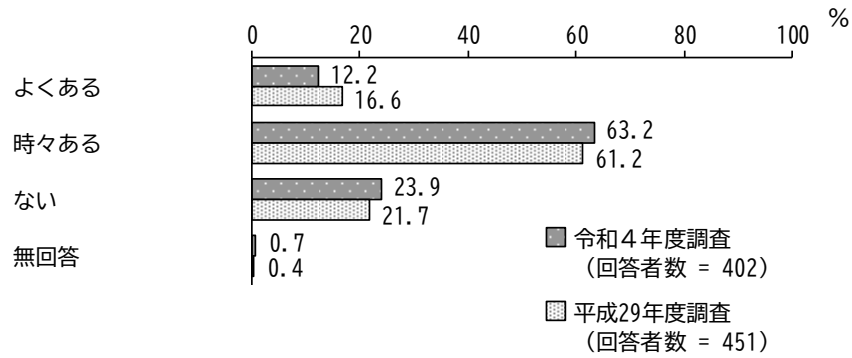
「母親」の割合が64.2%と最も高く、次いで「夫婦で分担」の割合が10.9%となっています。平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 15 お子さんが夜になって、突然熱を出したり、ぐったりして「お医者さんの診察を受けた方がいいのか、静かに寝かせておいた方がいいのか」迷ったりしたことはありますか。(1つに○)

「時々ある」の割合が 63.2%と最も高く、次いで「ない」の割合が 23.9%、「よくある」の割合が 12.2%となっています。

平成 29 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【子どもの年齢別】

子どもの年齢別にみると、他に比べ、0歳で「ない」の割合が、4歳・5歳で「時々ある」の割合が高くなっています。

単位：%

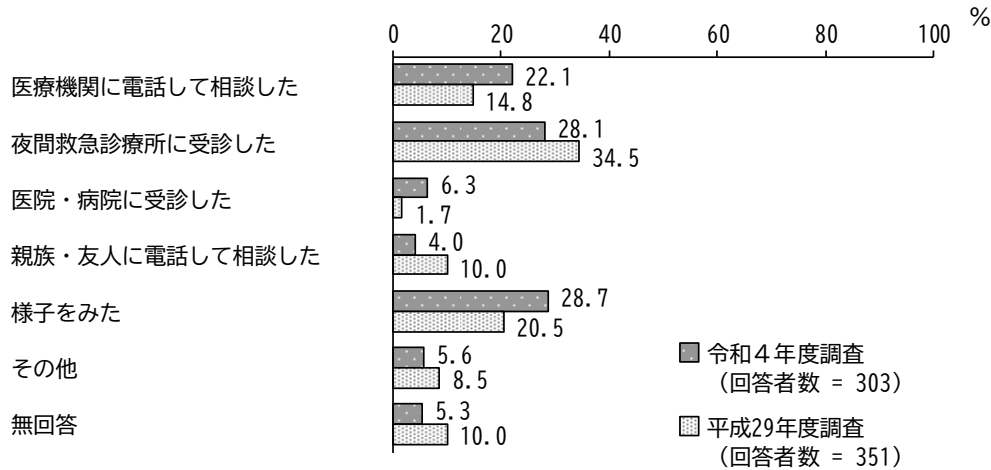
区分	回答者数 (件)	よくある	時々ある	ない	無回答
全 体	402	12.2	63.2	23.9	0.7
0 歳	72	9.7	51.4	36.1	2.8
1 歳	64	14.1	62.5	23.4	—
2 歳	51	11.8	62.7	25.5	—
3 歳	58	8.6	67.2	24.1	—
4 歳	55	12.7	70.9	16.4	—
5 歳	62	12.9	69.4	16.1	1.6
6 歳	38	18.4	57.9	23.7	—

《問15で「1. よくある」または「2. 時々ある」とお答えの方にお聞きします》

問15-1 そのときどうしましたか。(1つに○)

「様子をみた」の割合が28.7%と最も高く、次いで「夜間救急診療所に受診した」の割合が28.1%、「医療機関に電話して相談した」の割合が22.1%となっています。

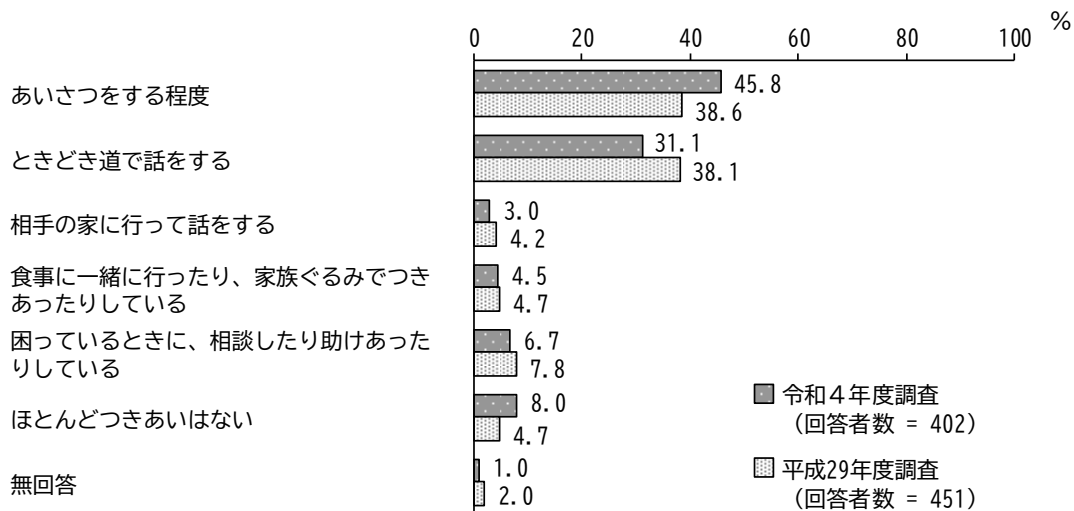
平成29年度調査と比較すると、「医療機関に電話して相談した」「様子をみた」の割合が増加しています。一方、「夜間救急診療所に受診した」「親族・友人に電話して相談した」の割合が減少しています。



問16 あなたの近所とのおつきあいはどうですか。(1つに○)

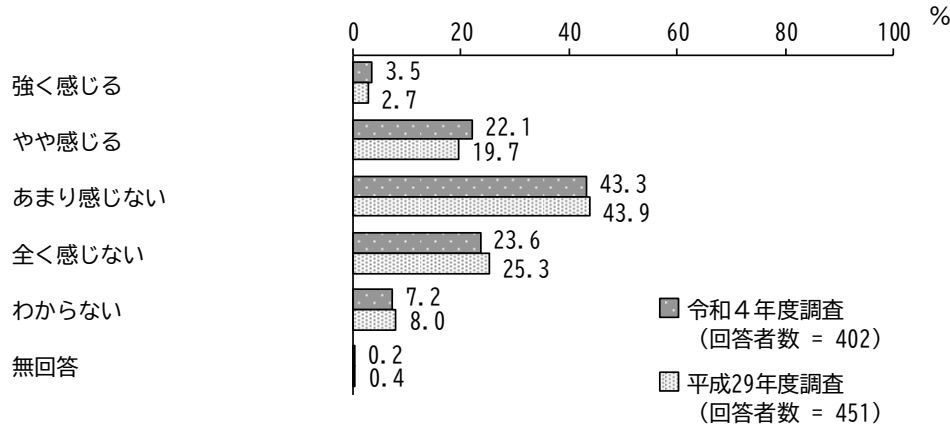
「あいさつをする程度」の割合が45.8%と最も高く、次いで「ときどき道で話をする」の割合が31.1%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「あいさつをする程度」の割合が増加しています。一方、「ときどき道で話をする」の割合が減少しています。



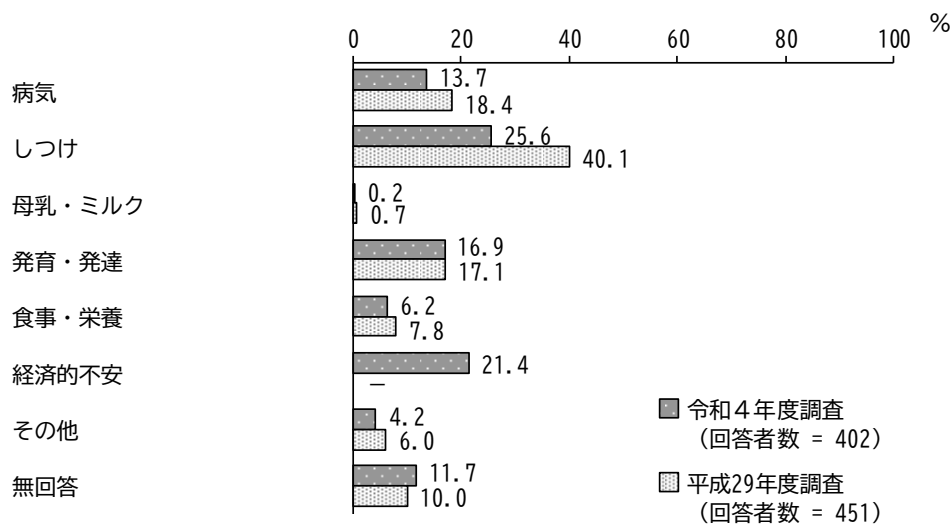
問 17 あなたは日常生活において孤立感を感じていますか。(1つに○)

「強く感じる」と「やや感じる」をあわせた“感じる”の割合は 25.6%となっており、「あまり感じない」と「全く感じない」をあわせた“感じない”の割合は 66.9%となっています。
平成 29 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 18 子育ての不安は主にどんなことですか。(1つに○)

「しつけ」の割合が 25.6%と最も高く、次いで「経済的不安」の割合が 21.4%、「発育・発達」の割合が 16.9%となっています。
平成 29 年度調査と比較すると、「しつけ」の割合が減少しています。

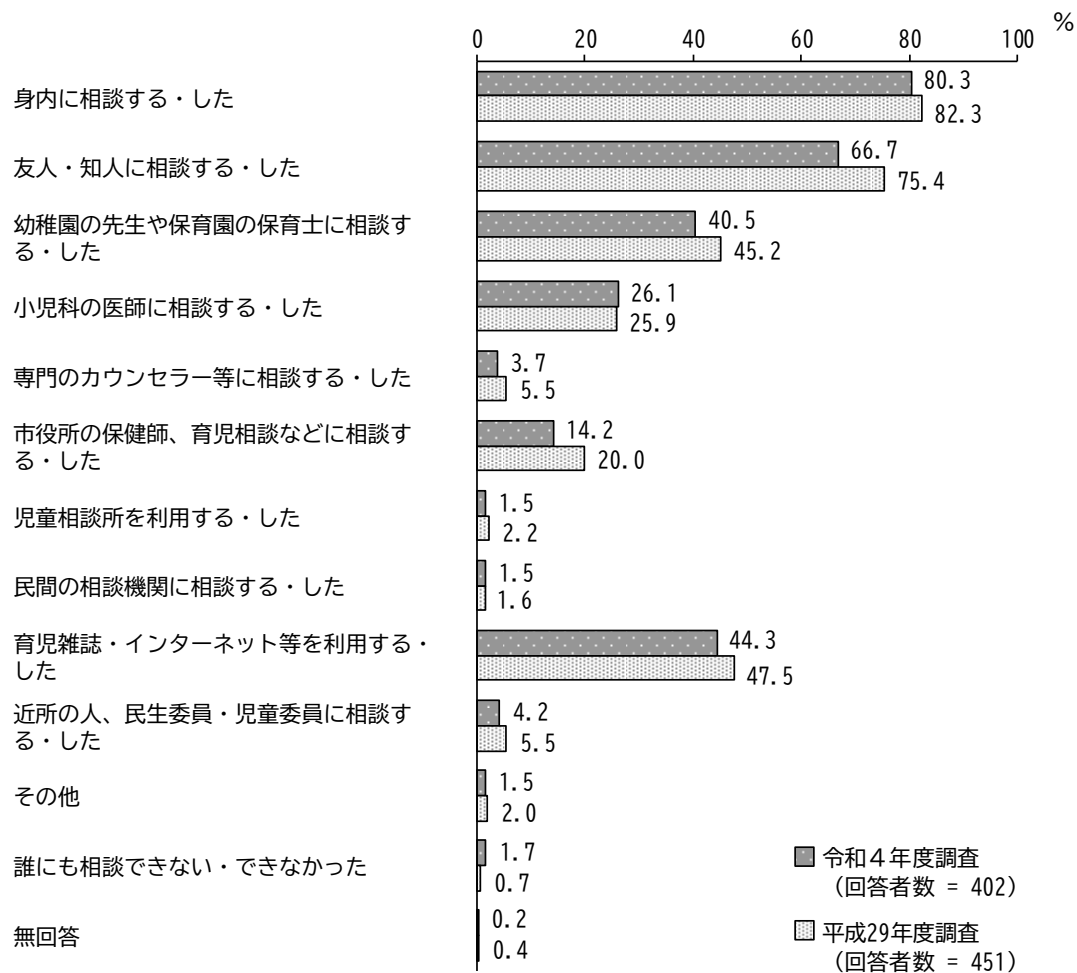


※平成 29 年度調査では「経済的不安」の選択肢はありませんでした。

問 19 あなたは、育児などの悩みがある場合、どのように解決しますか。または解決しましたか。(あてはまるものすべてに○)

「身内に相談する・した」の割合が80.3%と最も高く、次いで「友人・知人に相談する・した」の割合が66.7%、「育児雑誌・インターネット等を利用する・した」の割合が44.3%となっています。

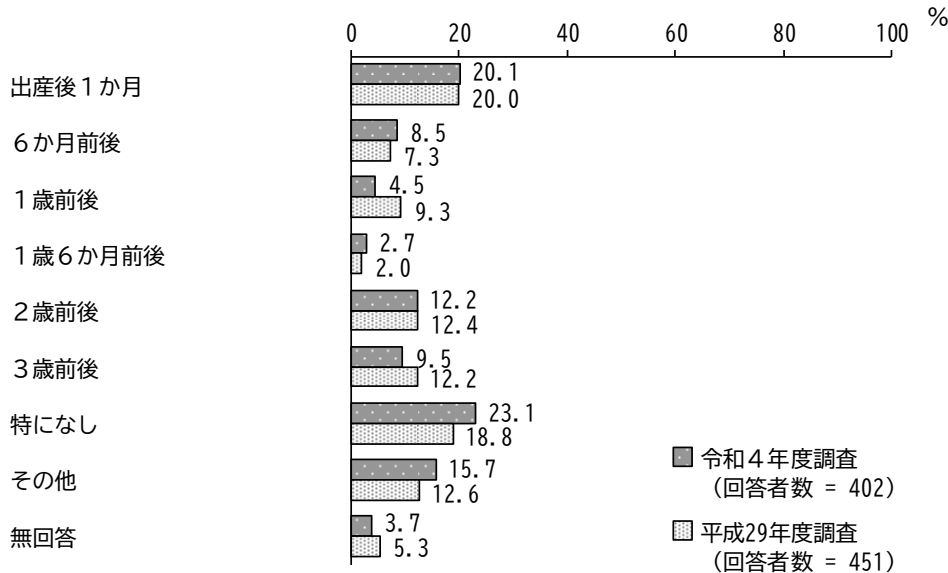
平成29年度調査と比較すると、「友人・知人に相談する・した」「市役所の保健師、育児相談などに相談する・した」の割合が減少しています。



問 20 子育てについて悩んだ時期はいつですか。(1つに〇)

「特になし」の割合が23.1%と最も高く、次いで「出産後1か月」の割合が20.1%、「2歳前後」の割合が12.2%となっています。

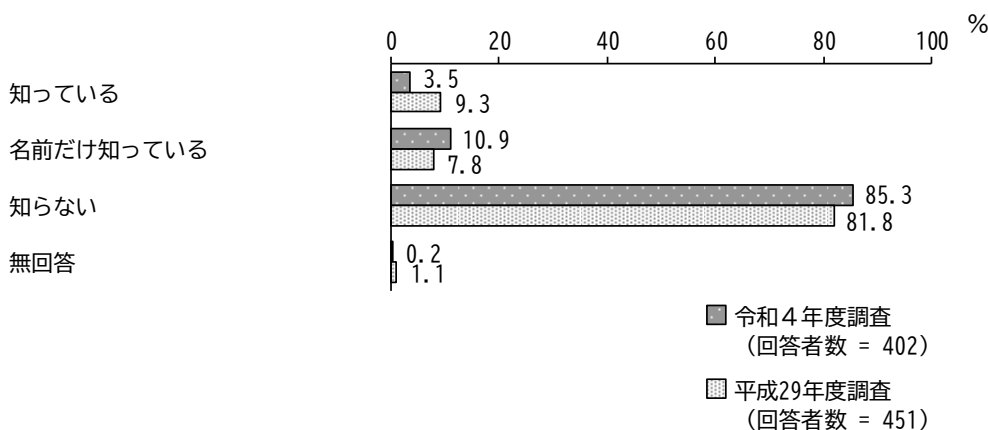
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 21 あなたがお住まいの地域の民生委員・児童委員をご存じですか。(1つに〇)

「知らない」の割合が85.3%と最も高く、次いで「名前だけ知っている」の割合が10.9%となっています。

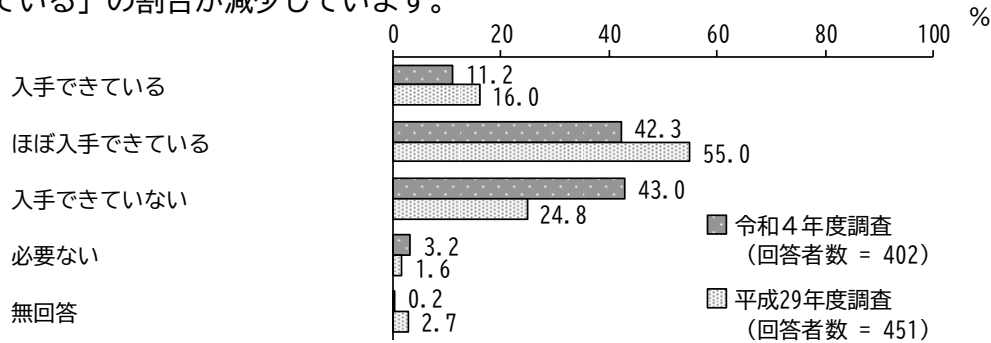
平成29年度調査と比較すると、「知っている」の割合が減少しています。



問22 あなたは、市の子育て支援などの福祉に関する情報を入手できていますか。(1つに○)

「入手できていない」の割合が43.0%と最も高く、次いで「ほぼ入手できている」の割合が42.3%、「入手できている」の割合が11.2%となっています。

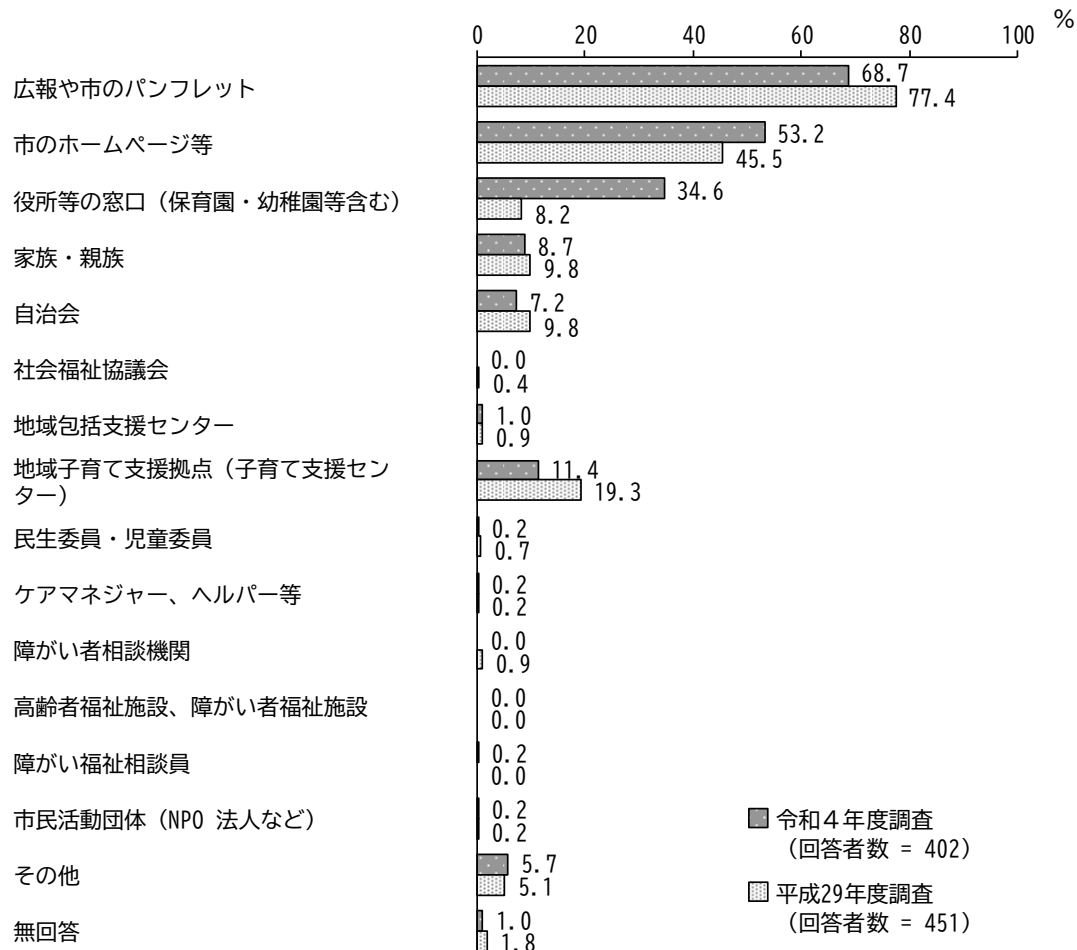
平成29年度調査と比較すると、「入手できていない」の割合が増加しています。一方、「ほぼ入手できている」の割合が減少しています。



問23 あなたは、現在または今後、市の福祉に関する情報を入手するとき、どこからが入手しやすいですか。(あてはまるものすべてに○)

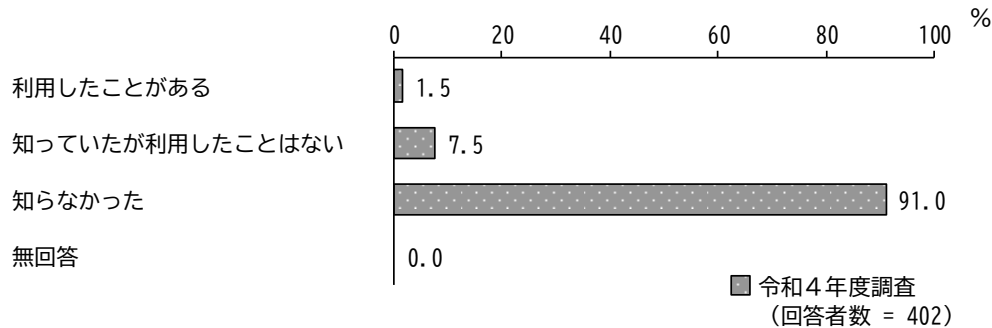
「広報や市のパンフレット」の割合が68.7%と最も高く、次いで「市のホームページ等」の割合が53.2%、「役所等の窓口（保育園・幼稚園等含む）」の割合が34.6%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「市のホームページ等」「役所等の窓口（保育園・幼稚園等含む）」の割合が増加しています。一方、「広報や市のパンフレット」「地域子育て支援拠点（子育て支援センター）」の割合が減少しています。



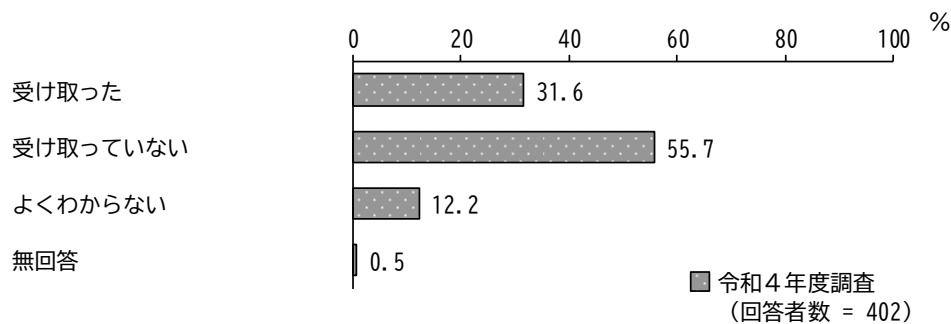
問 24 児童手当や小児医療費助成などの一部手続きについて、「e-kanagawa 電子申請システム」により電子申請をすることが可能です。このことをご存知でしたか。また、利用したことはありますか。(1つに○)

「知らなかった」の割合が91.0%と最も高くなっています。



問 25 あなたは、新型コロナウイルス感染症の影響により、住民税非課税世帯に対する臨時特別給付金(1世帯10万円)を受け取りましたか。(1つに○)

「受け取っていない」の割合が55.7%と最も高く、次いで「受け取った」の割合が31.6%、「よくわからない」の割合が12.2%となっています。



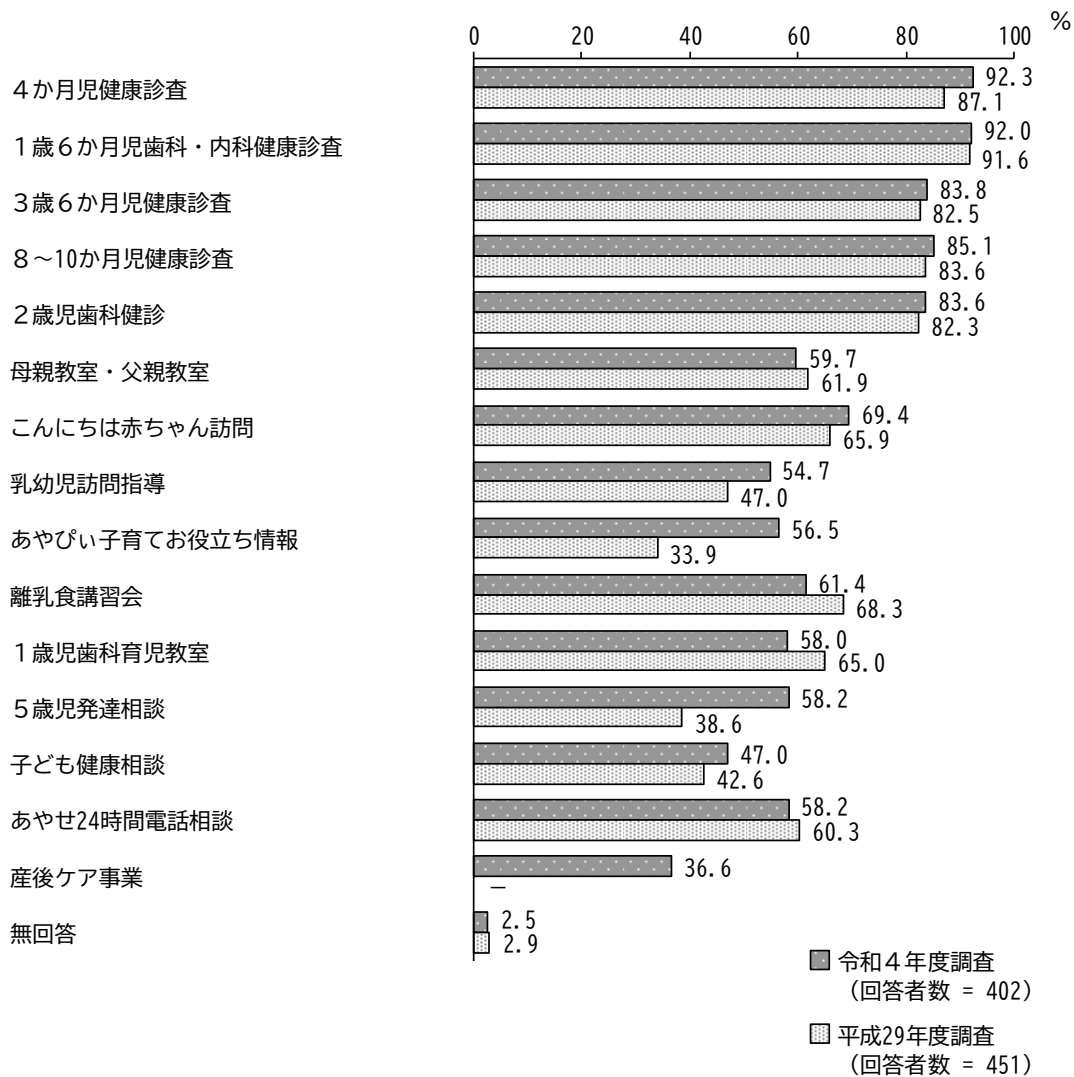
(6) 母子保健事業について

問 26 本市では、次のような母子保健事業を実施しています。以下のサービスについて『1. あなたは、保健サービスがあることを知っていますか。』『2. あなたは、保健サービスを利用したことがありますか。』『3. あなたのお考え』それぞれお答えください。(○は各項目で1つ)

1 知っている (あてはまるものすべてに○)

「4か月児健康診査」の割合が92.3%と最も高く、次いで「1歳6か月児歯科・内科健康診査」の割合が92.0%、「8～10か月児健康診査」の割合が85.1%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「4か月児健康診査」「乳幼児訪問指導」「あやぴい子育てお役立ち情報」「5歳児発達相談」の割合が増加しています。一方、「離乳食講習会」「1歳児歯科育児教室」の割合が減少しています。

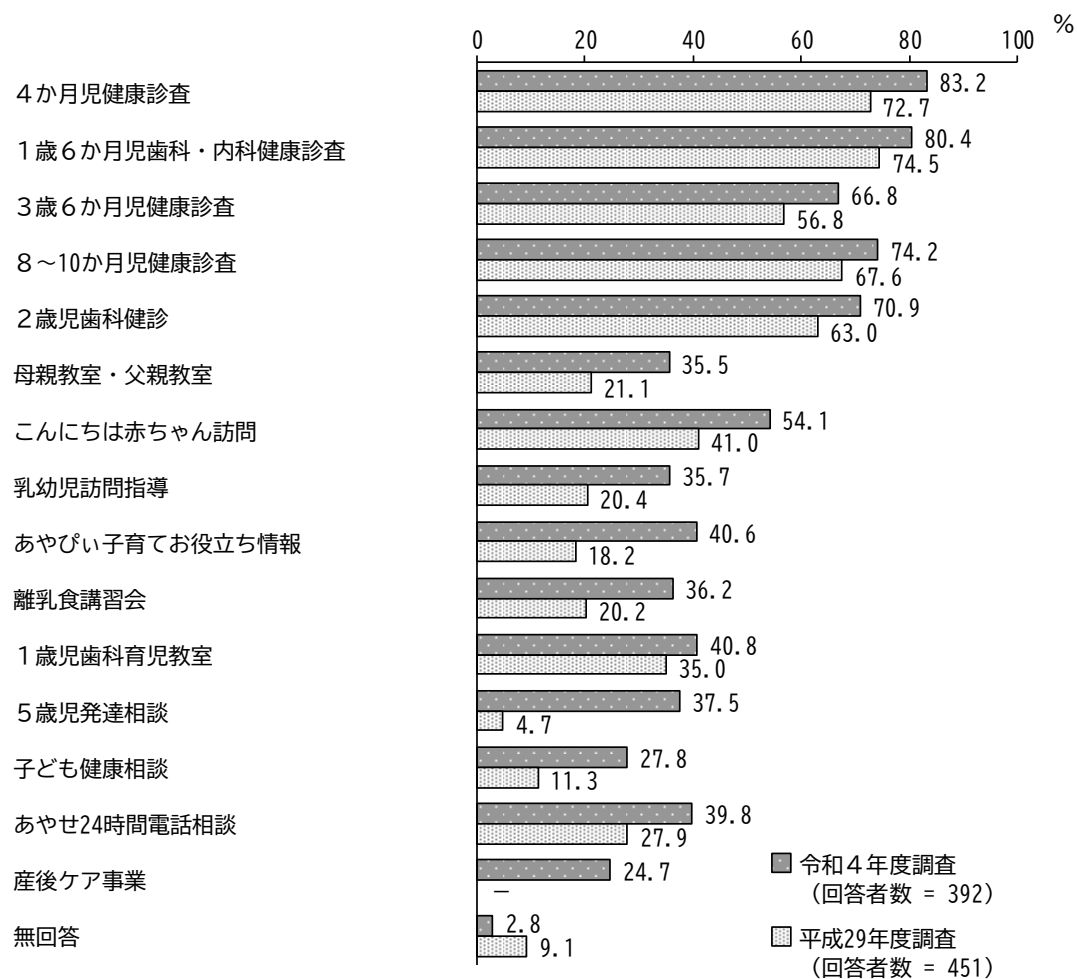


※平成29年度調査では「産後ケア事業」の選択肢はありませんでした。

2 利用したことがある（あてはまるものすべてに○）

「4か月児健康診査」の割合が83.2%と最も高く、次いで「1歳6か月児歯科・内科健康診査」の割合が80.4%、「8～10か月児健康診査」の割合が74.2%となっています。

平成29年度調査と比較すると、全ての項目の割合が増加しています。



※平成29年度調査では「産後ケア事業」の選択肢はありませんでした。

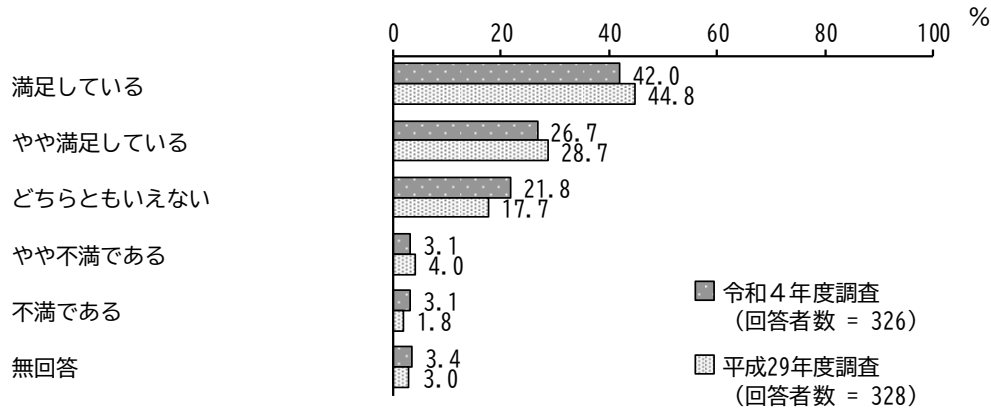
※令和4年度調査では「1. 知っている」と回答した方を対象としています。

3. あなたのお考え（○は各項目で1つ）

ア 4か月児健康診査

「満足している」と「やや満足している」をあわせた“満足している”の割合が68.7%、「どちらともいえない」の割合が21.8%となっています。

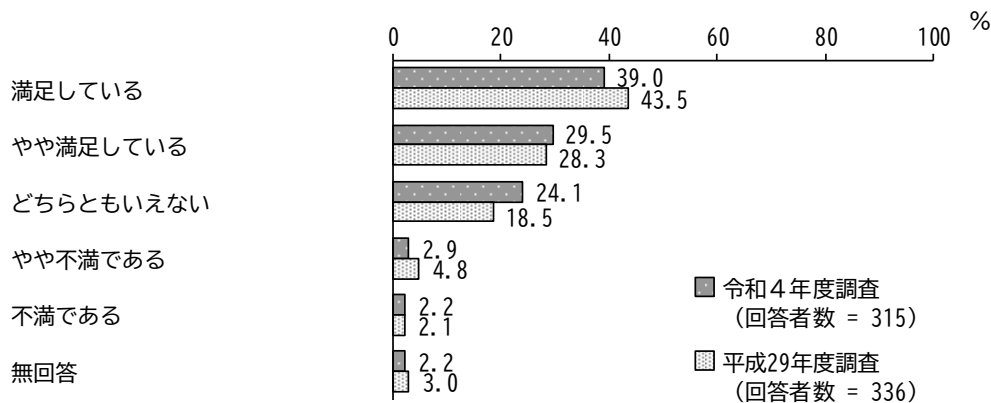
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



イ 1歳6か月児歯科・内科健康診査

「満足している」と「やや満足している」をあわせた“満足している”の割合が68.5%、「どちらともいえない」の割合が24.1%となっています。

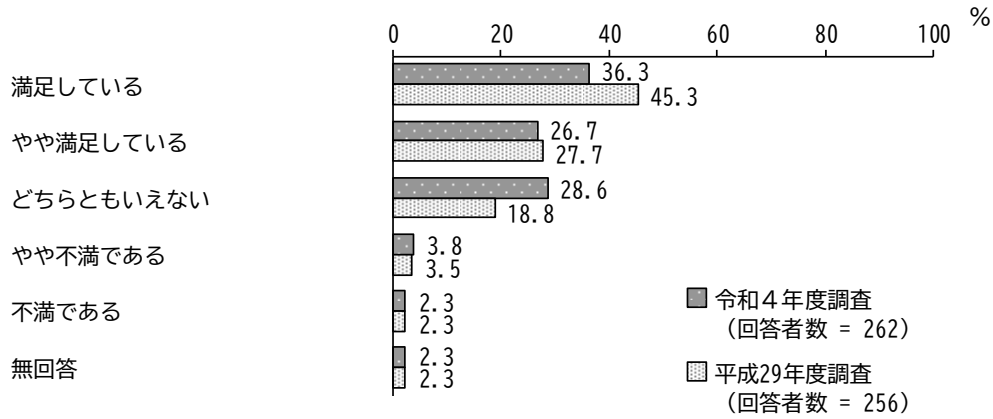
平成29年度調査と比較すると、「どちらともいえない」の割合が増加しています。



ウ 3歳6か月児健康診査

「満足している」と「やや満足している」をあわせた“満足している”の割合が63.0%、「どちらともいえない」の割合が28.6%となっています。

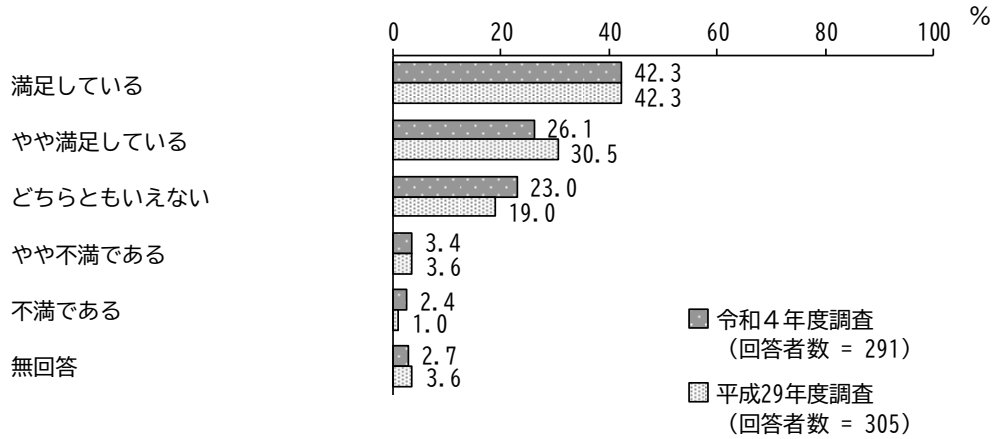
平成29年度調査と比較すると、「どちらともいえない」の割合が増加しています。一方、“満足している”の割合が減少しています。



エ 8～10か月児健康診査

「満足している」と「やや満足している」をあわせた“満足している”の割合が68.4%、「どちらともいえない」の割合が23.0%となっています。

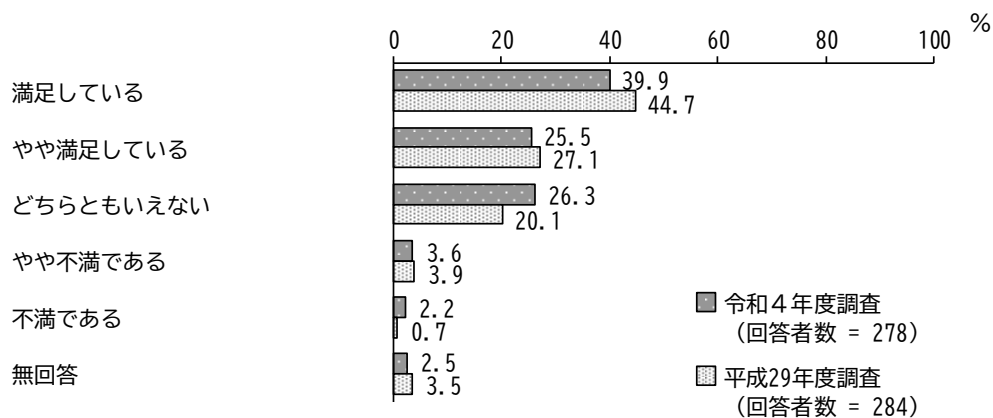
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



オ 2歳児歯科健診

「満足している」と「やや満足している」をあわせた“満足している”の割合が65.4%、「どちらともいえない」の割合が26.3%となっています。

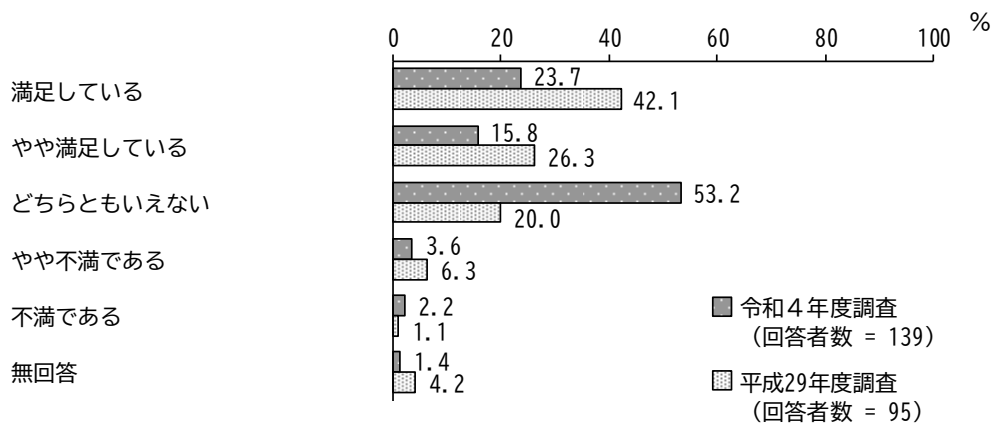
平成29年度調査と比較すると、「どちらともいえない」の割合が増加しています。



カ 母親教室・父親教室

「どちらともいえない」の割合が53.2%、「満足している」と「やや満足している」をあわせた“満足している”の割合が39.5%となっています。

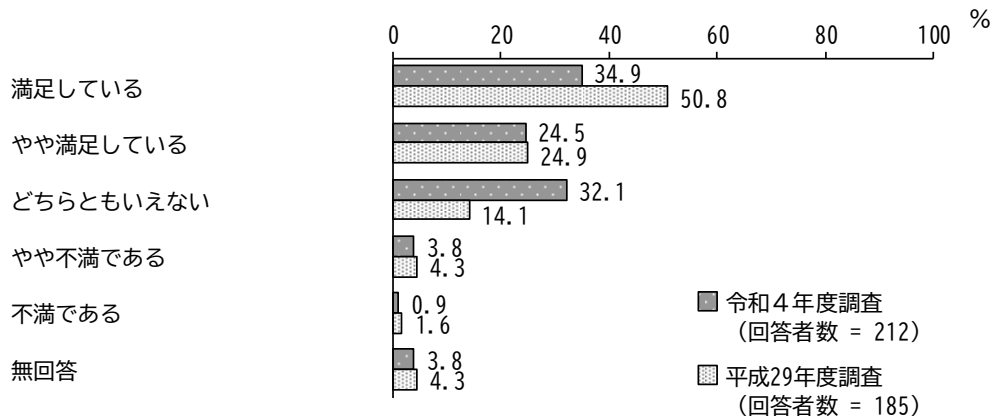
平成29年度調査と比較すると、「どちらともいえない」の割合が増加しています。一方、“満足している”の割合が減少しています。



キ こんにちは赤ちゃん訪問

「満足している」と「やや満足している」をあわせた“満足している”の割合が59.4%、「どちらともいえない」の割合が32.1%となっています。

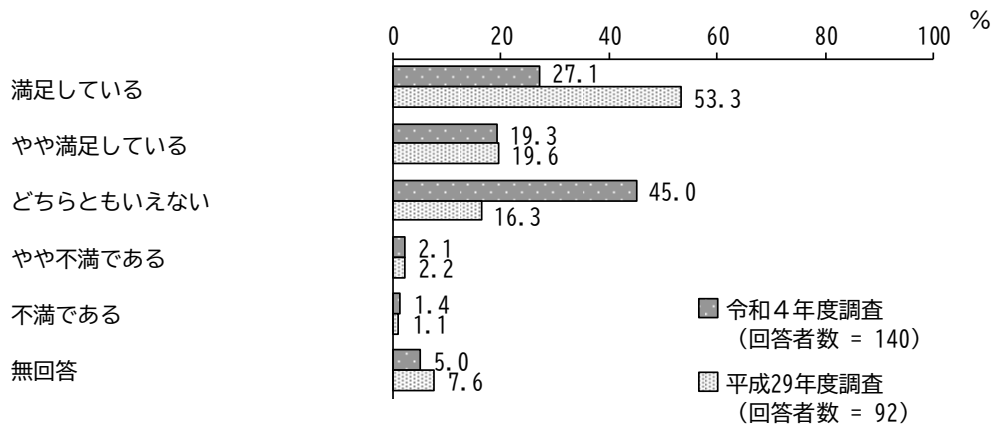
平成29年度調査と比較すると、「どちらともいえない」の割合が増加しています。一方、“満足している”の割合が減少しています。



ク 乳幼児訪問指導

「満足している」と「やや満足している」をあわせた“満足している”の割合が46.4%、「どちらともいえない」の割合が45.0%となっています。

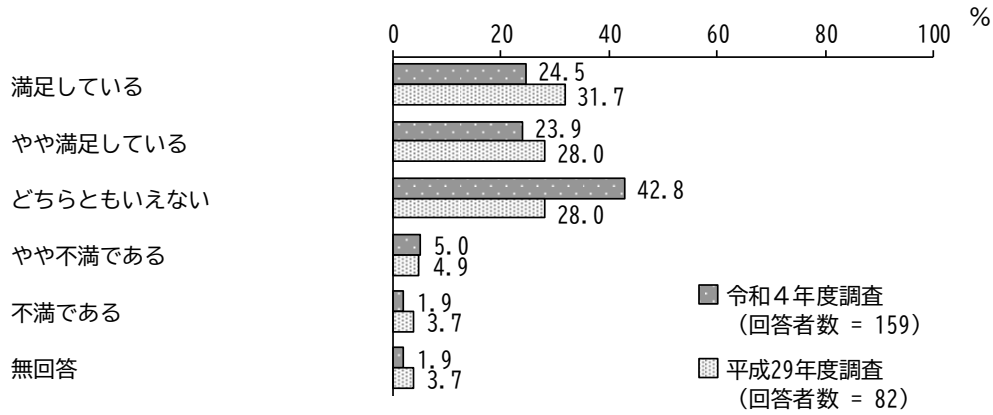
平成29年度調査と比較すると、「どちらともいえない」の割合が増加しています。一方、“満足している”の割合が減少しています。



ケ あやびい子育てお役立ち情報

「満足している」と「やや満足している」をあわせた“満足している”の割合が48.4%、「どちらともいえない」の割合が42.8%となっています。

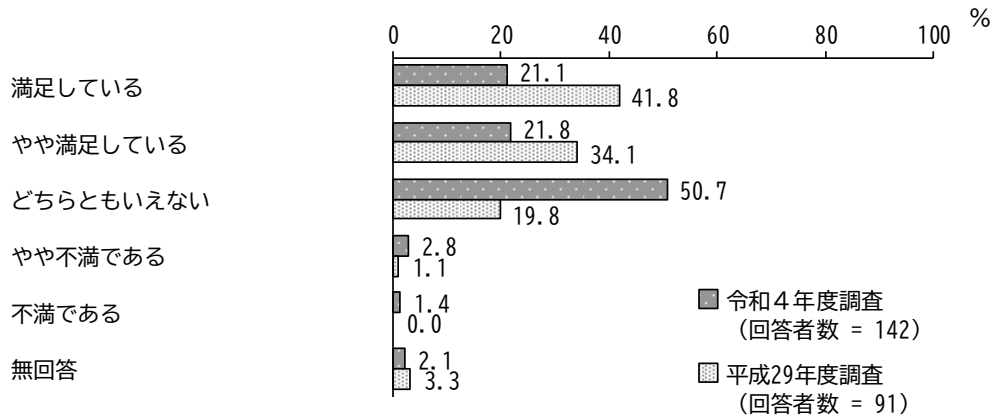
平成29年度調査と比較すると、「どちらともいえない」の割合が増加しています。一方、“満足している”の割合が減少しています。



コ 離乳食講習会

「どちらともいえない」の割合が50.7%、「満足している」と「やや満足している」をあわせた“満足している”の割合が42.9%となっています。

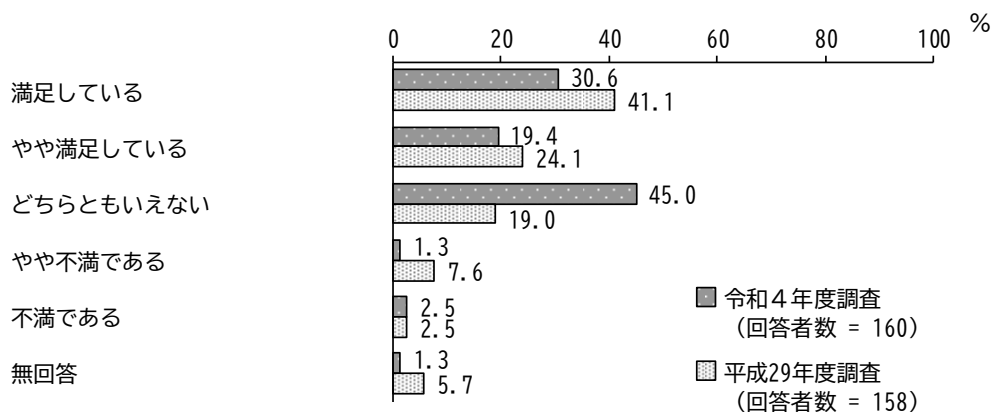
平成29年度調査と比較すると、「どちらともいえない」の割合が増加しています。一方、“満足している”の割合が減少しています。



サ 1歳児歯科育児教室

「満足している」と「やや満足している」をあわせた“満足している”の割合が50.0%、「どちらともいえない」の割合が45.0%となっています。

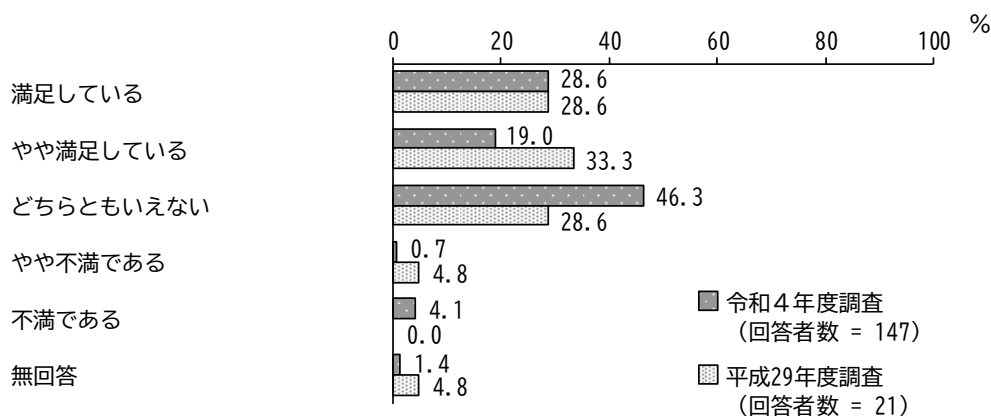
平成29年度調査と比較すると、「どちらともいえない」の割合が増加しています。一方、“満足している”、“やや不満である”と“不満である”をあわせた“不満である”の割合が減少しています。



シ 5歳児発達相談

「満足している」と「やや満足している」をあわせた“満足している”の割合が47.6%、「どちらともいえない」の割合が46.3%となっています。

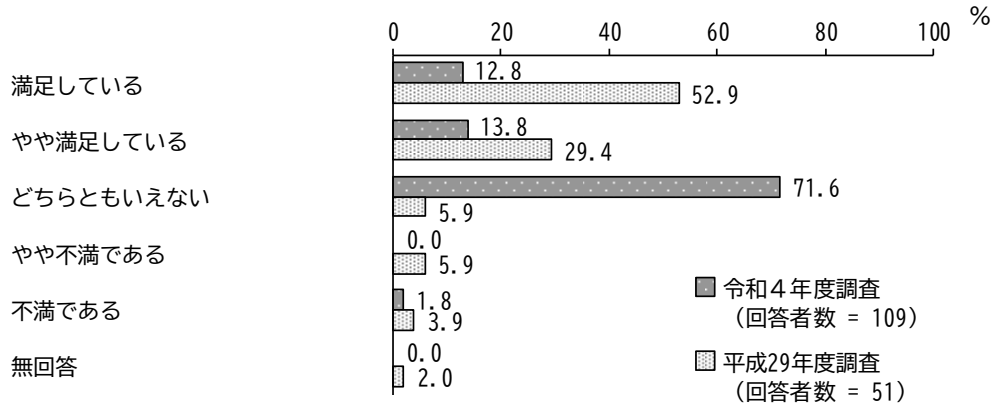
平成29年度調査と比較すると、「どちらともいえない」の割合が増加しています。一方、“満足している”の割合が減少しています。



ス 子ども健康相談

「どちらともいえない」の割合が71.6%、「満足している」と「やや満足している」をあわせた“満足している”の割合が26.6%となっています。

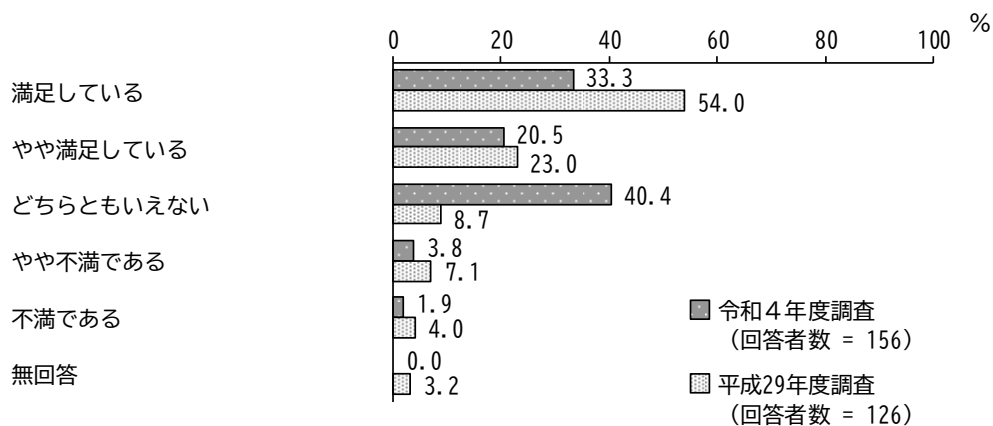
平成29年度調査と比較すると、「どちらともいえない」の割合が増加しています。一方、“満足している”、“やや不満である”と“不満である”をあわせた“不満である”の割合が減少しています。



セ あやせ 24 時間電話相談

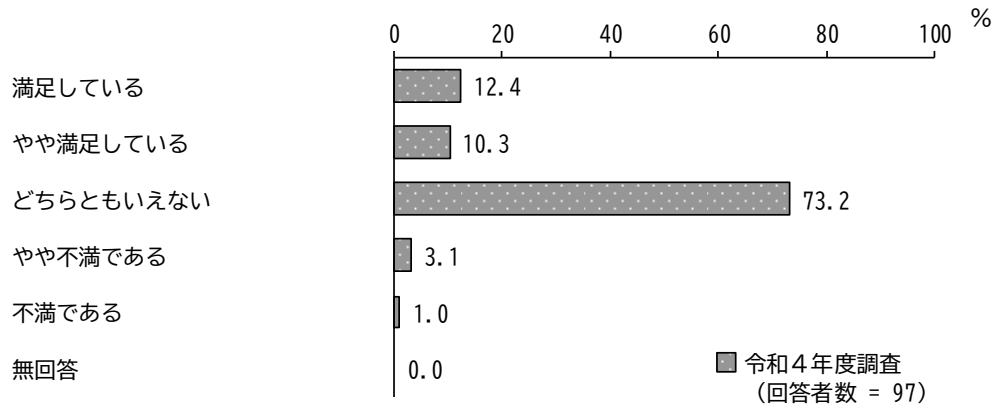
「満足している」と「やや満足している」をあわせた“満足している”の割合が53.8%、「どちらともいえない」の割合が40.4%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「どちらともいえない」の割合が増加しています。一方、“満足している”、“やや不満である”と“不満である”をあわせた“不満である”の割合が減少しています。



ソ 産後ケア事業

「どちらともいえない」の割合が73.2%、「満足している」と「やや満足している」をあわせた“満足している”の割合が22.7%となっています。

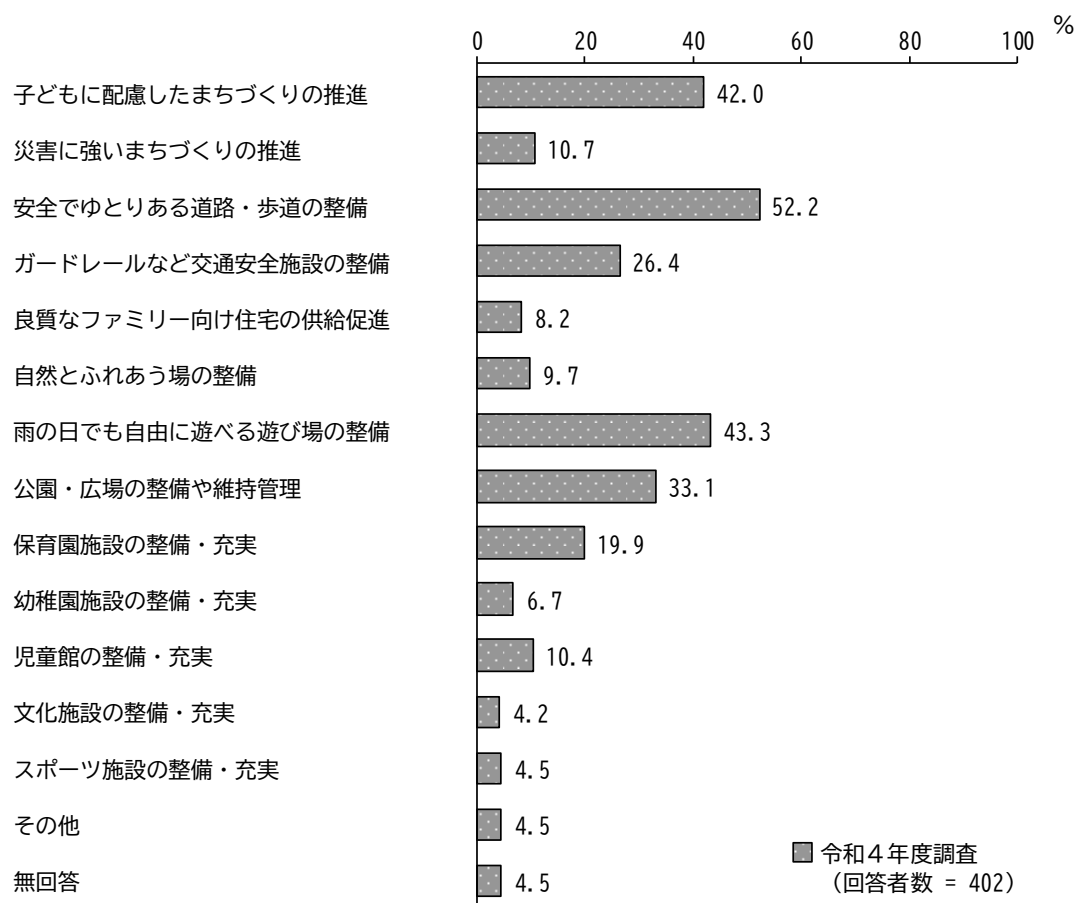


(7) 今後の子育てに関することについて

問 27 子育てや子育て支援に関連した施策について、特に望むものを分野ごとにお答えください。

① まちづくりや施設等の整備について (○は3つまで)

「安全でゆとりある道路・歩道の整備」の割合が 52.2%と最も高く、次いで「雨の日でも自由に遊べる遊び場の整備」の割合が 43.3%、「子どもに配慮したまちづくりの推進」の割合が 42.0%となっています。



【子どもの年齢別】

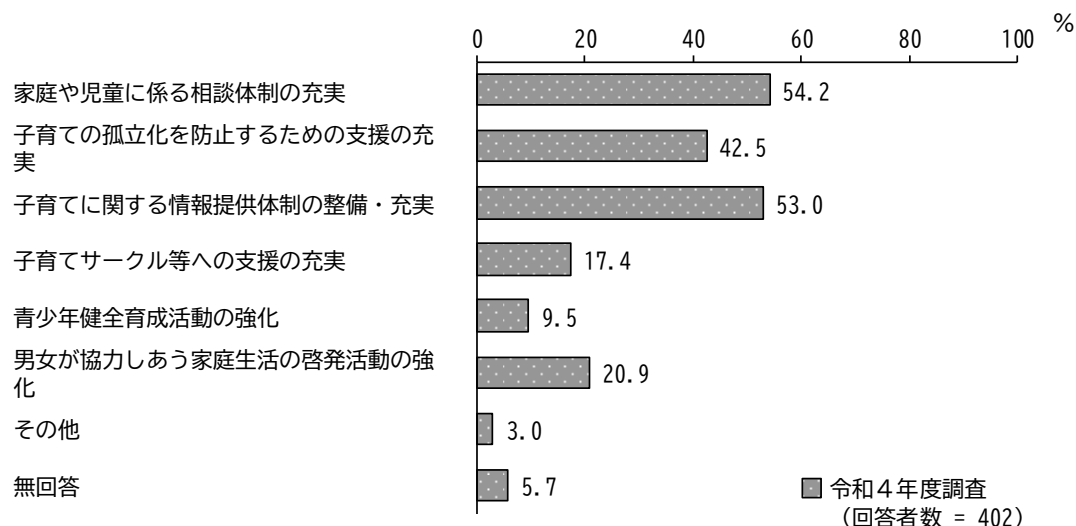
子どもの年齢別にみると、他に比べ、0歳で「保育園施設の整備・充実」の割合が、4歳で「公園・広場の整備や維持管理」の割合が、6歳で「ガードレールなど交通安全施設の整備」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	子どもに配慮したま ちづくりの推進	災害に強いまちづく りの推進	安全でゆとりある道 路・歩道の整備	交通安全施設の整備	ガードレールなど交 通安全施設の整備	良質なファミリー向 け住宅の供給促進	自然とふれあう場の 整備	雨の日でも自由に遊 べる遊び場の整備	維持管理 公園・広場の整備や	保育園施設の整備・ 充実	幼稚園施設の整備・ 充実	児童館の整備・充実	文化施設の整備・充 実	スポーツ施設の整 備・充実	その他	無回答
全 体	402	42.0	10.7	52.2	26.4	8.2	9.7	43.3	33.1	19.9	6.7	10.4	4.2	4.5	4.5	4.5	
0歳	72	54.2	6.9	54.2	22.2	13.9	5.6	44.4	25.0	34.7	5.6	12.5	4.2	1.4	—	2.8	
1歳	64	31.3	18.8	51.6	23.4	7.8	6.3	43.8	26.6	25.0	6.3	9.4	1.6	3.1	6.3	10.9	
2歳	51	39.2	5.9	49.0	17.6	—	21.6	45.1	33.3	21.6	5.9	7.8	3.9	3.9	5.9	9.8	
3歳	58	46.6	13.8	51.7	24.1	12.1	13.8	41.4	31.0	15.5	3.4	12.1	5.2	—	6.9	3.4	
4歳	55	29.1	10.9	52.7	23.6	5.5	5.5	52.7	45.5	14.5	9.1	14.5	5.5	3.6	5.5	1.8	
5歳	62	50.0	8.1	56.5	30.6	4.8	11.3	38.7	38.7	11.3	9.7	8.1	4.8	11.3	4.8	—	
6歳	38	36.8	10.5	50.0	50.0	10.5	5.3	31.6	36.8	10.5	7.9	7.9	5.3	10.5	2.6	2.6	

② 子育てに関連した相談支援等について（〇は3つまで）

「家庭や児童に係る相談体制の充実」の割合が54.2%と最も高く、次いで「子育てに関する情報提供体制の整備・充実」の割合が53.0%、「子育ての孤立化を防止するための支援の充実」の割合が42.5%となっています。



【子どもの年齢別】

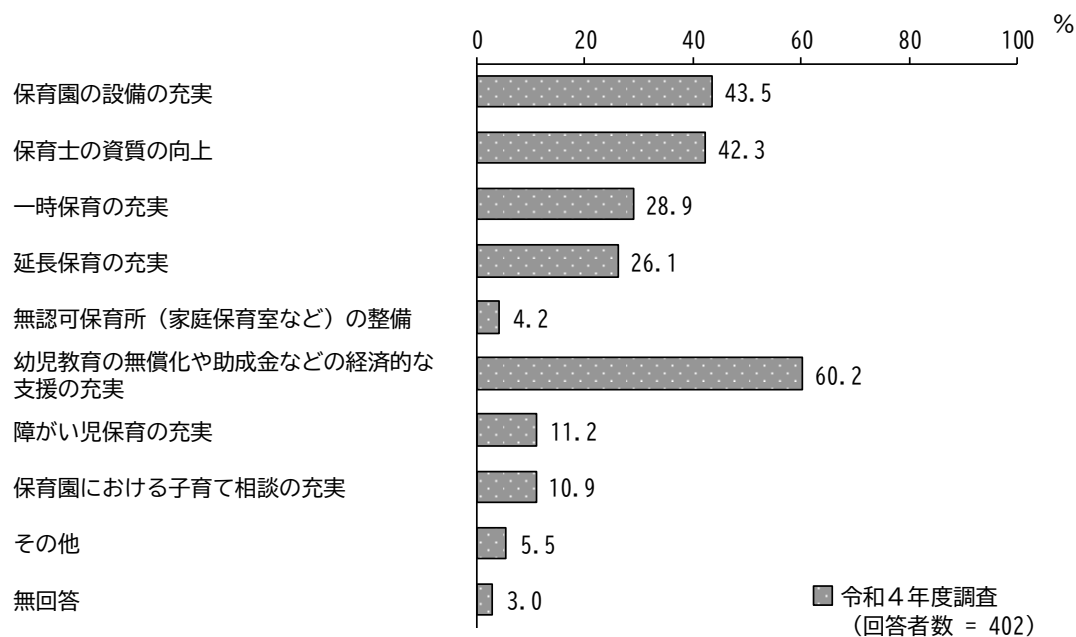
子どもの年齢別にみると、他に比べ、0歳で「子育てサークル等への支援の充実」の割合が、1歳で「子育ての孤立化を防止するための支援の充実」の割合が、5歳で「家庭や児童に係る相談体制の充実」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	家庭や児童に係る相談体制の充実	子育ての孤立化を防止するための支援の充実	子育てに関する情報提供体制の整備・充実	子育てサークル等への支援の充実	青少年健全育成活動の強化	男女が協力しあう家庭生活の啓発活動の強化	その他	無回答
全体	402	54.2	42.5	53.0	17.4	9.5	20.9	3.0	5.7
0歳	72	59.7	47.2	56.9	23.6	8.3	16.7	—	2.8
1歳	64	57.8	50.0	53.1	21.9	4.7	21.9	3.1	6.3
2歳	51	51.0	27.5	47.1	17.6	11.8	9.8	3.9	11.8
3歳	58	50.0	48.3	46.6	6.9	6.9	24.1	5.2	3.4
4歳	55	52.7	45.5	56.4	14.5	10.9	25.5	3.6	7.3
5歳	62	61.3	30.6	58.1	22.6	12.9	24.2	1.6	4.8
6歳	38	39.5	47.4	50.0	7.9	10.5	23.7	5.3	5.3

③ 保育の分野について（〇は3つまで）

「幼児教育の無償化や助成金などの経済的な支援の充実」の割合が60.2%と最も高く、次いで「保育園の設備の充実」の割合が43.5%、「保育士の資質の向上」の割合が42.3%となっています。



【子どもの年齢別】

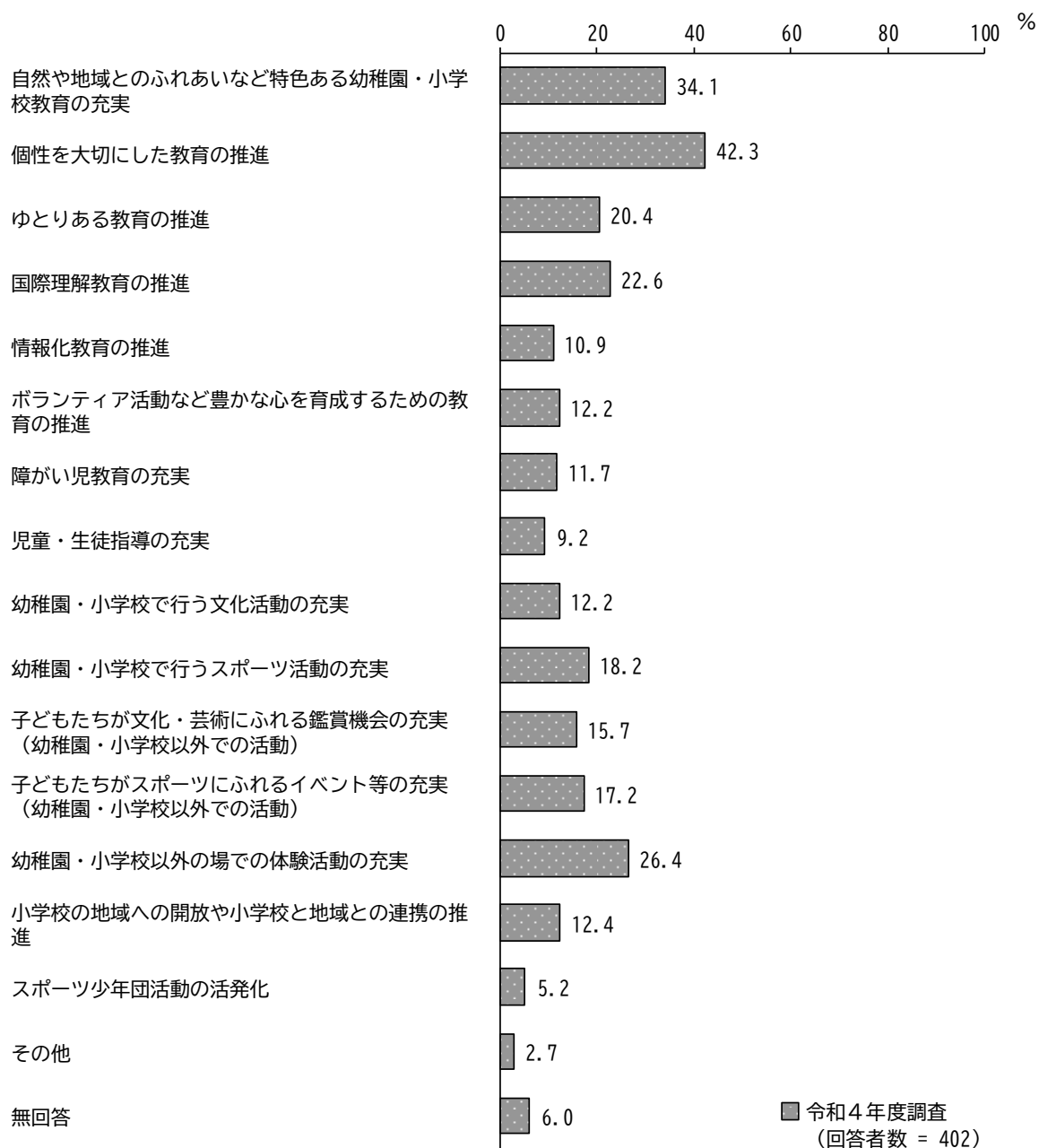
子どもの年齢別にみると、他に比べ、0歳で「保育士の資質の向上」の割合が、2歳で「一時保育の充実」の割合が、6歳で「延長保育の充実」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	保育園の設備の充実	保育士の資質の向上	一時保育の充実	延長保育の充実	無認可保育所(家庭保育室など)の整備	幼児教育の無償化や助成金などの経済的な支援の充実	障がい児保育の充実	保育園における子育て相談の充実	その他	無回答
全体	402	43.5	42.3	28.9	26.1	4.2	60.2	11.2	10.9	5.5	3.0
0歳	72	54.2	54.2	27.8	25.0	1.4	61.1	2.8	9.7	5.6	1.4
1歳	64	54.7	51.6	26.6	18.8	4.7	56.3	12.5	10.9	4.7	1.6
2歳	51	33.3	37.3	45.1	15.7	7.8	60.8	9.8	17.6	9.8	5.9
3歳	58	43.1	32.8	27.6	25.9	5.2	69.0	8.6	5.2	5.2	1.7
4歳	55	43.6	32.7	25.5	30.9	3.6	47.3	14.5	14.5	9.1	3.6
5歳	62	38.7	41.9	27.4	30.6	3.2	59.7	17.7	11.3	3.2	3.2
6歳	38	26.3	42.1	21.1	42.1	2.6	71.1	10.5	7.9	—	5.3

④教育・文化活動について

「個性を大切にした教育の推進」の割合が42.3%と最も高く、次いで「自然や地域とのふれあいなど特色ある幼稚園・小学校教育の充実」の割合が34.1%、「幼稚園・小学校以外での体験活動の充実」の割合が26.4%となっています。



【子どもの年齢別】

子どもの年齢別にみると、他に比べ、0歳で「個性を大切にした教育の推進」の割合が、2歳で「幼稚園・小学校以外の場での体験活動の充実」の割合が、5歳で「障がい児教育の充実」の割合が高くなっています。

単位：%

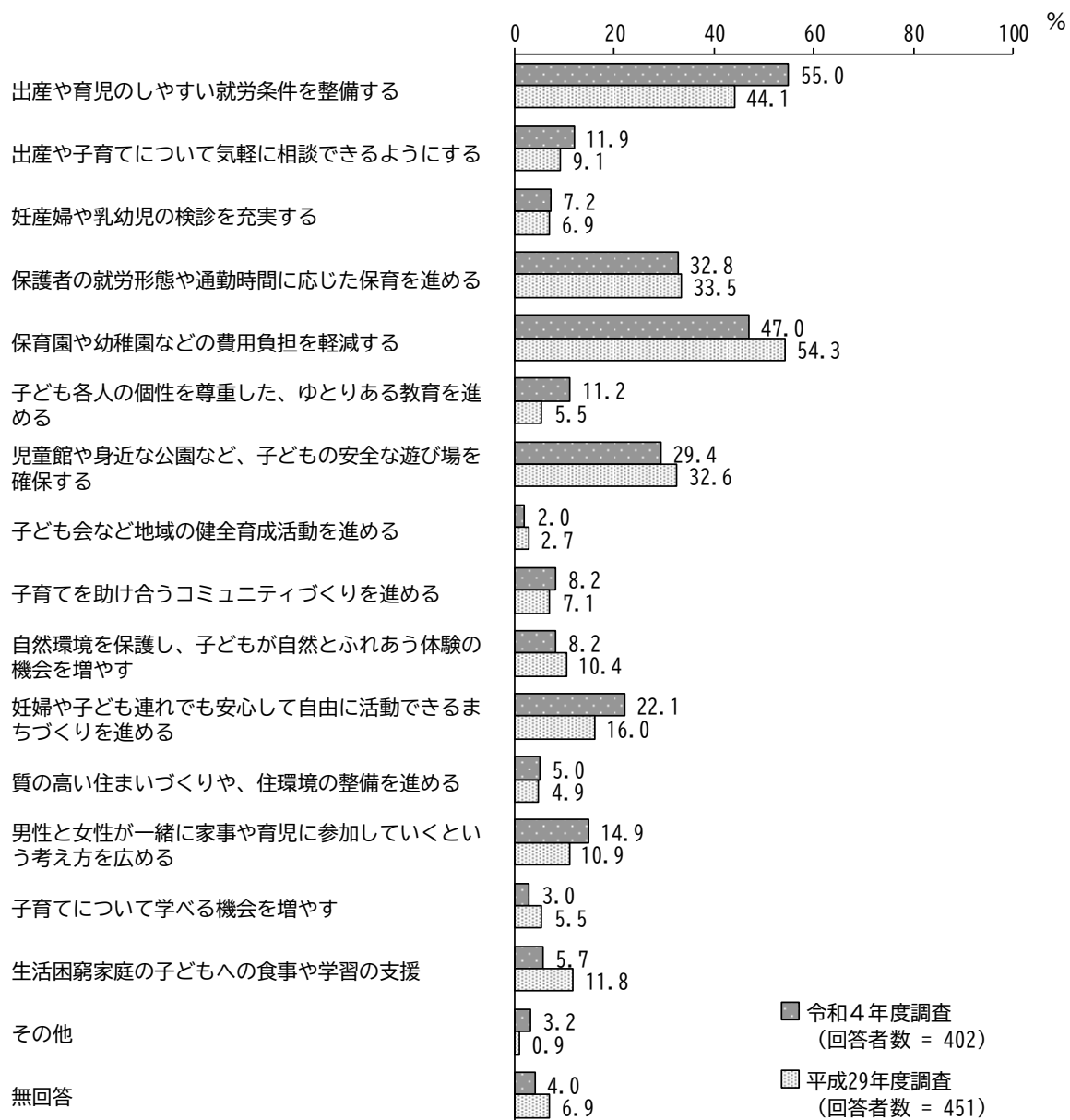
区分	回答者数(件)	自然や地域とのふれあいなど 特色ある幼稚園・小学校教育の 充実	個性を大切にした教育の推進	ゆとりある教育の推進	国際理解教育の推進	情報化教育の推進	ボランティア活動など豊かな 心を育成するための教育の推 進	障がい児教育の充実	児童・生徒指導の充実
全 体	402	34.1	42.3	20.4	22.6	10.9	12.2	11.7	9.2
0歳	72	31.9	55.6	25.0	18.1	11.1	13.9	6.9	5.6
1歳	64	43.8	35.9	26.6	23.4	7.8	12.5	12.5	9.4
2歳	51	29.4	41.2	25.5	31.4	15.7	19.6	5.9	5.9
3歳	58	37.9	41.4	24.1	20.7	6.9	6.9	10.3	6.9
4歳	55	40.0	40.0	10.9	25.5	16.4	12.7	12.7	5.5
5歳	62	25.8	33.9	12.9	14.5	9.7	11.3	22.6	16.1
6歳	38	26.3	47.4	13.2	26.3	5.3	5.3	7.9	15.8

区分	幼稚園・小学校で行う文化活動 の充実	幼稚園・小学校で行うスポーツ 活動の充実	子どもたちが文化・芸術にふれ る鑑賞機会の充実(幼稚園・小 学校以外での活動)	子どもたちがスポーツにふれ るイベント等の充実(幼稚園・ 小学校以外での活動)	幼稚園・小学校以外の場での体 験活動の充実	小学校の地域への開放や小学 校と地域との連携の推進	スポーツ少年団活動の活発化	その他	無回答
全 体	12.2	18.2	15.7	17.2	26.4	12.4	5.2	2.7	6.0
0歳	16.7	19.4	12.5	15.3	16.7	12.5	2.8	—	8.3
1歳	14.1	26.6	10.9	10.9	28.1	10.9	14.1	4.7	4.7
2歳	3.9	15.7	21.6	21.6	39.2	11.8	2.0	2.0	5.9
3歳	10.3	15.5	10.3	15.5	22.4	3.4	—	—	6.9
4歳	14.5	12.7	18.2	16.4	32.7	14.5	5.5	7.3	1.8
5歳	14.5	21.0	21.0	22.6	29.0	19.4	4.8	3.2	6.5
6歳	5.3	10.5	15.8	18.4	15.8	10.5	5.3	2.6	7.9

問 28 子どもを健やかに生み育てるために必要と思われることはどのようなことですか。(〇は3つまで)

「出産や育児のしやすい就労条件を整備する」の割合が 55.0%と最も高く、次いで「保育園や幼稚園などの費用負担を軽減する」の割合が 47.0%、「保護者の就労形態や通勤時間に応じた保育を進める」の割合が 32.8%となっています。

平成 29 年度調査と比較すると、「出産や育児のしやすい就労条件を整備する」「子ども各人の個性を尊重した、ゆとりある教育を進める」「妊婦や子ども連れでも安心して自由に活動できるまちづくりを進める」の割合が増加しています。一方、「保育園や幼稚園などの費用負担を軽減する」「生活困窮家庭の子どもへの食事や学習の支援」の割合が減少しています。



【子どもの年齢別】

子どもの年齢別にみると、他に比べ、0歳・2歳で「保育園や幼稚園などの費用負担を軽減する」の割合が、6歳で「保護者の就労形態や通勤時間に応じた保育を進める」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	出産や育児のしやすい就労条件を整備する	出産や子育てについて気軽に相談できるようにする	妊産婦や乳幼児の検診を充実する	保護者の就労形態や通勤時間に応じた保育を進める	保育園や幼稚園などの費用負担を軽減する	子ども各人の個性を尊重した、ゆとりある教育を進める	児童館や身近な公園など、子どもの安全な遊び場を確保する	子ども会など地域の健全育成活動を進める
全体	402	55.0	11.9	7.2	32.8	47.0	11.2	29.4	2.0
0歳	72	58.3	8.3	15.3	30.6	63.9	6.9	26.4	1.4
1歳	64	60.9	12.5	10.9	26.6	43.8	9.4	32.8	1.6
2歳	51	54.9	19.6	5.9	21.6	62.7	3.9	35.3	3.9
3歳	58	60.3	6.9	5.2	41.4	44.8	10.3	19.0	3.4
4歳	55	47.3	9.1	5.5	34.5	36.4	18.2	34.5	1.8
5歳	62	45.2	16.1	1.6	33.9	37.1	21.0	30.6	1.6
6歳	38	55.3	13.2	2.6	44.7	34.2	7.9	28.9	—

区分	子育てを助け合うコミュニティづくりを進める	自然環境を保護し、子どもが自然とふれあう体験の機会を増やす	妊婦や子ども連れでも安心して自由に活動できるまちづくりを進める	質の高い住まいづくりや、住環境の整備を進める	男性と女性が一緒に家事や育児に参加していくという考え方を広める	子育てについて学べる機会を増やす	生活困窮家庭の子どもへの食事や学習の支援	その他	無回答
全体	8.2	8.2	22.1	5.0	14.9	3.0	5.7	3.2	4.0
0歳	5.6	8.3	33.3	4.2	9.7	2.8	5.6	—	2.8
1歳	7.8	7.8	31.3	1.6	20.3	—	6.3	1.6	3.1
2歳	7.8	9.8	13.7	2.0	9.8	7.8	2.0	2.0	5.9
3歳	6.9	8.6	19.0	5.2	15.5	—	8.6	3.4	8.6
4歳	16.4	7.3	14.5	7.3	14.5	5.5	—	9.1	1.8
5歳	3.2	4.8	22.6	9.7	19.4	3.2	6.5	4.8	1.6
6歳	10.5	13.2	13.2	5.3	13.2	2.6	13.2	2.6	5.3

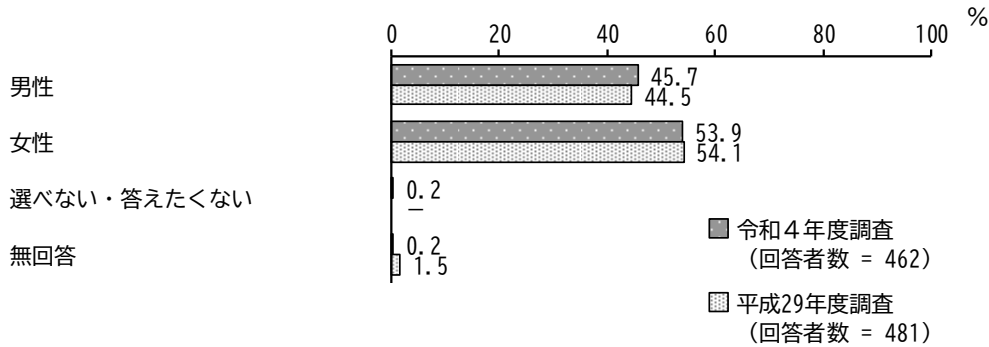
2 地域福祉

(1) 回答者属性

問1 あなたの性別は。(1つに○)

「男性」の割合が45.7%、「女性」の割合が53.9%、「選べない・答えたくない」の割合が0.2%となっています。

平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

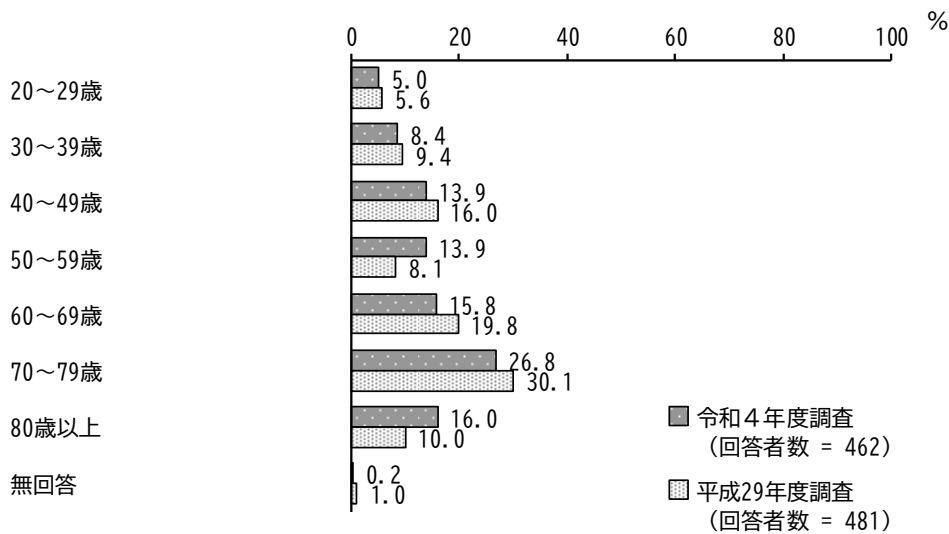


※平成29年度調査では「選べない・答えたくない」の選択肢はありませんでした。

問2 あなたの年齢は。(1つに○)

「70～79歳」の割合が26.8%と最も高く、次いで「80歳以上」の割合が16.0%、「60～69歳」の割合が15.8%となっています。

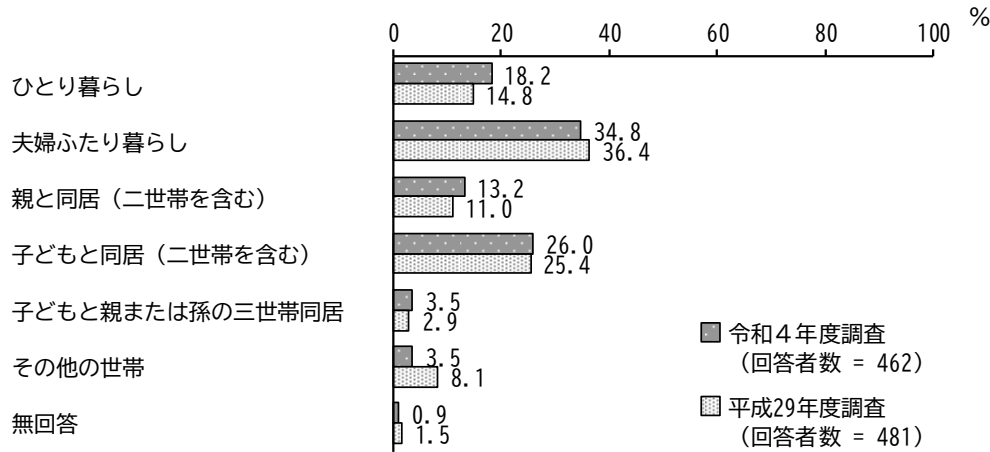
平成29年度調査と比較すると、「50～59歳」「80歳以上」の割合が増加しています。



問3 あなたの世帯構成は。(1つに○)

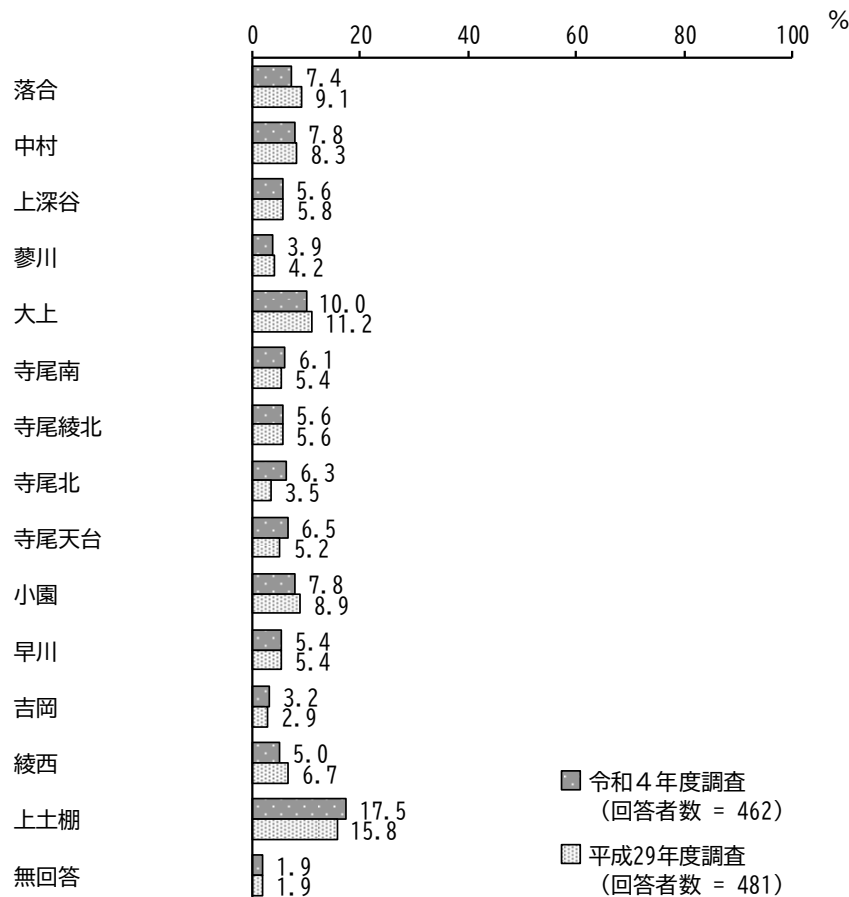
「夫婦ふたり暮らし」の割合が34.8%と最も高く、次いで「子どもと同居（二世帯を含む）」の割合が26.0%、「ひとり暮らし」の割合が18.2%となっています。

平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問4 あなたがお住まいになっている地域はどこの自治会区分ですか。(1つに○)

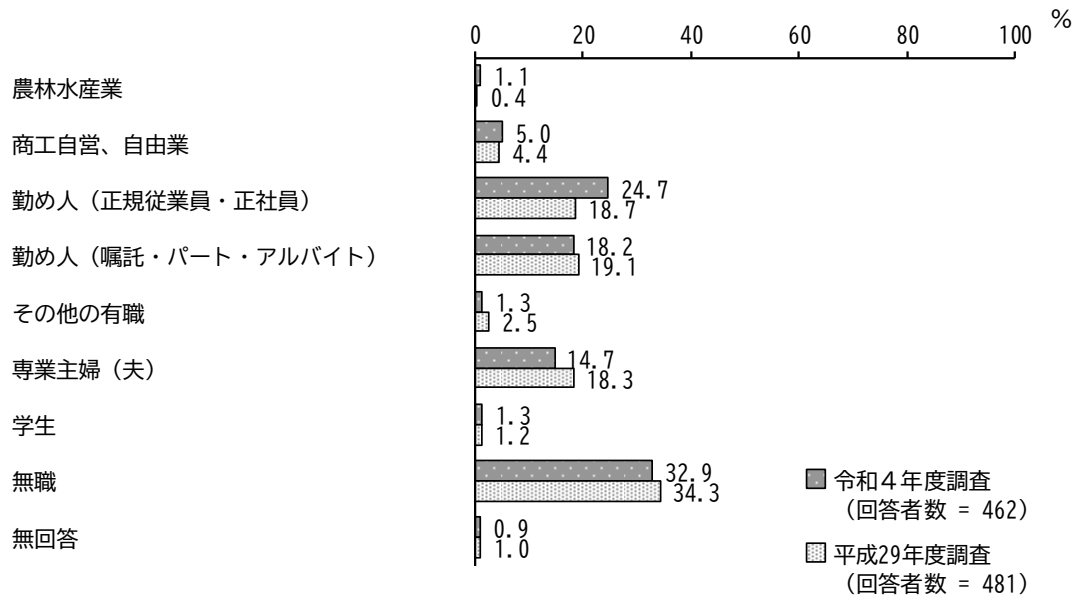
「上土棚」の割合が17.5%と最も高く、次いで「大上」の割合が10.0%となっています。平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問5 あなたの職業は、次のどれですか。(1つに○)

「無職」の割合が32.9%と最も高く、次いで「勤め人(正規従業員・正社員)」の割合が24.7%、「勤め人(嘱託・パート・アルバイト)」の割合が18.2%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「勤め人(正規従業員・正社員)」の割合が増加しています。

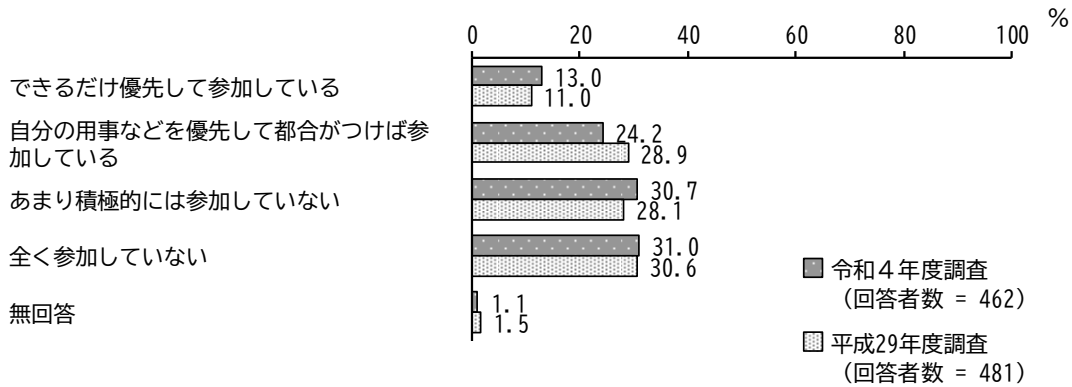


(2) 近所づきあいや地域での暮らしについて

問6 あなたは現在、地域の活動にどの程度参加していますか。(1つに○)

「全く参加していない」の割合が31.0%と最も高く、次いで「あまり積極的には参加していない」の割合が30.7%、「自分の用事などを優先して都合がつけば参加している」の割合が24.2%となっています。

平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20～29歳・30～39歳で「全く参加していない」の割合が、80歳以上で「できるだけ優先して参加している」の割合が高くなっています。

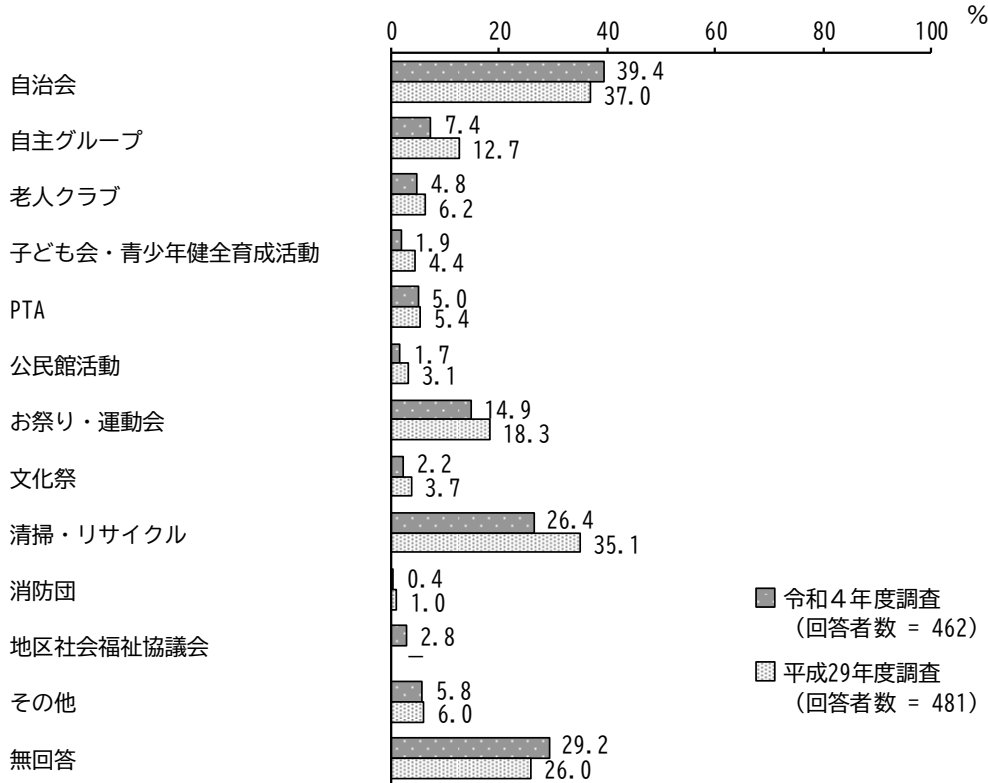
単位：%

区分	回答者数(件)	できるだけ優先して参加している	自分の用事などを優先して都合がつけば参加している	あまり積極的には参加していない	全く参加していない	無回答
全体	462	13.0	24.2	30.7	31.0	1.1
20～29歳	23	4.3	17.4	17.4	60.9	—
30～39歳	39	5.1	20.5	23.1	51.3	—
40～49歳	64	—	37.5	25.0	35.9	1.6
50～59歳	64	3.1	31.3	40.6	25.0	—
60～69歳	73	11.0	24.7	35.6	28.8	—
70～79歳	124	19.4	22.6	33.1	25.0	—
80歳以上	74	31.1	13.5	27.0	24.3	4.1

問7 どのような地域の活動に参加していますか。(あてはまるものすべてに○)

「自治会」の割合が54.8%と最も高く、次いで「清掃・リサイクル」の割合が37.6%、「お祭り・運動会」の割合が21.0%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「自主グループ」「清掃・リサイクル」の割合が減少しています。



※平成29年度調査では「地区社会福祉協議会」の選択肢はありませんでした。

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、30～39歳で「お祭り・運動会」の割合が、50～59歳で「清掃・リサイクル」の割合が、60～69歳で「自治会」の割合が高くなっています。

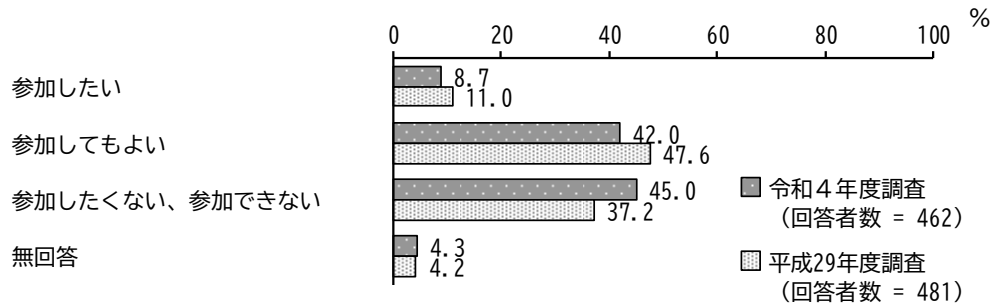
単位：%

区分	回答者数(件)	自治会	自主グループ	老人クラブ	子ども会・青少年健全育成活動	PTA	公民館活動	お祭り・運動会	文化祭	清掃・リサイクル	消防団	地区社会福祉協議会	その他	無回答
全体	462	39.4	7.4	4.8	1.9	5.0	1.7	14.9	2.2	26.4	0.4	2.8	5.8	29.2
20～29歳	23	17.4	-	-	4.3	-	-	8.7	-	13.0	-	-	8.7	47.8
30～39歳	39	28.2	2.6	-	5.1	5.1	-	23.1	2.6	20.5	-	-	5.1	46.2
40～49歳	64	37.5	1.6	-	-	21.9	-	18.8	-	18.8	-	-	9.4	31.3
50～59歳	64	40.6	7.8	-	1.6	9.4	-	15.6	3.1	35.9	1.6	3.1	1.6	29.7
60～69歳	73	45.2	2.7	-	1.4	1.4	-	15.1	1.4	31.5	-	-	4.1	23.3
70～79歳	124	43.5	14.5	5.6	2.4	-	4.8	13.7	3.2	29.8	-	6.5	6.5	26.6
80歳以上	74	40.5	9.5	20.3	1.4	-	2.7	10.8	2.7	21.6	1.4	4.1	6.8	21.6

問8 地域での健康づくり活動や趣味のグループ活動に担い手として参加してみたいと思いますか。(1つに○)

「参加したくない、参加できない」の割合が45.0%と最も高く、次いで「参加してもよい」の割合が42.0%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「参加したくない、参加できない」の割合が増加しています。一方、「参加してもよい」の割合が減少しています。



【年齢別】

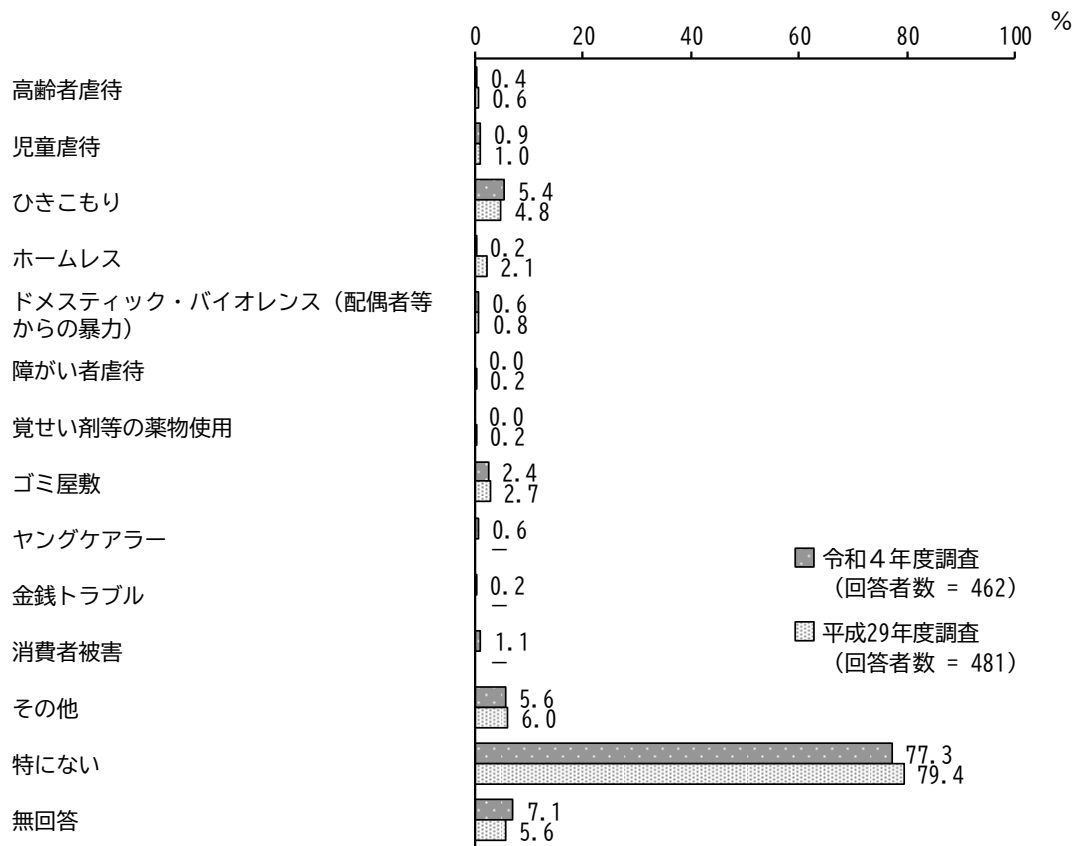
年齢別にみると、他に比べ、30～39歳・40～49歳で「参加したくない、参加できない」の割合が、60～69歳で「参加してもよい」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	参加したい	参加してもよい	参加したくない、参加できない	無回答
全体	462	8.7	42.0	45.0	4.3
20～29歳	23	21.7	47.8	30.4	—
30～39歳	39	2.6	35.9	61.5	—
40～49歳	64	4.7	35.9	59.4	—
50～59歳	64	6.3	39.1	54.7	—
60～69歳	73	2.7	53.4	43.8	—
70～79歳	124	11.3	50.0	32.3	6.5
80歳以上	74	14.9	27.0	43.2	14.9

問9 あなたのまわりで、次のような問題がありますか。(あてはまるものすべてに○)

「特にない」の割合が77.3%と最も高くなっています。
 平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

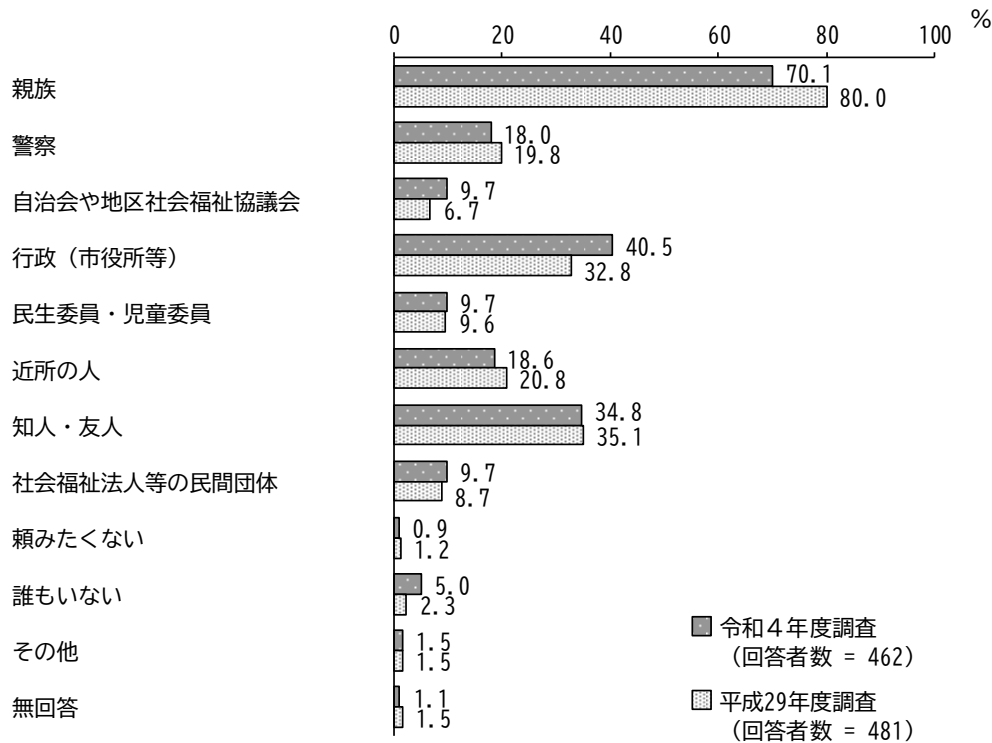


※平成29年度調査では「ヤングケアラー」「金銭トラブル」「消費者被害」の選択肢はありませんでした。

問10 あなたが生活上の問題で相談や助けを必要とするとき、誰に手助けを頼みたいですか。(あてはまるものすべてに○)

「親族」の割合が70.1%と最も高く、次いで「行政（市役所等）」の割合が40.5%、「知人・友人」の割合が34.8%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「行政（市役所等）」の割合が増加しています。一方、「親族」の割合が減少しています。



【年齢別】

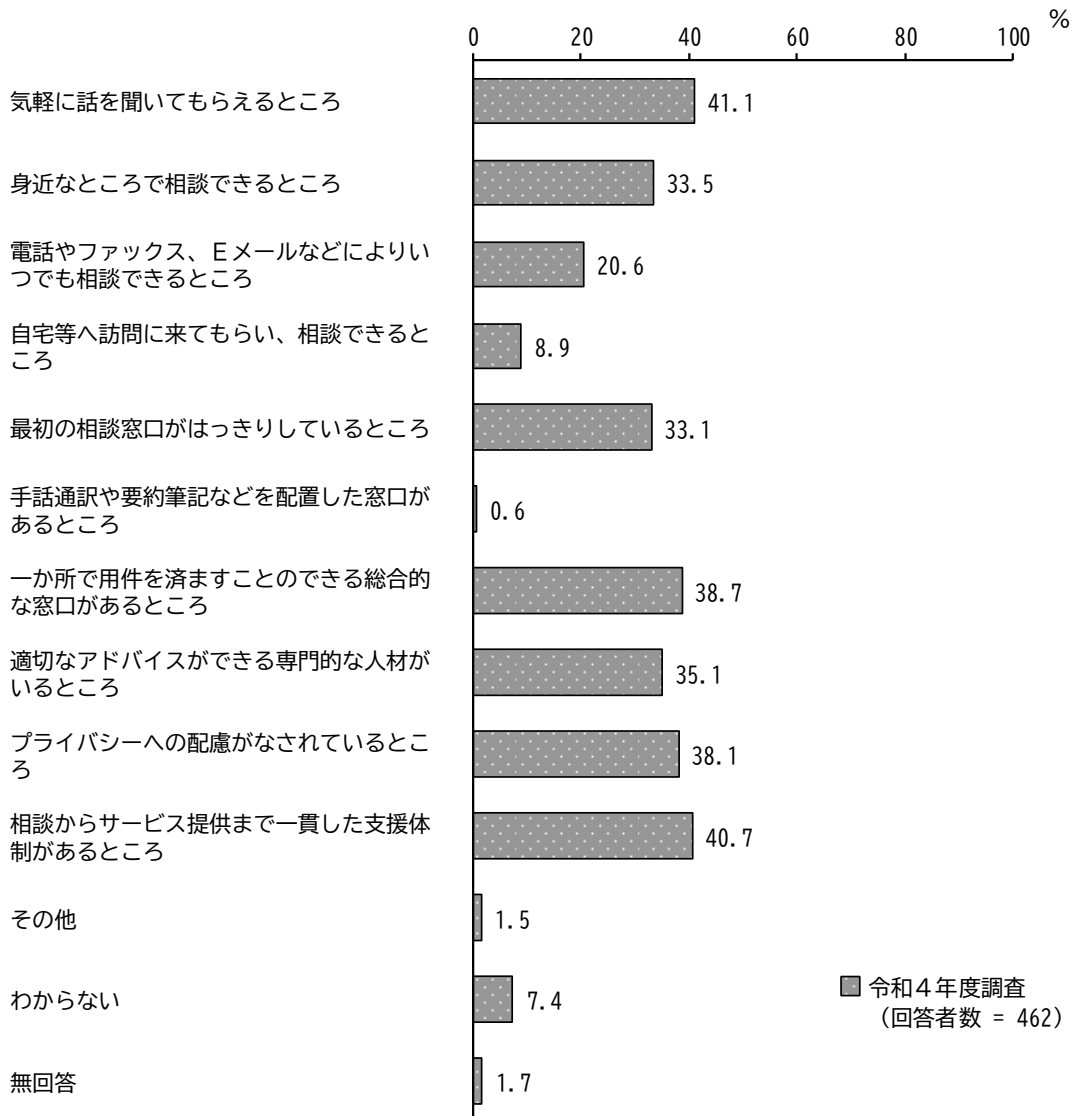
年齢別にみると、他に比べ、20～29歳・30～39歳で「知人・友人」の割合が、80歳以上で「近所の人」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	親族	警察	自治会や地区社会福祉協議会	行政(市役所等)	民生委員・児童委員	近所の人	知人・友人	社会福祉法人等の民間団体	頼みたくない	誰もいない	その他	無回答
全体	462	70.1	18.0	9.7	40.5	9.7	18.6	34.8	9.7	0.9	5.0	1.5	1.1
20～29歳	23	82.6	26.1	—	43.5	—	—	60.9	8.7	—	—	—	—
30～39歳	39	74.4	23.1	5.1	43.6	5.1	10.3	53.8	2.6	—	7.7	—	2.6
40～49歳	64	64.1	26.6	10.9	45.3	4.7	10.9	37.5	12.5	1.6	7.8	1.6	1.6
50～59歳	64	68.8	25.0	14.1	51.6	14.1	14.1	40.6	17.2	1.6	3.1	—	—
60～69歳	73	68.5	17.8	12.3	54.8	4.1	17.8	26.0	12.3	—	4.1	1.4	1.4
70～79歳	124	67.7	11.3	9.7	30.6	13.7	21.8	29.8	7.3	0.8	7.3	0.8	—
80歳以上	74	77.0	10.8	8.1	27.0	14.9	35.1	27.0	6.8	1.4	1.4	5.4	1.4

問11 あなたは、どのような窓口があれば相談しやすいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

「気軽に話を聞いてもらえるところ」の割合が41.1%と最も高く、次いで「相談からサービス提供まで一貫した支援体制があるところ」の割合が40.7%、「一か所で用件を済ますことのできる総合的な窓口があるところ」の割合が38.7%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20～29歳・50～59歳で「電話やファックス、Eメールなどによりいつでも相談できる」ところの割合が、40～49歳で「最初の相談窓口がはっきりしている」ところの割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	気軽に話を聞いてもらえるところ	身近なところで相談できるところ	電話やファックス、Eメールなどによりいつでも相談できるところ	自宅等へ訪問に来てもらい、相談できるところ	最初の相談窓口がはっきりしているところ	手話通訳や要約筆記などを配置した窓口があるところ	一か所で用件を済ますことのできる総合的な窓口があるところ	適切なアドバイザーができる専門的な人材がいるところ	プライベートへの配慮がなされているところ	相談からサービス提供まで一貫した支援体制があるところ	その他	わからない	無回答
全体	462	41.1	33.5	20.6	8.9	33.1	0.6	38.7	35.1	38.1	40.7	1.5	7.4	1.7
20～29歳	23	43.5	34.8	34.8	—	34.8	—	39.1	34.8	47.8	43.5	8.7	—	4.3
30～39歳	39	43.6	28.2	28.2	—	28.2	—	28.2	28.2	28.2	35.9	5.1	5.1	—
40～49歳	64	43.8	28.1	31.3	7.8	45.3	1.6	39.1	35.9	50.0	48.4	1.6	4.7	—
50～59歳	64	43.8	39.1	32.8	7.8	40.6	1.6	40.6	48.4	43.8	50.0	—	7.8	—
60～69歳	73	37.0	35.6	21.9	8.2	34.2	—	46.6	42.5	38.4	39.7	—	8.2	—
70～79歳	124	37.9	31.5	12.1	9.7	30.6	0.8	40.3	29.8	35.5	38.7	—	8.1	2.4
80歳以上	74	44.6	36.5	5.4	17.6	21.6	—	32.4	28.4	29.7	32.4	2.7	10.8	5.4

【世帯構成別】

世帯構成別にみると、他に比べ、親と同居（二世帯を含む）で「適切なアドバイスができる専門的な人材がいるところ」「一か所で用件を済ますことのできる総合的な窓口があるところ」の割合が、子どもと親または孫の三世帯同居で「最初の相談窓口がはっきりしているところ」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	気軽に話を聞いてもらえるところ	身近なところで相談できるところ	電話やファックス、Eメールなどによりいつでも相談できるところ	自宅等へ訪問に来てもらい、相談できるところ	最初の相談窓口がはっきりしているところ	手話通訳や要約筆記などを配置した窓口があるところ	一か所で用件を済ますことのできる総合的な窓口があるところ	適切なアドバイスができる専門的な人材がいるところ	プライバシーへの配慮がなされているところ	相談からサービス提供まで一貫した支援体制があるところ	その他	わからない	無回答
全体	462	41.1	33.5	20.6	8.9	33.1	0.6	38.7	35.1	38.1	40.7	1.5	7.4	1.7
ひとり暮らし	84	39.3	41.7	28.6	13.1	29.8	—	35.7	23.8	28.6	32.1	—	13.1	2.4
夫婦ふたり暮らし	161	42.9	30.4	17.4	7.5	31.1	1.2	38.5	32.3	37.3	40.4	1.2	5.6	1.2
親と同居 (二世帯を含む)	61	44.3	37.7	29.5	8.2	45.9	—	52.5	49.2	49.2	50.8	1.6	4.9	1.6
子どもと同居 (二世帯を含む)	120	38.3	30.0	17.5	6.7	33.3	0.8	38.3	39.2	44.2	41.7	1.7	5.8	1.7
子どもと親 または孫の 三世帯同居	16	43.8	25.0	12.5	12.5	50.0	—	25.0	37.5	12.5	50.0	—	6.3	6.3
その他の世帯	16	43.8	37.5	12.5	12.5	12.5	—	31.3	37.5	37.5	37.5	6.3	18.8	—

【自治会区分別】

自治会区分別にみると、他に比べ、落合で「気軽に話を聞いてもらえるところ」の割合が、上深谷で「相談からサービス提供まで一貫した支援体制があるところ」の割合が、寺尾北で「電話やファックス、Eメールなどによりいつでも相談できるところ」の割合が高くなっています。

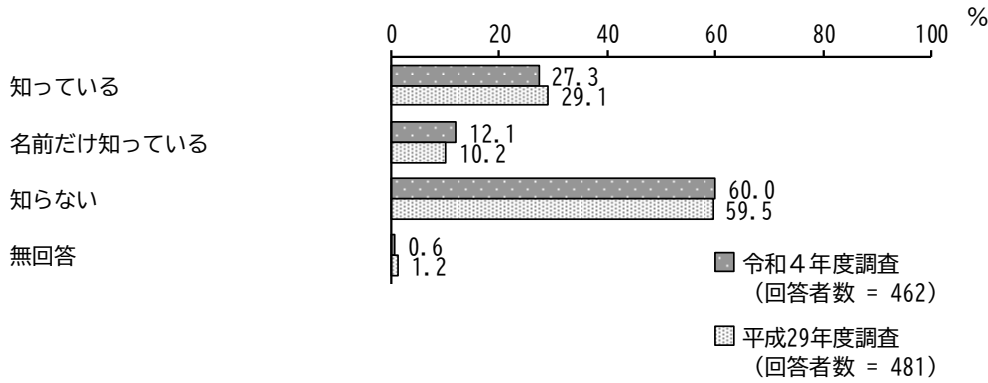
単位：%

区分	回答者数(件)	気軽に話を聞いてもらえるところ	身近なところで相談できるところ	電話やファックス、Eメールなどによりいつでも相談できるところ	自宅等へ訪問に来てもらい、相談できるところ	最初の相談窓口がはっきりしているところ	手話通訳や要約筆記などを配置した窓口があるところ	一か所で用件を済ますことのできる総合的な窓口があるところ	適切なアドバイザーができる専門的な人材がいるところ	プライバシーへの配慮がなされているところ	相談からサービス提供まで一貫した支援体制があるところ	その他	わからない	無回答
全体	462	41.1	33.5	20.6	8.9	33.1	0.6	38.7	35.1	38.1	40.7	1.5	7.4	1.7
落合	34	58.8	35.3	11.8	17.6	38.2	—	41.2	44.1	47.1	47.1	—	2.9	—
中村	36	47.2	33.3	19.4	8.3	27.8	—	30.6	41.7	44.4	33.3	—	13.9	—
上深谷	26	53.8	42.3	23.1	15.4	38.5	—	53.8	42.3	30.8	57.7	—	—	—
蓼川	18	27.8	33.3	16.7	11.1	33.3	5.6	33.3	38.9	27.8	44.4	5.6	5.6	5.6
大上	46	52.2	34.8	19.6	15.2	34.8	—	43.5	41.3	47.8	47.8	—	4.3	4.3
寺尾南	28	46.4	42.9	32.1	10.7	42.9	—	39.3	32.1	35.7	39.3	3.6	3.6	3.6
寺尾綾北	26	42.3	42.3	11.5	7.7	38.5	—	42.3	23.1	42.3	42.3	—	3.8	—
寺尾北	29	17.2	24.1	37.9	6.9	37.9	—	44.8	31.0	34.5	41.4	—	10.3	—
寺尾天台	30	23.3	26.7	23.3	6.7	30.0	3.3	43.3	26.7	33.3	43.3	—	6.7	3.3
小園	36	50.0	41.7	19.4	—	30.6	—	47.2	38.9	30.6	38.9	—	8.3	—
早川	25	36.0	16.0	16.0	8.0	28.0	—	28.0	32.0	36.0	44.0	4.0	12.0	—
吉岡	15	33.3	40.0	33.3	13.3	33.3	—	46.7	33.3	26.7	40.0	—	6.7	—
綾西	23	39.1	43.5	21.7	13.0	30.4	—	39.1	34.8	26.1	39.1	4.3	13.0	4.3
上土棚	81	38.3	28.4	17.3	3.7	29.6	—	30.9	33.3	44.4	30.9	3.7	8.6	1.2

問 12 あなたがお住まいの地域の民生委員・児童委員をご存じですか。(1つに〇)

「知らない」の割合が60.0%と最も高く、次いで「知っている」の割合が27.3%、「名前だけ知っている」の割合が12.1%となっています。

平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、30～39歳・40～49歳で「知らない」の割合が、80歳以上で「知っている」の割合が高くなっています。

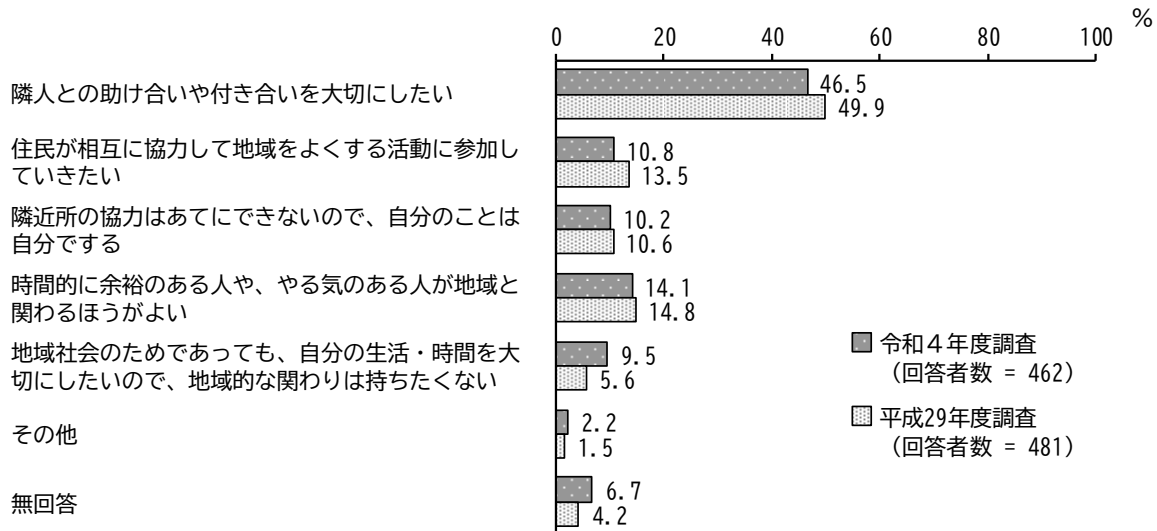
単位：%

区分	回答者数 (件)	知っている	名前だけ知っている	知らない	無回答
全 体	462	27.3	12.1	60.0	0.6
20～29 歳	23	8.7	8.7	82.6	—
30～39 歳	39	—	12.8	87.2	—
40～49 歳	64	7.8	7.8	84.4	—
50～59 歳	64	15.6	10.9	73.4	—
60～69 歳	73	19.2	15.1	63.0	2.7
70～79 歳	124	42.7	13.7	42.7	0.8
80 歳以上	74	55.4	12.2	32.4	—

問13 地域での人とのつきあいや関わりについて、あなたの考えに最も近いものはどれですか。(1つに○)

「隣人との助け合いや付き合いを大切にしたい」の割合が46.5%と最も高く、次いで「時間的に余裕のある人や、やる気のある人が地域と関わるほうがよい」の割合が14.1%、「住民が相互に協力して地域をよくする活動に参加していきたい」の割合が10.8%となっています。

平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20～29歳で「住民が相互に協力して地域をよくする活動に参加していきたい」の割合が、40～49歳で「時間的に余裕のある人や、やる気のある人が地域と関わるほうがよい」の割合が、80歳以上で「隣人との助け合いや付き合いを大切にしたい」の割合が高くなっています。

単位：%

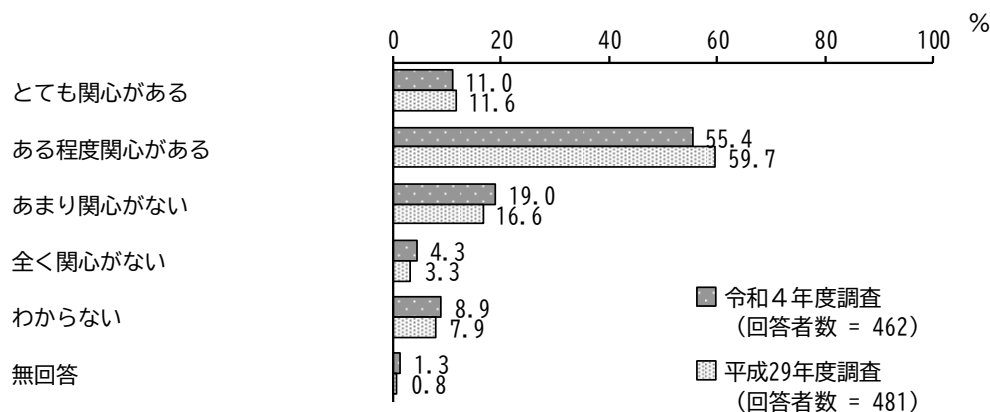
区分	回答者数(件)	隣人との助け合いや付き合いを大切にしたい	住民が相互に協力して地域をよくする活動に参加していきたい	隣近所の協力はあてにできないので、自分のことは自分です	時間的に余裕のある人や、やる気のある人が地域と関わるほうがよい	地域社会のためであっても、自分の生活・時間を大切にしたいので、地域的な関わりは持ちたくない	その他	無回答
全体	462	46.5	10.8	10.2	14.1	9.5	2.2	6.7
20～29歳	23	39.1	21.7	17.4	17.4	—	—	4.3
30～39歳	39	30.8	12.8	7.7	20.5	15.4	7.7	5.1
40～49歳	64	34.4	12.5	14.1	28.1	9.4	1.6	—
50～59歳	64	42.2	7.8	7.8	20.3	17.2	—	4.7
60～69歳	73	35.6	16.4	12.3	13.7	11.0	2.7	8.2
70～79歳	124	55.6	8.1	9.7	8.1	8.1	—	10.5
80歳以上	74	66.2	6.8	6.8	2.7	4.1	5.4	8.1

(3) 地域福祉について

問 14 あなたは、福祉に関心がありますか。(1つに○)

「ある程度関心がある」の割合が 55.4%と最も高く、次いで「あまり関心がない」の割合が 19.0%、「とても関心がある」の割合が 11.0%となっています。

平成 29 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、30～39歳・40～49歳で「あまり関心がない」の割合が、80歳以上で「とても関心がある」の割合が高くなっています。

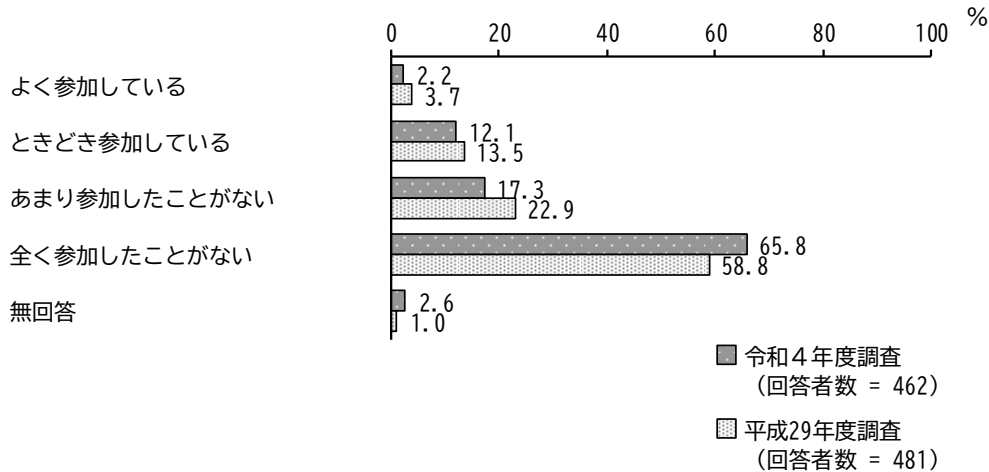
単位：%

区分	回答者数(件)	とても関心がある	ある程度関心がある	あまり関心がない	全く関心がない	わからない	無回答
全体	462	11.0	55.4	19.0	4.3	8.9	1.3
20～29歳	23	4.3	39.1	21.7	8.7	26.1	—
30～39歳	39	—	38.5	35.9	15.4	10.3	—
40～49歳	64	9.4	53.1	29.7	3.1	4.7	—
50～59歳	64	10.9	50.0	28.1	7.8	3.1	—
60～69歳	73	8.2	57.5	23.3	2.7	8.2	—
70～79歳	124	11.3	66.1	8.9	1.6	9.7	2.4
80歳以上	74	23.0	55.4	5.4	1.4	10.8	4.1

問 15 あなたは、福祉に関する研修会やボランティア講座、セミナーなどに参加したことがありますか。(1つに○)

「全く参加したことがない」の割合が 65.8%と最も高く、次いで「あまり参加したことがない」の割合が 17.3%、「ときどき参加している」の割合が 12.1%となっています。

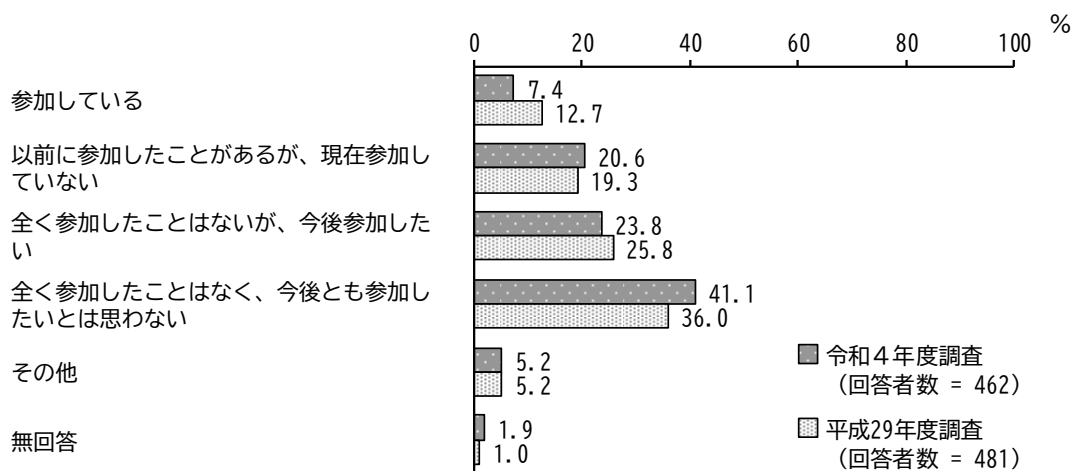
平成 29 年度調査と比較すると、「全く参加したことがない」の割合が増加しています。一方、「あまり参加したことがない」の割合が減少しています。



問 16 あなたは現在、ボランティア活動に参加していますか。(1つに○)

「全く参加したことはなく、今後とも参加したいとは思わない」の割合が 41.1%と最も高く、次いで「全く参加したことはないが、今後参加したい」の割合が 23.8%、「以前に参加したことがあるが、現在参加していない」の割合が 20.6%となっています。

平成 29 年度調査と比較すると、「全く参加したことはなく、今後とも参加したいとは思わない」の割合が増加しています。一方、「参加している」の割合が減少しています。



【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20～29歳で「全く参加したことはないが、今後参加したい」の割合が、30～39歳・40～49歳で「全く参加したことはなく、今後とも参加したいとは思わない」の割合が高くなっています。

単位：％

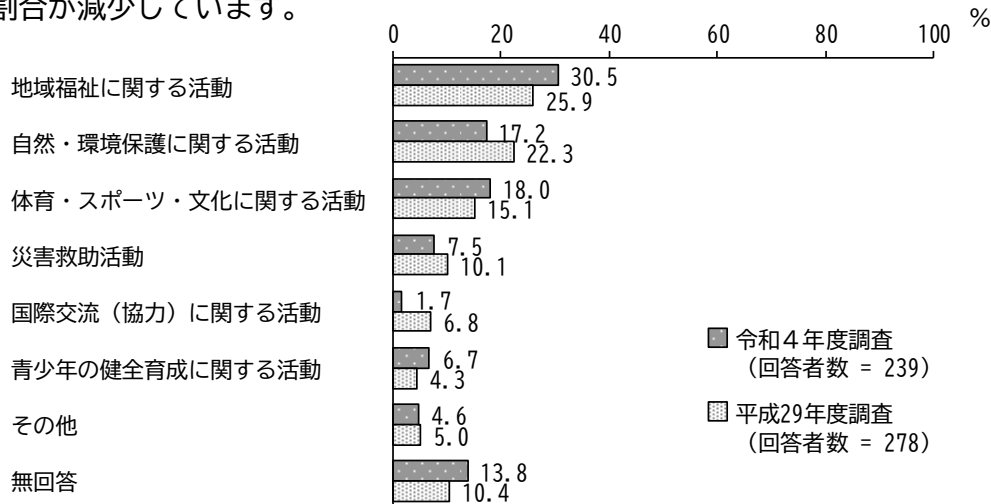
区分	回答者数(件)	参加している	以前に参加したことはないが、現在参加していない	全く参加したことはないが、今後参加したい	全く参加したことはないが、今後とも参加したいとは思わない	その他	無回答
全体	462	7.4	20.6	23.8	41.1	5.2	1.9
20～29歳	23	4.3	17.4	43.5	34.8	—	—
30～39歳	39	2.6	17.9	28.2	51.3	—	—
40～49歳	64	6.3	10.9	26.6	48.4	7.8	—
50～59歳	64	6.3	18.8	25.0	42.2	6.3	1.6
60～69歳	73	5.5	19.2	30.1	38.4	5.5	1.4
70～79歳	124	12.1	25.8	20.2	35.5	4.8	1.6
80歳以上	74	6.8	25.7	12.2	41.9	6.8	6.8

《問16で「1. 参加している」～「3. 全く参加したことはないが、今後参加したい」のいずれかをお答えの方にお聞きします》

問16-1 あなたが今後最も参加したいボランティア活動は何ですか。(1つに○)

「地域福祉に関する活動」の割合が30.5%と最も高く、次いで「体育・スポーツ・文化に関する活動」の割合が18.0%、「自然・環境保護に関する活動」の割合が17.2%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「自然・環境保護に関する活動」「国際交流(協力)に関する活動」の割合が減少しています。

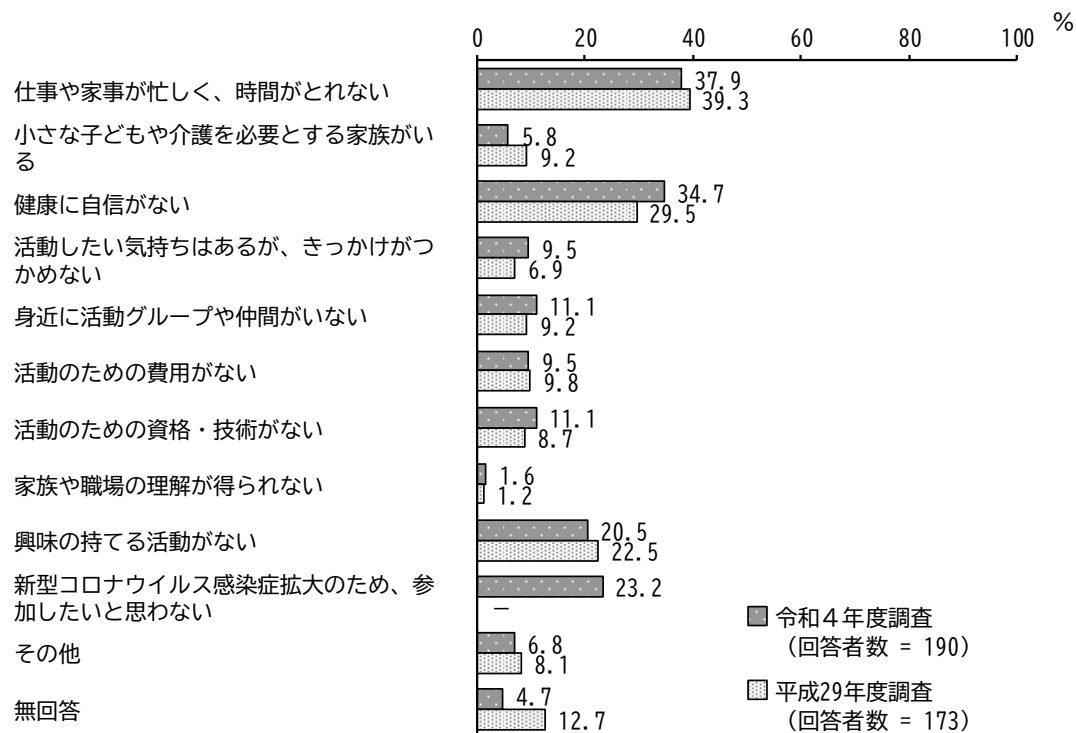


《問 16 で「4. 全く参加したことはなく、今後とも参加したいとは思わない」とお答えの方にお聞きします》

問 16-2 ボランティア活動に参加しない（したくない）理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

「仕事や家事が忙しく、時間がとれない」の割合が 37.9%と最も高く、次いで「健康に自信がない」の割合が 34.7%、「新型コロナウイルス感染症拡大のため、参加したいと思わない」の割合が 23.2%となっています。

平成 29 年度調査と比較すると、「健康に自信がない」の割合が増加しています。

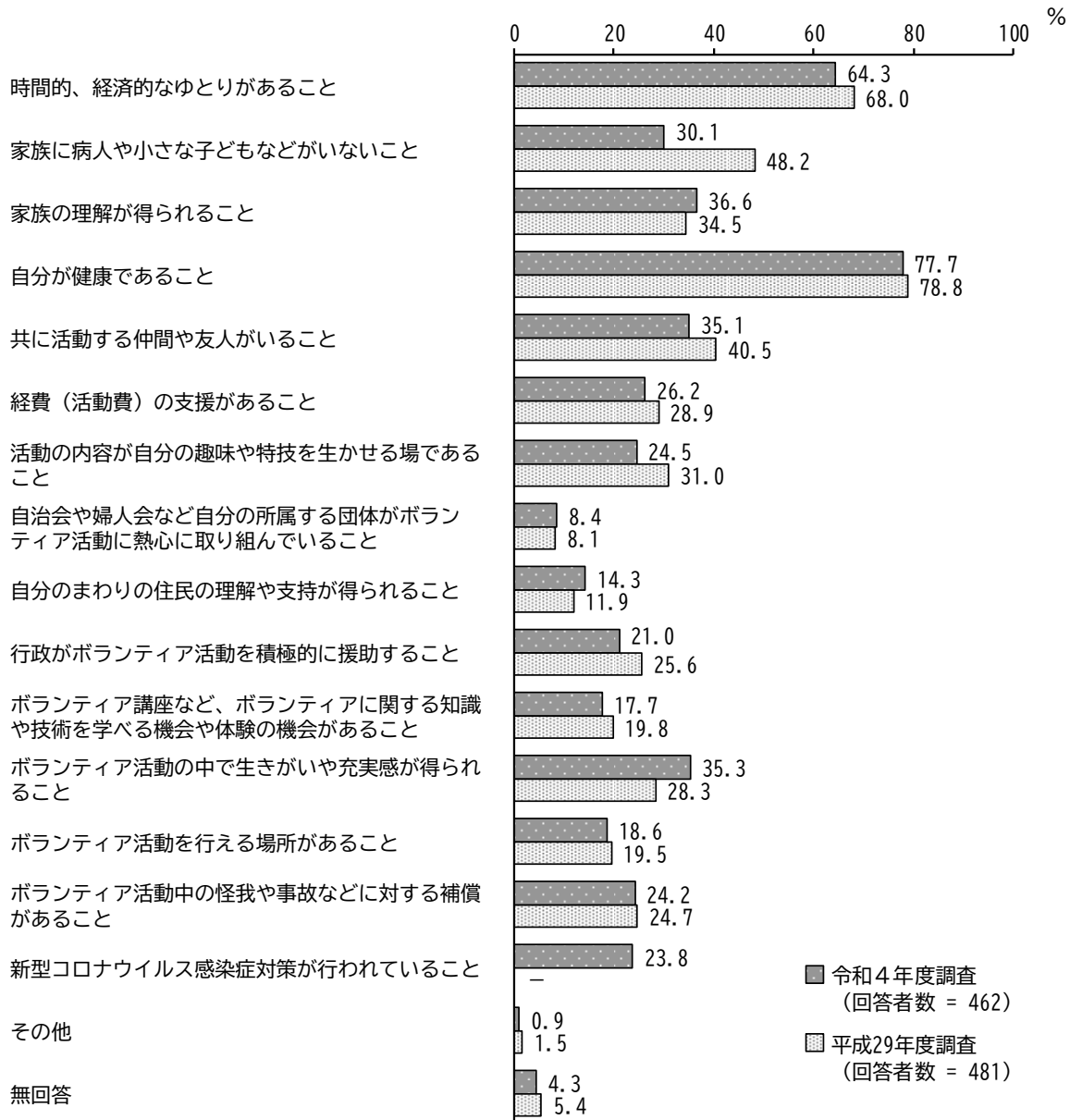


※平成 29 年度調査では「新型コロナウイルス感染症拡大のため、参加したいと思わない」の選択肢はありませんでした。

問 17 地域の中でボランティア活動を進めていくうえで、必要な条件はどのようなことだとお考えですか。(あてはまるものすべてに○)

「自分が健康であること」の割合が 77.7%と最も高く、次いで「時間的、経済的なゆとりがあること」の割合が 64.3%、「家族の理解が得られること」の割合が 36.6%となっています。

平成 29 年度調査と比較すると、「ボランティア活動の中で生きがいや充実感が得られること」の割合が増加しています。一方、「家族に病人や小さな子どもなどがないこと」「共に活動する仲間や友人がいること」「活動の内容が自分の趣味や特技を生かせる場であること」の割合が減少しています。



※平成 29 年度調査では「新型コロナウイルス感染症対策が行われていること」の選択肢はありませんでした。

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20～29歳・30～39歳・40～49歳で「時間的、経済的なゆとりがあること」の割合が高くなっています。

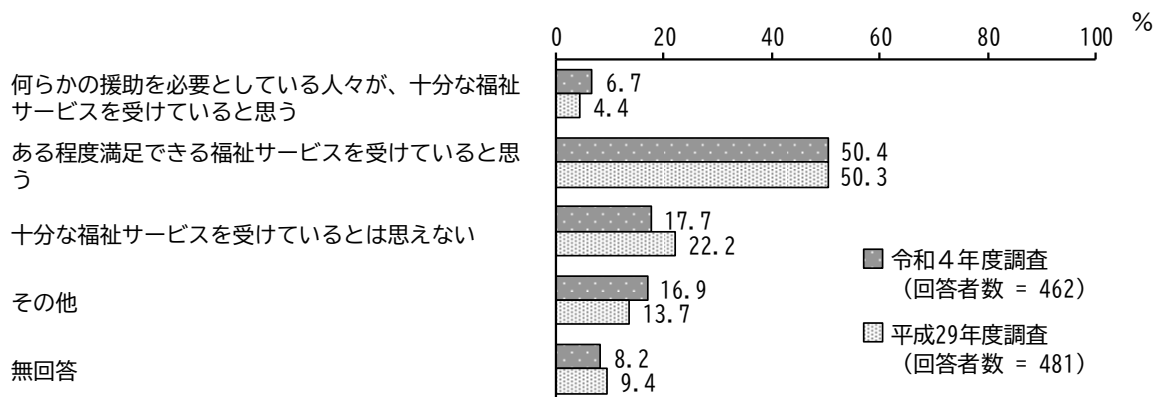
単位：%

区分	回答者数(件)	時間的、経済的なゆとりがあること	家族に病人や小さな子どもなどがないこと	家族の理解が得られること	自分が健康であること	共に活動する仲間や友人がいること	経費(活動費)の支援があること	活動の内容が自分の趣味や特技を生かせる場であること	自治会や婦人会など自分の所属する団体がボランティア活動に熱心に取り組んでいること
全 体	462	64.3	30.1	36.6	77.7	35.1	26.2	24.5	8.4
20～29歳	23	87.0	21.7	13.0	73.9	34.8	43.5	21.7	13.0
30～39歳	39	84.6	17.9	33.3	53.8	23.1	20.5	20.5	5.1
40～49歳	64	84.4	26.6	39.1	62.5	25.0	39.1	17.2	6.3
50～59歳	64	79.7	43.8	48.4	76.6	34.4	35.9	31.3	6.3
60～69歳	73	69.9	30.1	37.0	91.8	37.0	24.7	27.4	11.0
70～79歳	124	47.6	35.5	40.3	86.3	46.0	21.8	29.0	8.9
80歳以上	74	37.8	21.6	27.0	78.4	31.1	13.5	17.6	9.5

区分	自分のまわりの住民の理解や支持が得られること	行政がボランティア活動を積極的に援助すること	ボランティア講座など、ボランティアに関する知識や技術を学べる機会や体験の機会があること	ボランティア活動の中で生きがいや充実感が得られること	ボランティア活動を行える場所があること	ボランティア活動中の怪我や事故などに対する補償があること	新型コロナウイルス感染症対策が行われていること	その他	無回答
全 体	14.3	21.0	17.7	35.3	18.6	24.2	23.8	0.9	4.3
20～29歳	30.4	30.4	26.1	26.1	30.4	30.4	30.4	—	—
30～39歳	7.7	10.3	15.4	28.2	17.9	7.7	12.8	2.6	—
40～49歳	10.9	15.6	9.4	37.5	18.8	26.6	18.8	—	1.6
50～59歳	18.8	25.0	18.8	48.4	28.1	28.1	26.6	1.6	1.6
60～69歳	16.4	21.9	21.9	39.7	17.8	31.5	30.1	—	2.7
70～79歳	14.5	23.4	21.0	37.9	14.5	26.6	25.0	—	4.8
80歳以上	9.5	20.3	13.5	20.3	14.9	14.9	21.6	2.7	13.5

問 18 あなたは、現在の福祉サービスのあり方についてどのようにお考えですか。
(1つに○)

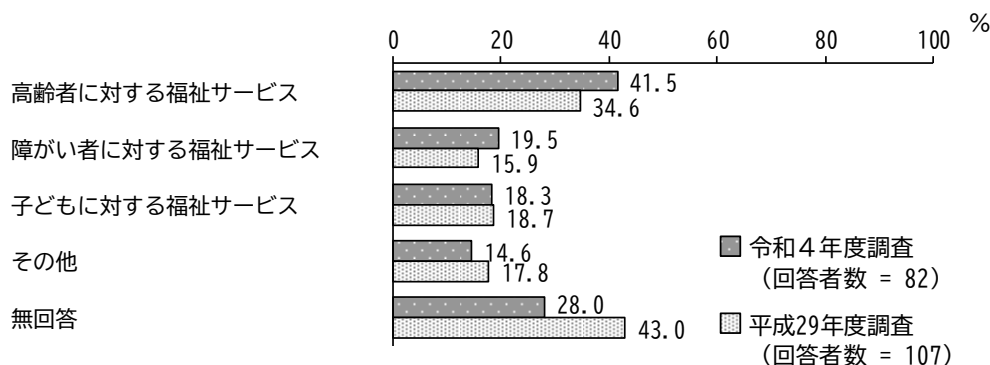
「ある程度満足できる福祉サービスを受けていると思う」の割合が 50.4%と最も高く、次いで「十分な福祉サービスを受けているとは思えない」の割合が 17.7%となっています。
平成 29 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



《問 18 で「3. 十分な福祉サービスを受けているとは思えない」とお答えの方にお聞きします》

問 18-1 どのようなサービスが不足しているとお考えですか。() に不足していると思われるサービスの内容や理由をご記入ください。
(あてはまるものすべてに○)

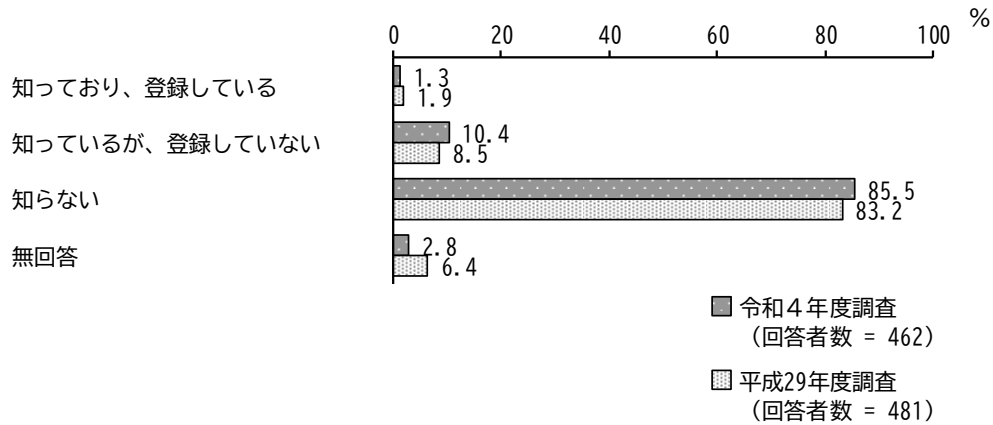
「高齢者に対する福祉サービス」の割合が 41.5%と最も高く、次いで「障がい者に対する福祉サービス」の割合が 19.5%、「子どもに対する福祉サービス」の割合が 18.3%となっています。
平成 29 年度調査と比較すると、「高齢者に対する福祉サービス」「障がい者に対する福祉サービス」の割合が増加しています。



問 19 ボランティア活動を希望する市民へ地域活動やボランティア活動のマッチングを行っているアクティブ・シニア応援窓口を知っていますか。(1つに○)

「知らない」の割合が85.5%と最も高く、次いで「知っているが、登録していない」の割合が10.4%となっています。

平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

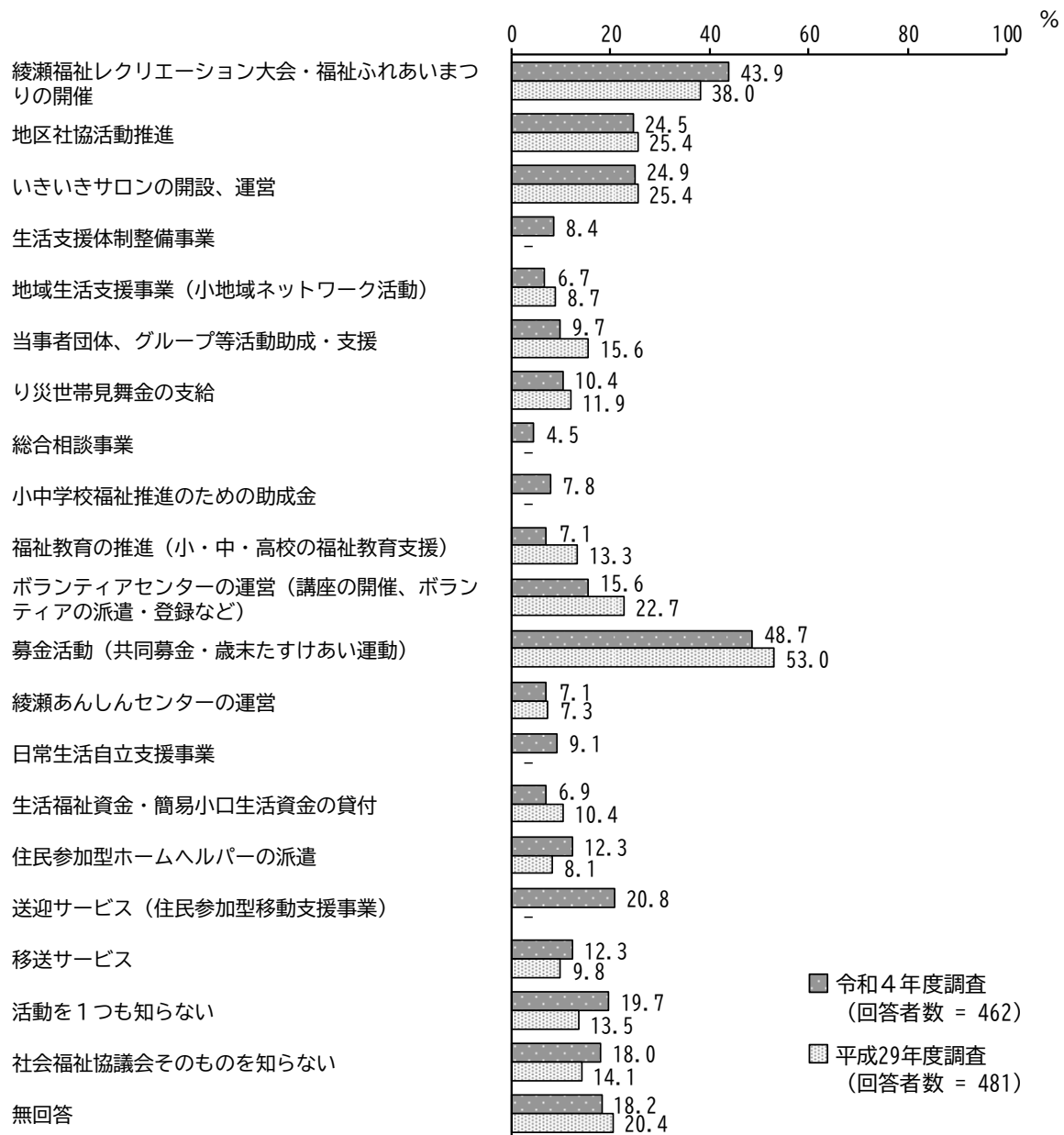


問 20 綾瀬市社会福祉協議会では、次のような活動を行っています。『1. あなたは、以下の事業・活動があることを知っていますか。』『2. あなたは、以下の事業・活動を利用したり、参加したことがありますか。』『3. あなたは、今後以下の事業・活動を利用したり、参加したいと思いませんか。』それぞれお答えください。

1. 知っている（あてはまるものすべてに○）

「募金活動（共同募金・歳末たすけあい運動）」の割合が 48.7%と最も高く、次いで「綾瀬福祉レクリエーション大会・福祉ふれあいまつりの開催」の割合が 43.9%、「いきいきサロンの開設、運営」の割合が 24.9%となっています。

平成 29 年度調査と比較すると、「綾瀬福祉レクリエーション大会・福祉ふれあいまつりの開催」「活動を一つも知らない」の割合は増加しています。一方、「当事者団体、グループ等活動助成・支援」「福祉教育の推進（小・中・高校の福祉教育支援）」「ボランティアセンターの運営（講座の開催、ボランティアの派遣・登録など）」の割合は減少しています。

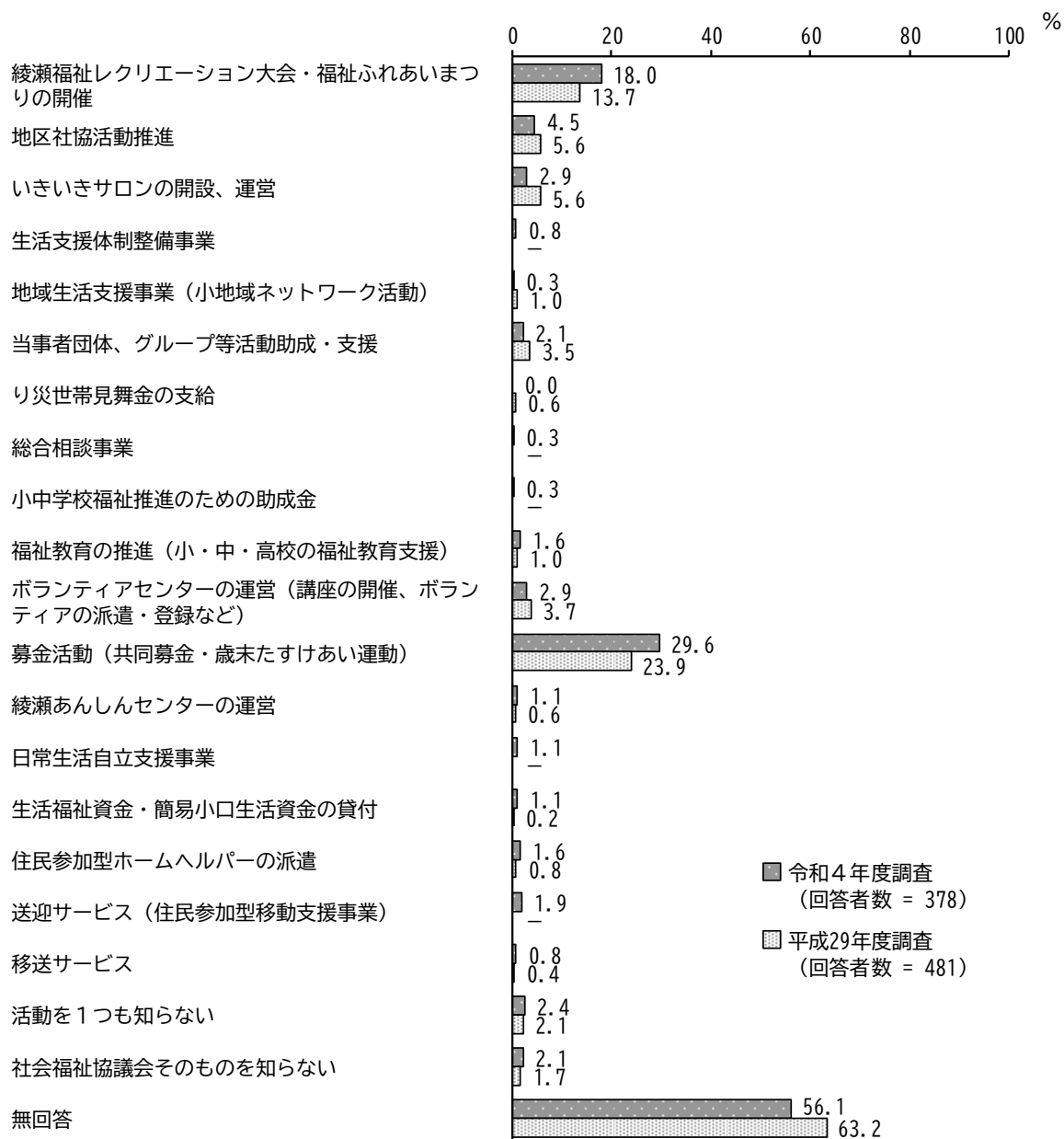


※平成 29 年度調査では「生活支援体制整備事業」「総合相談事業」「小中学校福祉推進のための助成金」「日常生活自立支援事業」「送迎サービス（住民参加型移動支援事業）」の選択肢はありませんでした。

2. 利用・参加したことがある（あてはまるものすべてに○）

「募金活動（共同募金・歳末たすけあい運動）」の割合が 29.6%と最も高く、次いで「綾瀬福祉レクリエーション大会・福祉ふれあいまつりの開催」の割合が 18.0%となっています。

平成 29 年度調査と比較すると、「募金活動（共同募金・歳末たすけあい運動）」の割合が増加しています。



※平成 29 年度調査では「生活支援体制整備事業」「総合相談事業」「小中学校福祉推進のための助成金」

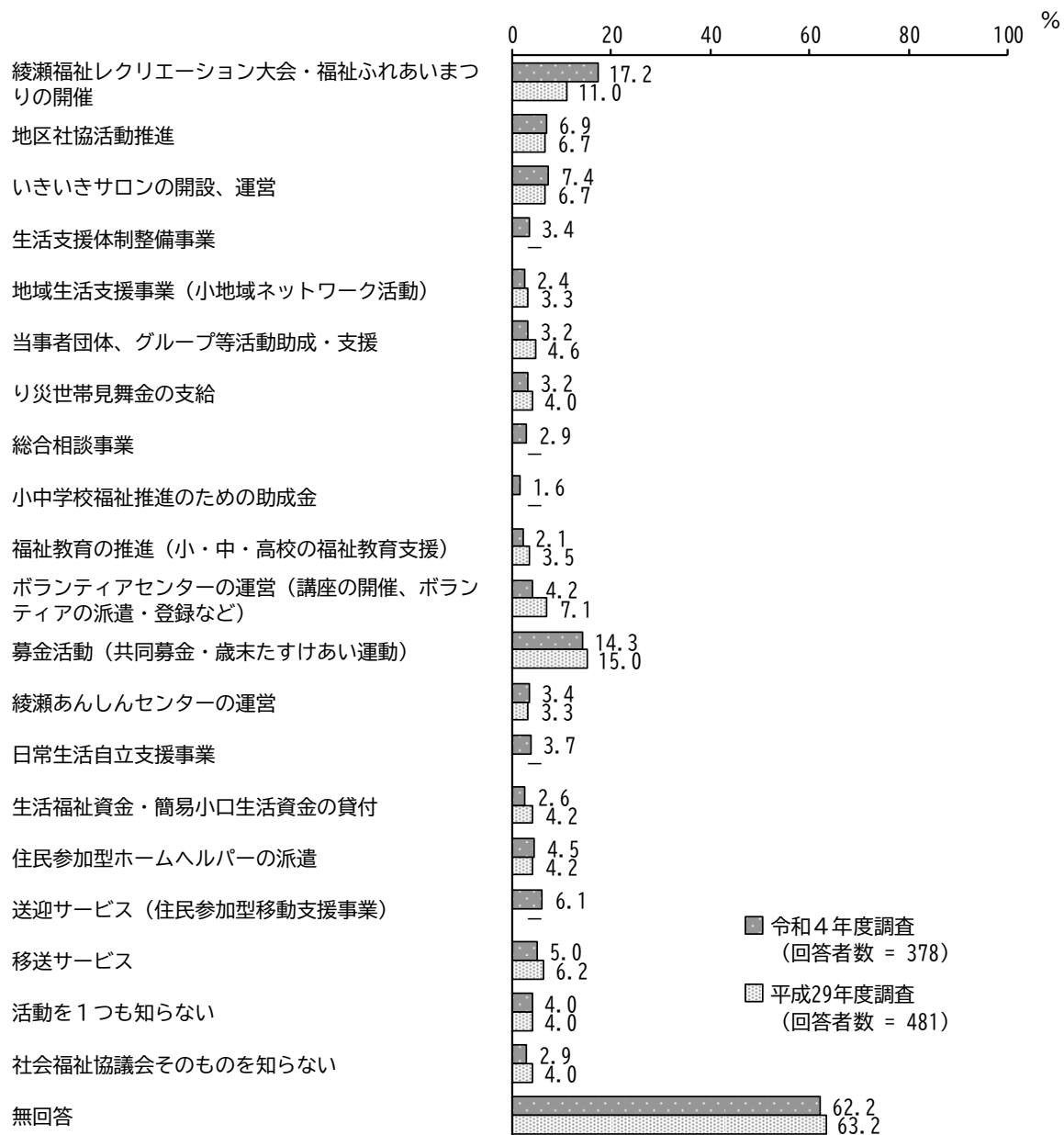
「日常生活自立支援事業」「送迎サービス（住民参加型移動支援事業）」の選択肢はありませんでした。

※令和 4 年度調査では「1. 知っている」と回答した方を対象としています。

3. 今後利用・参加したい（あてはまるものすべてに○）

「綾瀬福祉レクリエーション大会・福祉ふれあいまつりの開催」の割合が17.2%と最も高く、次いで「募金活動（共同募金・歳末たすけあい運動）」の割合が14.3%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「綾瀬福祉レクリエーション大会・福祉ふれあいまつりの開催」の割合が増加しています。

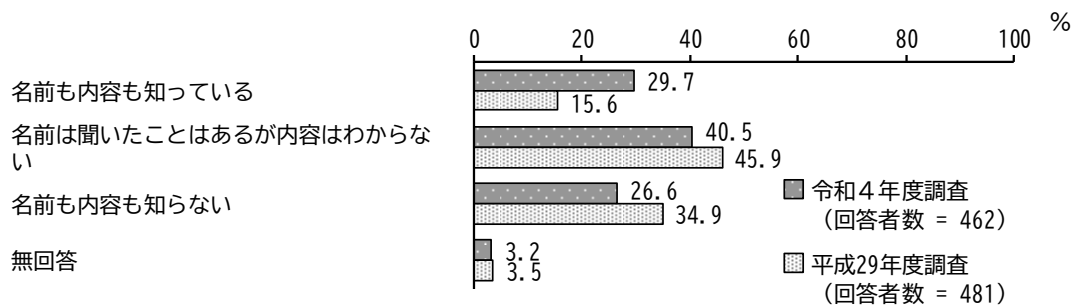


※平成29年度調査では「生活支援体制整備事業」「総合相談事業」「小中学校福祉推進のための助成金」「日常生活自立支援事業」「送迎サービス（住民参加型移動支援事業）」の選択肢はありませんでした。
 ※令和4年度調査では「1. 知っている」と回答した方を対象としています。

問 21 成年後見制度についてご存じですか。(1つに○)

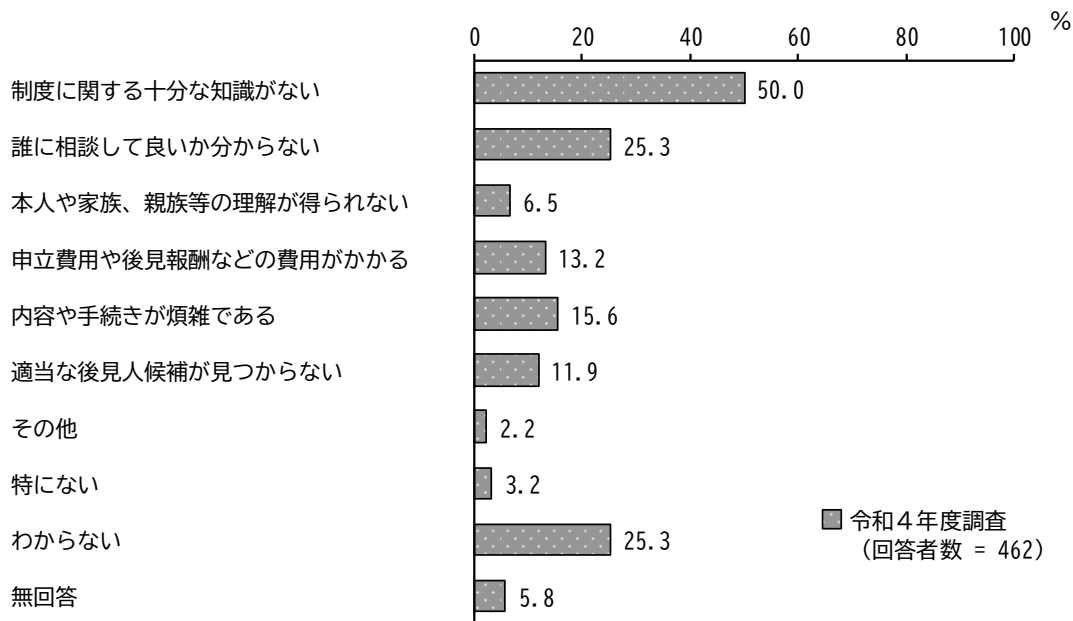
「名前は聞いたことはあるが内容はわからない」の割合が40.5%と最も高く、次いで「名前も内容も知っている」の割合が29.7%、「名前も内容も知らない」の割合が26.6%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「名前も内容も知っている」の割合が増加しています。一方、「名前は聞いたことはあるが内容はわからない」「名前も内容も知らない」の割合が減少しています。



問 22 成年後見制度の利用促進に向けての課題は何だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

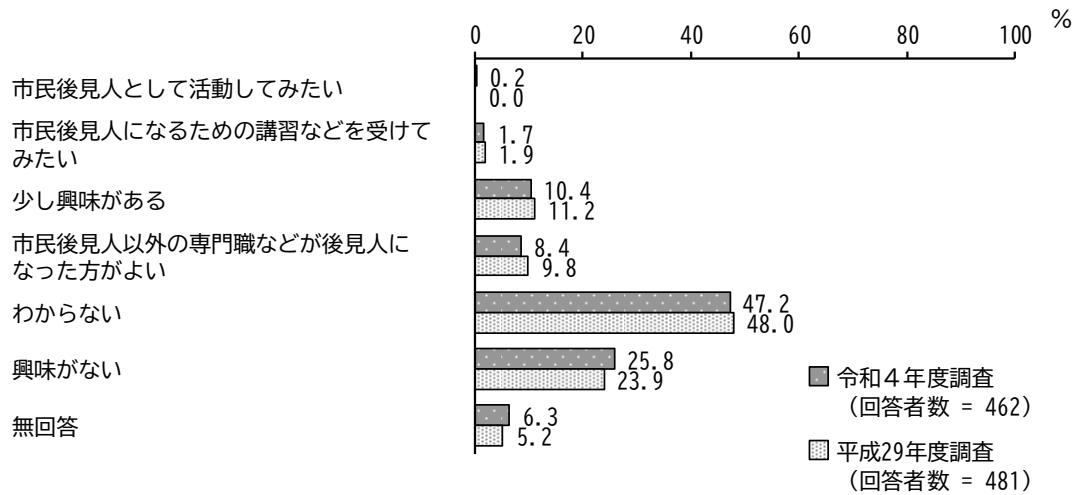
「制度に関する十分な知識がない」の割合が50.0%と最も高く、次いで「誰に相談して良いかわからない」、「わからない」の割合が25.3%となっています。



問 23 あなたは、市民が「成年後見」の担い手となることができる市民後見人に興味がありますか。(1つに○)

「わからない」の割合が47.2%と最も高く、次いで「興味がない」の割合が25.8%、「少し興味がある」の割合が10.4%となっています。

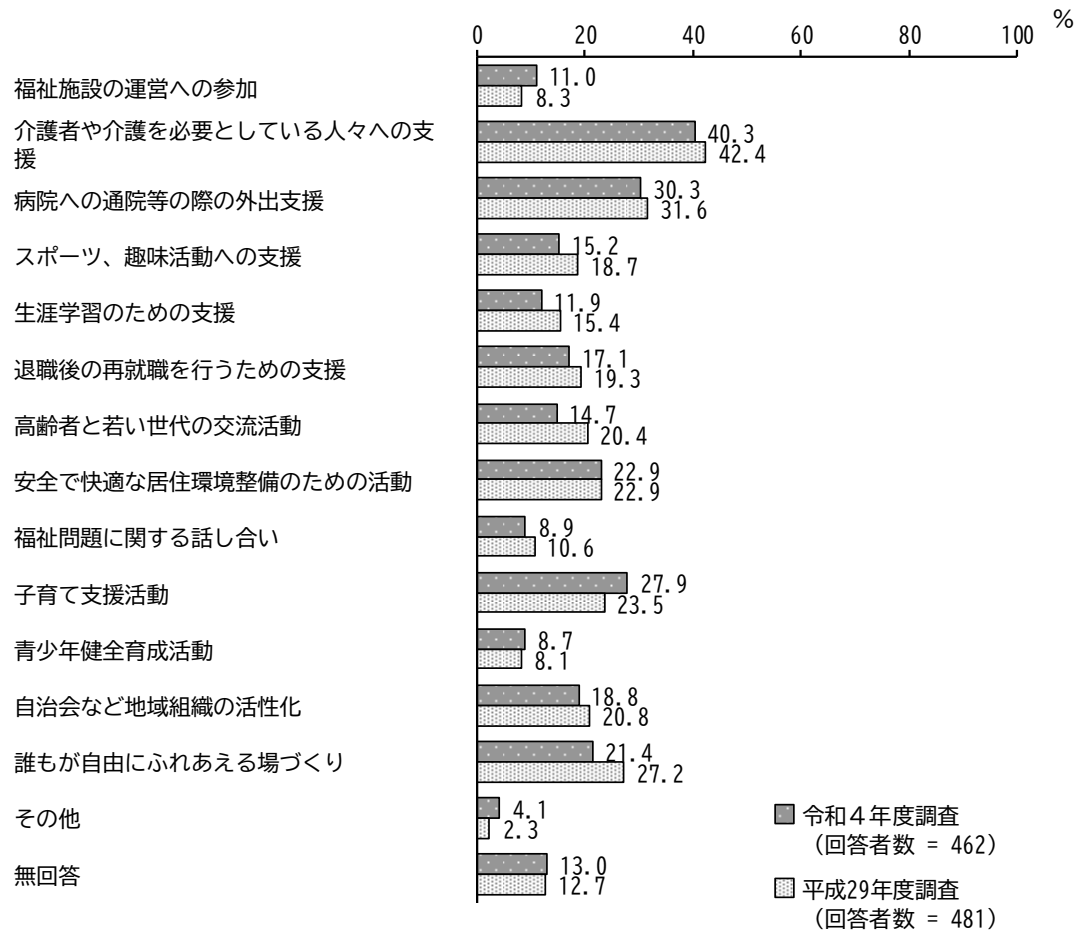
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 24 今後、地域福祉活動を推進していく上で、地域住民として、どのような活動に取り組むべきだとお考えですか。(あてはまるものすべてに○)

「介護者や介護を必要としている人々への支援」の割合が40.3%と最も高く、次いで「病院への通院等の際の外出支援」の割合が30.3%、「子育て支援活動」の割合が27.9%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「高齢者と若い世代の交流活動」「誰もが自由にふれあえる場づくり」の割合が減少しています。



【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20～29歳で「子育て支援活動」「退職後の再就職を行うための支援」の割合が、30～39歳で「子育て支援活動」の割合が高くなっています。

単位：％

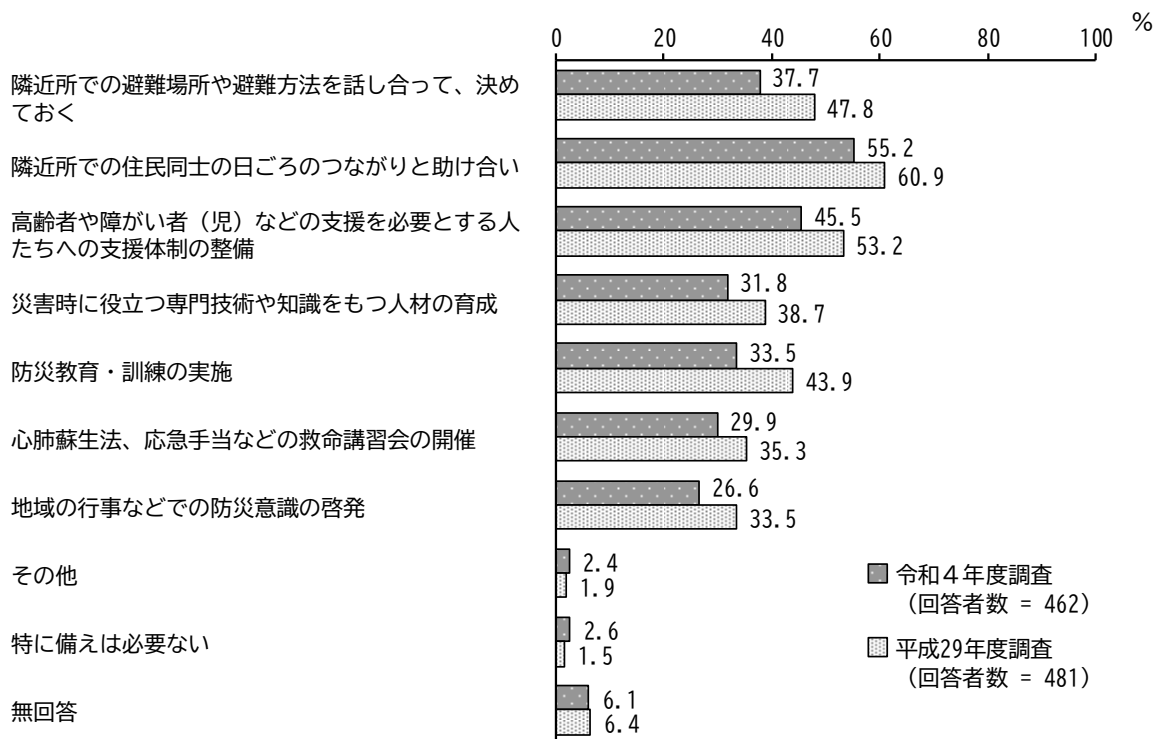
区分	回答者数(件)	福祉施設の運営への参加	介護者や介護を必要としている人々への支援	病院への通院等の際の外出支援	スポーツ、趣味活動への支援	生涯学習のための支援	退職後の再就職を行うための支援	高齢者と若い世代の交流活動
全体	462	11.0	40.3	30.3	15.2	11.9	17.1	14.7
20～29歳	23	4.3	34.8	26.1	21.7	17.4	39.1	17.4
30～39歳	39	15.4	12.8	12.8	23.1	15.4	7.7	20.5
40～49歳	64	9.4	54.7	35.9	9.4	18.8	31.3	10.9
50～59歳	64	15.6	46.9	25.0	12.5	7.8	25.0	18.8
60～69歳	73	12.3	43.8	34.2	13.7	15.1	19.2	12.3
70～79歳	124	11.3	41.9	31.5	18.5	7.3	9.7	9.7
80歳以上	74	6.8	32.4	35.1	12.2	10.8	6.8	21.6

区分	安全で快適な居住環境整備のための活動	福祉問題に関する話し合い	子育て支援活動	青少年健全育成活動	自治会など地域組織の活性化	誰もが自由にふれあえる場づくり	その他	無回答
全体	22.9	8.9	27.9	8.7	18.8	21.4	4.1	13.0
20～29歳	17.4	13.0	65.2	17.4	17.4	39.1	4.3	—
30～39歳	43.6	2.6	53.8	15.4	15.4	17.9	10.3	10.3
40～49歳	25.0	9.4	40.6	9.4	7.8	14.1	7.8	4.7
50～59歳	25.0	7.8	32.8	7.8	9.4	15.6	6.3	6.3
60～69歳	27.4	6.8	23.3	11.0	26.0	20.5	2.7	11.0
70～79歳	18.5	9.7	17.7	5.6	24.2	25.8	0.8	14.5
80歳以上	13.5	12.2	9.5	5.4	23.0	23.0	2.7	29.7

(4) 災害時の対応について

問 25 大地震などの災害に備えて、地域でどのような備えが必要だと思いますか。(防災用品の備えを除いて)(あてはまるものすべてに○)

「隣近所での住民同士の日ごろのつながりと助け合い」の割合が 55.2%と最も高く、次いで「高齢者や障がい者(児)などの支援を必要とする人たちへの支援体制の整備」の割合が 45.5%、「隣近所での避難場所や避難方法を話し合っ、決めておく」の割合が 37.7%となっています。平成 29 年度調査と比較すると、「隣近所での避難場所や避難方法を話し合っ、決めておく」「隣近所での住民同士の日ごろのつながりと助け合い」「高齢者や障がい者(児)などの支援を必要とする人たちへの支援体制の整備」「災害時に役立つ専門技術や知識をもつ人材の育成」「防災教育・訓練の実施」「心肺蘇生法、応急手当などの救命講習会の開催」「地域の行事などでの防災意識の啓発」の割合が減少しています。



【年齢別】

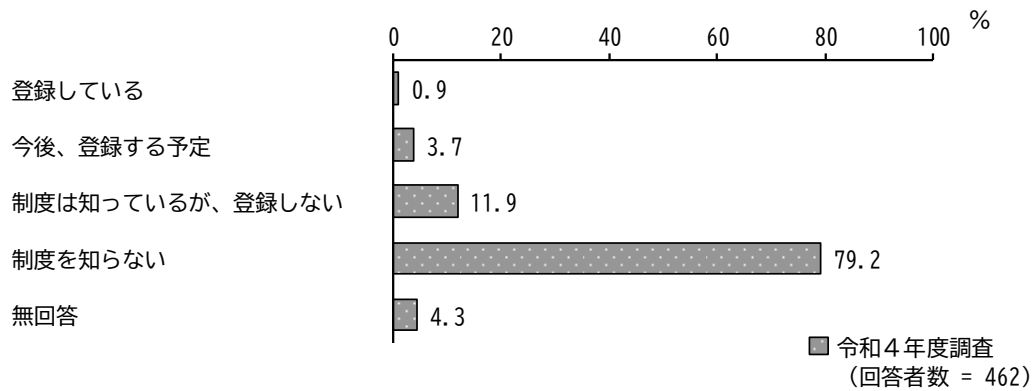
年齢別にみると、他に比べ、20～29歳で「心肺蘇生法、応急手当などの救命講習会の開催」の割合が、60～69歳で「災害時に役立つ専門技術や知識をもつ人材の育成」の割合が、70～79歳で「隣近所での住民同士の日ごろのつながりと助け合い」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	隣近所での避難場所や避難方法を話し合っ て、決めておく	隣近所での住民同士の日ごろのつなが りと助け合い	高齢者や障がい者(児)などの支援を必 要とする人たちの支援体制の整備	災害時に役立つ専門技術や知識をもつ 人材の育成	防災教育・訓練の実施	心肺蘇生法、応急手当などの救命講習 会の開催	地域の行事などでの防災意識の啓発	その他	特に備えは必要ない	無回答
全 体	462	37.7	55.2	45.5	31.8	33.5	29.9	26.6	2.4	2.6	6.1
20～29歳	23	39.1	47.8	34.8	34.8	39.1	47.8	21.7	4.3	—	—
30～39歳	39	28.2	46.2	33.3	25.6	35.9	30.8	15.4	5.1	5.1	2.6
40～49歳	64	28.1	35.9	53.1	35.9	34.4	34.4	20.3	7.8	—	1.6
50～59歳	64	35.9	53.1	53.1	34.4	34.4	34.4	29.7	1.6	3.1	—
60～69歳	73	38.4	56.2	43.8	45.2	43.8	31.5	34.2	—	2.7	2.7
70～79歳	124	43.5	69.4	47.6	28.2	31.5	30.6	29.0	0.8	4.0	5.6
80歳以上	74	41.9	56.8	40.5	21.6	23.0	13.5	25.7	1.4	1.4	21.6

問 26 綾瀬市では、災害時に家族等の支援が困難で何らかの助けを必要とする人を対象に「避難行動要支援者登録制度」を実施していますが、あなたはこの制度に登録していますか。(1つに○)

「制度を知らない」の割合が79.2%と最も高く、次いで「制度は知っているが、登録しない」の割合が11.9%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20～29歳・30～39歳で「制度を知らない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	登録している	今後、登録する予定	制度は知っているが、登録しない	制度を知らない	無回答
全 体	462	0.9	3.7	11.9	79.2	4.3
20～29歳	23	—	—	4.3	95.7	—
30～39歳	39	—	—	5.1	94.9	—
40～49歳	64	—	1.6	15.6	82.8	—
50～59歳	64	1.6	1.6	14.1	82.8	—
60～69歳	73	—	—	8.2	89.0	2.7
70～79歳	124	0.8	8.1	12.9	75.0	3.2
80歳以上	74	2.7	6.8	14.9	58.1	17.6

【世帯構成別】

世帯構成別にみると、他に比べ、親と同居（二世帯を含む）、その他の世帯で「制度を知らない」の割合が、子どもと同居（二世帯を含む）で「制度は知っているが、登録しない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	登録している	今後、登録する予定	制度は知っているが、登録しない	制度を知らない	無回答
全 体	462	0.9	3.7	11.9	79.2	4.3
ひとり暮らし	84	4.8	3.6	7.1	76.2	8.3
夫婦ふたり暮らし	161	—	6.2	13.0	77.6	3.1
親と同居（二世帯を含む）	61	—	1.6	6.6	90.2	1.6
子どもと同居（二世帯を含む）	120	—	1.7	17.5	77.5	3.3
子どもと親または孫の三世帯同居	16	—	6.3	12.5	75.0	6.3
その他の世帯	16	—	—	—	93.8	6.3

【自治会区分別】

自治会区分別にみると、他に比べ、中村・上深谷・寺尾綾北で「制度を知らない」の割合が、吉岡で「制度は知っているが、登録しない」の割合が高くなっています。

単位：％

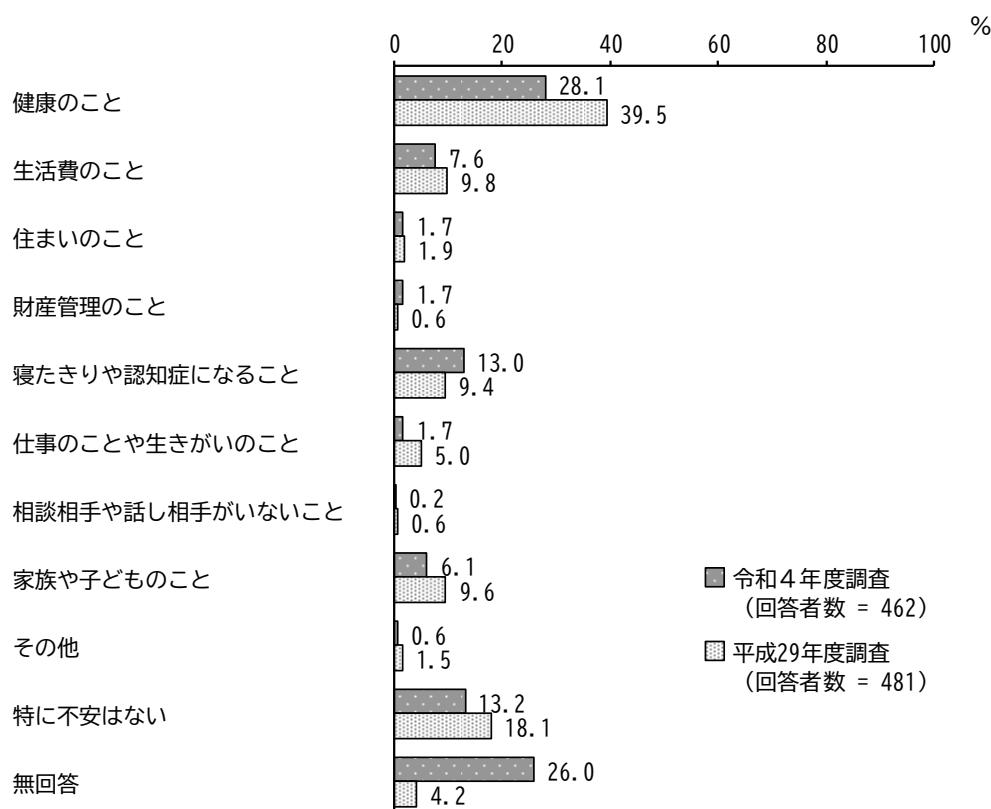
区分	回答者数(件)	登録している	今後、登録する予定	制度は知っているが、登録しない	制度を知らない	無回答
全 体	462	0.9	3.7	11.9	79.2	4.3
落合	34	－	5.9	14.7	73.5	5.9
中村	36	－	－	5.6	88.9	5.6
上深谷	26	－	－	7.7	88.5	3.8
蓼川	18	－	16.7	11.1	72.2	－
大上	46	2.2	6.5	19.6	63.0	8.7
寺尾南	28	－	7.1	17.9	71.4	3.6
寺尾綾北	26	－	3.8	3.8	88.5	3.8
寺尾北	29	3.4	3.4	13.8	79.3	－
寺尾天台	30	－	－	13.3	86.7	－
小園	36	－	5.6	5.6	83.3	5.6
早川	25	－	－	16.0	84.0	－
吉岡	15	－	－	20.0	73.3	6.7
綾西	23	4.3	13.0	17.4	56.5	8.7
上土棚	81	1.2	－	9.9	86.4	2.5

(5) 新しい地域福祉の課題について

問27 現在、あなたが一番不安に感じていることは何ですか。(1つに〇)

「健康のこと」の割合が28.1%と最も高く、次いで「特に不安はない」の割合が13.2%、「寝たきりや認知症になること」の割合が13.0%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「健康のこと」の割合が減少しています。



【年齢別】

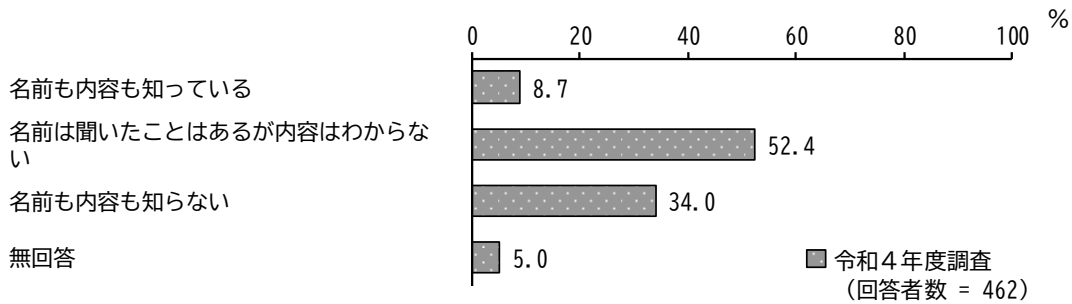
年齢別にみると、他に比べ、20～29歳で「特に不安はない」の割合が、60～69歳・70～79歳で「健康のこと」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	健康のこと	生活費のこと	住まいのこと	財産管理のこと	寝たきりや認知症になること	仕事のことや生きがいのこと	相談相手や話し相手がないこと	家族や子どものこと	その他	特に不安はない	無回答
全 体	462	28.1	7.6	1.7	1.7	13.0	1.7	0.2	6.1	0.6	13.2	26.0
20～29歳	23	—	21.7	—	—	—	—	—	—	—	47.8	30.4
30～39歳	39	7.7	20.5	2.6	10.3	5.1	10.3	2.6	5.1	2.6	10.3	23.1
40～49歳	64	9.4	15.6	3.1	3.1	4.7	1.6	—	10.9	1.6	18.8	31.3
50～59歳	64	23.4	4.7	—	—	10.9	4.7	—	17.2	—	14.1	25.0
60～69歳	73	37.0	5.5	—	—	17.8	—	—	6.8	—	9.6	23.3
70～79歳	124	41.9	4.0	3.2	0.8	16.1	—	—	2.4	0.8	8.1	22.6
80歳以上	74	35.1	—	1.4	1.4	20.3	—	—	—	—	10.8	31.1

問 28 生活困窮者自立支援法（制度）について、ご存じですか。（1つに〇）

「名前は聞いたことはあるが内容はわからない」の割合が 52.4%と最も高く、次いで「名前も内容も知らない」の割合が 34.0%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20～29歳で「名前も内容も知らない」の割合が、40～49歳で「名前は聞いたことはあるが内容はわからない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	名前も内容も知 っている	名前は聞いたこと はあるが内容はわ からない	名前も内容も知ら ない	無回答
全 体	462	8.7	52.4	34.0	5.0
20～29 歳	23	13.0	43.5	43.5	—
30～39 歳	39	5.1	56.4	38.5	—
40～49 歳	64	4.7	60.9	32.8	1.6
50～59 歳	64	9.4	53.1	35.9	1.6
60～69 歳	73	8.2	53.4	38.4	—
70～79 歳	124	11.3	54.8	30.6	3.2
80 歳以上	74	8.1	40.5	28.4	23.0

【世帯構成別】

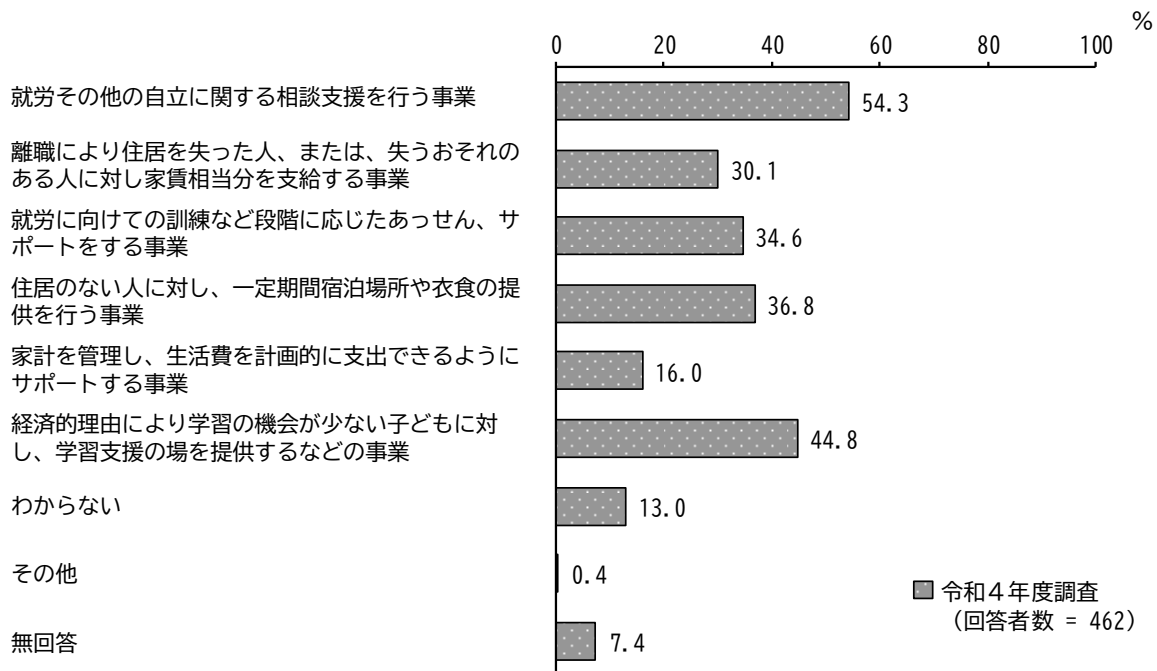
世帯構成別にみると、他に比べ、その他の世帯で「名前も内容も知らない」の割合が、子どもと同居（二世帯を含む）・子どもと親または孫の三世帯同居で「名前は聞いたことはあるが内容はわからない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	名前も内容も知っ ている	名前は聞いたこと はあるが内容はわ からない	名前も内容も知ら ない	無回答
全 体	462	8.7	52.4	34.0	5.0
ひとり暮らし	84	8.3	52.4	31.0	8.3
夫婦ふたり暮らし	161	11.2	49.7	34.8	4.3
親と同居（二世帯を含む）	61	9.8	50.8	39.3	—
子どもと同居（二世帯を含む）	120	5.8	60.0	28.3	5.8
子どもと親または孫の三世帯同居	16	—	62.5	37.5	—
その他の世帯	16	12.5	31.3	50.0	6.3

問 29 就労や心身の状況、地域社会との関係性などの事情で、経済的に困窮し、最低限度の生活を維持することが困難になったとして、必要と思われる支援内容は、次のどれですか。(あてはまるものすべてに○)

「就労その他の自立に関する相談支援を行う事業」の割合が 54.3%と最も高く、次いで「経済的理由により学習の機会が少ない子どもに対し、学習支援の場を提供するなどの事業」の割合が 44.8%、「住居のない人に対し、一定期間宿泊場所や衣食の提供を行う事業」の割合が 36.8%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20～29歳で「就労その他の自立に関する相談支援を行う事業」「住居のない人に対し、一定期間宿泊場所や衣食の提供を行う事業」「離職により住居を失った人、または、失うおそれのある人に対し家賃相当分を支給する事業」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	就労その他の自立に関する相談支援を行う事業	離職により住居を失った人、または、失うおそれのある人に対し家賃相当分を支給する事業	就労に向けての訓練など段階に応じたあつせん、サポートをする事業	住居のない人に対し、一定期間宿泊場所や衣食の提供を行う事業	家計を管理し、生活費を計画的に支出できるようにサポートする事業	経済的理由により学習の機会が少ない子どもに対し、学習支援の場を提供するなどの事業	わからない	その他	無回答
全体	462	54.3	30.1	34.6	36.8	16.0	44.8	13.0	0.4	7.4
20～29歳	23	82.6	47.8	52.2	56.5	30.4	52.2	4.3	—	—
30～39歳	39	46.2	33.3	43.6	23.1	28.2	53.8	10.3	—	—
40～49歳	64	64.1	45.3	39.1	48.4	14.1	60.9	4.7	1.6	3.1
50～59歳	64	71.9	40.6	39.1	42.2	14.1	48.4	7.8	—	—
60～69歳	73	61.6	28.8	32.9	45.2	9.6	46.6	9.6	—	5.5
70～79歳	124	46.8	22.6	36.3	31.5	17.7	43.5	16.1	0.8	7.3
80歳以上	74	32.4	14.9	16.2	24.3	12.2	21.6	27.0	—	24.3

【自治会区分別】

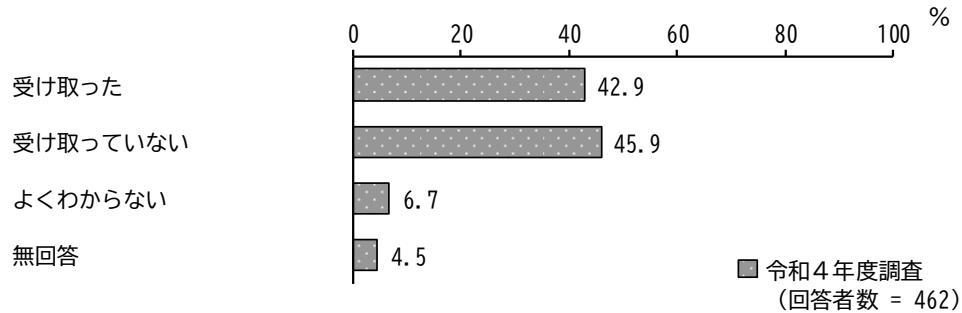
自治会区分別にみると、他に比べ、綾西で「経済的理由により学習の機会が少ない子どもに対し、学習支援の場を提供するなどの事業」の割合が、上深谷で「離職により住居を失った人、または、失うおそれのある人に対し家賃相当分を支給する事業」「住居のない人に対し、一定期間宿泊場所や衣食の提供を行う事業」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	就労その他の自立に関する相談支援を行う事業	離職により住居を失った人、または、失うおそれのある人に対し家賃相当分を支給する事業	就労に向けての訓練など段階に応じたあつせん、サポートをする事業	住居のない人に対し、一定期間宿泊場所や衣食の提供を行う事業	家計を管理し、生活費を計画的に支出できるようにサポートする事業	経済的理由により学習の機会が少ない子どもに対し、学習支援の場を提供するなどの事業	わからない	その他	無回答
全体	462	54.3	30.1	34.6	36.8	16.0	44.8	13.0	0.4	7.4
落合	34	47.1	32.4	26.5	44.1	11.8	35.3	11.8	—	11.8
中村	36	63.9	30.6	33.3	22.2	19.4	38.9	22.2	2.8	2.8
上深谷	26	61.5	53.8	42.3	57.7	30.8	53.8	—	—	3.8
蓼川	18	55.6	38.9	44.4	16.7	5.6	55.6	5.6	—	5.6
大上	46	50.0	32.6	41.3	37.0	19.6	43.5	6.5	—	13.0
寺尾南	28	60.7	25.0	53.6	50.0	14.3	53.6	3.6	—	3.6
寺尾綾北	26	53.8	23.1	23.1	38.5	7.7	38.5	15.4	—	11.5
寺尾北	29	65.5	31.0	44.8	27.6	20.7	58.6	13.8	—	10.3
寺尾天台	30	53.3	20.0	43.3	50.0	16.7	43.3	16.7	—	6.7
小園	36	61.1	22.2	27.8	22.2	16.7	33.3	13.9	2.8	8.3
早川	25	56.0	36.0	32.0	40.0	4.0	44.0	20.0	—	4.0
吉岡	15	33.3	26.7	40.0	26.7	13.3	26.7	26.7	—	6.7
綾西	23	47.8	39.1	34.8	52.2	26.1	73.9	8.7	—	4.3
上土棚	81	49.4	25.9	23.5	35.8	14.8	44.4	16.0	—	4.9

問 30 あなたは、新型コロナウイルス感染症の影響により、住民税非課税世帯に対する臨時特別給付金（1世帯10万円）を受け取りましたか。（1つに○）

「受け取っていない」の割合が45.9%と最も高く、次いで「受け取った」の割合が42.9%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20～29歳・50～59歳で「受け取った」の割合が、60～69歳で「受け取っていない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	受け取った	受け取っていない	よくわからない	無回答
全 体	462	42.9	45.9	6.7	4.5
20～29歳	23	56.5	26.1	17.4	—
30～39歳	39	48.7	48.7	2.6	—
40～49歳	64	40.6	53.1	6.3	—
50～59歳	64	53.1	42.2	4.7	—
60～69歳	73	35.6	58.9	5.5	—
70～79歳	124	43.5	42.7	8.9	4.8
80歳以上	74	35.1	40.5	5.4	18.9

【世帯構成別】

世帯構成別にみると、他に比べ、ひとり暮らし・その他の世帯で「受け取った」の割合が、子どもと親または孫の三世帯同居で「受け取っていない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	受け取った	受け取っていない	よくわからない	無回答
全 体	462	42.9	45.9	6.7	4.5
ひとり暮らし	84	64.3	26.2	4.8	4.8
夫婦ふたり暮らし	161	37.3	50.9	6.2	5.6
親と同居（二世帯を含む）	61	50.8	41.0	8.2	—
子どもと同居（二世帯を含む）	120	32.5	55.8	6.7	5.0
子どもと親または孫の三世帯同居	16	25.0	68.8	—	6.3
その他の世帯	16	62.5	18.8	18.8	—

【自治会区分別】

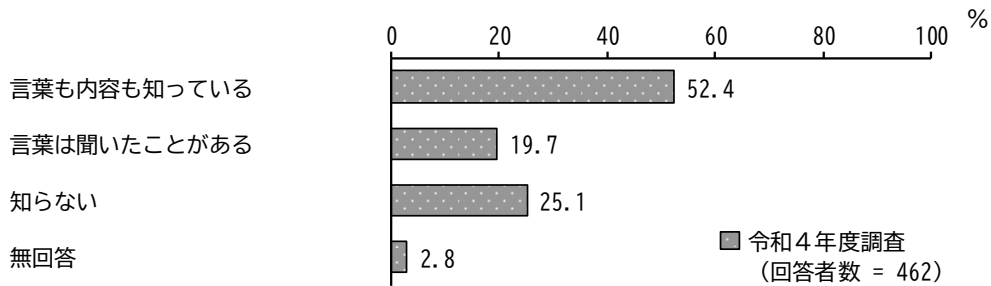
自治会区分別にみると、他に比べ、寺尾南で「受け取った」の割合が、寺尾天台・早川で「受け取っていない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	受け取った	受け取っていない	よくわからない	無回答
全 体	462	42.9	45.9	6.7	4.5
落合	34	52.9	35.3	5.9	5.9
中村	36	38.9	41.7	16.7	2.8
上深谷	26	34.6	57.7	3.8	3.8
蓼川	18	27.8	55.6	11.1	5.6
大上	46	58.7	32.6	2.2	6.5
寺尾南	28	60.7	35.7	3.6	—
寺尾綾北	26	38.5	42.3	11.5	7.7
寺尾北	29	58.6	37.9	—	3.4
寺尾天台	30	23.3	73.3	3.3	—
小園	36	52.8	38.9	5.6	2.8
早川	25	24.0	64.0	4.0	8.0
吉岡	15	33.3	53.3	6.7	6.7
綾西	23	47.8	39.1	4.3	8.7
上土棚	81	35.8	53.1	7.4	3.7

問 31 あなたはヤングケアラーという言葉を知っていますか。(1つに○)

「言葉も内容も知っている」の割合が 52.4%と最も高く、次いで「知らない」の割合が 25.1%、「言葉は聞いたことがある」の割合が 19.7%となっています。



【年齢別】

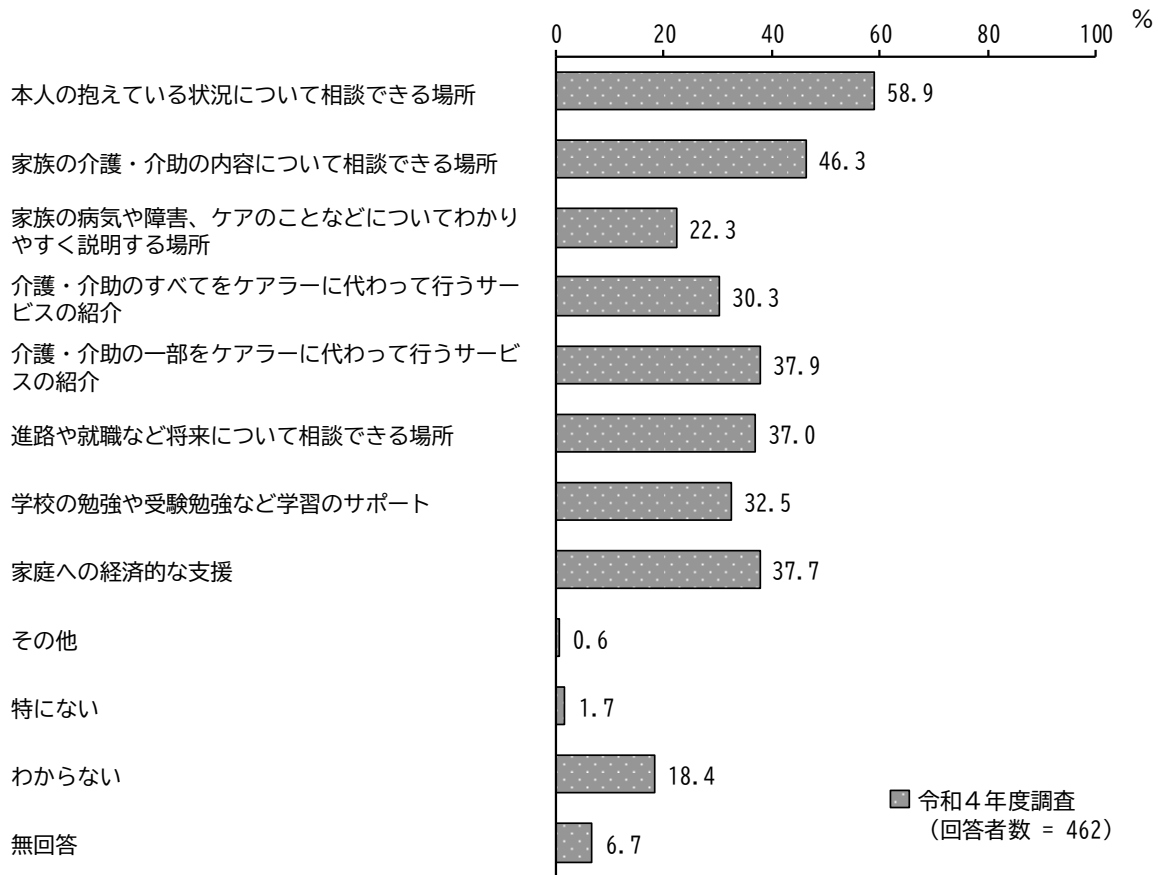
年齢別にみると、他に比べ、20～29歳・40～49歳・50～59歳で「言葉も内容も知っている」の割合が、70～79歳で「言葉は聞いたことがある」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	言葉も内容も知っている	言葉は聞いたことがある	知らない	無回答
全 体	462	52.4	19.7	25.1	2.8
20～29歳	23	60.9	8.7	30.4	—
30～39歳	39	56.4	15.4	25.6	2.6
40～49歳	64	60.9	20.3	18.8	—
50～59歳	64	64.1	17.2	18.8	—
60～69歳	73	57.5	16.4	26.0	—
70～79歳	124	44.4	25.0	27.4	3.2
80歳以上	74	39.2	21.6	29.7	9.5

問 32 ヤングケアラーを支援するために、必要だと思うことはどのようなことですか。
 (あてはまるものすべてに○)

「本人の抱えている状況について相談できる場所」の割合が 58.9%と最も高く、次いで「家族の介護・介助の内容について相談できる場所」の割合が 46.3%、「介護・介助の一部をケアラーに代わって行うサービスの紹介」の割合が 37.9%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20～29歳で「介護・介助のすべてをケアラーに代わって行うサービスの紹介」「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」の割合が、40～49歳で「家族の介護・介助の内容について相談できる場所」の割合が高くなっています。

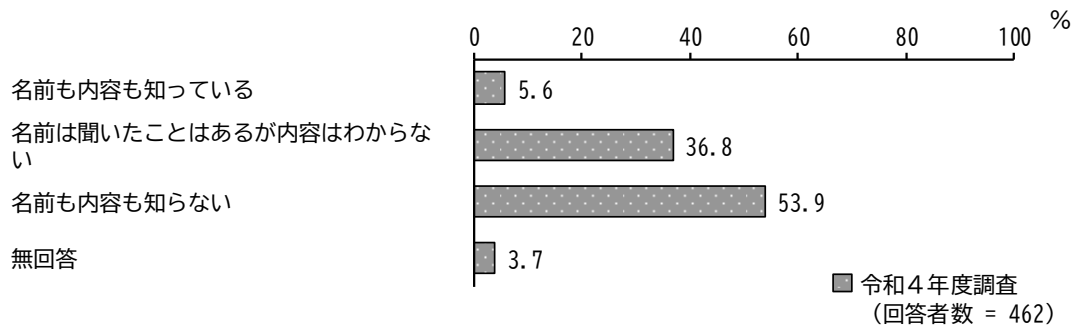
単位：%

区分	回答者数(件)	本人の抱えている状況について相談できる場所	家族の介護・介助の内容について相談できる場所	家族の病気や障害、ケアのことなどについてわかりやすく説明する場所	介護・介助のすべてをケアラーに代わって行うサービスの紹介	介護・介助の一部をケアラーに代わって行うサービスの紹介	進路や就職など将来について相談できる場所
全体	462	58.9	46.3	22.3	30.3	37.9	37.0
20～29歳	23	60.9	52.2	26.1	47.8	43.5	39.1
30～39歳	39	64.1	43.6	15.4	28.2	43.6	33.3
40～49歳	64	71.9	62.5	21.9	32.8	45.3	43.8
50～59歳	64	60.9	46.9	25.0	45.3	42.2	46.9
60～69歳	73	64.4	52.1	23.3	35.6	37.0	41.1
70～79歳	124	56.5	44.4	24.2	21.8	38.7	34.7
80歳以上	74	41.9	29.7	18.9	20.3	23.0	24.3

区分	学校の勉強や受験のサポート	家庭への経済的な支援	その他	特になし	わからない	無回答
全体	32.5	37.7	0.6	1.7	18.4	6.7
20～29歳	47.8	52.2	—	—	26.1	—
30～39歳	30.8	38.5	—	—	20.5	—
40～49歳	42.2	50.0	3.1	—	15.6	1.6
50～59歳	37.5	50.0	—	1.6	18.8	—
60～69歳	21.9	26.0	—	4.1	16.4	4.1
70～79歳	35.5	33.1	—	0.8	16.9	10.5
80歳以上	21.6	31.1	1.4	4.1	21.6	17.6

問 33 犯罪をした人が孤立することなく社会に復帰し、犯罪や非行の繰り返しを防ぐため、平成 28 年に再犯の防止等の推進に関する法律（再犯防止推進法）が施行されました。あなたは、このことを知っていますか。（1 つに○）

「名前も内容も知らない」の割合が 53.9%と最も高く、次いで「名前は聞いたことはあるが内容はわからない」の割合が 36.8%となっています。



【年齢別】

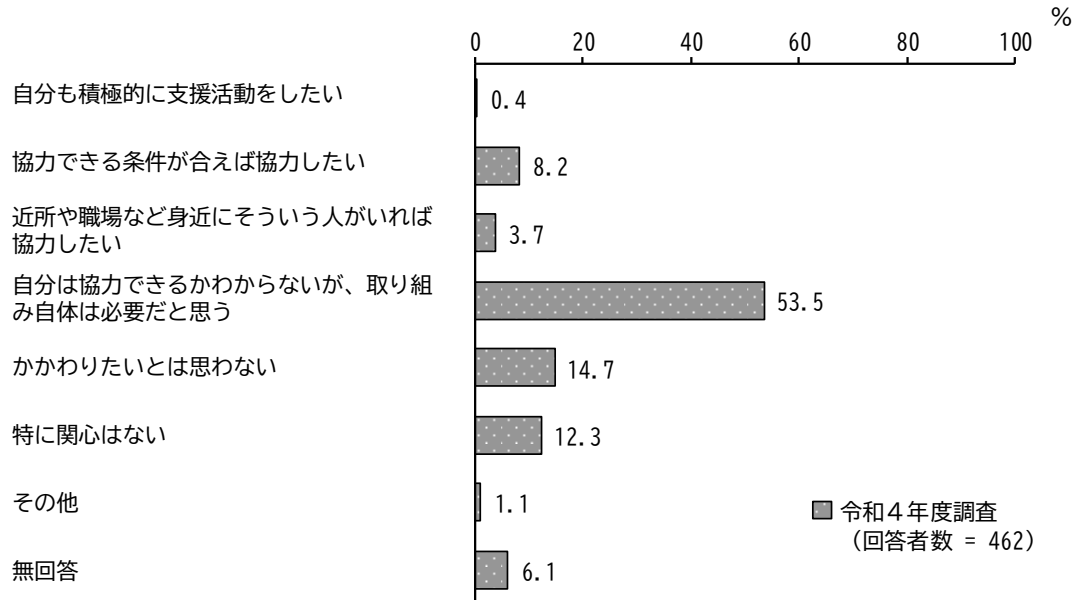
年齢別にみると、他に比べ、20～29 歳で「名前は聞いたことはあるが内容はわからない」の割合が、30～39 歳・50～59 歳で「名前も内容も知らない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	名前も 内容も 知っ ている	名前は 聞いた こと はあ るが 内容 はわ から ない	名前も 内容も 知ら ない	無回 答
全 体	462	5.6	36.8	53.9	3.7
20～29 歳	23	8.7	43.5	47.8	—
30～39 歳	39	5.1	33.3	61.5	—
40～49 歳	64	6.3	34.4	59.4	—
50～59 歳	64	9.4	29.7	60.9	—
60～69 歳	73	1.4	42.5	53.4	2.7
70～79 歳	124	5.6	37.1	53.2	4.0
80 歳以上	74	5.4	39.2	43.2	12.2

問 34 刑務所や少年院を出た人の円滑な社会復帰への支援について、どう思いますか。
(1つに○)

「自分は協力できるかわからないが、取り組み自体は必要だと思う」の割合が 53.5%と最も高く、次いで「かかわりたいとは思わない」の割合が 14.7%、「特に関心はない」の割合が 12.3%となっています。



【年齢別】

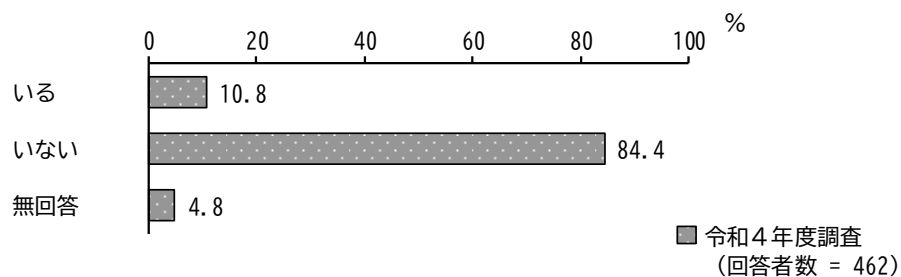
年齢別にみると、他に比べ、20～29歳・30～39歳で「かかわりたいとは思わない」の割合が、70～79歳で「自分は協力できるかわからないが、取り組み自体は必要だと思う」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	自分も積極的に支援活動をした	協力できる条件が合えば協力したい	近所や職場など身近にそういう人がいれば協力したい	自分は協力できるかわからないが、取り組み自体は必要だと思う	かかわりたいとは思わない	特に関心はない	その他	無回答
全体	462	0.4	8.2	3.7	53.5	14.7	12.3	1.1	6.1
20～29歳	23	—	4.3	—	52.2	26.1	8.7	—	8.7
30～39歳	39	5.1	5.1	15.4	23.1	28.2	23.1	—	—
40～49歳	64	—	12.5	6.3	50.0	17.2	7.8	1.6	4.7
50～59歳	64	—	10.9	3.1	50.0	21.9	9.4	3.1	1.6
60～69歳	73	—	5.5	2.7	60.3	13.7	13.7	1.4	2.7
70～79歳	124	—	7.3	2.4	65.3	8.9	9.7	0.8	5.6
80歳以上	74	—	9.5	—	50.0	6.8	17.6	—	16.2

問 35 あなたの家族、知人・友人でひきこもりで悩んでいる人はいますか。
(1つに○)

「いる」の割合が10.8%、「いない」の割合が84.4%となっています。



【年齢別】

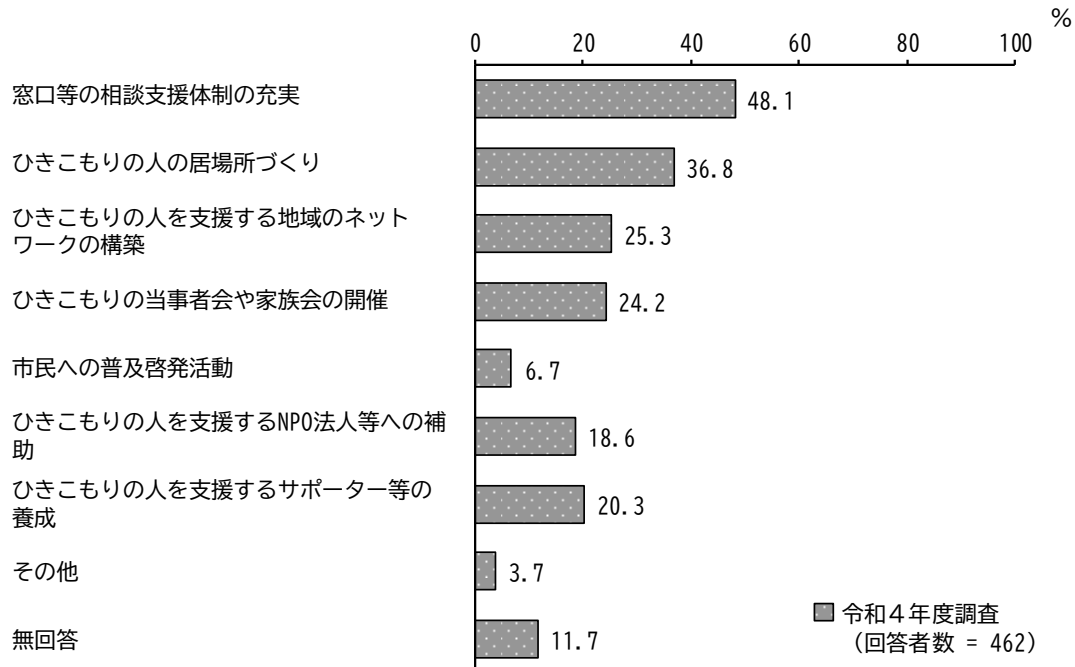
年齢別にみると、他に比べ、50～59歳で「いる」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	いる	いない	無回答
全 体	462	10.8	84.4	4.8
20～29 歳	23	13.0	87.0	—
30～39 歳	39	7.7	92.3	—
40～49 歳	64	12.5	87.5	—
50～59 歳	64	14.1	84.4	1.6
60～69 歳	73	13.7	84.9	1.4
70～79 歳	124	11.3	83.1	5.6
80 歳以上	74	4.1	79.7	16.2

問 36 ひきこもりの人やその家族を支援するためには、どのような施策が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

「窓口等の相談支援体制の充実」の割合が48.1%と最も高く、次いで「ひきこもりの人の居場所づくり」の割合が36.8%、「ひきこもりの人を支援する地域のネットワークの構築」の割合が25.3%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20～29歳、60～69歳で「ひきこもりの人の居場所づくり」の割合が、60～69歳で「ひきこもりの人を支援する地域のネットワークの構築」の割合が高くなっています。

単位：%

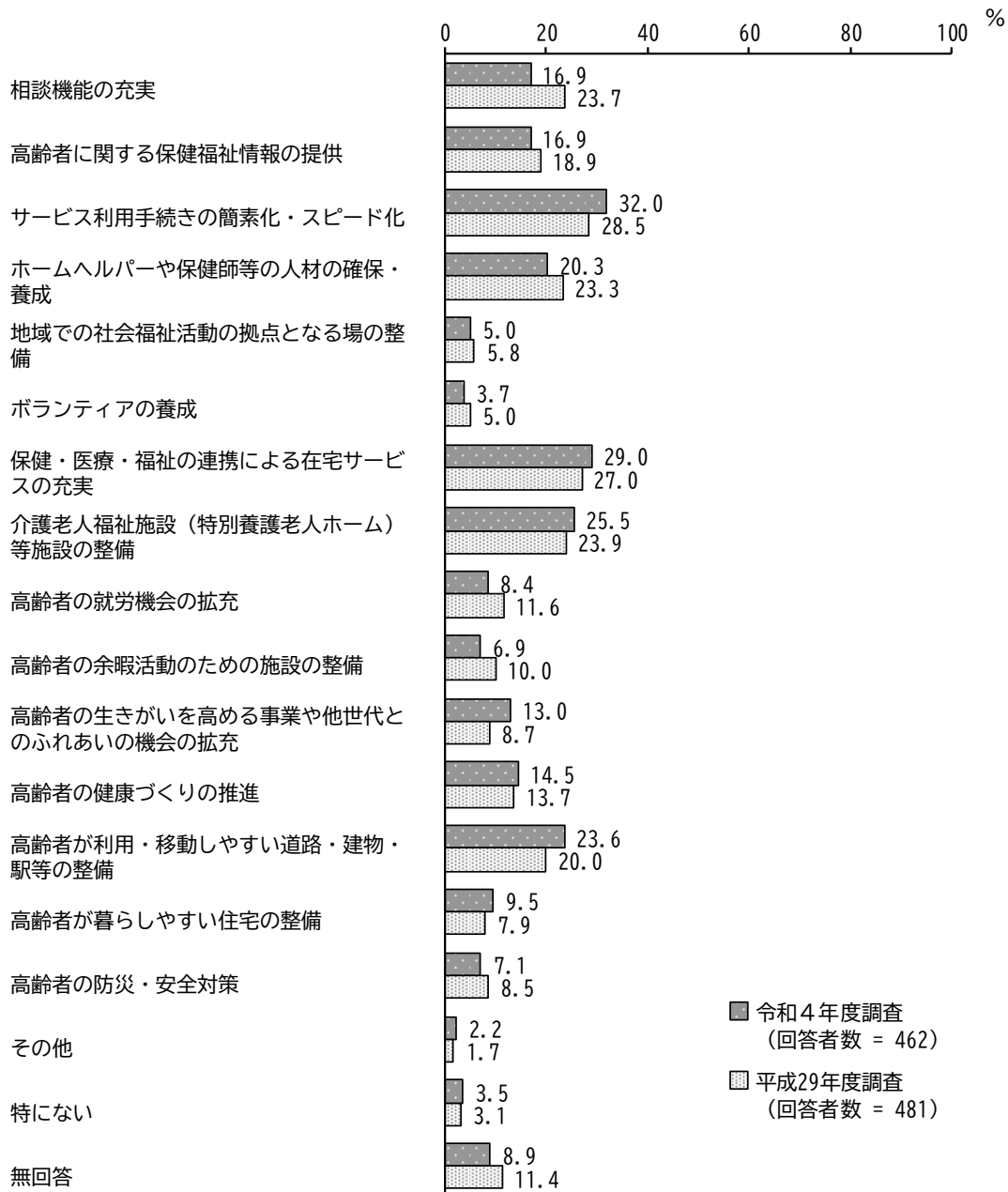
区分	回答者数(件)	窓口等の相談支援体制の充実	居場所づくり	ひきこもりの人を支援する地域のネットワークの構築	ひきこもりの当事者会や家族会の開催	市民への普及啓発活動	ひきこもりの人を支援するNPO法人等への補助	ひきこもりの人を支援するサポーター等の養成	その他	無回答
全体	462	48.1	36.8	25.3	24.2	6.7	18.6	20.3	3.7	11.7
20～29歳	23	30.4	60.9	26.1	17.4	8.7	17.4	30.4	8.7	13.0
30～39歳	39	43.6	48.7	23.1	23.1	5.1	17.9	7.7	2.6	5.1
40～49歳	64	37.5	40.6	18.8	29.7	3.1	21.9	18.8	6.3	10.9
50～59歳	64	51.6	40.6	26.6	29.7	3.1	18.8	14.1	4.7	10.9
60～69歳	73	54.8	49.3	38.4	26.0	8.2	21.9	21.9	4.1	1.4
70～79歳	124	52.4	29.8	21.8	21.8	9.7	16.9	26.6	0.8	13.7
80歳以上	74	48.6	16.2	24.3	20.3	6.8	16.2	18.9	4.1	21.6

(6) 今後の福祉の方向について

問37 高齢者の住みよいまちをつくるために必要と思われることはどのようなことですか。(〇は3つまで)

「サービス利用手続きの簡素化・スピード化」の割合が32.0%と最も高く、次いで「保健・医療・福祉の連携による在宅サービスの充実」の割合が29.0%、「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）等施設の整備」の割合が25.5%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「相談機能の充実」の割合が減少しています。



【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20～29歳で「高齢者の生きがいを高める事業や他世代とのふれあいの機会の拡充」の割合が、30～39歳で「高齢者の健康づくりの推進」の割合が、40～49歳で「高齢者が利用・移動しやすい道路・建物・駅等の整備」の割合が高くなっています。

単位：％

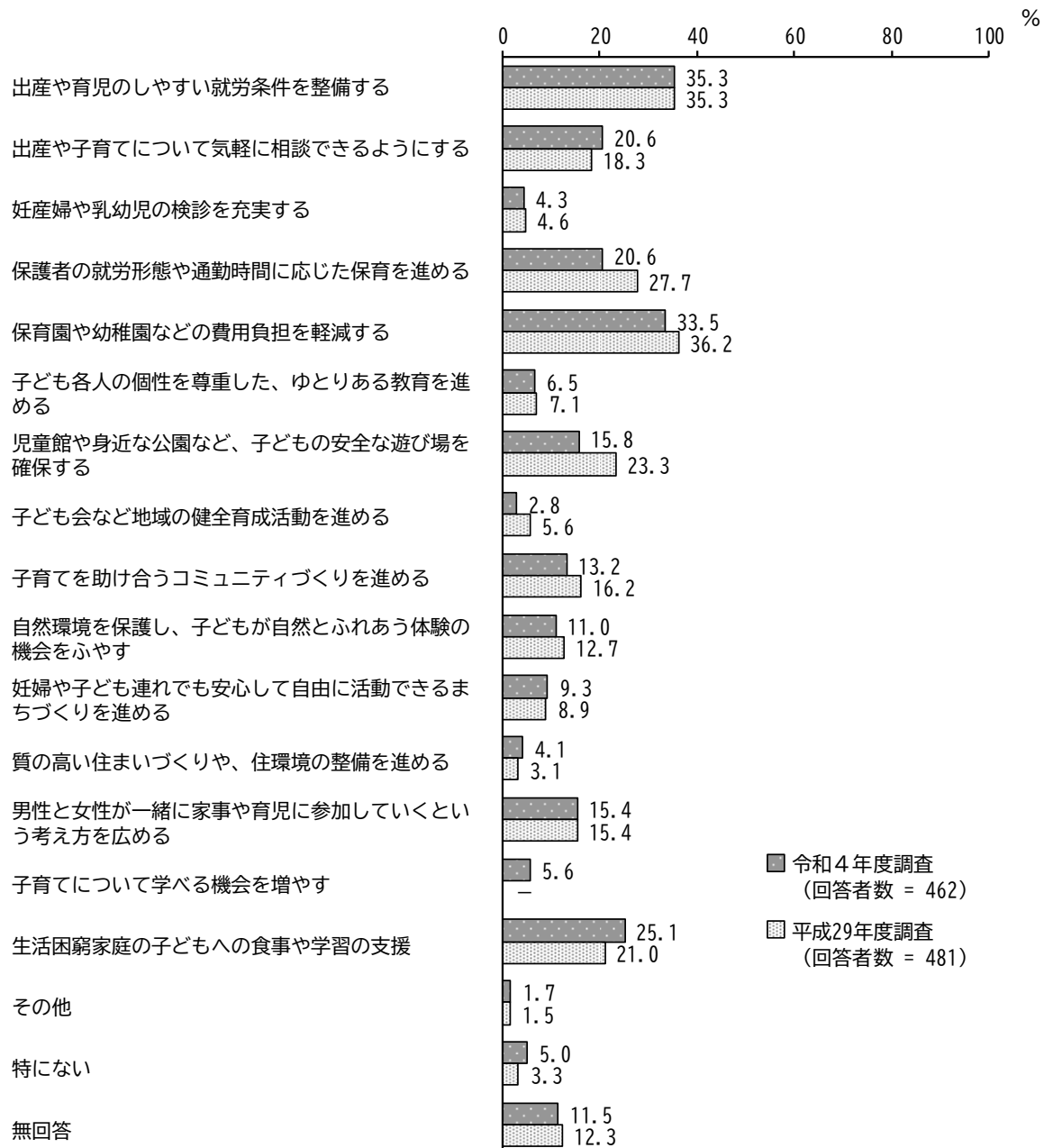
区分	回答者数(件)	相談機能の充実	高齢者に関する保健福祉情報 の提供	サービス利用手続きの簡素 化・スピード化	ホームヘルパーや保健師等 の人材の確保・養成	地域での社会福祉活動の拠 点となる場の整備	ボランティアの養成	保健・医療・福祉の連携によ る在宅サービスの充実	介護老人福祉施設(特別養護 老人ホーム)等施設の整備	高齢者の就労機会の拡充
全 体	462	16.9	16.9	32.0	20.3	5.0	3.7	29.0	25.5	8.4
20～29歳	23	8.7	8.7	30.4	13.0	—	4.3	26.1	4.3	4.3
30～39歳	39	17.9	15.4	28.2	23.1	2.6	—	25.6	20.5	10.3
40～49歳	64	20.3	15.6	39.1	18.8	1.6	1.6	37.5	25.0	12.5
50～59歳	64	14.1	20.3	34.4	23.4	3.1	4.7	28.1	21.9	6.3
60～69歳	73	17.8	17.8	37.0	24.7	2.7	5.5	27.4	30.1	16.4
70～79歳	124	16.9	17.7	37.1	21.8	8.9	4.0	30.6	29.0	8.1
80歳以上	74	17.6	16.2	13.5	13.5	8.1	4.1	24.3	28.4	—

区分	高齢者の余暇活動のための 施設の整備	高齢者の生きがいを高める 事業や他世代とのふれあ いの機会の拡充	高齢者の健康づくりの推進	高齢者が利用・移動しやすい 道路・建物・駅等の整備	高齢者が暮らしやすい住宅 の整備	高齢者の防災・安全対策	その他	特 に ない	無 回 答
全 体	6.9	13.0	14.5	23.6	9.5	7.1	2.2	3.5	8.9
20～29歳	13.0	30.4	21.7	30.4	13.0	8.7	4.3	4.3	13.0
30～39歳	10.3	20.5	23.1	30.8	17.9	7.7	5.1	—	2.6
40～49歳	1.6	3.1	14.1	32.8	4.7	9.4	4.7	4.7	7.8
50～59歳	1.6	17.2	12.5	21.9	12.5	9.4	—	—	14.1
60～69歳	8.2	15.1	9.6	23.3	9.6	9.6	1.4	—	5.5
70～79歳	9.7	8.1	16.9	21.8	7.3	2.4	1.6	4.8	4.0
80歳以上	6.8	14.9	10.8	14.9	9.5	8.1	1.4	8.1	17.6

問 38 子どもを健やかに生み育てるために必要と思われることはどのようなことですか。(〇は3つまで)

「出産や育児のしやすい就労条件を整備する」の割合が35.3%と最も高く、次いで「保育園や幼稚園などの費用負担を軽減する」の割合が33.5%、「生活困窮家庭の子どもへの食事や学習の支援」の割合が25.1%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「保護者の就労形態や通勤時間に応じた保育を進める」「児童館や身近な公園など、子どもの安全な遊び場を確保する」の割合が減少しています。



※平成29年度調査では「子育てについて学べる機会を増やす」の選択肢はありませんでした。

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20～29歳で「保育園や幼稚園などの費用負担を軽減する」の割合が、30～39歳・50～59歳で「保護者の就労形態や通勤時間に応じた保育を進める」の割合が高くなっています。

単位：％

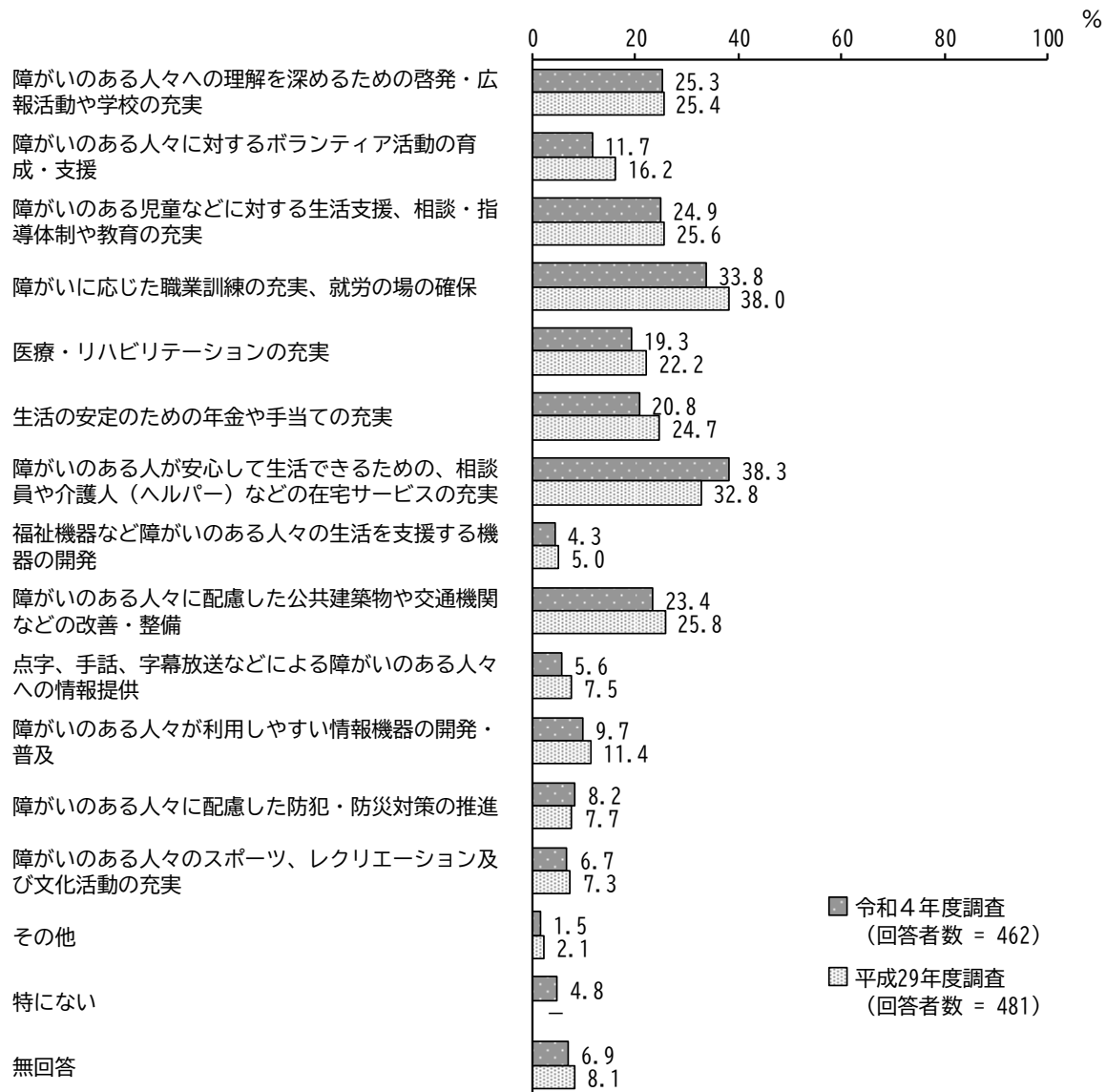
区分	回答者数(件)	出産や育児のしやすい就労条件を整備する	出産や子育てについて気軽に相談できるようにする	妊産婦や乳幼児の検診を充実する	保護者の就労形態や通勤時間に応じた保育を進める	保育園や幼稚園などの費用負担を軽減する	子ども各人の個性を尊重した、ゆとりある教育を進める	児童館や身近な公園など、子どもの安全な遊び場を確保する	子ども会など地域の健全育成活動を進める	子育てを助け合うコミュニティづくりを進める
全体	462	35.3	20.6	4.3	20.6	33.5	6.5	15.8	2.8	13.2
20～29歳	23	47.8	21.7	—	8.7	60.9	8.7	8.7	—	13.0
30～39歳	39	33.3	15.4	7.7	33.3	35.9	2.6	23.1	2.6	15.4
40～49歳	64	45.3	15.6	6.3	29.7	28.1	9.4	17.2	3.1	9.4
50～59歳	64	34.4	21.9	3.1	34.4	28.1	4.7	7.8	3.1	9.4
60～69歳	73	34.2	20.5	—	19.2	39.7	4.1	19.2	2.7	17.8
70～79歳	124	38.7	22.6	5.6	16.1	34.7	6.5	16.1	3.2	14.5
80歳以上	74	20.3	23.0	5.4	6.8	25.7	9.5	16.2	2.7	12.2

区分	自然環境を保護し、子どもが自然とふれあう体験の機会をふやす	妊婦や子ども連れでも安心して自由に活動できるまちづくりを進める	質の高い住まいづくりや、住環境の整備を進める	男性と女性が一緒に家事や育児に参加していくという考え方を広める	子育てについて学べる機会を増やす	生活困窮家庭の子どもへの食生活や学習の支援	その他	特にない	無回答
全体	11.0	9.3	4.1	15.4	5.6	25.1	1.7	5.0	11.5
20～29歳	8.7	8.7	13.0	17.4	4.3	17.4	—	—	13.0
30～39歳	7.7	2.6	5.1	25.6	12.8	17.9	5.1	2.6	5.1
40～49歳	3.1	9.4	1.6	21.9	4.7	32.8	4.7	4.7	4.7
50～59歳	10.9	7.8	4.7	4.7	3.1	37.5	1.6	7.8	12.5
60～69歳	11.0	16.4	4.1	11.0	2.7	27.4	—	2.7	11.0
70～79歳	14.5	8.9	4.8	15.3	8.1	25.0	1.6	5.6	7.3
80歳以上	14.9	8.1	1.4	17.6	4.1	12.2	—	6.8	25.7

問 39 障がい者の住みよいまちをつくるために必要と思われることはどのようなことですか。(〇は3つまで)

「障がいのある人が安心して生活できるための、相談員や介護人（ヘルパー）などの在宅サービスの充実」の割合が 38.3%と最も高く、次いで「障がいに応じた職業訓練の充実、就労の場の確保」の割合が 33.8%、「障がいのある人々への理解を深めるための啓発・広報活動や学校の充実」の割合が 25.3%となっています。

平成 29 年度調査と比較すると、「障がいのある人が安心して生活できるための、相談員や介護人（ヘルパー）などの在宅サービスの充実」の割合が増加しています。



※平成 29 年度調査では「特になし」の選択肢はありませんでした。

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20～29歳で「障がいのある人々に配慮した公共建築物や交通機関などの改善・整備」の割合が、30～39歳で「障がいのある人々への理解を深めるための啓発・広報活動や学校の充実」の割合が、80歳以上で「障がいのある人々に対するボランティア活動の育成・支援」の割合が高くなっています。

単位：%

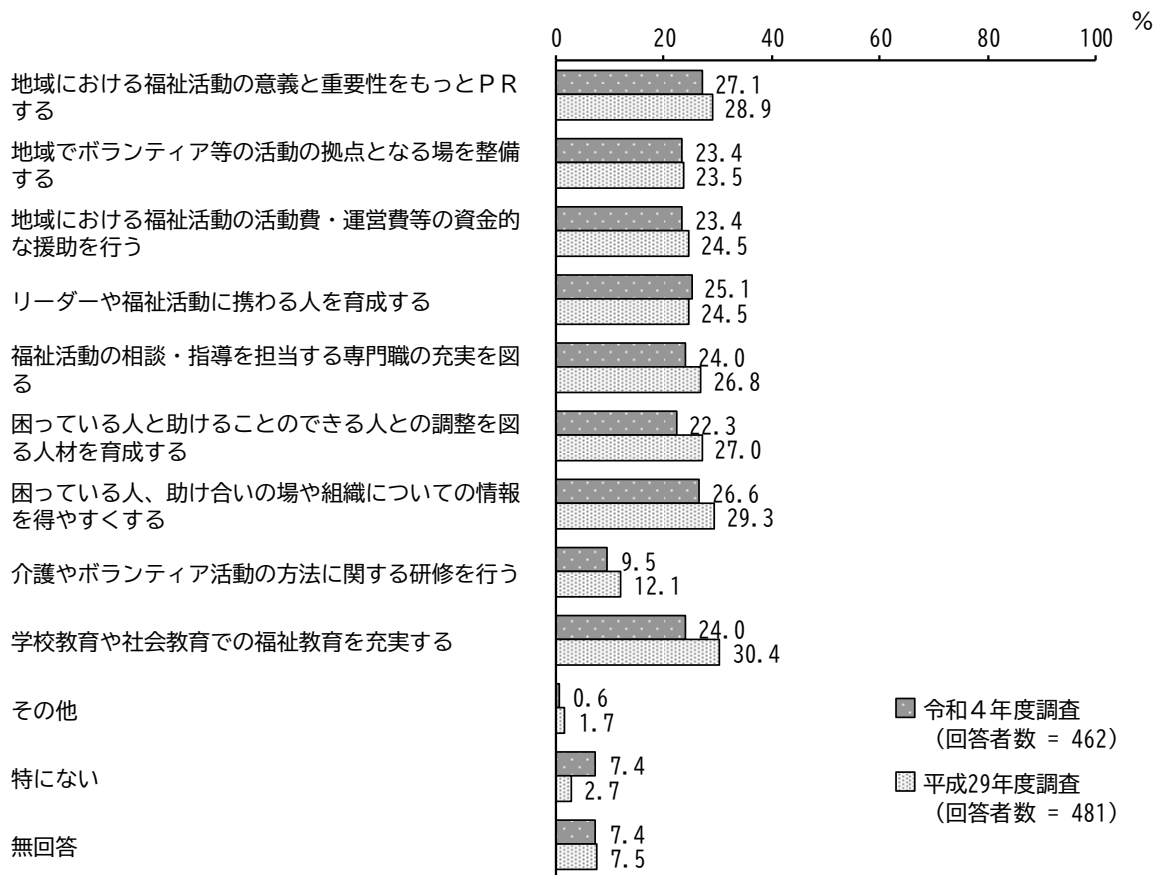
区分	回答者数(件)	障がいのある人々への理解を深めるための啓発・広報活動や学校の充実	障がいのある人々に対するボランティア活動の育成・支援	障がいのある児童などに対する生活支援、相談・指導体制や教育の充実	障がいに応じた職業訓練の充実、就労の場の確保	医療・リハビリテーションの充実	生活の安定のための年金や手当ての充実	障がいのある人が安心して生活できるための、相談員や介護人(ヘルパー)などの在宅サービスの充実	福祉機器など障がいのある人々の生活を支援する機器の開発
全 体	462	25.3	11.7	24.9	33.8	19.3	20.8	38.3	4.3
20～29歳	23	26.1	8.7	13.0	17.4	13.0	21.7	30.4	4.3
30～39歳	39	46.2	2.6	20.5	25.6	23.1	15.4	28.2	7.7
40～49歳	64	25.0	10.9	34.4	34.4	14.1	15.6	40.6	3.1
50～59歳	64	17.2	10.9	26.6	42.2	25.0	25.0	39.1	1.6
60～69歳	73	24.7	5.5	24.7	41.1	20.5	24.7	41.1	2.7
70～79歳	124	24.2	12.9	27.4	36.3	19.4	25.0	45.2	7.3
80歳以上	74	24.3	23.0	17.6	24.3	17.6	13.5	29.7	2.7

区分	障がいのある人々に配慮した公共建築物や交通機関などの改善・整備	点字、手話、字幕放送などによる障がいのある人々への情報提供	障がいのある人々が利用しやすい情報機器の開発・普及	障がいのある人々に配慮した防犯・防災対策の推進	障がいのある人々のスポーツ、レクリエーション及び文化活動の充実	その他	特にない	無回答
全 体	23.4	5.6	9.7	8.2	6.7	1.5	4.8	6.9
20～29歳	39.1	26.1	8.7	8.7	—	8.7	—	13.0
30～39歳	28.2	10.3	25.6	7.7	5.1	2.6	—	5.1
40～49歳	23.4	10.9	10.9	10.9	7.8	1.6	4.7	—
50～59歳	12.5	3.1	6.3	6.3	4.7	3.1	7.8	7.8
60～69歳	32.9	1.4	12.3	8.2	2.7	—	2.7	6.8
70～79歳	18.5	3.2	8.1	8.1	10.5	—	4.0	4.8
80歳以上	24.3	2.7	4.1	8.1	8.1	1.4	9.5	13.5

問 40 地域における助け合いを活発にするために必要と思われることはどのようなことですか。(〇は3つまで)

「地域における福祉活動の意義と重要性をもっとPRする」の割合が27.1%と最も高く、次いで「困っている人、助け合いの場や組織についての情報を得やすくする」の割合が26.6%、「リーダーや福祉活動に携わる人を育成する」の割合が25.1%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「学校教育や社会教育での福祉教育を充実する」の割合が減少しています。



【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、40～49歳で「学校教育や社会教育での福祉教育を充実する」の割合が、30～39歳で「福祉活動の相談・指導を担当する専門職の充実を図る」の割合が、70～79歳で「地域における福祉活動の意義と重要性をもっとPRする」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	地域における福祉活動の意義と重要性をもっとPRする	地域でボランティア等の活動の拠点となる場を整備する	地域における福祉活動の活動費・運営費等の資金的な援助を行う	リーダーや福祉活動に携わる人を育成する	福祉活動の相談・指導を担当する専門職の充実を図る	困っている人と助けることのできる人との調整を図る人材を育成する
全体	462	27.1	23.4	23.4	25.1	24.0	22.3
20～29歳	23	26.1	21.7	13.0	21.7	8.7	26.1
30～39歳	39	28.2	25.6	20.5	15.4	30.8	15.4
40～49歳	64	15.6	23.4	25.0	14.1	21.9	14.1
50～59歳	64	18.8	17.2	21.9	26.6	25.0	21.9
60～69歳	73	28.8	23.3	27.4	26.0	27.4	28.8
70～79歳	124	35.5	26.6	25.0	29.8	24.2	27.4
80歳以上	74	28.4	23.0	21.6	31.1	23.0	17.6

区分	困っている人、助け合いの場や組織についての情報を得やすくする	介護やボランティア活動の方法に関する研修を行う	学校教育や社会教育での福祉教育を充実する	その他	特にない	無回答
全体	26.6	9.5	24.0	0.6	7.4	7.4
20～29歳	26.1	17.4	30.4	4.3	—	8.7
30～39歳	30.8	7.7	25.6	2.6	7.7	5.1
40～49歳	29.7	10.9	43.8	1.6	9.4	1.6
50～59歳	26.6	9.4	12.5	—	14.1	7.8
60～69歳	30.1	8.2	27.4	—	6.8	2.7
70～79歳	27.4	8.1	21.8	—	4.0	6.5
80歳以上	17.6	10.8	14.9	—	8.1	17.6

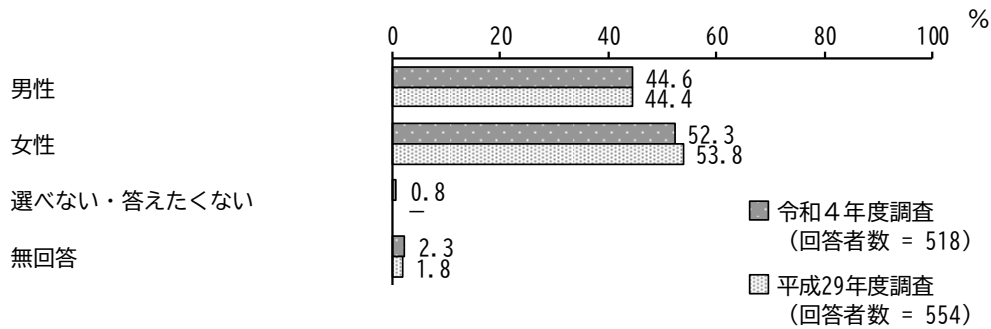
3 保健医療

(1) 回答者属性

問1 あなたの性別は。(1つに○)

「男性」の割合が44.6%、「女性」の割合が52.3%、「選べない・答えたくない」の割合が0.8%となっています。

平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

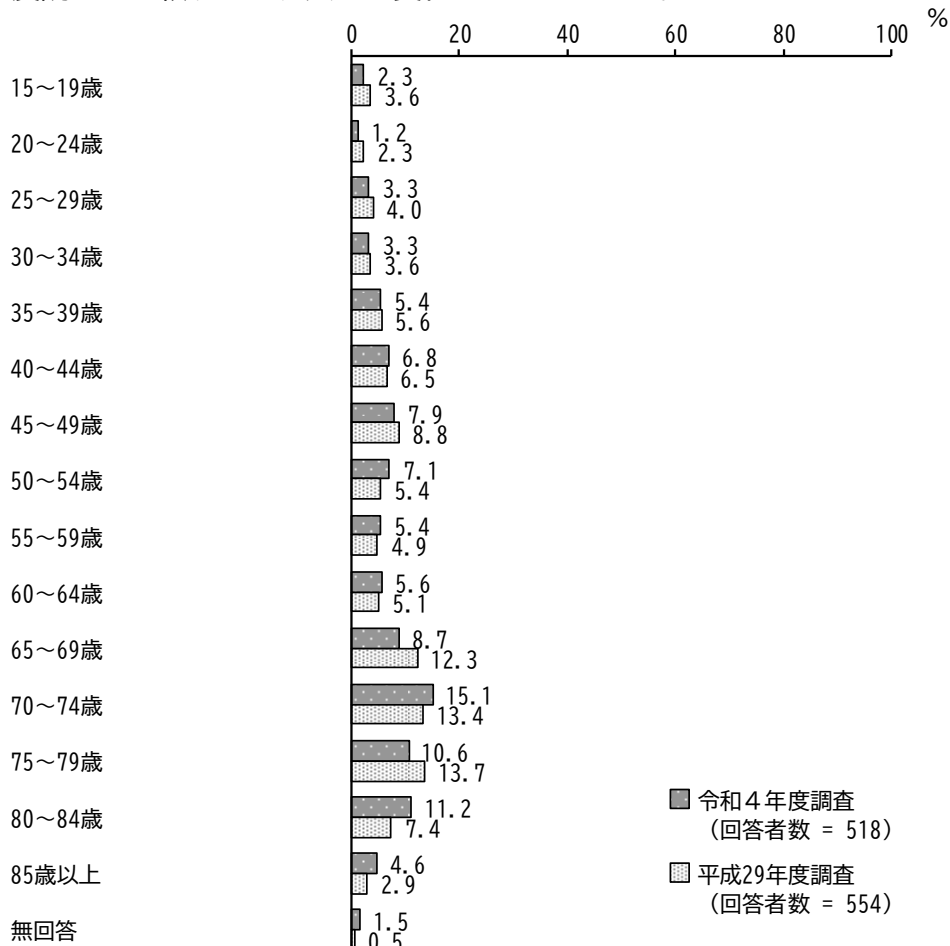


※平成29年度調査では「選べない・答えたくない」の選択肢はありませんでした。

問2 あなたの年齢は。(1つに○)

「70～74歳」の割合が15.1%と最も高く、次いで「80～84歳」の割合が11.2%、「75～79歳」の割合が10.6%となっています。

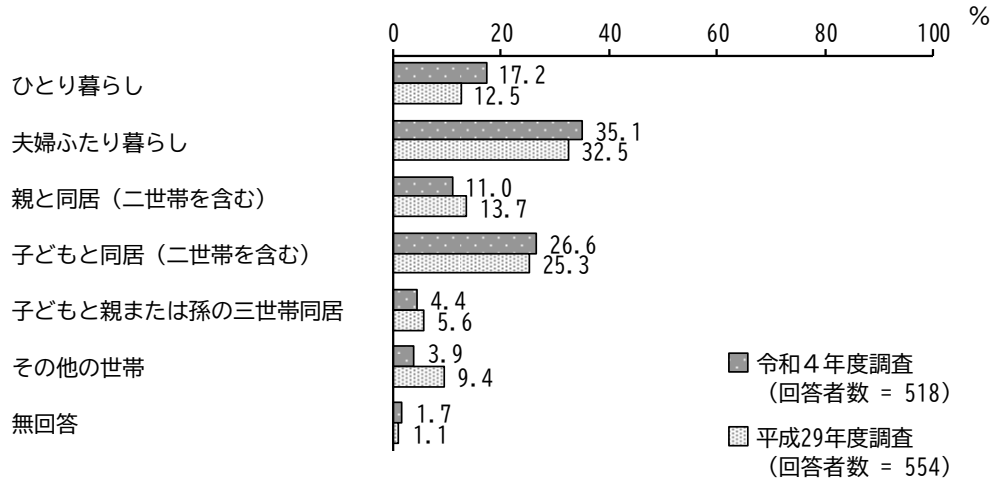
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問3 あなたの世帯構成は。(1つに○)

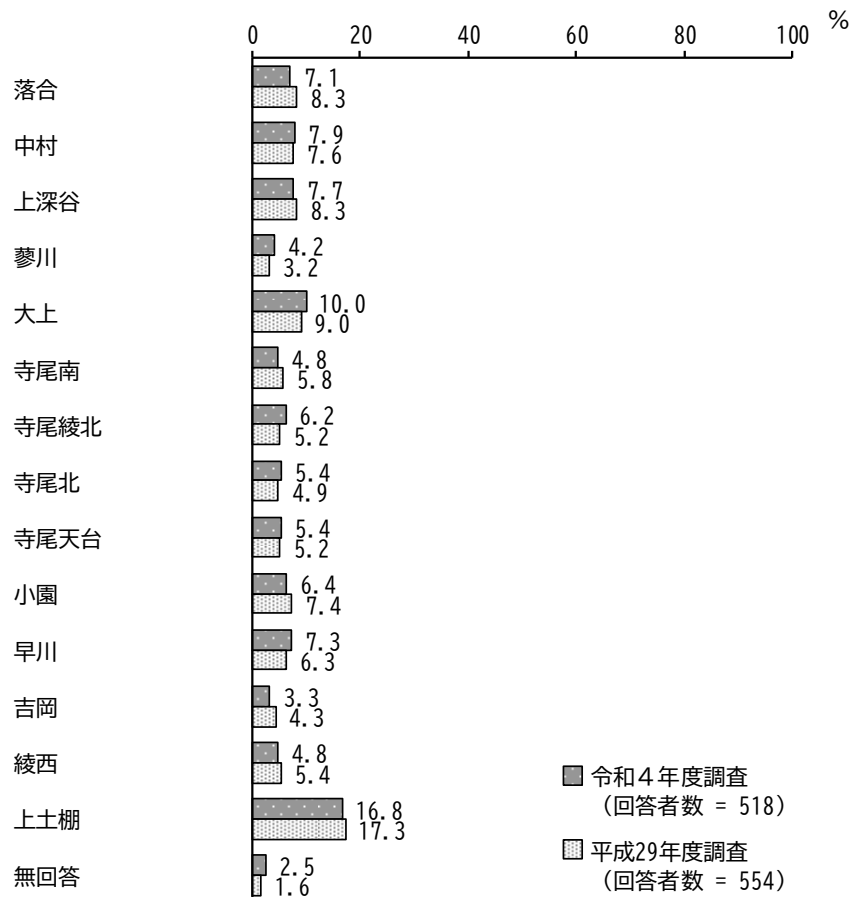
「夫婦ふたり暮らし」の割合が35.1%と最も高く、次いで「子どもと同居（二世帯を含む）」の割合が26.6%、「ひとり暮らし」の割合が17.2%となっています。

平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問4 あなたがお住まいになっている地域はこの自治会区分ですか。(1つに○)

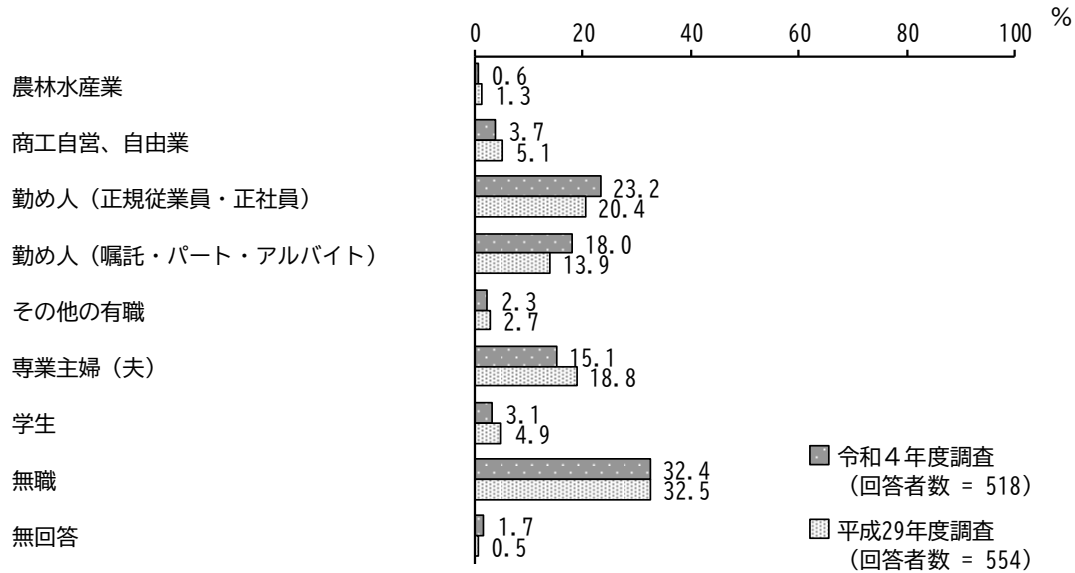
「上土棚」の割合が16.8%と最も高く、次いで「大上」の割合が10.0%となっています。平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問5 あなたの職業は、次のどれですか。(1つに○)

「無職」の割合が32.4%と最も高く、次いで「勤め人(正規従業員・正社員)」の割合が23.2%、「勤め人(嘱託・パート・アルバイト)」の割合が18.0%となっています。

平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

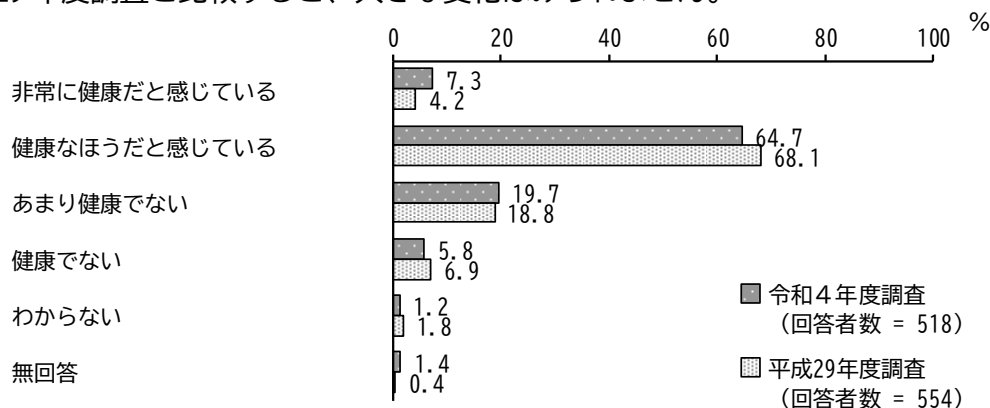


(2) 健康管理や健康観について

問6 あなたは、ふだん健康だと感じていますか。(1つに○)

「健康なほうだと感じている」の割合が64.7%と最も高く、次いで「あまり健康でない」の割合が19.7%となっています。

平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【年齢別】

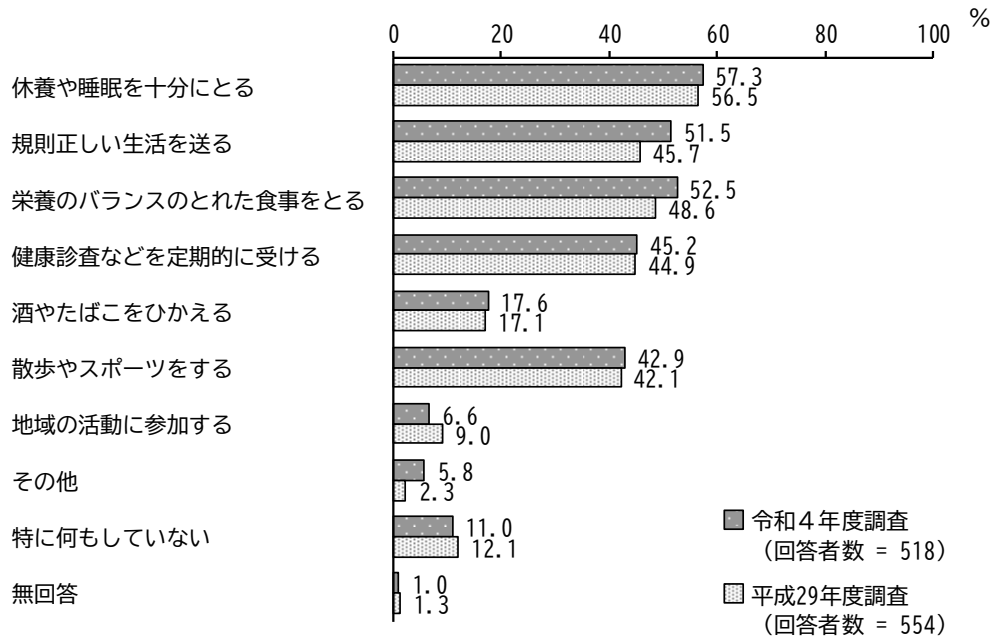
年齢別にみると、他に比べ、30～34歳で「健康なほうだと感じている」の割合が、55～59歳で「あまり健康でない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	非常に健康だと感じている	健康なほうだと感じている	あまり健康でない	健康でない	わからない	無回答
全体	518	7.3	64.7	19.7	5.8	1.2	1.4
15～19歳	12	41.7	58.3	—	—	—	—
20～24歳	6	—	50.0	33.3	16.7	—	—
25～29歳	17	35.3	52.9	5.9	5.9	—	—
30～34歳	17	11.8	76.5	11.8	—	—	—
35～39歳	28	10.7	71.4	10.7	7.1	—	—
40～44歳	35	—	65.7	28.6	2.9	2.9	—
45～49歳	41	9.8	68.3	12.2	7.3	2.4	—
50～54歳	37	8.1	67.6	18.9	5.4	—	—
55～59歳	28	14.3	39.3	42.9	3.6	—	—
60～64歳	29	—	69.0	24.1	3.4	3.4	—
65～69歳	45	4.4	62.2	24.4	6.7	2.2	—
70～74歳	78	3.8	73.1	17.9	3.8	1.3	—
75～79歳	55	3.6	67.3	16.4	9.1	1.8	1.8
80～84歳	58	3.4	62.1	27.6	6.9	—	—
85歳以上	24	8.3	62.5	12.5	12.5	—	4.2

問7 あなたは現在、自分の健康の維持・増進のために、何か心がけていることがありますか。(あてはまるものすべてに○)

「休養や睡眠を十分にとる」の割合が57.3%と最も高く、次いで「栄養のバランスのとれた食事をとる」の割合が52.5%、「規則正しい生活を送る」の割合が51.5%となっています。
平成29年度調査と比較すると、「規則正しい生活を送る」の割合が増加しています。



【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、15～19歳で「散歩やスポーツをする」「休養や睡眠を十分にとる」の割合が高くなっています。

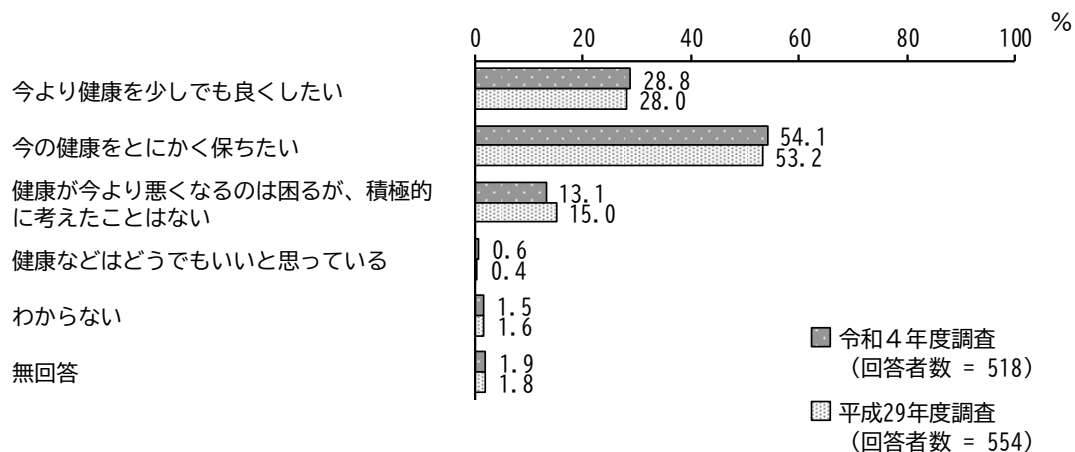
単位：%

区分	回答者数(件)	休養や睡眠を十分にとる	規則正しい生活を送る	栄養のバランスのとれた食事をとる	健康診査などを定期的に受ける	酒やたばこをひかえる	散歩やスポーツをする	地域の活動に参加する	その他	特に何もしていない	無回答
全体	518	57.3	51.5	52.5	45.2	17.6	42.9	6.6	5.8	11.0	1.0
15～19歳	12	75.0	41.7	41.7	—	16.7	66.7	16.7	—	8.3	—
20～24歳	6	66.7	50.0	50.0	—	50.0	50.0	—	—	16.7	—
25～29歳	17	41.2	41.2	35.3	17.6	29.4	35.3	—	11.8	17.6	—
30～34歳	17	52.9	52.9	41.2	29.4	11.8	35.3	—	11.8	17.6	—
35～39歳	28	50.0	25.0	46.4	32.1	28.6	21.4	—	—	14.3	—
40～44歳	35	51.4	37.1	42.9	40.0	25.7	20.0	—	2.9	22.9	—
45～49歳	41	51.2	39.0	48.8	36.6	22.0	36.6	—	2.4	9.8	—
50～54歳	37	56.8	43.2	51.4	43.2	10.8	40.5	—	—	18.9	—
55～59歳	28	35.7	42.9	53.6	50.0	7.1	39.3	—	10.7	14.3	—
60～64歳	29	65.5	55.2	55.2	58.6	24.1	58.6	3.4	3.4	3.4	—
65～69歳	45	55.6	66.7	55.6	60.0	8.9	51.1	4.4	2.2	8.9	—
70～74歳	78	71.8	64.1	60.3	56.4	15.4	55.1	14.1	5.1	3.8	1.3
75～79歳	55	58.2	56.4	61.8	50.9	27.3	49.1	14.5	10.9	12.7	1.8
80～84歳	58	60.3	63.8	60.3	50.0	10.3	43.1	12.1	8.6	5.2	—
85歳以上	24	62.5	58.3	41.7	45.8	8.3	33.3	8.3	16.7	16.7	—

問8 自分の健康についてどのようにしたいと思いますか。(1つに○)

「今の健康をとにかく保ちたい」の割合が54.1%と最も高く、次いで「今より健康を少しでも良くしたい」の割合が28.8%、「健康が今より悪くなるのは困るが、積極的に考えたことはない」の割合が13.1%となっています。

平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、70～74歳で「今の健康をとにかく保ちたい」の割合が高くなっています。

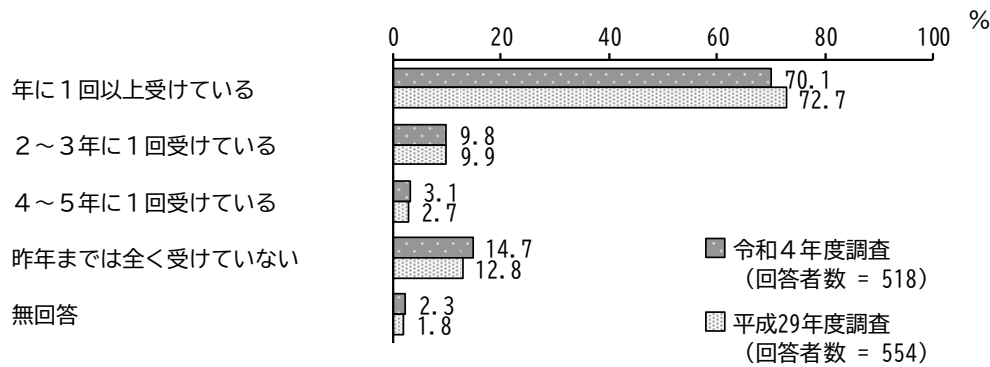
単位：%

区分	回答者数(件)	今より健康を少しでも良くしたい	今の健康をとにかく保ちたい	健康が今より悪くなるのは困るが、積極的に考えたことはない	健康などはどうでもいいと思ってい	わからない	無回答
全 体	518	28.8	54.1	13.1	0.6	1.5	1.9
15～19 歳	12	50.0	41.7	8.3	—	—	—
20～24 歳	6	66.7	16.7	—	16.7	—	—
25～29 歳	17	52.9	17.6	23.5	—	5.9	—
30～34 歳	17	41.2	29.4	29.4	—	—	—
35～39 歳	28	39.3	39.3	14.3	3.6	3.6	—
40～44 歳	35	45.7	37.1	14.3	—	—	2.9
45～49 歳	41	39.0	41.5	19.5	—	—	—
50～54 歳	37	32.4	48.6	18.9	—	—	—
55～59 歳	28	28.6	53.6	10.7	—	—	7.1
60～64 歳	29	34.5	51.7	10.3	—	—	3.4
65～69 歳	45	15.6	68.9	15.6	—	—	—
70～74 歳	78	17.9	71.8	6.4	1.3	2.6	—
75～79 歳	55	18.2	65.5	12.7	—	1.8	1.8
80～84 歳	58	20.7	65.5	8.6	—	1.7	3.4
85 歳以上	24	16.7	62.5	12.5	—	8.3	—

問9 昨年までに健康診断（市の基本健康診査に限りません）をどのくらいの頻度で受けていますか。（1つに○）

「年に1回以上受けている」の割合が70.1%と最も高く、次いで「昨年までは全く受けていない」の割合が14.7%となっています。

平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【健康についての考え方別】

健康についての考え方別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数(件)	年に1回以上受けている	2～3年に1回受けている	4～5年に1回受けている	昨年までは全く受けていない	無回答
全体	518	70.1	9.8	3.1	14.7	2.3
今より健康を少しでも良くしたい	149	74.5	10.1	1.3	12.1	2.0
今の健康をとにかく保ちたい	280	71.8	9.3	3.2	14.3	1.4
健康が今より悪くなるのは困るが、積極的に考えたことはない	68	66.2	11.8	4.4	17.6	—
健康などはどうでもいいと思っている	3	33.3	33.3	—	33.3	—
わからない	8	12.5	12.5	25.0	50.0	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、45～49歳で「年に1回以上受けている」の割合が高くなっています。

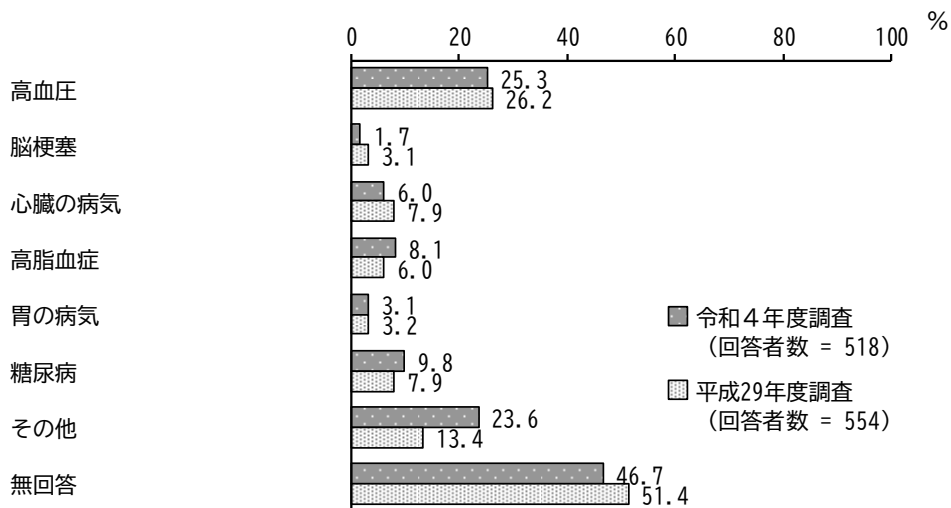
単位：%

区分	回答者数(件)	年に1回以上受けている	2～3年に1回受けている	4～5年に1回受けている	昨年までは全く受けていない	無回答
全体	518	70.1	9.8	3.1	14.7	2.3
15～19歳	12	33.3	8.3	—	58.3	—
20～24歳	6	83.3	—	—	16.7	—
25～29歳	17	76.5	5.9	—	17.6	—
30～34歳	17	70.6	11.8	5.9	11.8	—
35～39歳	28	57.1	17.9	7.1	17.9	—
40～44歳	35	74.3	8.6	5.7	11.4	—
45～49歳	41	90.2	7.3	—	2.4	—
50～54歳	37	78.4	8.1	2.7	10.8	—
55～59歳	28	78.6	10.7	3.6	3.6	3.6
60～64歳	29	65.5	13.8	6.9	13.8	—
65～69歳	45	73.3	6.7	—	15.6	4.4
70～74歳	78	65.4	10.3	6.4	16.7	1.3
75～79歳	55	72.7	9.1	3.6	10.9	3.6
80～84歳	58	69.0	12.1	—	13.8	5.2
85歳以上	24	54.2	12.5	—	33.3	—

問 10 現在、治療中の病気がありますか。(あてはまるものすべてに○)

「高血圧」の割合が 25.3%と最も高くなっています。

平成 29 年度調査と比較すると、「その他」の割合が増加しています。「その他」の回答をみると、「リウマチ」や「緑内障」の回答数が増加しています。



【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、55歳以上で「高血圧」の割合が高くなっています。

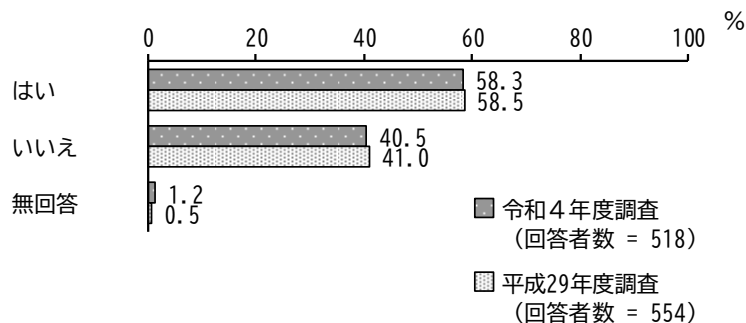
単位：％

区分	回答者数 (件)	高血圧	脳梗塞	心臓の病気	高脂血症	胃の病気	糖尿病	その他	無回答
全 体	518	25.3	1.7	6.0	8.1	3.1	9.8	23.6	46.7
15～19歳	12	—	—	—	—	—	—	16.7	83.3
20～24歳	6	—	—	—	—	—	—	16.7	83.3
25～29歳	17	—	—	—	—	—	—	35.3	64.7
30～34歳	17	—	—	—	—	—	—	5.9	94.1
35～39歳	28	3.6	—	—	—	—	—	14.3	82.1
40～44歳	35	2.9	—	—	2.9	—	5.7	14.3	77.1
45～49歳	41	12.2	—	2.4	2.4	—	4.9	14.6	70.7
50～54歳	37	8.1	—	2.7	2.7	2.7	16.2	21.6	56.8
55～59歳	28	32.1	7.1	7.1	21.4	—	17.9	21.4	35.7
60～64歳	29	27.6	3.4	3.4	13.8	6.9	10.3	24.1	41.4
65～69歳	45	33.3	—	11.1	15.6	2.2	20.0	24.4	31.1
70～74歳	78	42.3	1.3	7.7	10.3	5.1	6.4	26.9	32.1
75～79歳	55	40.0	5.5	10.9	16.4	7.3	7.3	20.0	29.1
80～84歳	58	39.7	3.4	13.8	6.9	3.4	13.8	37.9	25.9
85歳以上	24	41.7	—	4.2	4.2	8.3	20.8	45.8	12.5

(3) 身長・体重について

問 11 あなたの身長から考えて、体重は適切だと思いますか。(1つに○)

「はい」の割合が58.3%、「いいえ」の割合が40.5%となっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、15～19歳・30～34歳で「はい」の割合が、35～39歳・40～44歳で「いいえ」の割合が高くなっています。

単位：%

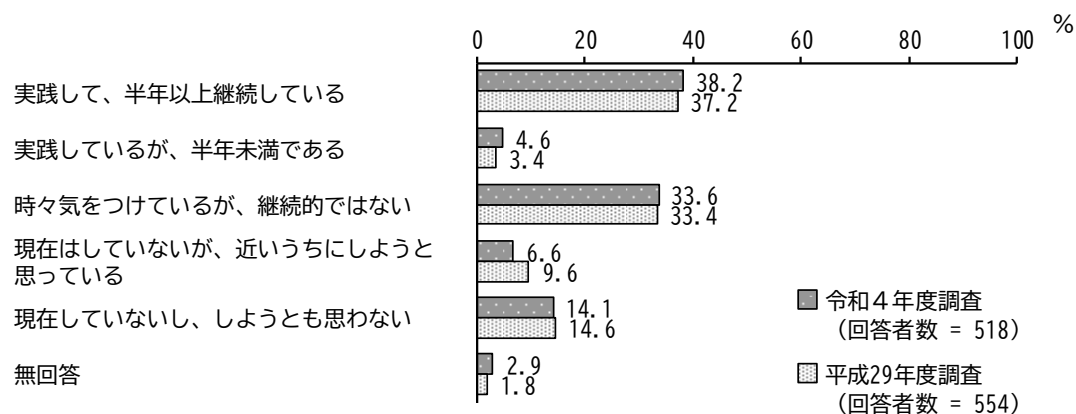
区分	回答者数(件)	はい	いいえ	無回答
全 体	518	58.3	40.5	1.2
15～19歳	12	91.7	8.3	—
20～24歳	6	50.0	50.0	—
25～29歳	17	52.9	47.1	—
30～34歳	17	76.5	23.5	—
35～39歳	28	42.9	57.1	—
40～44歳	35	42.9	57.1	—
45～49歳	41	48.8	51.2	—
50～54歳	37	51.4	48.6	—
55～59歳	28	50.0	50.0	—
60～64歳	29	62.1	37.9	—
65～69歳	45	57.8	42.2	—
70～74歳	78	57.7	42.3	—
75～79歳	55	70.9	25.5	3.6
80～84歳	58	72.4	27.6	—
85歳以上	24	58.3	37.5	4.2

(4) 生活習慣について

問12 あなたは、メタボリックシンドロームの予防や改善のために、適切な食事、定期的な運動、週に複数回の体重計測のいずれかを実践していますか。(1つに○)

「実践して、半年以上継続している」の割合が38.2%と最も高く、次いで「時々気をつけているが、継続的ではない」の割合が33.6%、「現在していないし、しようとも思わない」の割合が14.1%となっています。

平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、35～39歳・40～44歳で「時々気をつけているが、継続的ではない」の割合が、80～84歳で「実践して、半年以上継続している」の割合が高くなっています。

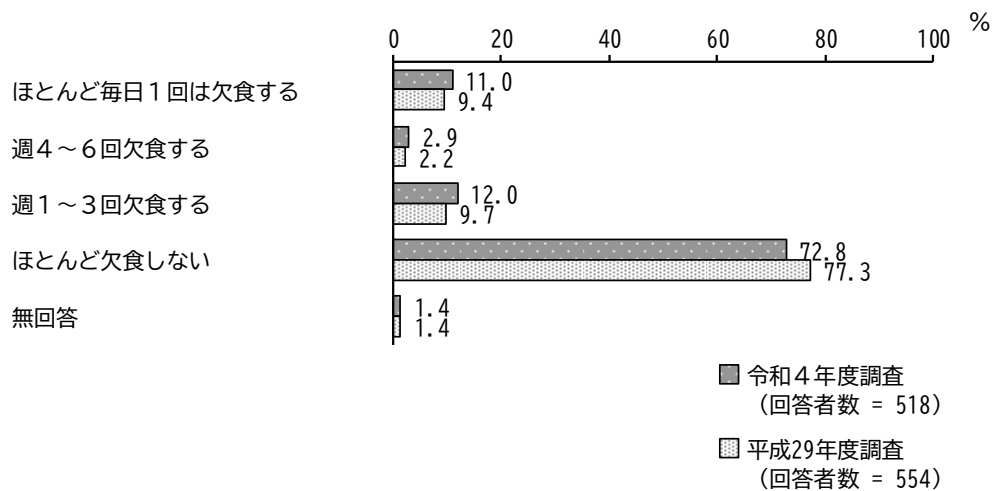
単位：%

区分	回答者数(件)	実践して、半年以上継続している	実践しているが、半年未満である	時々気をつけているが、継続的ではない	現在はしていないが、近いうちにしようと思っ	現在していないし、しようとも思わない	無回答
全体	518	38.2	4.6	33.6	6.6	14.1	2.9
15～19歳	12	50.0	—	25.0	—	25.0	—
20～24歳	6	33.3	—	—	16.7	50.0	—
25～29歳	17	35.3	5.9	23.5	17.6	17.6	—
30～34歳	17	23.5	5.9	41.2	—	29.4	—
35～39歳	28	10.7	7.1	46.4	14.3	21.4	—
40～44歳	35	25.7	5.7	45.7	14.3	8.6	—
45～49歳	41	26.8	7.3	43.9	7.3	14.6	—
50～54歳	37	35.1	5.4	32.4	13.5	13.5	—
55～59歳	28	28.6	14.3	28.6	10.7	10.7	7.1
60～64歳	29	41.4	3.4	37.9	3.4	10.3	3.4
65～69歳	45	51.1	4.4	31.1	8.9	4.4	—
70～74歳	78	48.7	5.1	29.5	3.8	12.8	—
75～79歳	55	41.8	—	32.7	3.6	12.7	9.1
80～84歳	58	53.4	1.7	27.6	—	10.3	6.9
85歳以上	24	25.0	—	29.2	—	33.3	12.5

問13 あなたは、ふだん欠食することがありますか。(欠食とは三食のうち一食以上食べないことをいいます。)(1つに○)

「ほとんど欠食しない」の割合が72.8%と最も高く、次いで「週1～3回欠食する」の割合が12.0%、「ほとんど毎日1回は欠食する」の割合が11.0%となっています。

平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、25～29歳・30～34歳で「ほとんど毎日1回は欠食する」の割合が高くなっています。

単位：％

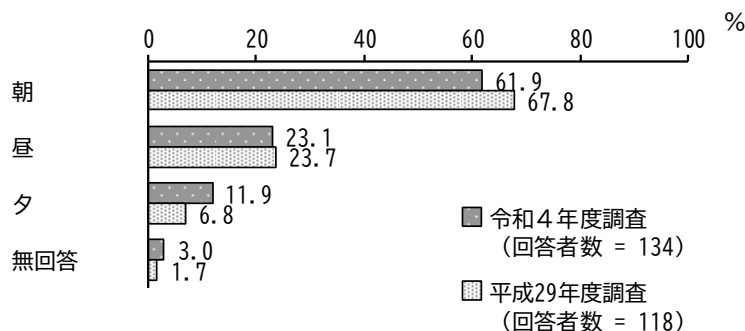
区分	回答者数(件)	ほとんど毎日1回は欠食する	週4～6回欠食する	週1～3回欠食する	ほとんど欠食しない	無回答
全体	518	11.0	2.9	12.0	72.8	1.4
15～19歳	12	—	—	—	100.0	—
20～24歳	6	16.7	—	33.3	50.0	—
25～29歳	17	23.5	11.8	17.6	47.1	—
30～34歳	17	23.5	11.8	23.5	41.2	—
35～39歳	28	10.7	7.1	14.3	67.9	—
40～44歳	35	17.1	2.9	22.9	57.1	—
45～49歳	41	22.0	4.9	7.3	65.9	—
50～54歳	37	8.1	2.7	21.6	67.6	—
55～59歳	28	10.7	3.6	17.9	64.3	3.6
60～64歳	29	20.7	3.4	17.2	58.6	—
65～69歳	45	15.6	—	8.9	75.6	—
70～74歳	78	5.1	1.3	3.8	89.7	—
75～79歳	55	5.5	1.8	10.9	76.4	5.5
80～84歳	58	3.4	—	6.9	87.9	1.7
85歳以上	24	4.2	4.2	—	83.3	8.3

《問13で「1. ほとんど毎日1回は欠食する」～「3. 週1～3回欠食する」のいずれかをお答えの方にお聞きします》

問13-1 三食のうち、いつ欠食することが多いですか。(1つに○)

「朝」の割合が61.9%と最も高く、次いで「昼」の割合が23.1%、「夕」の割合が11.9%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「夕」の割合が増加しています。一方、「朝」の割合が減少しています。

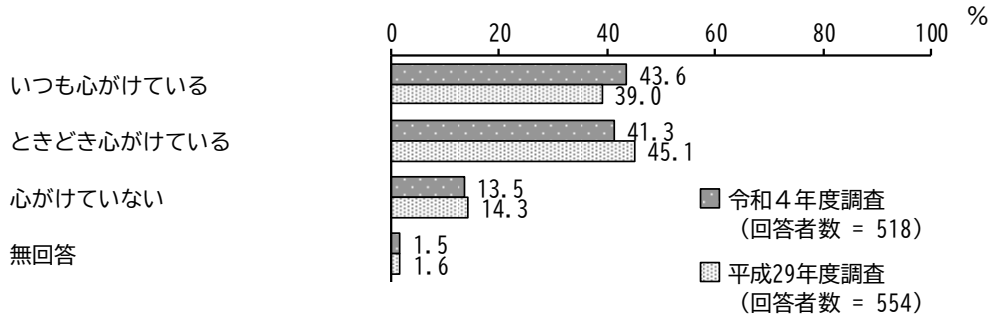


(5) 運動習慣について

問 14 日頃から健康維持・増進のために意識的に体を動かすように心がけていますか。
(例：早歩きや階段を使うなど)。(1つに○)

「いつも心がけている」の割合が43.6%と最も高く、次いで「ときどき心がけている」の割合が41.3%、「心がけていない」の割合が13.5%となっています。

平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、80～84歳で「いつも心がけている」の割合が高くなっています。

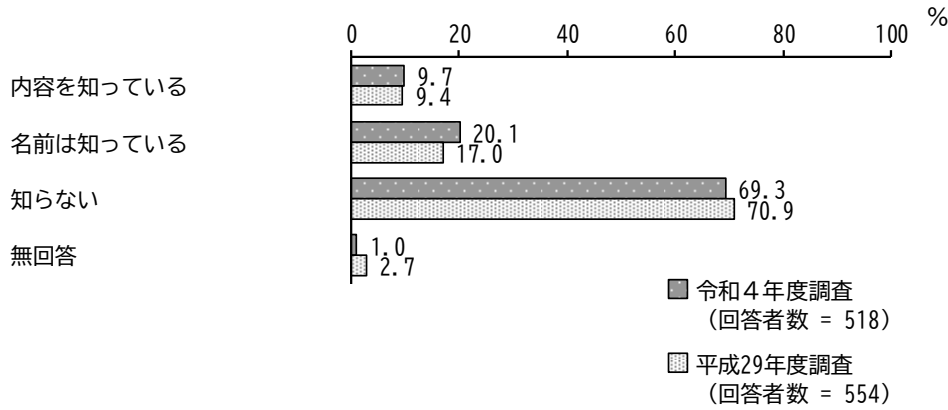
単位：%

区分	回答者数 (件)	いつも心がけてい	るときどき心がけて	心がけていない	無回答
全 体	518	43.6	41.3	13.5	1.5
15～19 歳	12	50.0	41.7	8.3	—
20～24 歳	6	16.7	66.7	16.7	—
25～29 歳	17	23.5	58.8	17.6	—
30～34 歳	17	35.3	52.9	11.8	—
35～39 歳	28	17.9	53.6	28.6	—
40～44 歳	35	22.9	45.7	28.6	2.9
45～49 歳	41	22.0	65.9	12.2	—
50～54 歳	37	29.7	59.5	10.8	—
55～59 歳	28	39.3	39.3	14.3	7.1
60～64 歳	29	58.6	27.6	10.3	3.4
65～69 歳	45	42.2	48.9	8.9	—
70～74 歳	78	56.4	32.1	11.5	—
75～79 歳	55	58.2	25.5	12.7	3.6
80～84 歳	58	62.1	31.0	5.2	1.7
85 歳以上	24	50.0	20.8	25.0	4.2

問 15 「ロコモティブシンドローム（運動器症候群）」を知っていますか。（1つに○）

「知らない」の割合が 69.3%と最も高く、次いで「名前は知っている」の割合が 20.1%となっています。

平成 29 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、15～19 歳・25～29 歳で「知らない」の割合が、80～84 歳で「名前は知っている」の割合が高くなっています。

単位：%

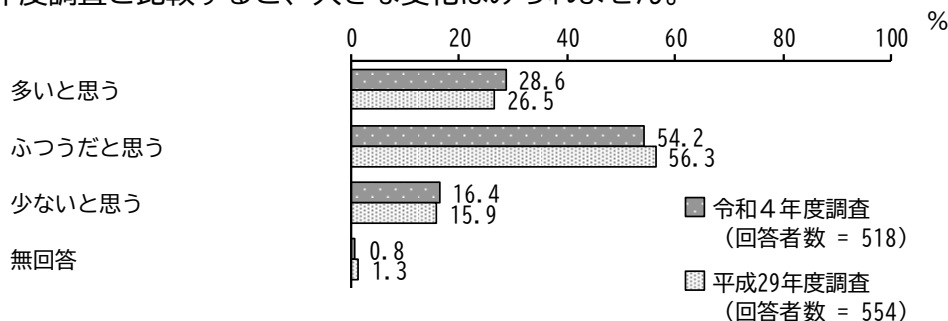
区分	回答者数 (件)	内容を知っている	名前は知っている	知らない	無回答
全 体	518	9.7	20.1	69.3	1.0
15～19 歳	12	—	—	100.0	—
20～24 歳	6	—	—	100.0	—
25～29 歳	17	11.8	5.9	82.4	—
30～34 歳	17	17.6	11.8	70.6	—
35～39 歳	28	7.1	14.3	78.6	—
40～44 歳	35	11.4	11.4	77.1	—
45～49 歳	41	7.3	12.2	80.5	—
50～54 歳	37	5.4	29.7	64.9	—
55～59 歳	28	10.7	7.1	78.6	3.6
60～64 歳	29	3.4	20.7	72.4	3.4
65～69 歳	45	17.8	20.0	62.2	—
70～74 歳	78	9.0	25.6	65.4	—
75～79 歳	55	14.5	23.6	60.0	1.8
80～84 歳	58	8.6	34.5	55.2	1.7
85 歳以上	24	4.2	20.8	70.8	4.2

(6) ストレスについて

問 16 あなたは現在、ストレスが多いと感じていますか。(1つに〇)

「ふつうだと思う」の割合が54.2%と最も高く、次いで「多いと思う」の割合が28.6%、「少ないと思う」の割合が16.4%となっています。

平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、30～34歳・50～54歳で「多いと思う」の割合が、70～74歳で「少ないと思う」の割合が高くなっています。

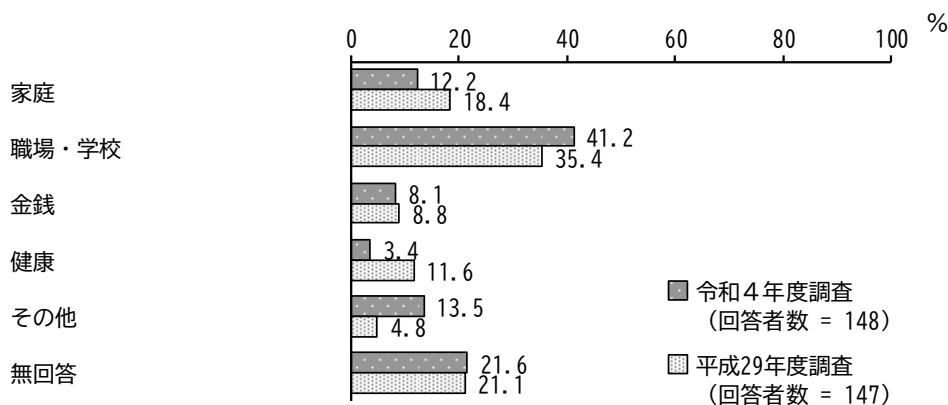
単位：%

区分	回答者数 (件)	多いと思う	ふつうだと思う	少ないと思う	無回答
全 体	518	28.6	54.2	16.4	0.8
15～19 歳	12	25.0	58.3	16.7	—
20～24 歳	6	66.7	33.3	—	—
25～29 歳	17	47.1	47.1	5.9	—
30～34 歳	17	52.9	35.3	11.8	—
35～39 歳	28	46.4	46.4	7.1	—
40～44 歳	35	37.1	51.4	11.4	—
45～49 歳	41	41.5	53.7	4.9	—
50～54 歳	37	51.4	37.8	10.8	—
55～59 歳	28	42.9	46.4	7.1	3.6
60～64 歳	29	37.9	37.9	24.1	—
65～69 歳	45	22.2	60.0	17.8	—
70～74 歳	78	6.4	69.2	24.4	—
75～79 歳	55	16.4	60.0	21.8	1.8
80～84 歳	58	19.0	60.3	20.7	—
85 歳以上	24	8.3	58.3	25.0	8.3

《問16で「1. 多いと思う」とお答えの方にお聞きします》

問16-1 どんなことでストレスを感じますか。(1つに○)

「職場・学校」の割合が41.2%と最も高く、次いで「家庭」の割合が12.2%となっています。平成29年度調査と比較すると、「職場・学校」の割合が増加しています。一方、「家庭」「健康」の割合が減少しています。



【性別】

性別にみると、他に比べ、男性で「職場・学校」の割合が、女性で「家族」の割合が高くなっています。

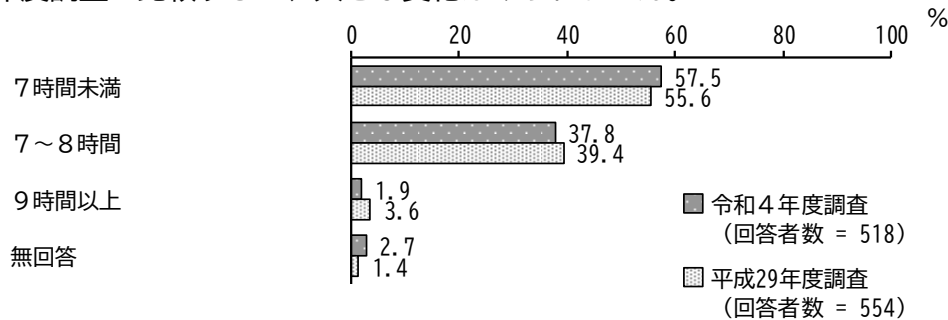
単位：%

区分	回答者数 (件)	家庭	職場・学校	金銭	健康	その他	無回答
全体	148	12.2	41.2	8.1	3.4	13.5	21.6
男性	56	8.9	60.7	8.9	1.8	16.1	3.6
女性	87	14.9	28.7	5.7	4.6	12.6	33.3
選べない・答えたくない	2	—	50.0	—	—	—	50.0

問 17 1日の睡眠時間はどれくらいですか。(1つに○)

「7時間未満」の割合が57.5%と最も高く、次いで「7～8時間」の割合が37.8%となっています。

平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、45～49歳・50～54歳・55～59歳で「7時間未満」の割合が、85歳以上で「7～8時間」の割合が高くなっています。

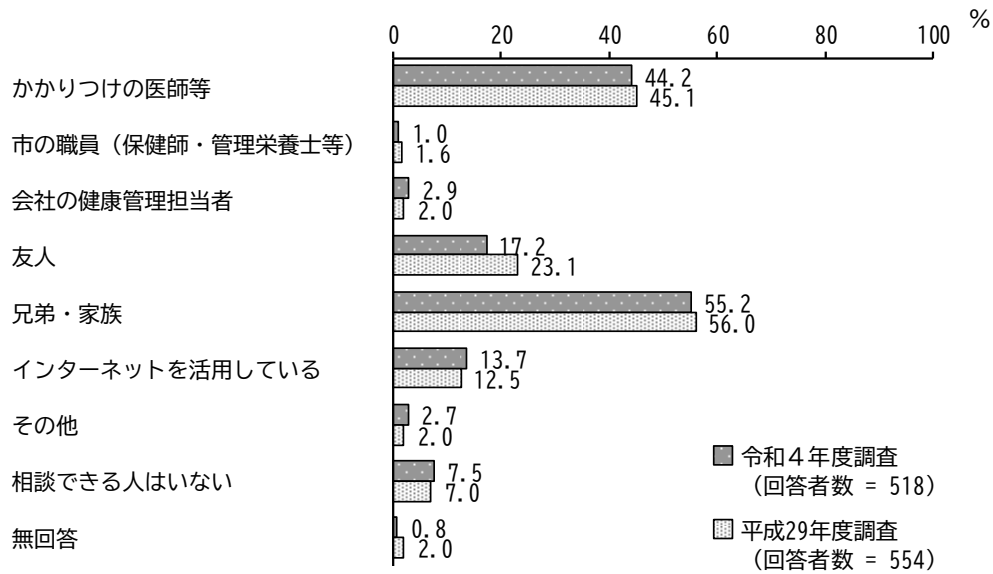
単位：%

区分	回答者数(件)	7時間未満	7～8時間	9時間以上	無回答
全 体	518	57.5	37.8	1.9	2.7
15～19歳	12	41.7	50.0	8.3	—
20～24歳	6	33.3	50.0	—	16.7
25～29歳	17	58.8	41.2	—	—
30～34歳	17	58.8	35.3	—	5.9
35～39歳	28	53.6	46.4	—	—
40～44歳	35	62.9	37.1	—	—
45～49歳	41	73.2	24.4	—	2.4
50～54歳	37	73.0	21.6	—	5.4
55～59歳	28	78.6	14.3	—	7.1
60～64歳	29	72.4	27.6	—	—
65～69歳	45	44.4	48.9	4.4	2.2
70～74歳	78	52.6	44.9	2.6	—
75～79歳	55	58.2	38.2	—	3.6
80～84歳	58	53.4	39.7	3.4	3.4
85歳以上	24	29.2	54.2	12.5	4.2

問18 健康や病気のことについて、気軽に相談できる人はだれですか。(あてはまるものすべてに○)

「兄弟・家族」の割合が55.2%と最も高く、次いで「かかりつけの医師等」の割合が44.2%、「友人」の割合が17.2%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「友人」の割合が減少しています。



【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、25～29歳で「友人」の割合が、30～34歳で「兄弟・家族」の割合が、50～54歳で「インターネットを活用している」の割合が高くなっています。

単位：％

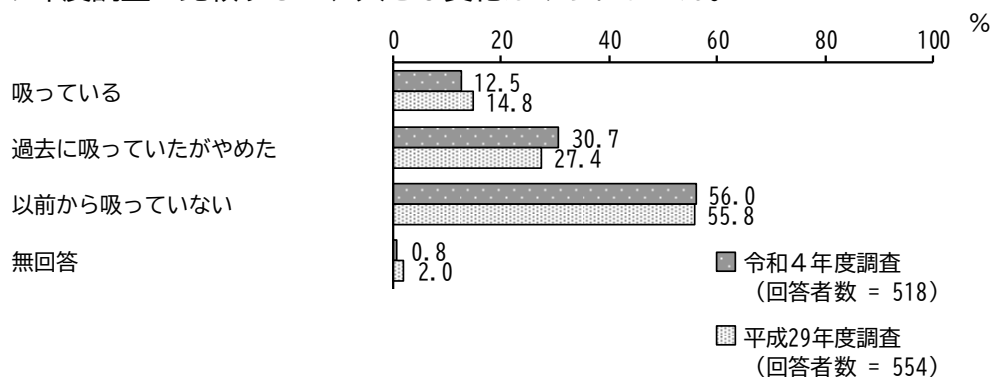
区分	回答者数(件)	等 かかりつけの医師	市の職員(保健師・ 管理栄養士等)	当 社の健康 管理担 当者	友 人	兄 弟・家 族	活 用して いる イン ター ネッ トを	そ の 他	相 談 で き る 人 は い ない	無 回 答
全 体	518	44.2	1.0	2.9	17.2	55.2	13.7	2.7	7.5	0.8
15～19歳	12	16.7	—	—	25.0	75.0	8.3	8.3	—	—
20～24歳	6	16.7	—	—	33.3	66.7	—	—	16.7	—
25～29歳	17	11.8	—	—	47.1	76.5	29.4	—	5.9	—
30～34歳	17	5.9	—	—	29.4	82.4	11.8	—	11.8	—
35～39歳	28	32.1	3.6	—	21.4	53.6	25.0	—	7.1	—
40～44歳	35	22.9	—	2.9	8.6	68.6	8.6	—	14.3	—
45～49歳	41	19.5	—	7.3	22.0	48.8	29.3	2.4	9.8	—
50～54歳	37	32.4	—	5.4	13.5	51.4	35.1	—	5.4	—
55～59歳	28	50.0	—	17.9	25.0	57.1	10.7	3.6	7.1	3.6
60～64歳	29	34.5	—	6.9	17.2	55.2	3.4	3.4	17.2	—
65～69歳	45	46.7	2.2	—	15.6	51.1	13.3	2.2	6.7	—
70～74歳	78	65.4	—	1.3	16.7	47.4	10.3	2.6	5.1	1.3
75～79歳	55	63.6	1.8	—	10.9	52.7	10.9	3.6	5.5	1.8
80～84歳	58	63.8	1.7	—	13.8	56.9	5.2	5.2	3.4	1.7
85歳以上	24	62.5	4.2	4.2	4.2	41.7	—	4.2	8.3	—

(7) たばこについて

問 19 あなたは現在、たばこを吸っていますか。(1つに〇)

「以前から吸っていない」の割合が 56.0%と最も高く、次いで「過去に吸っていたがやめた」の割合が 30.7%、「吸っている」の割合が 12.5%となっています。

平成 29 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、60～64歳で「過去に吸っていたがやめた」の割合が高くなっています。

単位: %

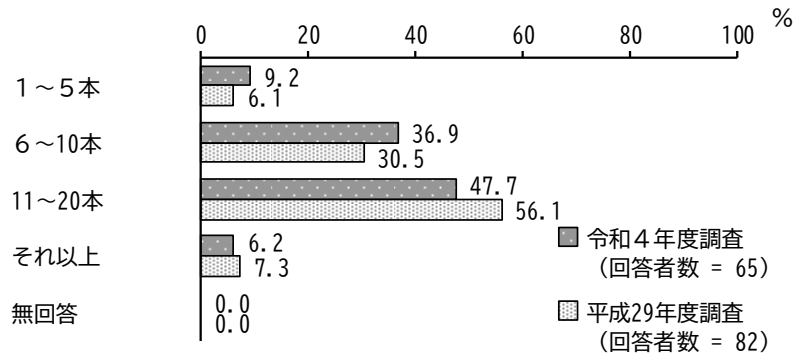
区分	回答者数 (件)	吸っている	過去に吸っていたがやめた	以前から吸っていない	無回答
全 体	518	12.5	30.7	56.0	0.8
15～19 歳	12	—	—	100.0	—
20～24 歳	6	16.7	—	83.3	—
25～29 歳	17	5.9	11.8	82.4	—
30～34 歳	17	17.6	35.3	47.1	—
35～39 歳	28	17.9	17.9	64.3	—
40～44 歳	35	20.0	37.1	42.9	—
45～49 歳	41	24.4	31.7	43.9	—
50～54 歳	37	10.8	21.6	67.6	—
55～59 歳	28	21.4	35.7	39.3	3.6
60～64 歳	29	17.2	44.8	37.9	—
65～69 歳	45	20.0	37.8	42.2	—
70～74 歳	78	7.7	39.7	52.6	—
75～79 歳	55	12.7	29.1	56.4	1.8
80～84 歳	58	—	29.3	69.0	1.7
85 歳以上	24	—	29.2	66.7	4.2

《問19で「1. 吸っている」とお答えの方にお聞きします》

問19-1 一日何本くらい吸っていますか。(1つに○)
また、喫煙歴は何年ですか。

「11～20本」の割合が47.7%と最も高く、次いで「6～10本」の割合が36.9%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「6～10本」の割合が増加しています。一方、「11～20本」の割合が減少しています。



【性別】

性別で見ると、他に比べ、女性で「1～5本」「6～10本」の割合が高くなっています。

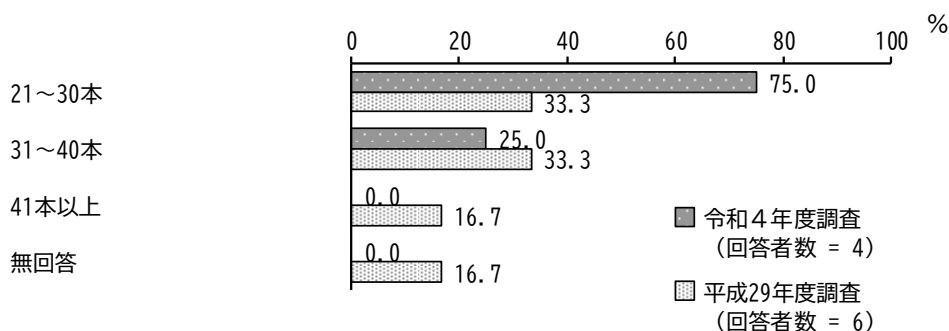
単位：%

区分	回答者数(件)	1～5本	6～10本	11～20本	それ以上	無回答
全体	65	9.2	36.9	47.7	6.2	0.0
男性	55	7.3	34.5	50.9	7.3	0.0
女性	9	22.2	44.4	33.3	0.0	0.0
選べない・答えたくない	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

1日に21本以上喫煙する人の喫煙本数

「21～30本」が3件となっています。「31～40本」が1件となっています。

平成29年度調査と比較すると、「21～30本」の割合が増加しています。一方、「31～40本」「41本以上」の割合が減少しています。



【性別】

性別にみると、男性で「21～30本」が3件となっています。「31～40本」が1件となっています。一方、女性の回答はありませんでした。

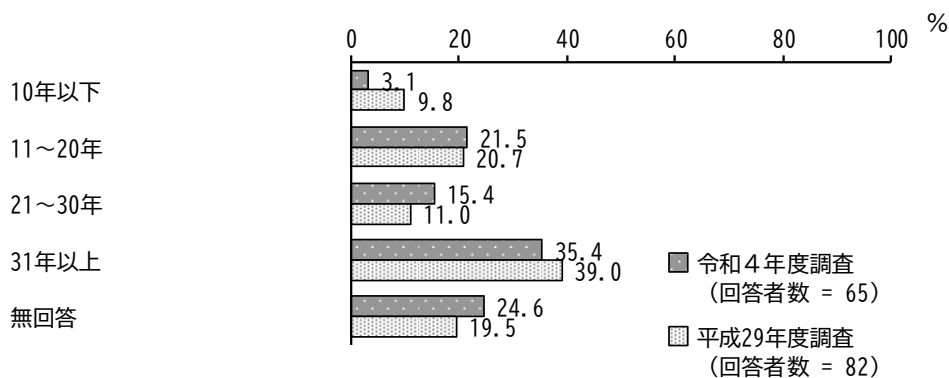
単位：％

区分	回答者数 (件)	21 ～ 30 本	31 ～ 40 本	41 本 以上	無 回 答
全 体	4	75.0	25.0	0.0	0.0
男性	4	75.0	25.0	0.0	0.0
女性	0	0.0	0.0	0.0	0.0
選べない・答えたくない	0	0.0	0.0	0.0	0.0

喫煙歴

「31年以上」の割合が35.4%と最も高く、次いで「11～20年」の割合が21.5%、「21～30年」の割合が15.4%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「10年以下」の割合が減少しています。



【性別】

性別にみると、他に比べ、女性で「21～30年」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	10 年 以下	11 ～ 20 年	21 ～ 30 年	31 年 以上	無 回 答
全 体	65	3.1	21.5	15.4	35.4	24.6
男性	55	3.6	21.8	12.7	40.0	21.8
女性	9	—	22.2	22.2	11.1	44.4
選べない・答えたくない	—	—	—	—	—	—

【年齢別】

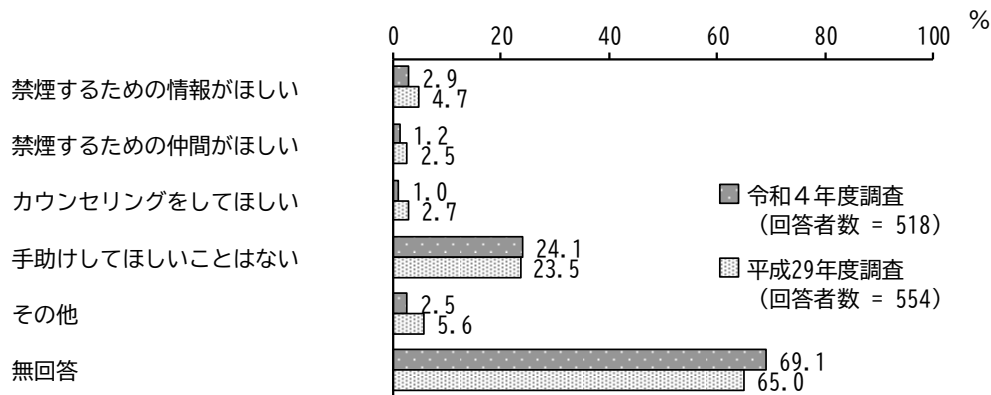
年齢別にみると、他に比べ、45～49歳で「21～30年」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	10年 以下	11 ～ 20 年	21 ～ 30 年	31 年 以上	無 回 答
全 体	65	3.1	21.5	15.4	35.4	24.6
15～19歳	—	—	—	—	—	—
20～24歳	1	100.0	—	—	—	—
25～29歳	1	100.0	—	—	—	—
30～34歳	3	—	66.7	—	—	33.3
35～39歳	5	—	80.0	—	—	20.0
40～44歳	7	—	71.4	14.3	—	14.3
45～49歳	10	—	30.0	50.0	—	20.0
50～54歳	4	—	—	50.0	—	50.0
55～59歳	6	—	—	—	83.3	16.7
60～64歳	5	—	—	20.0	60.0	20.0
65～69歳	9	—	—	—	100.0	—
70～74歳	6	—	—	—	66.7	33.3
75～79歳	7	—	—	—	28.6	71.4
80～84歳	—	—	—	—	—	—
85歳以上	—	—	—	—	—	—

問 20 禁煙のために何か手助けしてほしいことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

「手助けしてほしいことはない」の割合が24.1%と最も高くなっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

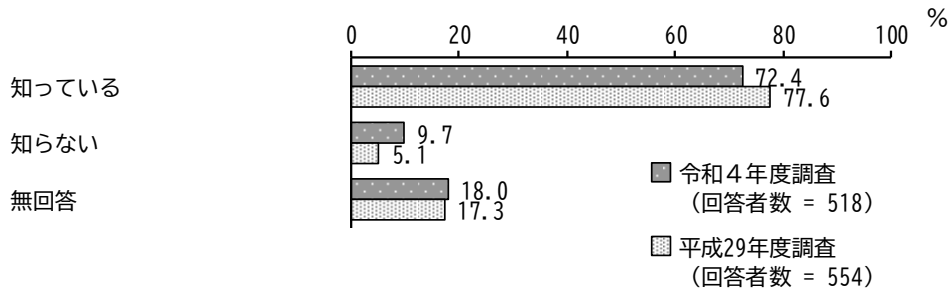
性別にみると、他に比べ、男性で「手助けしてほしいことはない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	禁煙するための情報がほしい	禁煙するための仲間がほしい	カウンセリングをしてほしい	手助けしてほしいことはない	その他	無回答
全体	518	2.9	1.2	1.0	24.1	2.5	69.1
男性	231	3.9	0.9	1.3	35.5	5.2	54.1
女性	271	2.2	0.7	0.7	15.5	0.4	81.2
選べない・答えたくない	4	—	—	—	25.0	—	75.0

問 21 喫煙者が直接吸い込む「主流煙」や点火部から立ち上がる「副流煙」が及ぼす影響について知っていますか。(1つに○)

「知っている」の割合が72.4%、「知らない」の割合が9.7%となっています。
平成29年度調査と比較すると、「知っている」の割合が減少しています。



【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、15～19歳・30～34歳・35～39歳で「知っている」の割合が高くなっています。

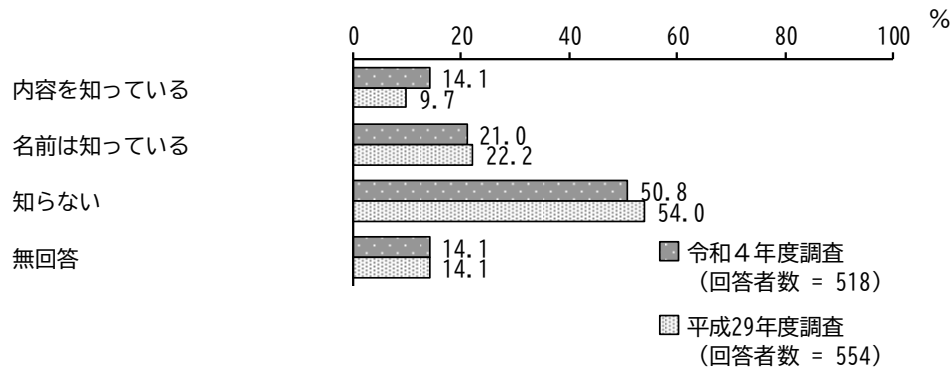
単位：%

区分	回答者数 (件)	知っている	知らない	無回答
全 体	518	72.4	9.7	18.0
15～19歳	12	91.7	—	8.3
20～24歳	6	83.3	16.7	—
25～29歳	17	88.2	5.9	5.9
30～34歳	17	100.0	—	—
35～39歳	28	92.9	—	7.1
40～44歳	35	88.6	8.6	2.9
45～49歳	41	82.9	9.8	7.3
50～54歳	37	75.7	5.4	18.9
55～59歳	28	67.9	10.7	21.4
60～64歳	29	75.9	6.9	17.2
65～69歳	45	80.0	8.9	11.1
70～74歳	78	67.9	11.5	20.5
75～79歳	55	56.4	14.5	29.1
80～84歳	58	50.0	13.8	36.2
85歳以上	24	50.0	16.7	33.3

問 22 「COPD（慢性閉塞性肺疾患）」という病気を知っていますか。（1つに〇）

「知らない」の割合が50.8%と最も高く、次いで「名前は知っている」の割合が21.0%、「内容を知っている」の割合が14.1%となっています。

平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、15～19歳・85歳以上で「知らない」の割合が、50～54歳で「名前は知っている」の割合が高くなっています。

単位：%

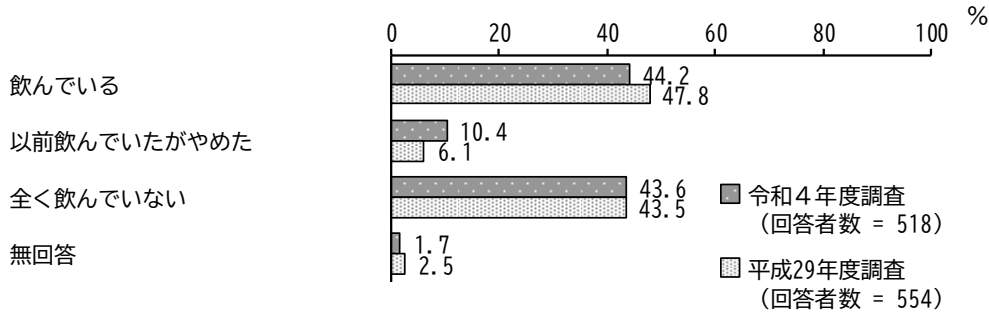
区分	回答者数 (件)	内容を知っている	名前は知っている	知らない	無回答
全 体	518	14.1	21.0	50.8	14.1
15～19 歳	12	—	25.0	66.7	8.3
20～24 歳	6	16.7	33.3	50.0	—
25～29 歳	17	17.6	11.8	58.8	11.8
30～34 歳	17	11.8	29.4	58.8	—
35～39 歳	28	25.0	17.9	53.6	3.6
40～44 歳	35	22.9	31.4	40.0	5.7
45～49 歳	41	24.4	12.2	56.1	7.3
50～54 歳	37	16.2	32.4	32.4	18.9
55～59 歳	28	17.9	25.0	39.3	17.9
60～64 歳	29	6.9	24.1	51.7	17.2
65～69 歳	45	15.6	20.0	53.3	11.1
70～74 歳	78	11.5	16.7	55.1	16.7
75～79 歳	55	10.9	18.2	54.5	16.4
80～84 歳	58	8.6	20.7	46.6	24.1
85 歳以上	24	—	16.7	62.5	20.8

(8) 飲酒について

問 23 あなたは現在、アルコール類（健康酒等も含みます）を飲んでいますか。（1つに○）

「飲んでいる」の割合が 44.2%と最も高く、次いで「全く飲んでいない」の割合が 43.6%、「以前飲んでいたがやめた」の割合が 10.4%となっています。

平成 29 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、25～29 歳・45～49 歳で「飲んでいる」の割合が高くなっています。

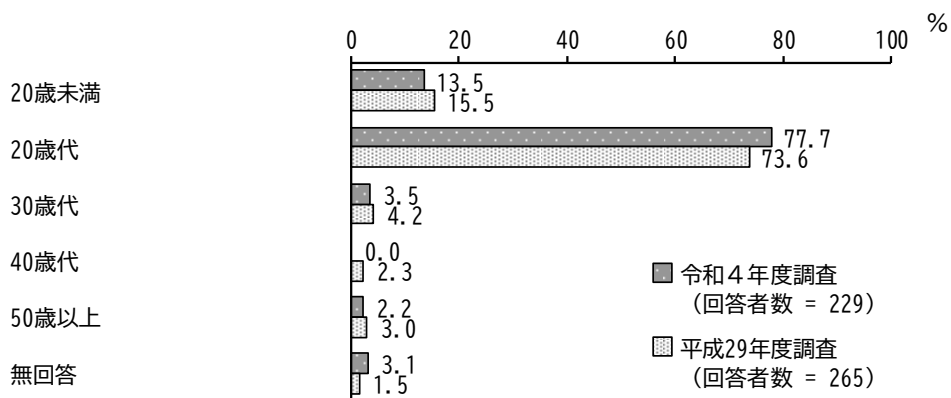
単位：%

区分	回答者数 (件)	飲んでいる	以前飲んでいたがやめた	全く飲んでいない	無回答
全 体	518	44.2	10.4	43.6	1.7
15～19 歳	12	—	—	91.7	8.3
20～24 歳	6	33.3	16.7	50.0	—
25～29 歳	17	76.5	5.9	17.6	—
30～34 歳	17	58.8	17.6	23.5	—
35～39 歳	28	57.1	3.6	39.3	—
40～44 歳	35	51.4	5.7	42.9	—
45～49 歳	41	63.4	7.3	29.3	—
50～54 歳	37	43.2	18.9	37.8	—
55～59 歳	28	60.7	14.3	25.0	—
60～64 歳	29	55.2	13.8	31.0	—
65～69 歳	45	46.7	8.9	42.2	2.2
70～74 歳	78	42.3	5.1	50.0	2.6
75～79 歳	55	30.9	18.2	49.1	1.8
80～84 歳	58	27.6	8.6	58.6	5.2
85 歳以上	24	29.2	16.7	50.0	4.2

《問 23 で「1. 飲んでいる」とお答えの方にお聞きします》

問 23-1 飲み始めたのは何歳からですか。

「20 歳代」の割合が 77.7%と最も高く、次いで「20 歳未満」の割合が 13.5%となっています。平成 29 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

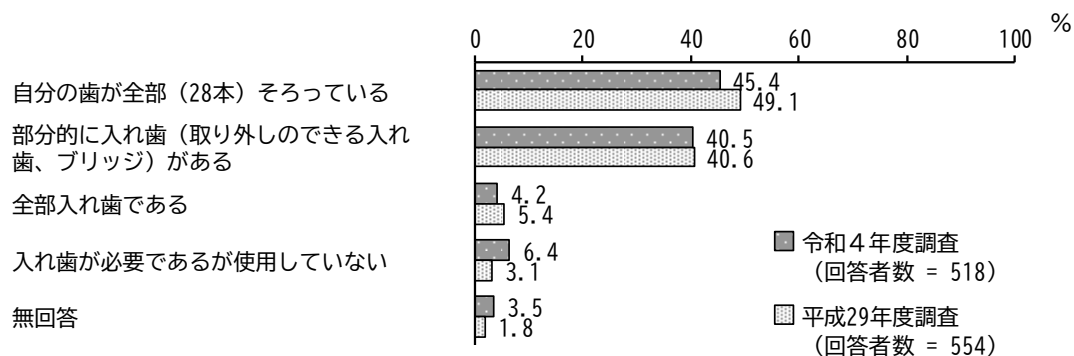


(9) 歯の健康について

問 24 自分の歯（さし歯や治療した歯は自分の歯に含みます）はどの程度ありますか。
（1つに○）

「自分の歯が全部（28本）そろっている」の割合が45.4%と最も高く、次いで「部分的に入れ歯（取り外しのできる入れ歯、ブリッジ）がある」の割合が40.5%となっています。

平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、65～69歳で「入れ歯が必要であるが使用していない」の割合が高くなっています。

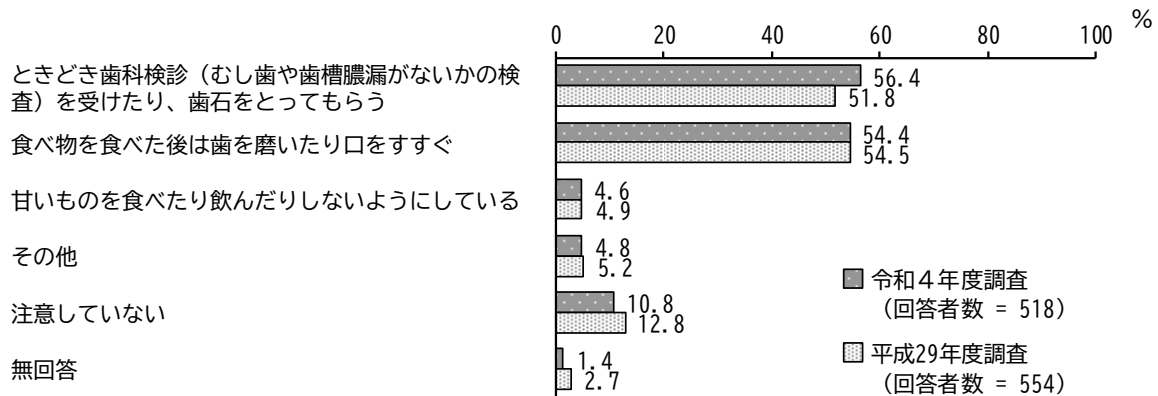
単位：%

区分	回答者数(件)	自分の歯が全部(28本)そろっている	部分的に入れ歯(取り外しのできる入れ歯、ブリッジ)がある	全部入れ歯である	入れ歯が必要であるが使用していない	無回答
全 体	518	45.4	40.5	4.2	6.4	3.5
15～19歳	12	91.7	—	—	—	8.3
20～24歳	6	100.0	—	—	—	—
25～29歳	17	100.0	—	—	—	—
30～34歳	17	100.0	—	—	—	—
35～39歳	28	82.1	17.9	—	—	—
40～44歳	35	85.7	11.4	—	—	2.9
45～49歳	41	73.2	22.0	—	4.9	—
50～54歳	37	62.2	32.4	—	2.7	2.7
55～59歳	28	53.6	35.7	—	7.1	3.6
60～64歳	29	34.5	44.8	—	13.8	6.9
65～69歳	45	28.9	51.1	2.2	17.8	—
70～74歳	78	24.4	60.3	7.7	5.1	2.6
75～79歳	55	12.7	63.6	5.5	12.7	5.5
80～84歳	58	13.8	63.8	10.3	3.4	8.6
85歳以上	24	8.3	50.0	20.8	12.5	8.3

問 25 あなたは、ふだん自分の歯の健康について注意していますか。(あてはまるものすべてに○)

「ときどき歯科検診（むし歯や歯槽膿漏がないかの検査）を受けたり、歯石をとってもらう」の割合が 56.4%と最も高く、次いで「食べ物を食べた後は歯を磨いたり口をすすぐ」の割合が 54.4%、「注意していない」の割合が 10.8%となっています。

平成 29 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、15～19歳、40～44歳で「注意していない」の割合が、55～59歳で「ときどき歯科検診（むし歯や歯槽膿漏がないかの検査）を受けたり、歯石をとってもらう」の割合が高くなっています。

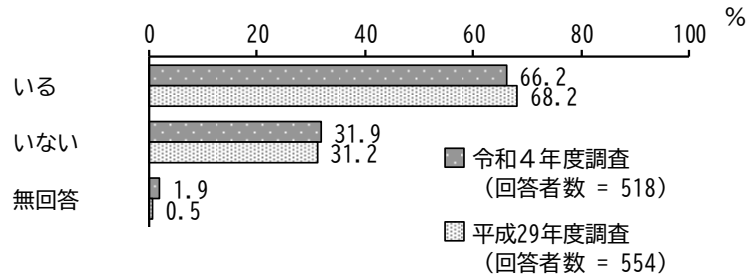
単位：％

区分	回答者数(件)	ときどき歯科検診(むし歯や歯槽膿漏がないかの検査)を受けたり、歯石をとってもらう	食べ物を食べた後は歯を磨いたり口をすすぐ	甘いものを食べたり飲んだりしないようにしている	その他	注意していない	無回答
全 体	518	56.4	54.4	4.6	4.8	10.8	1.4
15～19歳	12	33.3	58.3	8.3	—	25.0	—
20～24歳	6	16.7	50.0	—	—	33.3	—
25～29歳	17	64.7	23.5	11.8	—	11.8	—
30～34歳	17	58.8	64.7	11.8	5.9	11.8	—
35～39歳	28	64.3	32.1	—	—	10.7	—
40～44歳	35	57.1	45.7	2.9	—	28.6	—
45～49歳	41	61.0	48.8	2.4	2.4	7.3	—
50～54歳	37	59.5	59.5	8.1	2.7	8.1	2.7
55～59歳	28	71.4	53.6	3.6	3.6	3.6	—
60～64歳	29	58.6	65.5	10.3	13.8	6.9	—
65～69歳	45	55.6	55.6	6.7	11.1	11.1	—
70～74歳	78	56.4	64.1	2.6	7.7	3.8	1.3
75～79歳	55	50.9	58.2	3.6	5.5	9.1	1.8
80～84歳	58	53.4	60.3	3.4	3.4	10.3	5.2
85歳以上	24	45.8	45.8	—	4.2	16.7	4.2

(10) 薬や医療、保健サービスについて

問 26 あなたは、かかりつけのお医者さんがいますか。(1つに〇)

「いる」の割合が66.2%、「いない」の割合が31.9%となっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20～24歳・25～29歳・30～34歳・35～39歳で「いない」の割合が高くなっています。

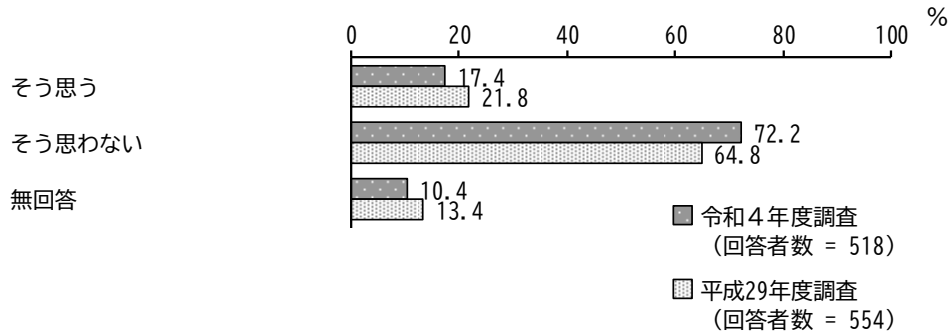
単位：%

区分	回答者数 (件)	いる	いない	無回答
全 体	518	66.2	31.9	1.9
15～19歳	12	58.3	41.7	—
20～24歳	6	16.7	83.3	—
25～29歳	17	29.4	70.6	—
30～34歳	17	35.3	64.7	—
35～39歳	28	35.7	64.3	—
40～44歳	35	54.3	45.7	—
45～49歳	41	51.2	48.8	—
50～54歳	37	67.6	29.7	2.7
55～59歳	28	64.3	35.7	—
60～64歳	29	58.6	41.4	—
65～69歳	45	80.0	17.8	2.2
70～74歳	78	76.9	20.5	2.6
75～79歳	55	83.6	16.4	—
80～84歳	58	79.3	12.1	8.6
85歳以上	24	91.7	4.2	4.2

問 27 あなたは、薬や医療についてどのようにお考えですか。(1つに〇)

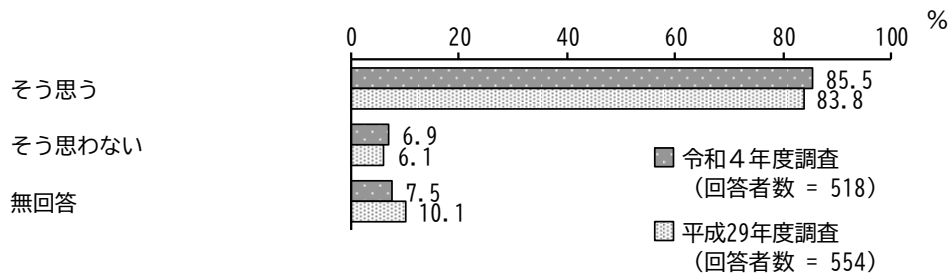
ア 医者から処方される薬の量が多すぎて不安を感じることもある

「そう思う」の割合が17.4%、「そう思わない」の割合が72.2%となっています。
平成29年度調査と比較すると、「そう思わない」の割合が増加しています。



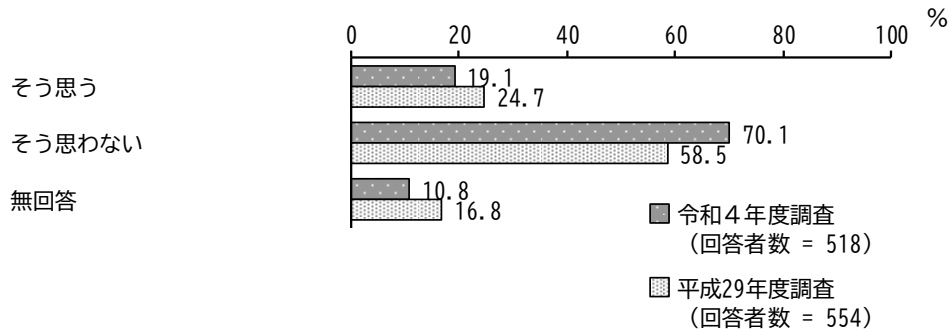
イ 薬の目的や効果、副作用の有無などについては、自分でも知っておきたい

「そう思う」の割合が85.5%、「そう思わない」の割合が6.9%となっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

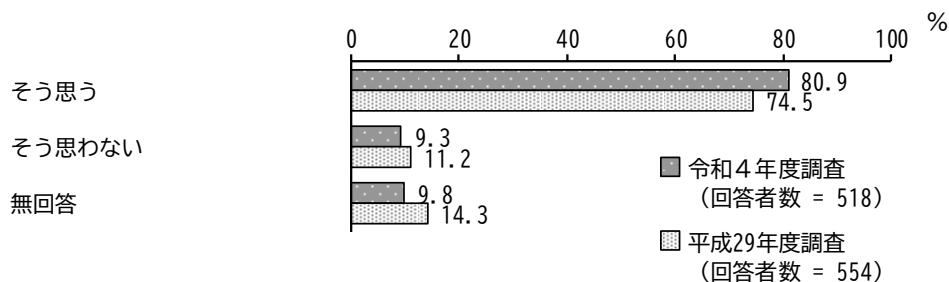


ウ 病状や治療法について、十分に説明してもらえないことが多い

「そう思う」の割合が19.1%、「そう思わない」の割合が70.1%となっています。
平成29年度調査と比較すると、「そう思わない」の割合が増加しています。一方、「そう思う」の割合が減少しています。



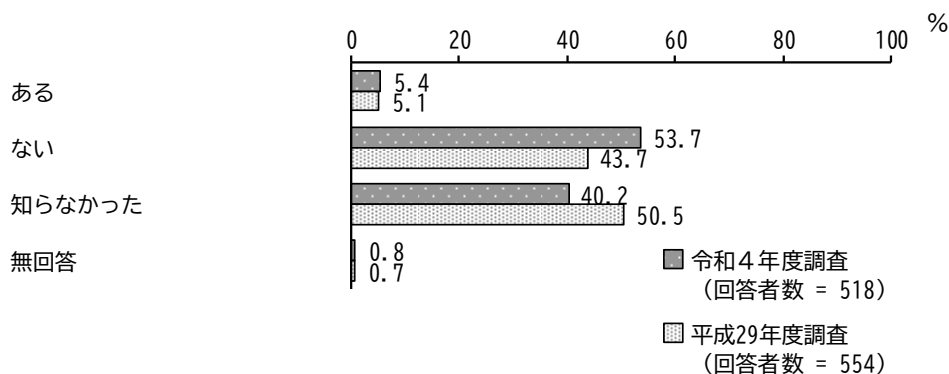
工 病気の治療法を決定する場合には、医者だけでなく患者自身の意思も尊重されるべきだ
「そう思う」の割合が80.9%、「そう思わない」の割合が9.3%となっています。
平成29年度調査と比較すると、「そう思う」の割合が増加しています。



問28 あなたは、あやせ24時間電話相談を利用したことがありますか。(1つに○)

「ない」の割合が53.7%と最も高く、次いで「知らなかった」の割合が40.2%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「ない」の割合が増加しています。一方、「知らなかった」の割合が減少しています。



【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、30～34歳・35～39歳で「ある」の割合が高くなっています。

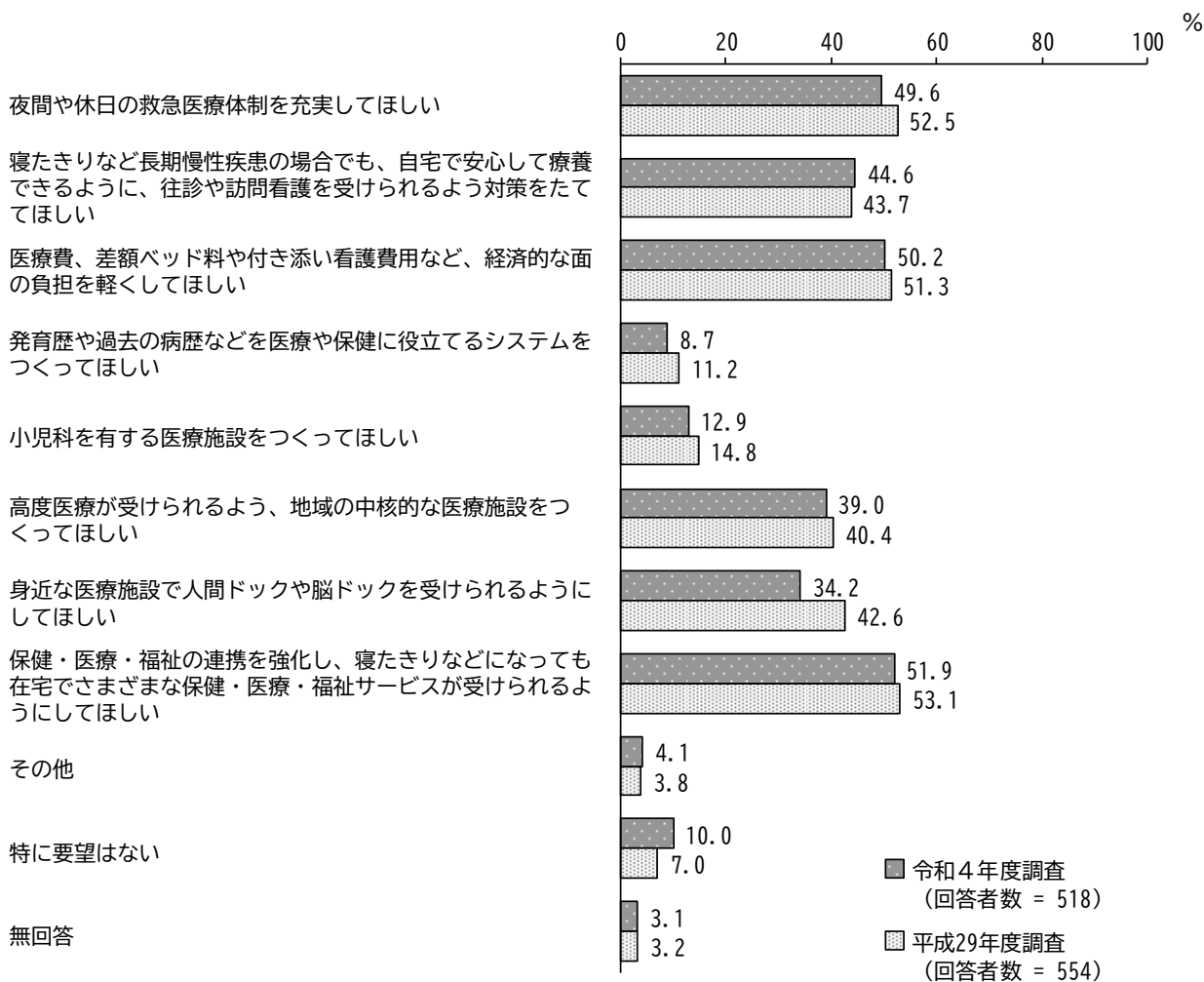
単位：％

区分	回答者数 (件)	ある	ない	知らなかった	無回答
全 体	518	5.4	53.7	40.2	0.8
15～19歳	12	—	25.0	75.0	—
20～24歳	6	—	50.0	50.0	—
25～29歳	17	5.9	35.3	58.8	—
30～34歳	17	17.6	41.2	41.2	—
35～39歳	28	17.9	42.9	39.3	—
40～44歳	35	11.4	62.9	25.7	—
45～49歳	41	9.8	46.3	43.9	—
50～54歳	37	8.1	48.6	43.2	—
55～59歳	28	—	35.7	64.3	—
60～64歳	29	—	44.8	55.2	—
65～69歳	45	4.4	64.4	31.1	—
70～74歳	78	5.1	56.4	38.5	—
75～79歳	55	—	63.6	36.4	—
80～84歳	58	1.7	65.5	25.9	6.9
85歳以上	24	—	66.7	33.3	—

問 29 あなたは、地域の医療についてどのような要望をお持ちですか。
(あてはまるものすべてに○)

「保健・医療・福祉の連携を強化し、寝たきりなどになっても在宅でさまざまな保健・医療・福祉サービスが受けられるようにしてほしい」の割合が51.9%と最も高く、次いで「医療費、差額ベッド料や付き添い看護費用など、経済的な面の負担を軽くしてほしい」の割合が50.2%、「夜間や休日の救急医療体制を充実してほしい」の割合が49.6%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「身近な医療施設で人間ドックや脳ドックを受けられるようにしてほしい」の割合が減少しています。



【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、35～39歳で「夜間や休日の救急医療体制を充実してほしい」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	夜間や休日の救急医療体制を充実してほしい	寝たきりなど長期慢性疾患の場合でも、自宅で安心して療養できるように、往診や訪問看護を受けられるよう対策をたててほしい	医療費、差額ベッド料や付き添い看護費用など、経済的な面の負担を軽くしてほしい	発育歴や過去の病歴などを医療や保健に役立てるシステムをつくってほしい	小児科を有する医療施設をつくってほしい
全 体	518	49.6	44.6	50.2	8.7	12.9
15～19歳	12	50.0	8.3	33.3	—	—
20～24歳	6	33.3	16.7	33.3	—	16.7
25～29歳	17	64.7	23.5	64.7	5.9	23.5
30～34歳	17	52.9	23.5	47.1	23.5	17.6
35～39歳	28	75.0	17.9	32.1	17.9	46.4
40～44歳	35	60.0	20.0	54.3	5.7	28.6
45～49歳	41	56.1	39.0	39.0	7.3	4.9
50～54歳	37	59.5	45.9	51.4	18.9	10.8
55～59歳	28	64.3	64.3	57.1	3.6	14.3
60～64歳	29	51.7	44.8	65.5	10.3	17.2
65～69歳	45	53.3	51.1	64.4	6.7	6.7
70～74歳	78	44.9	50.0	51.3	5.1	9.0
75～79歳	55	30.9	61.8	47.3	5.5	7.3
80～84歳	58	41.4	55.2	46.6	12.1	8.6
85歳以上	24	29.2	54.2	41.7	8.3	4.2

(次のページへ)

単位：％

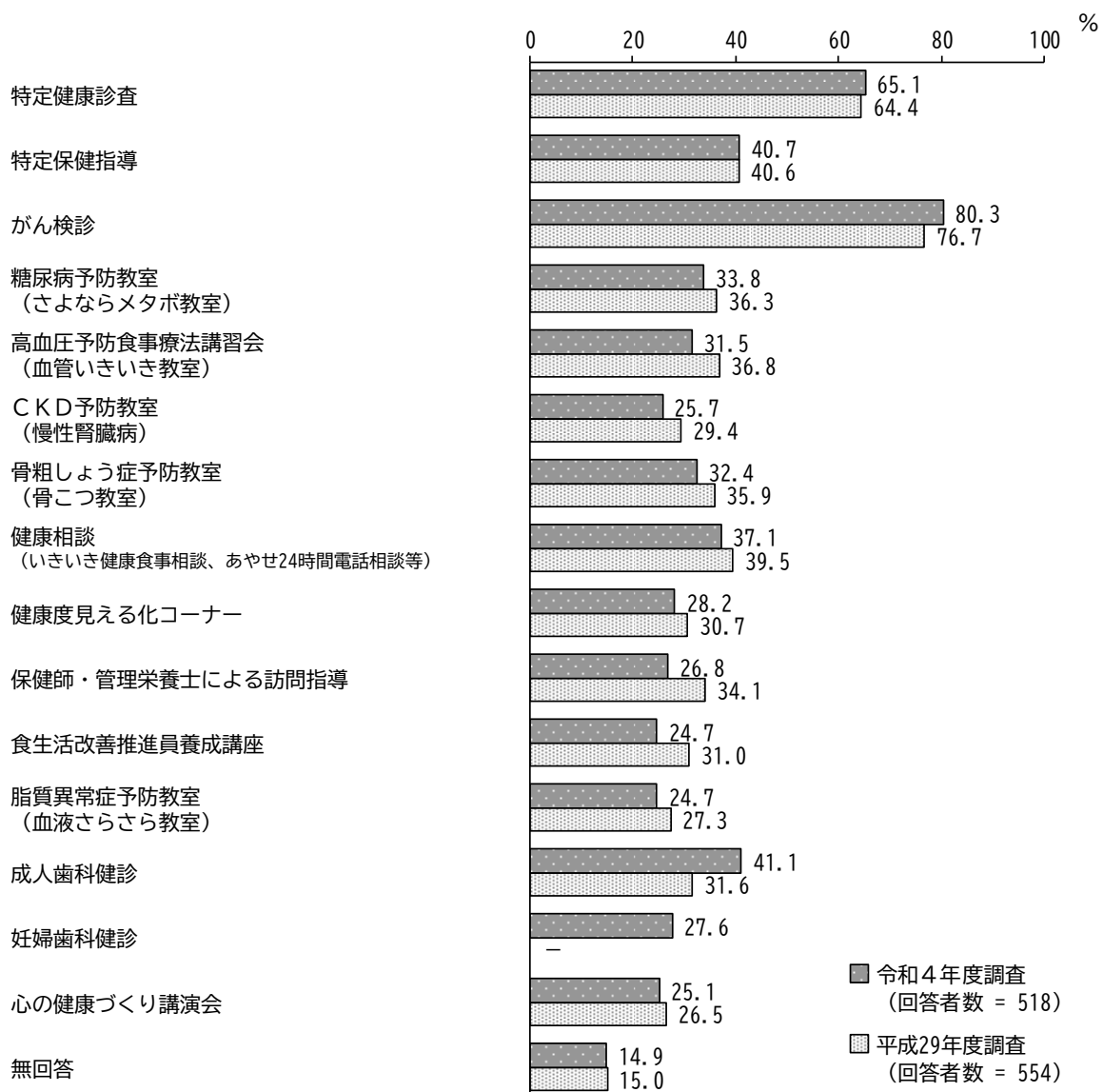
区分	高度医療が受けられるよう、地域の中核的な医療施設をつくってほしい	身近な医療施設で人間ドックや脳ドックを受けられるようにしてほしい	保健・医療・福祉の連携を強化し、寝たきりなどになっても在宅でさまざまな保健・医療・福祉サービスが受けられるようにしてほしい	その他	特に要望はない	無回答
全 体	39.0	34.2	51.9	4.1	10.0	3.1
15～19 歳	33.3	25.0	8.3	—	33.3	8.3
20～24 歳	66.7	—	33.3	33.3	—	—
25～29 歳	17.6	47.1	35.3	11.8	11.8	—
30～34 歳	5.9	29.4	5.9	5.9	17.6	—
35～39 歳	32.1	21.4	21.4	10.7	3.6	3.6
40～44 歳	28.6	37.1	34.3	8.6	8.6	—
45～49 歳	39.0	41.5	39.0	2.4	7.3	2.4
50～54 歳	45.9	37.8	56.8	8.1	18.9	—
55～59 歳	53.6	25.0	67.9	3.6	—	3.6
60～64 歳	37.9	31.0	51.7	3.4	17.2	—
65～69 歳	55.6	44.4	66.7	—	4.4	4.4
70～74 歳	44.9	34.6	60.3	1.3	10.3	2.6
75～79 歳	34.5	32.7	70.9	—	5.5	9.1
80～84 歳	41.4	36.2	62.1	3.4	12.1	5.2
85 歳以上	29.2	29.2	58.3	4.2	16.7	—

問 30 本市では、次のような保健サービスを実施しています。以下のサービスについて『1. あなたは、以下の保健サービスがあることを知っていますか。』『2. あなたは、以下の保健サービスを利用したことがありますか。』『3. あなたのお考え』それぞれお答えください。(○は各項目で1つ)

1. 知っている (あてはまるものすべてに○)

「がん検診」の割合が 80.3%と最も高く、次いで「特定健康診査」の割合が 65.1%、「成人歯科健診」の割合が 41.1%となっています。

平成 29 年度調査と比較すると、「成人歯科健診」の割合が増加しています。一方、「高血圧予防食事療法講習会 (血管いきいき教室)」「保健師・管理栄養士による訪問指導」「食生活改善推進員養成講座」の割合が減少しています。



※平成 29 年度調査では「妊婦歯科健診」の選択肢はありませんでした。

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、30～34歳で「妊婦歯科健診」「食生活改善推進員養成講座」「保健師・管理栄養士による訪問指導」の割合が、65～69・70～74歳で「特定健康診査」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	特定健康診査	特定保健指導	がん検診	糖尿病予防教室 (さよならメタバ教室)	高血圧予防食事療法講習会(血管いきいき教室)	CKD予防教室(慢性腎臓病)	骨粗しょう症予防教室(骨こつ教室)	健康相談(いきいき健康食事相談、あやせ24時間電話相談等)
全 体	518	65.1	40.7	80.3	33.8	31.5	25.7	32.4	37.1
15～19歳	12	41.7	41.7	66.7	50.0	50.0	41.7	50.0	50.0
20～24歳	6	66.7	66.7	83.3	66.7	66.7	66.7	66.7	66.7
25～29歳	17	64.7	52.9	76.5	41.2	35.3	35.3	41.2	41.2
30～34歳	17	70.6	70.6	88.2	58.8	58.8	58.8	58.8	70.6
35～39歳	28	39.3	21.4	75.0	14.3	14.3	14.3	21.4	32.1
40～44歳	35	71.4	48.6	85.7	42.9	34.3	31.4	40.0	51.4
45～49歳	41	61.0	41.5	80.5	29.3	29.3	29.3	29.3	34.1
50～54歳	37	64.9	43.2	81.1	32.4	24.3	21.6	24.3	40.5
55～59歳	28	64.3	46.4	85.7	46.4	39.3	32.1	42.9	46.4
60～64歳	29	62.1	27.6	75.9	34.5	34.5	27.6	34.5	34.5
65～69歳	45	84.4	60.0	95.6	33.3	35.6	33.3	40.0	44.4
70～74歳	78	80.8	41.0	83.3	37.2	33.3	26.9	30.8	42.3
75～79歳	55	65.5	34.5	80.0	23.6	29.1	10.9	21.8	18.2
80～84歳	58	55.2	29.3	69.0	29.3	22.4	15.5	29.3	25.9
85歳以上	24	41.7	20.8	75.0	20.8	20.8	12.5	16.7	12.5

(次のページへ)

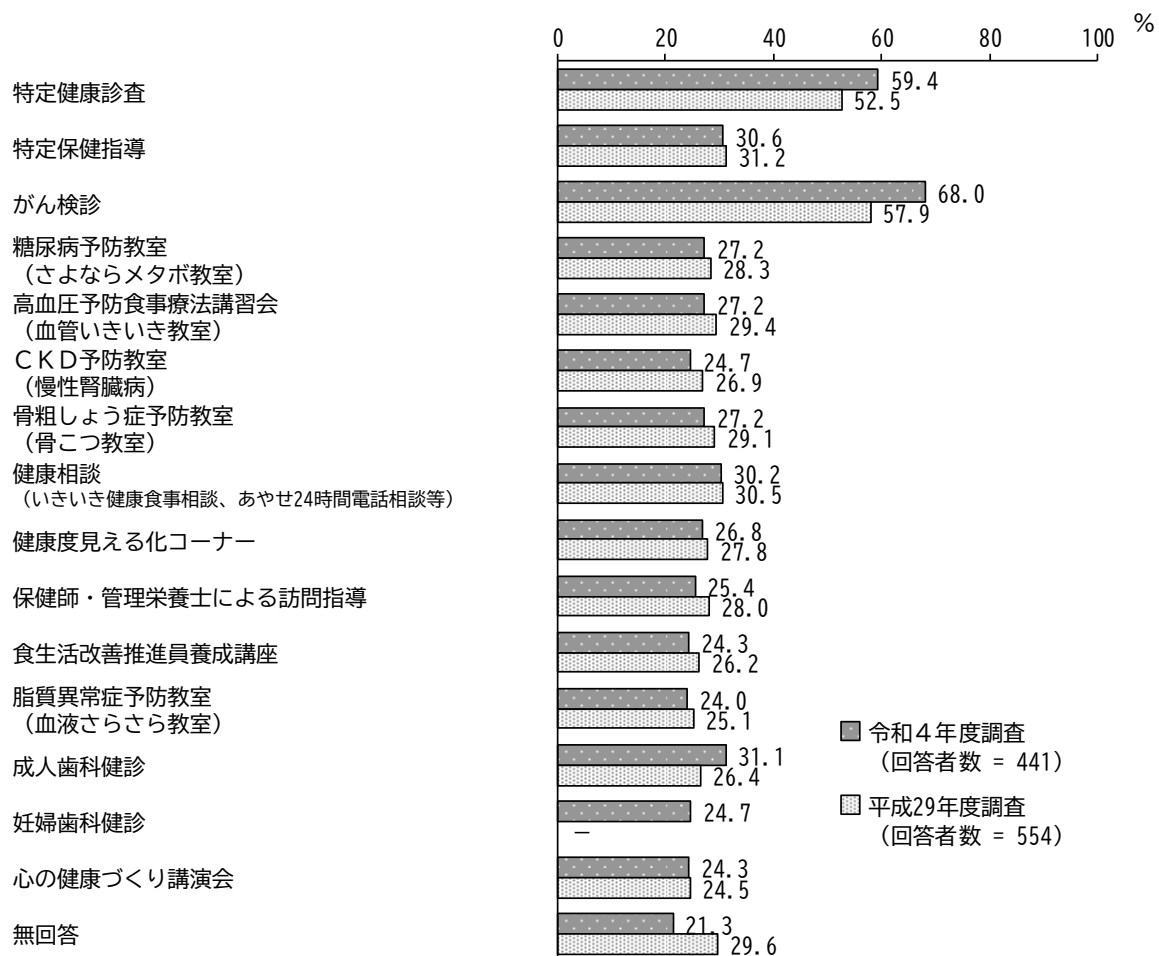
単位：％

区分	健康度見える化コーナー	保健師・管理栄養士による訪問指導	食生活改善推進員養成講座	脂質異常症予防教室(血液ごらごら教室)	成人歯科健診	妊婦歯科健診	心の健康づくり講演会	無回答
全 体	28.2	26.8	24.7	24.7	41.1	27.6	25.1	14.9
15～19 歳	41.7	50.0	41.7	41.7	41.7	41.7	41.7	33.3
20～24 歳	66.7	66.7	66.7	66.7	66.7	66.7	66.7	16.7
25～29 歳	41.2	35.3	35.3	35.3	47.1	47.1	35.3	23.5
30～34 歳	58.8	64.7	64.7	58.8	64.7	76.5	58.8	5.9
35～39 歳	14.3	28.6	14.3	14.3	32.1	35.7	21.4	21.4
40～44 歳	40.0	40.0	31.4	31.4	62.9	51.4	37.1	5.7
45～49 歳	34.1	29.3	29.3	29.3	41.5	31.7	29.3	17.1
50～54 歳	24.3	24.3	24.3	21.6	62.2	32.4	24.3	13.5
55～59 歳	39.3	32.1	32.1	35.7	50.0	35.7	35.7	10.7
60～64 歳	27.6	24.1	24.1	24.1	27.6	24.1	24.1	17.2
65～69 歳	37.8	26.7	24.4	26.7	48.9	26.7	28.9	2.2
70～74 歳	21.8	25.6	23.1	26.9	44.9	20.5	23.1	10.3
75～79 歳	21.8	12.7	14.5	10.9	27.3	7.3	7.3	16.4
80～84 歳	15.5	15.5	13.8	12.1	24.1	10.3	12.1	25.9
85 歳以上	12.5	12.5	12.5	12.5	16.7	8.3	16.7	16.7

2. 利用したことがある（あてはまるものすべてに○）

「がん検診」の割合が68.0%と最も高く、次いで「特定健康診査」の割合が59.4%、「成人歯科健診」の割合が31.1%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「特定健康診査」「がん検診」の割合が増加しています。



※平成29年度調査では「妊婦歯科健診」の選択肢はありませんでした。

※令和4年度調査では「1. 知っている」と回答した方を対象としています。

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、30～34歳で「健康相談（いきいき健康食事相談、あやせ24時間電話相談等）」の割合が、70～74歳で「がん検診」の割合が、75～79歳で「特定健康診査」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	特定健康診査	特定保健指導	がん検診	糖尿病予防教室(さよならメタバ教室)	高血圧予防食事療法講習会(血管いきいき教室)	CKD予防教室(慢性腎臓病)	骨粗しょう症予防教室(骨こつ教室)	健康相談(いきいき健康食事相談、あやせ24時間電話相談等)
全 体	441	29.5	2.9	35.4	1.8	2.3	1.6	2.0	5.0
15～19歳	8	—	—	—	—	—	—	—	—
20～24歳	5	—	—	—	—	—	—	—	—
25～29歳	13	7.7	—	15.4	—	—	—	—	7.7
30～34歳	16	—	—	12.5	—	—	—	—	18.8
35～39歳	22	—	—	36.4	4.5	4.5	4.5	4.5	13.6
40～44歳	33	12.1	—	30.3	—	—	—	—	9.1
45～49歳	34	17.6	—	29.4	—	—	—	—	5.9
50～54歳	32	18.8	—	40.6	—	—	—	—	—
55～59歳	25	16.0	—	28.0	—	—	—	—	—
60～64歳	24	29.2	4.2	25.0	4.2	—	—	—	—
65～69歳	44	34.1	2.3	34.1	—	—	—	—	—
70～74歳	70	54.3	4.3	51.4	2.9	4.3	4.3	1.4	7.1
75～79歳	46	56.5	6.5	45.7	—	8.7	2.2	6.5	2.2
80～84歳	43	39.5	7.0	51.2	7.0	2.3	2.3	7.0	4.7
85歳以上	20	20.0	5.0	20.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0

(次のページへ)

単位：％

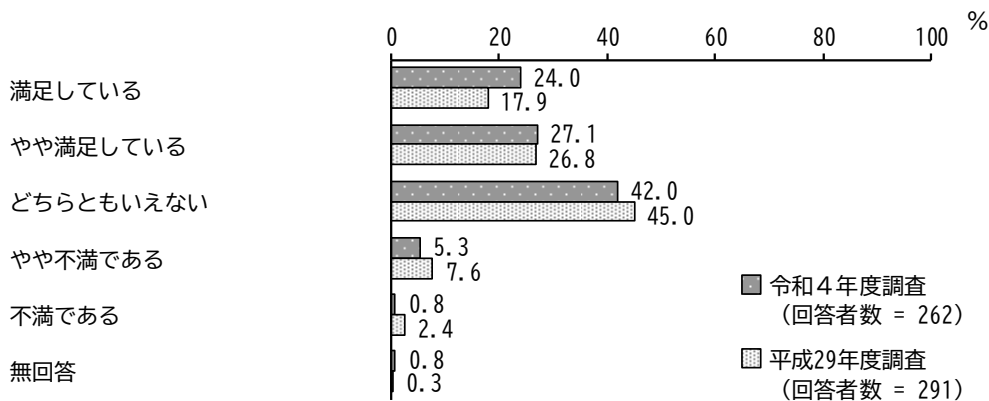
区分	健康度見える化コーナー	保健師・管理栄養士による訪問指導	食生活改善推進員養成講座	脂質異常症予防教室（血液から学ぶ教室）	成人歯科健診	妊婦歯科健診	心の健康づくり講演会	無回答
全 体	3.9	2.0	1.4	1.4	4.3	1.6	0.5	51.5
15～19 歳	—	12.5	—	—	—	—	—	87.5
20～24 歳	—	—	—	—	—	—	—	100.0
25～29 歳	—	—	—	—	—	—	—	76.9
30～34 歳	—	—	—	—	6.3	6.3	—	68.8
35～39 歳	4.5	9.1	4.5	4.5	9.1	4.5	—	45.5
40～44 歳	—	—	—	—	12.1	3.0	—	54.5
45～49 歳	8.8	—	—	—	—	2.9	—	55.9
50～54 歳	—	—	—	—	9.4	—	—	59.4
55～59 歳	4.0	—	—	—	—	—	—	64.0
60～64 歳	4.2	—	—	—	—	—	—	58.3
65～69 歳	4.5	—	—	—	4.5	—	—	59.1
70～74 歳	2.9	1.4	2.9	2.9	8.6	1.4	—	34.3
75～79 歳	6.5	2.2	2.2	2.2	—	—	—	34.8
80～84 歳	7.0	7.0	2.3	2.3	—	2.3	2.3	37.2
85 歳以上	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	65.0

3. あなたのお考え（○は各項目で1つ）

ア 特定健康診査

「満足している」と「やや満足している」をあわせた“満足している”の割合が51.1%と、5割を超えています。

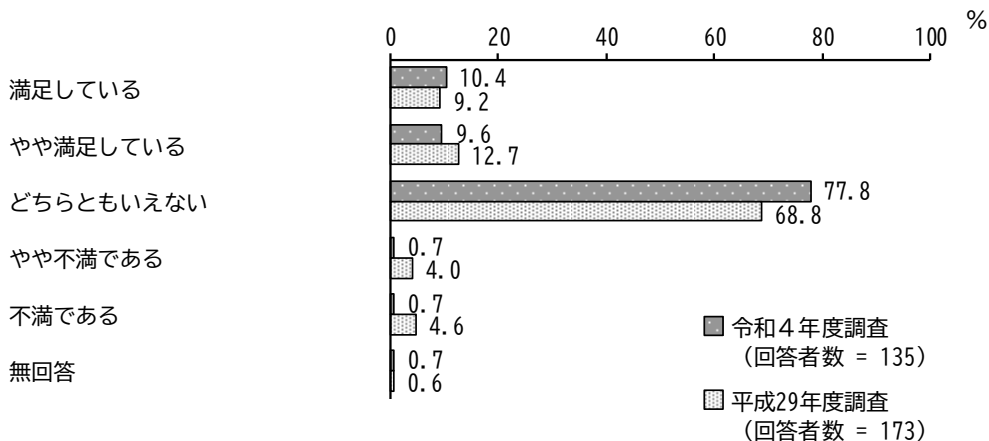
平成29年度調査と比較すると、“満足している”の割合が増加しています。



イ 特定保健指導

「満足している」と「やや満足している」をあわせた“満足している”の割合が20.0%と、2割となっています。

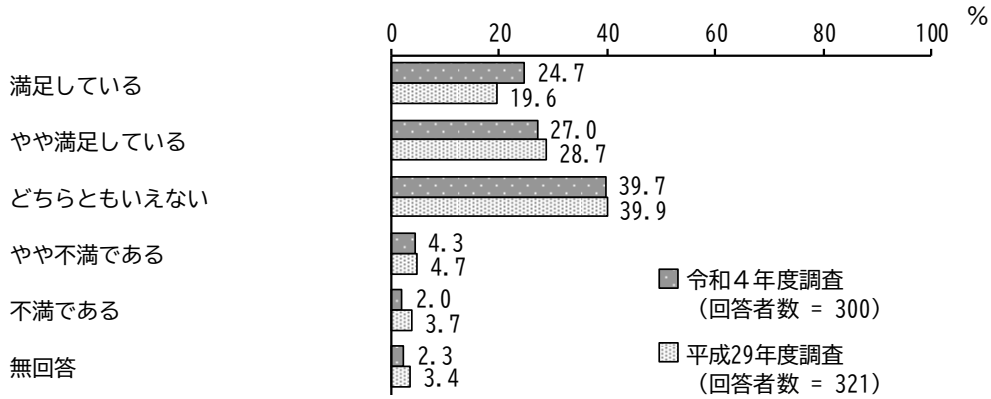
平成29年度調査と比較すると、「どちらともいえない」の割合が増加しています。



ウ がん検診

「満足している」と「やや満足している」をあわせた“満足している”の割合が51.7%と、5割を超えています。

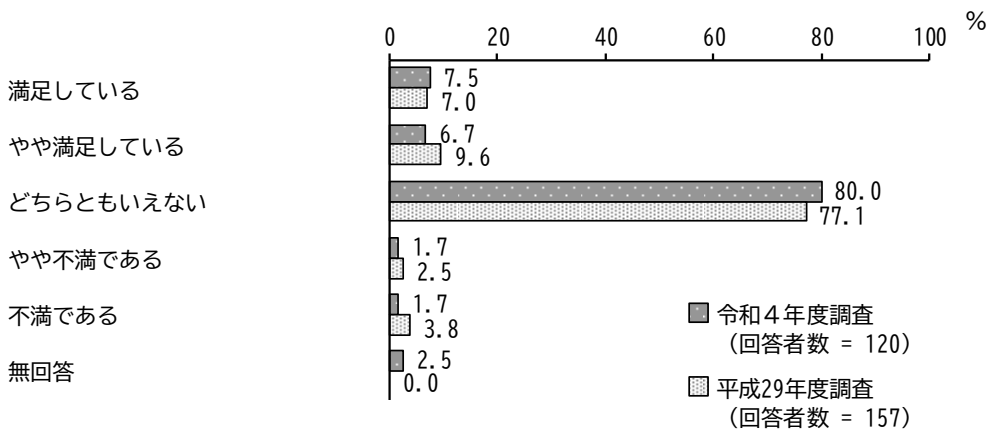
平成29年度調査と比較すると、“満足している”の割合が増加しています。



エ 糖尿病予防教室（さよならメタボ教室）

「満足している」と「やや満足している」をあわせた“満足している”の割合が14.2%と、1割を超えています。

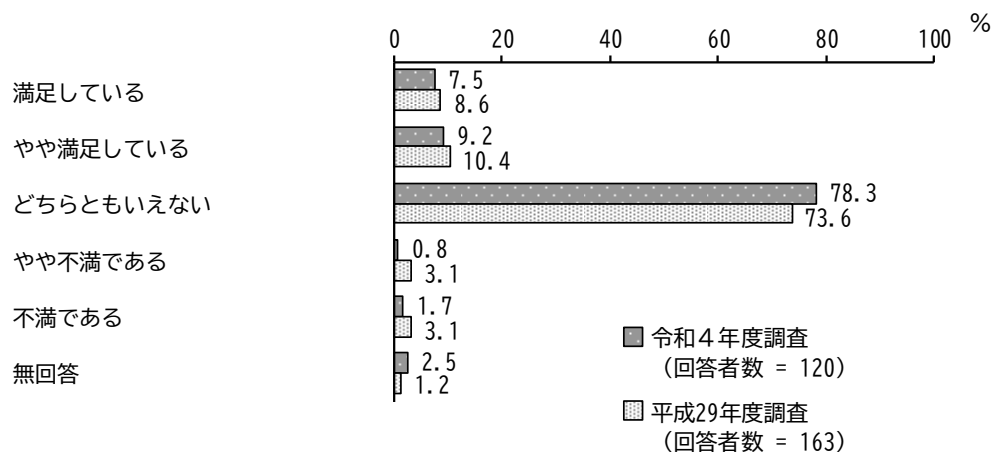
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



オ 高血圧予防食事療法講習会（血管いきいき教室）

「満足している」と「やや満足している」をあわせた“満足している”の割合が16.7%と、2割近くとなっています。

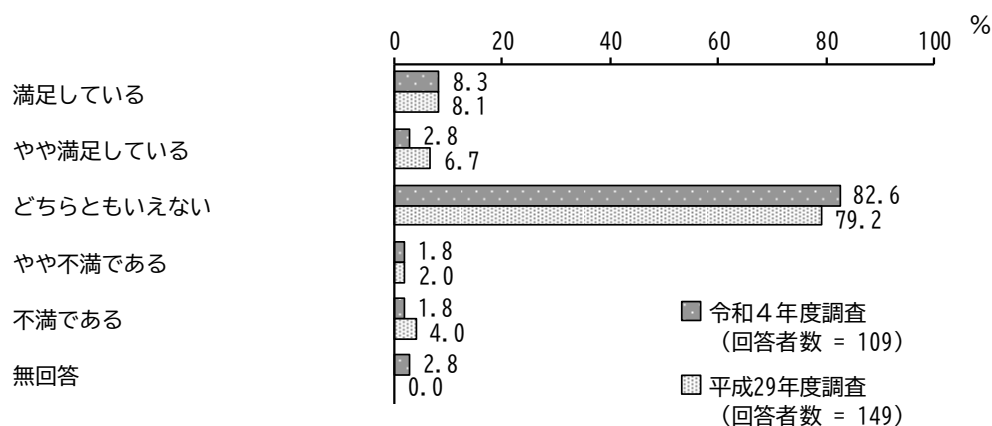
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



カ CKD予防教室（慢性腎臓病）

「満足している」と「やや満足している」をあわせた“満足している”の割合が11.1%と、1割を超えています。

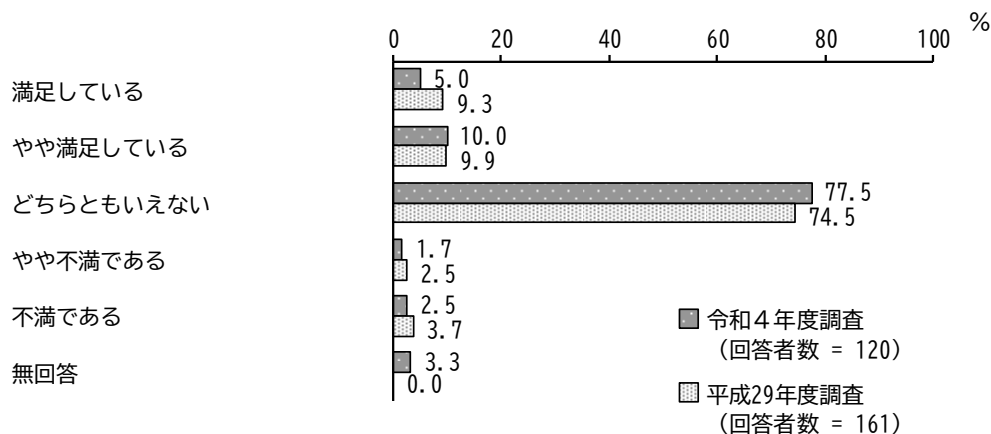
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



キ 骨粗しょう症予防教室（骨こつ教室）

「満足している」と「やや満足している」をあわせた“満足している”の割合が15.0%と、1割半ばとなっています。

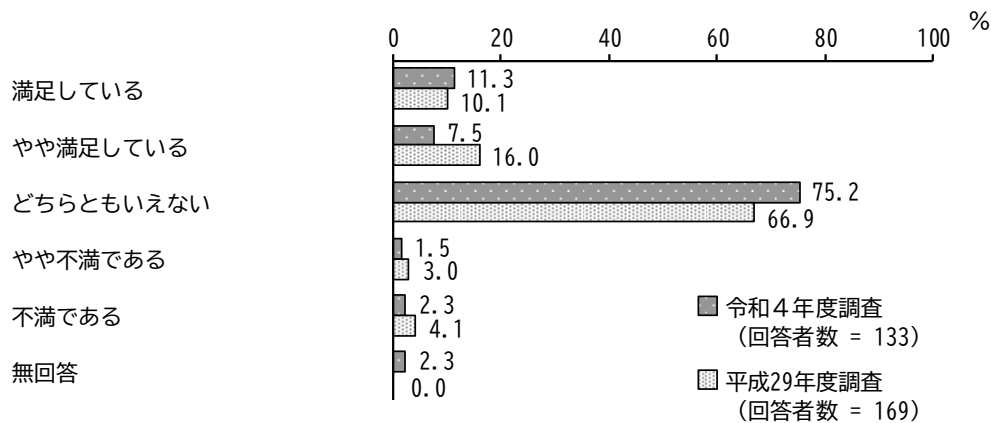
平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



ク 健康相談（いきいき健康食事相談、あやせ24時間電話相談等）

「満足している」と「やや満足している」をあわせた“満足している”の割合が18.8%と、2割近くとなっています。

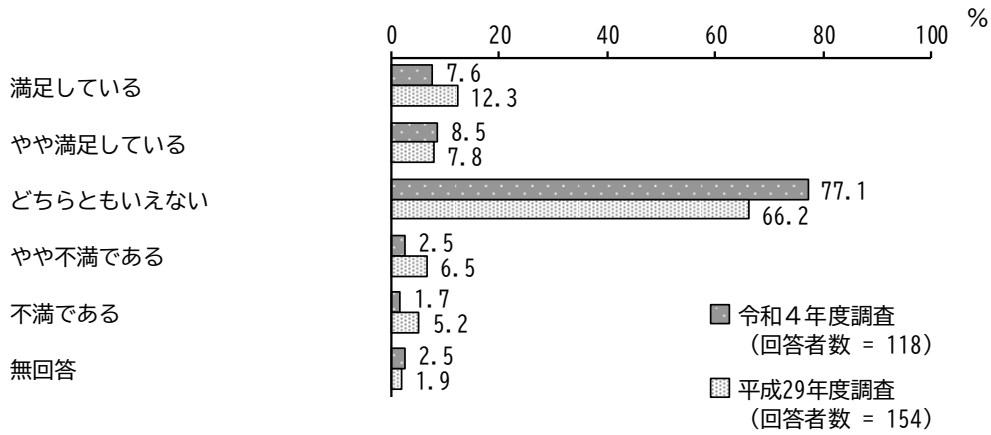
平成29年度調査と比較すると、“満足している”の割合が減少しています。



ケ 健康度見える化コーナー

「満足している」と「やや満足している」をあわせた“満足している”の割合が16.1%と、1割半ばとなっています。

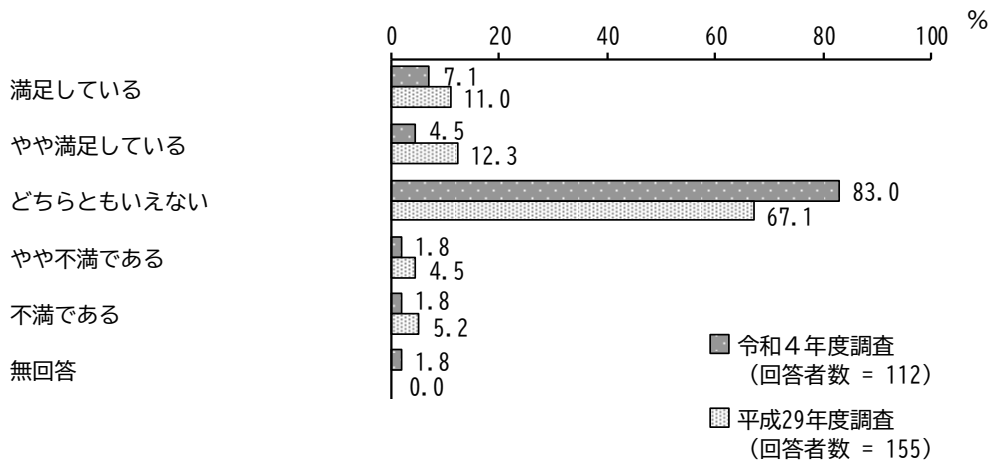
平成29年度調査と比較すると、「どちらともいえない」の割合が増加しています。一方、“不満である”の割合が減少しています。



コ 保健師・管理栄養士による訪問指導

「満足している」と「やや満足している」をあわせた“満足している”の割合が11.6%と、1割を超えています。

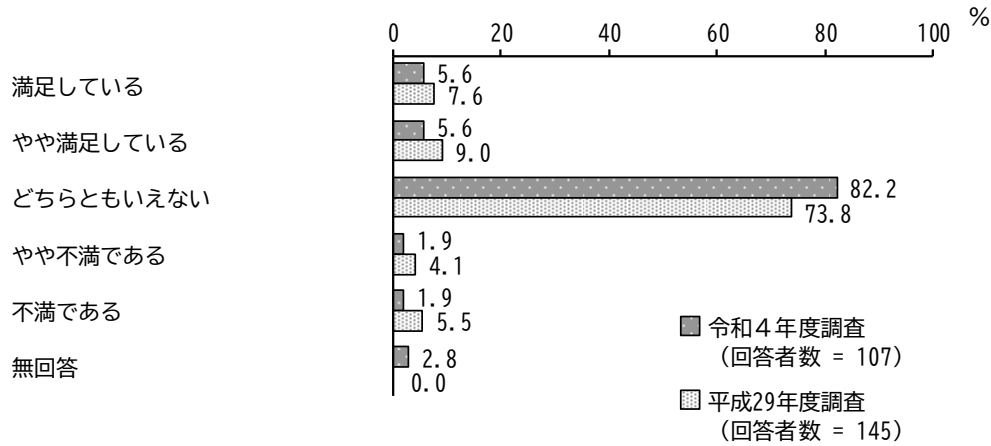
平成29年度調査と比較すると、「どちらともいえない」の割合が増加しています。一方、“満足している”“不満である”の割合が減少しています。



サ 食生活改善推進員養成講座

「満足している」と「やや満足している」をあわせた“満足している”の割合が11.2%と、1割を超えています。

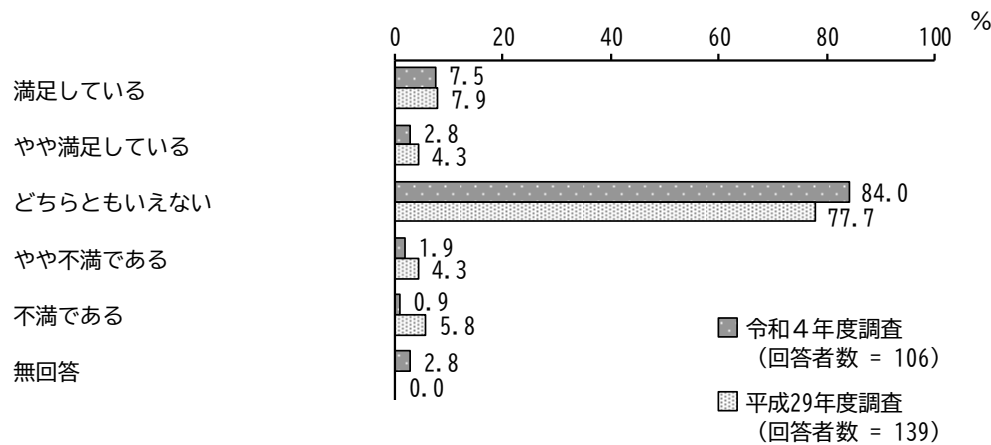
平成29年度調査と比較すると、“満足している”の割合が減少しています。



シ 脂質異常症予防教室（血液さらさら教室）

「満足している」と「やや満足している」をあわせた“満足している”の割合が10.3%と、1割となっています。

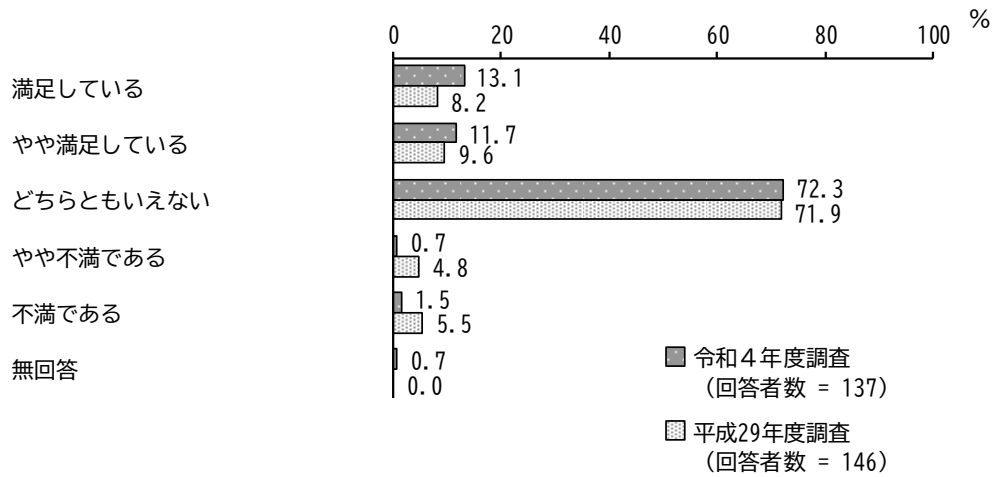
平成29年度調査と比較すると、“不満である”の割合が減少しています。



ス 成人歯科健診

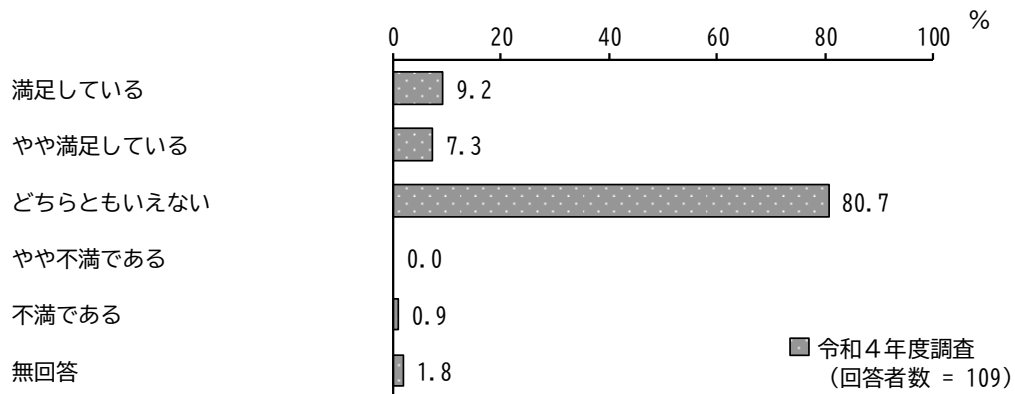
「満足している」と「やや満足している」をあわせた“満足している”の割合が24.8%と、2割半ばとなっています。

平成29年度調査と比較すると、“満足している”の割合が増加しています。一方、“不満である”の割合が減少しています。



セ 妊婦歯科健診

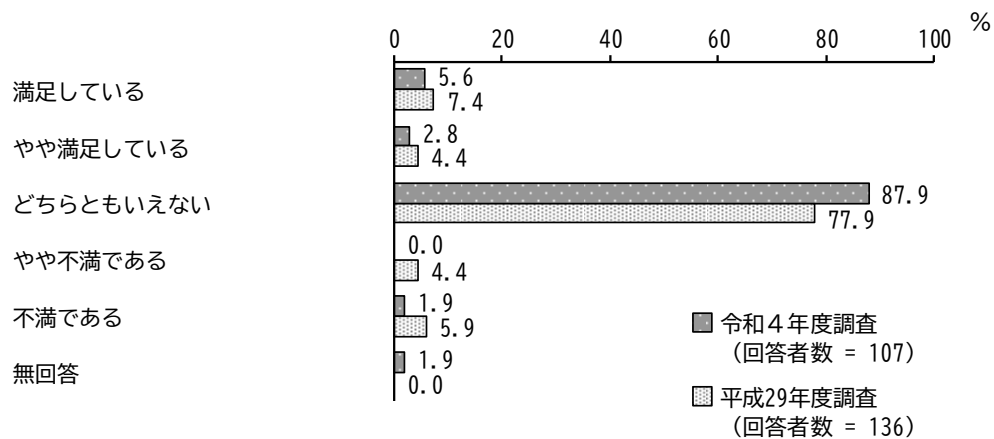
「どちらともいえない」の割合が80.7%と最も高くなっています。



ソ 心の健康づくり講演会

「満足している」と「やや満足している」をあわせた“満足している”の割合が8.4%と、1割近くとなっています。

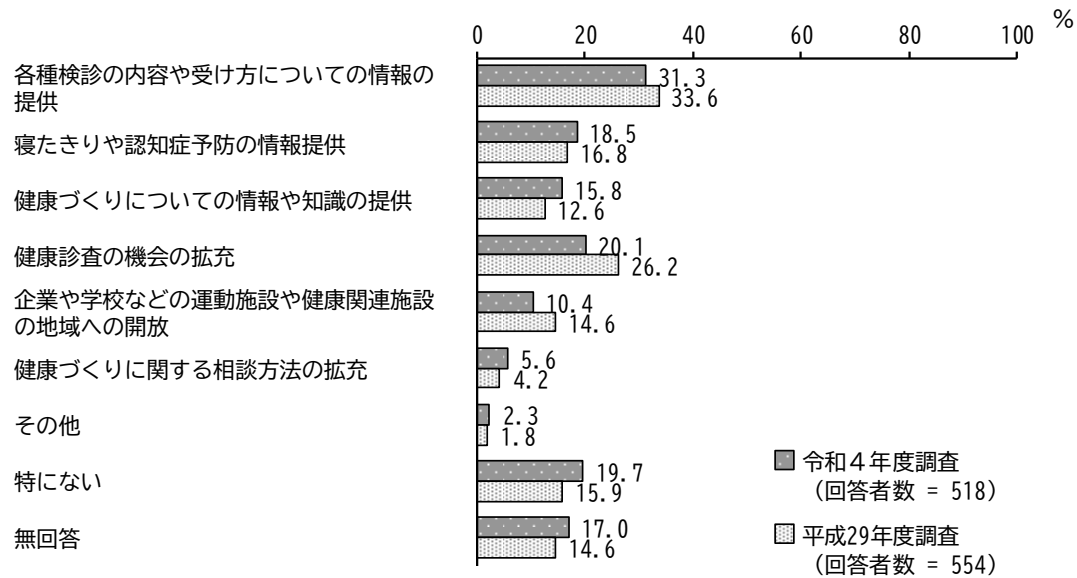
平成29年度調査と比較すると、「どちらともいえない」の割合が増加しています。一方、“不満である”の割合が減少しています。



問 31 今後、あなたが健康づくりに取り組んでいくうえで、市に対して要望したいことは何ですか。(〇は2つまで)

「各種検診の内容や受け方についての情報の提供」の割合が31.3%と最も高く、次いで「健康診査の機会の拡充」の割合が20.1%、「特にない」の割合が19.7%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「健康診査の機会の拡充」の割合が減少しています。



4 ボランティア団体・NPO

(1) 地域との関わりについて

問1 貴団体が取り組んでいる地域における活動の分野と活動内容をお答えください。

	活動分野	活動内容
A	外国人支援	日本語教室を実施
B	児童福祉	外国につながる児童への日本語指導
C		布おもちゃ・絵本の作成、展示イベント、ワークショップ チャレンジボラの受入れ（コロナ下の為、未実施）
D	芸術文化	オペラ公演を通して市民と交流 依頼があればボランティア訪問
E	子どもの花育教室	フラワーアレンジメント、花育 子ども達が、植物に触れ合える場を作る。
F	手話の学習指導	手話の普及 市内の小中学校、県立高校などへ福祉教室としての手話の 学習と交流を行なっている。
G	安全で安心な地域づくり	寺尾南自治会内の「安全で安心な地域づくり」 週1回の地域内の防犯パトロール、ゴミ拾い 寺尾小学校登校時朝の見 守り
H	福島県から綾瀬市に居住及 は勤務する福島県人	会員の相互の親睦
I	障害者福祉、高齢者福祉	要約筆記の理解の促進・啓発活動、会員同士の交流会、ボランティア活 動。 社協を通して市内、学校での福祉教室の開催。年1回程度、会員ではな くとも参加できる交流会や施設見学会の開催 福祉サービスを使えな い人へのバックアップ。
J	ボランティア	各事業及びボランティア活動 環境整備
K	子供からお年寄りのご要望 に応える	おもちゃの修理で物を大切に、リサイクル意識の改善と、ドクターと 子供達とのコミュニケーションを図る。 ドクターの技術向上、健康管理 おもちゃの修理
L	高齢者福祉のおむつた たみ、そうじ、ふとん乾燥の手 伝い。	アフリカへ毛布を送る運動をしていました。今は老人ホームのお手伝 い。
M		広報あやせの点訳、希望者への郵送、バス時刻表の点訳 小・中・高校 からの福祉授業（点字）に参加。点字の触読を希望される方への指導。 カレンダー（小型）の点訳
N	ギターアンサンブル	ギターアンサンブル活動 ボランティア、自主発表会
O	災害ボランティア	災害時のボランティア活動、拠点及び情報伝達手段の整備体制づくり。 そのための訓練、人材育成等。 防災教育 各種事業に参画、出展し、防災、減災についての知識を広め る
P		救護活動 各種イベントにおける救護活動を実施しています。
Q		地域の外国人と日本語を共に学ぶことにより安心できる居場所を作る。
R	社会福祉	TNR 活動・子猫の保護 野良猫をこれ以上増やさない為の活動
S	市内外居住、勤務している 外国人の支援	インドシナ難民（ベトナム、ラオス、カンボジア）定住に必要な日本語 学習と生活支援をするためのボランティア。 日本語学習と日本の生活を援助する。定住者、日本人と結婚した配偶者 （外国籍）の日本語指導を主にし教室に集った学習者達との情報交換の 場所としても活用
T	市内小学校 3 年生の総合学 習出前講座	豚まん作り 市内の小学校 3 年生の総合学習の時間に豚まん作りと高座 豚のお話の出前講座。一般募集で人材支援講座

	活動分野	活動内容
U	児童福祉	拡大教科書の作成 プライベートサービスのため、交流することはありません
V	高齢者福祉、障がい児者福祉	福祉有償運送（移動サービス）事業、その他 綾瀬市民で介護認定者や障がい者手帳をお持ちの方に会員になっていただき、外出支援活動を実施。又、会員及び住民対象のお出かけ企画や福祉講座 etc を主催。
W		希望する外国人に日本語あるいは、学習支援
X	児童福祉 高齢者福祉	施設入居者と共にバルコンサートやお話し会を楽しんでいます
Y	高齢者福祉	高齢者の話の聴き役
Z	高齢者福祉	高齢者施設への訪問 フルート・リコーダー、ビオリラのアンサンブル
AA	国際交流、外国人サポート	市内外の外国人住民との交流やサポート 日本語教室 国際イベントの開催 外国料理料理教室開催

問2 貴団体と交流のある団体と交流内容をお答えください。

	交流内容
A	支援金をいただいている。スタッフが足りない時など補助してもらっている。日本語教室としては、あやせ国際フェスティバルの参加 その他イベント参加&補助
B	
C	作品展示（4月2～3Wのみ）
D	綾瀬の文化向上。
E	特になし。
F	あやせ福祉まつりに参加し、他の参加団体との交流し、理解し合う。
G	補助金の受給、活動の援助
H	自治会、老人クラス各サークル
I	社協（ボランティアセンターあやせ）→市内の学校で出前授業 手話サークルあやの会→要約筆記体験企画
J	
K	
L	
M	総会資料の点訳、行事のお手伝い。
N	ギター交流会
O	毎年夏休みに防災教育を実施
P	特定の団体はありません。
Q	
R	
S	外国籍の学習者の法律相談や日常生活での相談
T	コロナで出前依頼なし。
U	総会等の手伝い 総会資料等の作成
V	おでかけ綾瀬の立上げから、多々指導していただいております、今後も継続して交流していく。
W	ボランティアの交通費の一部補助、教室の確保、希望者の紹介等
X	児童館でのバルコンサートを青少年課より依頼。地域の民話冊子作成で生涯学習課に相談。
Y	
Z	施設を訪問して、演奏を聴いていただいたり、みなさんと歌を歌って楽しむ。
AA	オペラ公演開催の後援 スタッフとしてサポート

問3 貴団体が行っている地域における活動の頻度をお答えください。(1つに○)

週4回以上 (1件)
 年6~11回 (2件)
 その他 (4件)

週1~3回 (8件)
 年1~5回 (6件)

月1~3回 (3件)
 活動していない (3件)

	活動頻度
A	
B	
C	
D	
E	
F	
G	月3~4回のパト 登校時朝の見守り
H	
I	
J	
K	
L	
M	
N	
O	
P	
Q	月4回 (第1~第4日曜日午後)
R	
S	相談があった時
T	
U	
V	
W	
X	コロナ前は年回200回公演・コンサートを実施していました。
Y	
Z	
AA	

問4 貴団体が地域活動の対象としている主な地域をお答えください。(1つに○)

町内 (1件)

小学校区 (1件)

中学校区 (0件)

市内広域 (12件)

市内と市外 (5件)

特定していない (5件)

その他 (1件)

	地域活動の対象地域
A	
B	
C	
D	
E	
F	
G	
H	
I	
J	
K	
L	
M	
N	
O	
P	
Q	基本的には市内在住在勤ですが、他の場合もお断りはしません。
R	
S	
T	
U	
V	
W	
X	海老名市、座間市、厚木市
Y	
Z	
AA	

問5 貴団体などが地域活動を行う上で問題となることをお答えください。

	問題点
A	日本語を習いたい人は多いが、色々なニーズに対応しきれない。
B	
C	メンバーの高齢化。新規会員が確保できない
D	
E	他団体との交流機会が少ない。
F	働きながら、活動しているメンバーが多く、イベントなどの参加への招集しにくくなっていること。
G	隊員の高齢化による隊員の減少 新規隊員の加入者が居ない 朝の見守り時警察、市からの指導不足
H	コロナ発生後集会が少なくなった メンバーの高齢化により会員が少なくなった
I	会員が少なく、特にボランティア活動の幅を広げられない。
J	環境整備を実施するために必要な道具・資材の用意
K	メンバーの高齢化
L	メンバーの高齢化
M	当会とお相手、双方の高齢化、さけられないことではあります。
N	メンバーの高齢化、会員不足等
O	メンバーの高齢化、会員数の減少
P	団員の高齢化と市内の団員が少ないのが問題かと思われる。
Q	メンバーの高齢化です。
R	人手不足、費用負担が多く活動継続が厳しい。
S	設立当時ほどではないが、国の違いによっておこる生活習性のトラブル、日本語の指導よりも生活の中での困りごとに対処するメンバーがいない。
T	メンバーの高齢化
U	
V	利用会員が増える一方で、メンバーの高齢化も進んでおり、運行対応がしづらくなってきている。
W	ボランティアの数が少ない。
X	メンバーの高齢化で免許返上する人がふえ、依頼がきても行きにくくなっている。
Y	
Z	特になし
AA	主なメンバーの高齢化からの世代交代 外国人サポートなどの希望が多く、メンバーが足りない どこでも車でいかななくてはならないので、車を運転しない人の移動の問題

問6 問5の問題を解決するために、どのような取り組みや支援が必要だと思いますか。具体的に記入してください。

	問題解決のための必要な取組、支援
A	メンバーを増やす。日本語ボランティアの質の向上
B	
C	
D	
E	ボランティアセンターが仲介に入り各団体を紹介してくれると助かります
F	さらに手話サークルの会員を増やし、イベントへの参加をしやすくすること。
G	自治会の積極的な宣伝、隊員加入の促進 寺尾小学校からの朝の見守り人員の募集
H	現状でよい
I	市職員の方の協力。広報あやせでの特集記事など。福祉、保健のサークルと趣味のサークルとは違うので、前者はもっとバックアップしてほしい。
J	活動に必要な人数は確保できると考えるので、その人数に見合った道具・資材の準備・調達を市で実施していただくと助かる。現状：私物持参。
K	
L	若い人達の意識向上を願いたいのですがまめな声かけ、と何か興味と魅力がほしいかな？
M	両者の対象を目的とする体験会、講習会の開催
N	PR 活動
O	JC、商工会青年部、法人会青年部等青年団体との交流
P	イベントを通してピーアールと団員確保に取り組む必要性を感じている。赤十字綾瀬市地区の協力をうけて活動の推進を図っていきたい。
Q	今のところ、60代、70代で運営できています。日曜午後ということで、若い方にお伝えはしていますが、なかなか厳しいです。
R	行政が対応してほしい。
S	外国人学習者が工場、弁当屋、クリーニング工場など多くの会社で働き地域のために貢献していることを市民に知ってもらい、地域で学習者を支援する環境を作ることが必要
T	多勢の入る実習室があればメンバーの募集が出来る
U	
V	市で主催している担い手研修や、その他福祉団体交流を積極的に参加し、メンバー増に繋げる。
W	
X	公用車で地域施設などへ自由に行けるようにしてほしいです。
Y	
Z	
AA	特に車以外の移動手段を増やしてほしい。

問7 地域の担い手を増やすためにどのような取り組みや支援が必要だと思いますか。

	担い手を増やすために必要な取組、支援
A	学校、市、さまざまな団体との交流。日本語講師に謝礼
B	
C	
D	
E	学校行事などに参入したい。
F	現在行なっている、手話の入門講座の開講を継続。市内の学校の福祉教室を充実させること。
G	自治会の積極的な宣伝、隊員加入の促進 寺尾小学校からの朝の見守り人員の募集+隊員自身での飲み会、行事等を利用しての勧誘
H	
I	当サークルは有資格ではないとボラ活動をしないため、市での養成講習会の開催や県の養成講習会の広報を行っていただけると、市民の方が受講できるようになります。
J	小・中学生と共に実施するボランティア活動（ボランティア・助け合いを習慣や日常生活の一部とする）
K	市のイベントへの参加でPRする
L	イベントの開催
M	
N	
O	JC、商工会青年部、法人会青年部等青年団体との交流+消防団OBへの声かけ
P	イベントの開催、PR
Q	まず、現在の活動を楽しく充実したものにする。
R	活動の周知が必要。
S	今まで何回も日本語支援のための講習会を開催したが、長く続かず、市内には外国人がたくさん住んでいて隣の（あなた）市民が声をかけてくれることが一番必要なのだと分ってもらえるような広報。
T	豚まんの出前講座 市内の小学校3年生（総合学習の時間）コロナが治まったら会員募集したい
U	
V	種々、交流する場を設ける。
W	
X	
Y	
Z	ボランティアをしたいと思っている人は大勢いると思うので、登録のPRをしたり、実際にボランティアをしている様子を伝えたりできたら。
AA	グループをわかりやすく、常にPRする。市のボランティアあっせん団体との連携 市との連携 学校との連携

問8 今後、地域でのボランティアや助け合いなど、地域活動をさらに活性化させるために必要だと思うことをお答えください。

	地域活動の活性化に必要なこと
A	交通費の支給。少額でも謝礼。子供がいても参加できる仕組み
B	
C	
D	
E	参加できる仕組み作り、PRをお願いしたい
F	手話関連のテレビや映画の撮影をあやせロケ隊のみなさんに頑張ってもらいたい。
G	自治会の積極的な宣伝、隊員加入の促進 寺尾小学校からの朝の見守り人員の募集
H	
I	有償ボランティアを基本にして謝礼や利用料を明確にすることで、支える人も利用する人も増える。
J	団体同士が交流できるイベント開催（ボランティア団体同士）団体の存在意義を、広く多くの方々に知っていただけるPRイベント開催
K	
L	参加しやすい仕組
M	問7と重なりますが、たかが点字かと思われるでしょうが、知ることにより視覚に障がいを持たれる方のご苦労がいたい程、理解できます。例（住民に向けてPRする、参加できる仕組みづくりをするなど）に書かれたとおりです。多くの機会を提供して下さい。
N	
O	防災訓練+親子参加型イベントの組み合わせ。ex) 早川自治会のスタンプラリーとの一体化
P	市民が参加できるようなイベントを実施しPRしていかなければならないと思っています。
Q	例（住民に向けてPRする、参加できる仕組みづくりをするなど）にあげていらっしゃる2つの事は大切だと思います。
R	問題意識を地域で共有してほしい。
S	若い人達に外国籍の人達と気軽に会える交流の場を作る。スピーチ大会のような固いイベントではなく、話せる日本語だけでも交流はできる。
T	広報でまた募集したい。
U	
V	いろいろな媒体によるPR活動。
W	他の日本語教室のボランティアの当会への参加（2名）
X	参加しやすい仕組みづくりが必要です。
Y	
Z	
AA	活動場所を増やす。たとえば、地区センターや公民館などをもっと貸りやすく使いやすく、して下さい。地区センターなどをなくして統合するみたいですが、地域活動をさせない様にしているのか！？と思える。

問9 ボランティア活動を希望する市民へ地域活動やボランティア活動のマッチングを行っているアクティブ・シニア応援窓口を知っていますか。(1つに○)

知っており、登録している(8件)

知っているが、登録していない(14件)

知らない(4件)

	知っているが、登録していない理由
A	できる限りグループメンバーの割合を若い人にしたい。
B	
C	
D	以前登録したかもしれません。
E	
F	現段階で、充実しているから。
G	自治会内の活動の為、市社協のボラ連には参加
H	
I	登録しないといけないことを知らなかった
J	
K	
L	
M	
N	良く分らない。
O	
P	内容がわからないため。窓口があることだけは知ってます。
Q	
R	以前、登録していたが、全く反響がなかった。
S	今まで何回も受け入れたが続けられる人がいない。
T	
U	
V	
W	
X	
Y	
Z	今は暇がないのでこれ以上手を広げられない。
AA	

問 10 子ども、高齢者、障がいのある方などの福祉に関する市の情報を十分に入手できていますか。(1つに○)

できている (0件)

ある程度できている (21件)

できていない (6件)

《問 10 で「1」、「2」のいずれかをお答えの方にお聞きします》

問 10-1 必要な情報をどこから入手していますか。

	情報の入手方法
A	広報、ちらし (公民館など)
B	市の担当課
C	広報
D	社協
E	広報
F	
G	寺尾南自治会、寺尾南福祉協議会、市社協
H	会報
I	綾瀬市ホームページの行政資料、統計あやせから
J	H.P.
K	
L	・ボランティア情報誌 ・市民活動センターあやせ情報紙
M	
N	
O	社協との連携、当該団体のメンバーと重複している会員
P	
Q	広報、市役所市民活動推進課、社会福祉協議会 市のHP
R	
S	日本語教室の活動の中社会福祉協議会の職員とも長い知り合いもいて時々、支援の要請や相談があり、その中で現状をさく機会がある。
T	社協の講習会等
U	教育委員会
V	市役所ホームページ、或は福祉総務課、障がい福祉課に確認する。
W	綾瀬市役所
X	公報
Y	市社協
Z	市や社協の広報紙
AA	広報、各公民館のチラシ

問 11 災害発生時に地域の被災者に対してどのような救助活動や支援ができると考えていますか。

	災害発生時にできる救助活動や支援
A	外国人住民に対する様々な支援
B	できない
C	特段なし
D	会としての活動、支援は難しい
E	避難所での支援。
F	普段からの交流をつくり、LINEなどを交換し安否確認等を行うこと。
G	自治会会員として協力・・・パトロール隊として依頼があれば協力
H	
I	聞こえにくい、聞こえない人への情報保障（避難所にて）
J	任務に従事するため支援できない
K	
L	
M	具体的な支援内容はわかりません。視覚に障がいがある方には誘導でしょうか。
N	
O	来綾ボランティアとのニーズマッチング
P	地域防災計画に基づき、救護班に位置付けられていますが、何も決定されておらず、訓練もなく、何をすべきか？
Q	避難所での支援（自分が、どの程度の被災によっても違うと思います）
R	ペットの受け入れ先の紹介
S	授業の中では避難場所や方法を指導しているが現実におきた時は支援できない。
T	
U	
V	利用者さんの避難誘導。ただし、メンバー内での協議が必要。
W	
X	避難所での支援
Y	できない
Z	支援は難しい。
AA	外国人に対してやさしい日本語での対応と支援

問 12 貴団体において、地域福祉の向上を図るために、新たに取り組みたい、若しくは
 拡張したいと思うことや今後の課題についてお聞かせください。

	新たに取り組みたい、拡張したいことや今後の課題
A	移動手段がない外国人の為に移動教室やオンライン教室。外国につながる子供の為に塾。
B	
C	特段なし
D	
E	コロナの状況をみながら、少しずつ、イベント等を再開していきたい。
F	福祉関係のイベントを増やし、市民が楽しめる内容を考え市民に向けた PR を徹底し、参加してもらうこと。
G	福祉団体では無いので自治会、地区社協への協力
H	
I	福祉サービス対象外の人への支援 障がい福祉課以外の市職員の方への要約筆記の周知
J	
K	
L	
M	点字に関心をもってもらいたい。
N	
O	災害弱者へのアプローチ
P	心肺蘇生法、AED の取扱い等の指導に取りこんでいきたいと思っています。
Q	外国人の入国が許可されてから、外国人学習者の増加傾向にありますので、今のところ現在の活動を充実させたいです。
R	活動する人の人手不足の解消
S	なし
T	豚まん用の蒸し器や調味料等を預かっているので（4 箱）引き受け手がない。保管場所が個人でなく有れば。
U	
V	綾瀬市障がい児者移動支援事業所申請の準備を進めており、障がい児者の負担軽減と、おでかけ綾瀬の事業拡大に継ぎたい。
W	
X	ベルは脳活性にもよく高齢者の健康保持の為に綾瀬市全体に活動を広げていく予定です。
Y	
Z	なし
AA	外国につながる児童や生徒の支援

問 13 新型コロナウイルス感染症拡大により、活動状況や活動方法に変化があれば、お聞かせください。

新型コロナウイルス感染症拡大による活動状況や活動方法の変化	
A	オンライン教室を始めた。
B	マスク着用 手指消毒
C	展示イベント、チャレンジボラの受入れなど、3年間、休止状態
D	現在はマスク着用。密にならないほど広い場所をさがして活動。お茶会等の親睦を図る機会が持てなくなった。
E	イベント等の開催ができなくなった。
F	緊急事態宣言が発出しなければ、週2回通常通りの活動を行なう。
G	屋外活動が主であり特に影響はなし
H	なし
I	飲食禁止の施設がまだ多く、茶話会などができなくなっている。
J	不特定多数が集まる場所（特に室内）での活動は参加できない。
K	従来は修理作業を子供達に見てもらっていたが今は、修理品を預かり、入院で行っている（密をさけ、滞在時間の短縮）
L	感染拡大で今日まで中止しています。最近福祉協議会からタオルの寄附募集でひさしぶりに動きました。ありがとうございます。
M	活動場所、内容等、制限が重なり、感染症前の活動が半分以下になりました。
N	ボランティア活動と練習中止
O	ほとんどの事業を縮小、中止が続き、会員どうしのつながりが希薄になっている
P	3年間活動を縮小してきましたが、ここにきて少しずつですが活動を再開し始めました。
Q	コロナ以前は、お茶とお菓子を囲んで、ティータイムを行っていた。担当の学習者以外とも会話をしていました。それが、学習のみになっている。
R	特になし
S	教室を確保できなくなり、長期に学習していた生徒や紹介により希望者のいる時のみ活動する。生活相談はLINEやインターネットです。
T	小学校の出前がなくなりました。
U	
V	活動開始（'20/4～）から新型コロナにみまわれて、当初はコロナ対応前提での制約の中で活動していたが、約3年経過して、さほどあわてることなく進められるようになってきた。
W	学習スペースの拡大。マスクの着用等
X	高齢者施設での活動がほとんど出来ていません
Y	マスク着用、手指消毒
Z	コロナになって、受け入れ側の依頼がなくなった。依頼があったら訪問できるように、準備はしている。
AA	公民館が飲食禁止になるとイベントができなくなる ズームなどを使用する機会が増えた。

問 14 綾瀬市の地域福祉をより良くしていくためのご提案やご意見などについてお聞かせください。

	提案や意見
A	小ホールのような長時間貸りられてパーティなどでもできるような場所がほしい。いつも小ホールはうまって貸りられない。
B	
C	
D	福祉の本来の意味は幸せ、と理解しています。今、元気でも年月が経てば受け手になります。どんな人でも社会に参加している、役に立っていることは喜びだと思います。いろいろな催しにも（特別なものではなく）参加できるような手助けができれば良いと思います。皆が幸せでありますように！
E	
F	行政や民間企業、お店などに手話ができる人普通にいること。
G	民生委員、地区社協、自治会が活動しているが統一性が無い感じがする 要援護者個人に対して主援護の担当を決めた方が良い。
H	なし
I	社協は SNS を活用していて、今後も続けてほしい。良いと思います。市民活動センターあやせの HP やツイッターは・・・改善してほしいです。毎日見たくなるような、情報も新しいものを載せてほしいです。
J	
K	
L	
M	視覚障がいの方が利用される道路上の点字ブロックの破損がひどいです。素人の私から見てもこれでは危険だと思ってしまいます。
N	
O	行政と各団体の交流、情報交換の機会を増やす
P	特に思いあたりません。
Q	皆様努力されていると思います。ありがとうございます。
R	生活困窮者のペット飼育についてもっと危機感をもってほしいです。
S	小学生の頃から、老人、障害者、外国籍の人達と交流をもたせ、当たり前のようにみんなで手をさしのべ助けあえるのが生活であると思って成長してもらえるようにしてほしい。
T	
U	
V	福祉活動団体の横の継がりをより一層強固なものにする。その為のイベント etc を考慮願いたい。
W	
X	意欲のある高齢者が活動しやすくなる為に公用車を多くふやしてほしいです。
Y	
Z	
AA	もっと活動場所を提供して下さい。特にスポーツ施設や大きなグラウンド、大きなホールスペース、調理実習室が足りません。公民館などの部屋を会食のできないルールにしないでほしい。全施設が色々な使い方ができるのが望ましい。

5 福祉施設

(1) 地域との関わりについて

問1 貴施設・事業所の活動にあたって困っていることはありますか。

	活動にあたっての困りごと
A	法人以外のディサービス施設の増加により、集客数が減少しています。全ての商品の値上がりがとても経営上大変になってきています。介護報酬はあがらず入浴室を作り、4月よりサービス提供をしていますが、ガス・水道代の値上がりの中、55点の報酬は検討してほしいです。
B	
C	
D	
E	慢性的な人材不足（ホームヘルパー）により、サービス提供が行き届かない。
F	特にありません
G	コロナが収まらない
H	なし
I	介ゴサービスを担う人材の雇用
J	男性介護者（支援員）が足りていない。

問2 貴施設・事業所が取り組んでいる地域における活動の分野と活動内容をお答えください。

	活動分野	活動内容
A		コロナ禍の前は、夏まつり、クリスマス会、ボランティアの受け入れを行っていましたがコロナ拡大により、一切行っておりません。
B		
C	高齢者福祉	現在はコロナウィルスの為、地域と交流は止めています。ボランティア等も中止しています。
D		
E		早川地域住民交流。地域住民懇談会の開催（月一回）、地域住民・近隣の高校、保育園とともにKファーム（畑作業）、児童遊園地の整備を行っている。ワークステーション蒼組（デイサービス）地域のお寺の掃き掃除
F	高齢者福祉、障がい者福祉	
G	高齢者福祉	ボランティアの受入
H		なし
I	高齢者福祉	地域住民との交流。夏まつりを開催し、盆おどり、各種食事、ドリンクの販売等で交流を図っています。
J	障害者福祉	ボランティアの受け入れ

問3 貴施設・事業所と交流のある団体と交流内容をお答えください。

	交流内容
A	推進会議は直接地域の方々との交流が持てず、書類での会議となっています。
B	夏のBBQや掃除、運動会等に参加・施設見学やそば屋に来店等
C	現在はコロナウィルスの為、止めています。
D	
E	早川→住民懇談会に自治会、地区社協、老人クラブ、役員が参加している。ささえ合い井戸端会議の早川への参加。綾西→綾西みんなの足に役員として参加、ささえ合い井戸端会議綾西に参加。中村→ささえ合い井戸端会議中村に参加
F	
G	地域包括支援センターを中心に交流している
H	なし
I	会議に参加している。
J	

問4 福祉施設として、どのような地域の活動や行事に参加していますか。(あてはまるものすべてに○)

地元行事（まつりなどのイベント）（6件） 防災訓練（1件）
 清掃活動（3件） 運動会（1件）
 その他（1件） 参加していない（4件）

	参加している活動・行事	参加していない理由
A		コロナの不安もあり参加はしていません
B		
C	敬労会	現在は地元行事は中止していますが、今後再開したい。
D		
E		
F		地域の行事について把握してませんでした。
G		
H		
I		

問5 貴施設・事業所が行っている地域における活動の頻度をお答えください。
(1つに○)

週4回以上 (1件)	週1～3回 (0件)
月1～3回 (1件)	年6～11回 (1件)
年1～5回 (2件)	活動していない (5件)
その他 (0件)	

問6 貴施設・事業所が地域活動の対象としている主な地域をお答えください。
(1つに○)

町内 (1件)	小学校区 (0件)
中学校区 (1件)	市内広域 (1件)
市内と市外 (0件)	特定していない (3件)
その他 (0件)	

問7 施設の地域活動に地域住民が参画するためにどのような工夫をされていますか。

地域住民の方の参画のための工夫	
A	表見える所に、活動報告、ゴミ袋（広告紙により手作りした物）等お願いしています。又、その礼状も表にはって、地域の方との連携を図っています。
B	施設のお祭りの際にはチラシ等配布している。また近隣の方には引き替え券など渡している。（コロナでここ数年は実施しておらず）
C	毎年、行っている地域のお祭り（おみこし）の際には、施設へよって頂いて、入居者様と地域の子供達の交流の場をつくってました。
D	
E	早川地域住民交流館まつり（毎年5月）開催。ふらっとテラス中村まつり（開催予定）
F	
G	地域交流館を貸し出している
H	なし
I	防災訓練、夏まつり等を開催し、入居者と地域住民の交流の場を設けている
J	特になし

問8 地域福祉に関して、貴施設・事業所が地域から求められていることは何だと思えますか。

	地域福祉に関して求められていること
A	人通りはある所なので、どういう所なんだ？と思っている方も多く、一目でサービス内容が分かり、自由に見学できる必要があるのではないか。
B	
C	今の施設のあり方が、高齢者、障害者、こどもといった縦割りを超えて、お年寄りや介護に携わる人達が地域の中に出向き、地域の人々との交流の場を深め、地域のさまざまな人々が介護施設にも出入りでき、地域交流の場を沢山、もうけ、地域の住民が相談できる（気軽に）窓口も設置できれば、もう少し密に地域と施設で安心できる町づくりを目指していられるのではと思います。
D	
E	交流の機会、活動の場の提供
F	より良い支援の質。
G	相談窓口
H	介護保険相談
I	まずは“安定的”な介ゴサービスの提供だと思えます。その上で地域住民やボランティアさんの活躍の場を提供することだと思えます。
J	相談窓口

問9 福祉施設として、災害発生時に利用者はもちろん地域の被災者に対してどのような救助活動や支援ができると考えていますか。

	災害発生時にできる救助活動や支援
A	事業所の二階が空になっており、一つの部屋に、毛布、マスク等地域の為にも使って頂こうと、準備しております。地域との助けあいが重要と考えます。
B	福祉避難所として登録している為、避難スペースの提供や食事等の提供の場としての機能
C	必要物資の提供、人員救助の応援など
D	避難場所である学校の近くであるため、その場に合わせて臨機応変な協力はしたいと考えている。ペットボトルの水を多めに備蓄する様にはしている。（約10ケース程度）
E	緊急避難所として提供
F	一時避難スペースの提供は可能だと考えます。
G	避難スペースの提供
H	なし
I	100人分の食料を備蓄している
J	避難スペースの提供。物資の貸出し、提供。

問10 子ども、高齢者、障がいのある人などの福祉に関する市の情報を十分に入手できていますか。(1つに○)

できている(2件)

ある程度できている(5件)

できていない(3件)

問10で「1」、「2」のいずれかをお答えの方にお聞きします

問10-1 必要な情報をどこから入手していますか。

	情報の入手方法
A	メールやホームページ
B	市の広報やメール、手紙等
C	
D	
E	市役所、市社協、自治会、地域包括支援センター
F	市の広報など
G	ホームページ
H	綾瀬市ホームページ
I	ホームページ、広報
J	

問 11 新型コロナウイルス感染症拡大により、経営状況に変化があれば、お聞かせください。

	経営状況の変化
A	当施設は、運動する事を重点においており、消毒、感染対策をお手紙にして、ご利用者様、ご家族様に安心してご利用頂ける様にしました。それでも人数が増えるには、時間がかかりました。
B	通所の人数が減ることによる収入減、短期入所なども受け入れ出来ず収入減となっている
C	
D	
E	特になし
F	特に変化はありません。
G	よりきびしくなっている
H	なし
I	物資仕入価格等の高騰により収益の圧迫している。
J	特に変わらない

問 12 新型コロナウイルス感染症拡大により、利用者の利用方法や利用内容に変化はありましたか。

	利用方法や利用内容の変化
A	世の中にコロナの事が広まった時、市内介護施設でのクラスター、スーパー、病院等、コロナ感染者多く出ており、マスクも不足する中やはり、ご利用者様が利用休止になり、ホームの方のご利用が未だに中止のままになっています。
B	外出の制限やマスク着用など今まで自由だった部分がなくなったこと。
C	
D	訪問しないでほしいという利用者がある。
E	特になし
F	特に変化はありませんが一層体調やマスク着用などに気をつけるようになられてます。感染対策への意識の変化あり。
G	あった
H	なし
I	在宅サービスについては利用控えがあります。
J	感染拡大時及び、時期により短期入所の受け入れを見合わせる等あり。

問 13 綾瀬市の地域福祉をより良くしていくためのご提案やご意見などについてお聞かせください。

	提案や意見
A	現在、認知症のご利用が多くなり、21年以上デイを提供した中で本当に多くなっています。一緒の中でのサービス提供は、大変難しい感じです。どう理解して頂けるかが課題です。認知の方のショート先が少なく、綾瀬市として、この現状をどの様に思っているのか？今後の対策も必要なのではないですか？
B	
C	
D	認知症カフェも話をきかなくなって久しいが、特に認知症だから高齢者だからとかでなく、気軽に立ち寄って話ができる場の提供等、考えて行けたらいいと思う。若い人でも、近くに見寄りがなく、コロナ禍で話をしたくても聞いてもらえる人がいない人もいると思う。もちろん高齢者は話をしたいけど相手がいな人は沢山いると思う。
E	介護保険事業所、障害者支援事業所が、地域住民と共に活動できるよう、事例集などを作っただけないでしょうか。
F	
G	
H	
I	
J	

Ⅲ 調査票

1 就学前児童

就学前児童

保健・福祉のまちづくりをすすめるための 市民アンケート調査

～調査ご協力のお願い～

本市では、地域福祉を推進するため、皆様のご意見やご要望を幅広くお聞きするアンケート調査を実施します。

この調査は、市民の就学前児童を令和4年11月1日現在の住民基本台帳から無作為に選ばせていただき、保護者等のご意見やご要望をおうかがいするものです。

なお、ご回答いただきました内容はすべて統計的に処理し、調査目的以外に使用することはありません。

お忙しいところ誠に恐縮に存じますが、ご協力をお願いいたします。

令和4年12月

綾瀬市

【ご記入にあたってのお願い】

1. この調査は、令和4年11月1日現在の状況でお答えください。
2. お答えは特に説明のない限り、あてはまる番号を選び○で囲んでください。
3. お答えが「その他」にあてはまる場合は、（ ）内になるべく具体的にその内容をご記入ください。
4. 質問によっては、次に答えていただく質問が決まっている場合がありますので、矢印（→）など、次にお答えいただく質問番号への案内にご注意ください。

ご記入がすみましたら、誠に恐縮ですが、同封の返信用封筒に入れて12月26日（月）までにご投函ください。

また、記入上の不明な点、調査についてのお問い合わせは下記までお願いいたします。

【連絡先】綾瀬市福祉総務課 福祉・生活支援担当

電話 0467-70-5613

F A X 0467-70-5702

e-mail wm.705613@city.ayase.kanagawa.jp

1 ご記入されている方についておたずねします

問1 あなたの性別は。(1つに○)

- | | | |
|-------|-------|----------------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 3. 選べない・答えたくない |
|-------|-------|----------------|

問2 あなたの年齢は。(1つに○)

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1. 20歳未満 | 2. 20～24歳 | 3. 25～29歳 | 4. 30～34歳 |
| 5. 35～39歳 | 6. 40～44歳 | 7. 45～49歳 | 8. 50歳以上 |

問3 あなたの職業は。(1つに○)

- | | |
|-------------------|----------------------|
| 1. 農林水産業 | 2. 商工自営、自由業 |
| 3. 勤め人（正規従業員・正社員） | 4. 勤め人（嘱託・パート・アルバイト） |
| 5. その他の有職 | 6. 専業主婦（夫） |
| 7. 学生 | 8. 無職 |

問4 配偶者の職業は。(1つに○)

- | | |
|-------------------|----------------------|
| 1. 農林水産業 | 2. 商工自営、自由業 |
| 3. 勤め人（正規従業員・正社員） | 4. 勤め人（嘱託・パート・アルバイト） |
| 5. その他の有職 | 6. 専業主婦（夫） |
| 7. 学生 | 8. 無職 |
| 9. 配偶者はいない | |

問5 お子さんの性別は。(1つに○)

※あて名のお子さんについてご記入ください。

- | | | |
|-------|-------|----------------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 3. 選べない・答えたくない |
|-------|-------|----------------|

問6 お子さんの年齢は（令和4年11月1日現在の満年齢）。(1つに○)

※あて名のお子さんについてご記入ください。

- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 1. 0歳 | 2. 1歳 | 3. 2歳 | 4. 3歳 |
| 5. 4歳 | 6. 5歳 | 7. 6歳 | |

問7 ご家族の構成は。(1つに○)

- | |
|---------------------------|
| 1. 両親と子ども |
| 2. 母親と子ども |
| 3. 父親と子ども |
| 4. 祖父母（どちらか一方でも）と両親と子ども |
| 5. 祖父母（どちらか一方でも）とひとり親と子ども |
| 6. その他（
） |

問8 あなたがお住まいになっている地域はどこ自治会区分ですか。(1つに○)

- | | | | |
|---------|---------|---------|--------|
| 1. 落合 | 2. 中村 | 3. 上深谷 | 4. 蓼川 |
| 5. 大上 | 6. 寺尾南 | 7. 寺尾綾北 | 8. 寺尾北 |
| 9. 寺尾天台 | 10. 小園 | 11. 早川 | 12. 吉岡 |
| 13. 綾西 | 14. 上土棚 | | |

2 保育の状況についておたずねします

問9 平日の昼間、お子さんの保育は主にどこで、またはどなたが行っていますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------|-----------------------|
| 1. 幼稚園 | 2. 公立保育園 |
| 3. 私立保育園 | 4. 認定こども園 |
| 5. 勤務先の保育施設 | 6. その他の施設 |
| 7. 自宅で家族がみている | 8. 自宅外で親族や知人にみてもらっている |
| 9. その他 () | |

問10 現在の保育時間についてどのようにお考えですか。(1つに○)

- | | |
|------------|---------------|
| 1. 今のままでよい | 2. 時間を延長してほしい |
|------------|---------------|

問10で「2」とお答えの方にお聞きします

問10-1 希望する保育時間について24時間制でご記入ください。

開始時間	時	分
終了時間	時	分

問 11 保育サービス及び子育て支援サービスで知っているもの、これまで利用したことがあるもの、あなたのお考えに○をつけてください。(○は各項目で1つ)

サービス名	1. 知っている (あてはまるものすべてに○)	➡	2. 利用したことがある (あてはまるものすべてに○)	➡	3. あなたのお考え (○は各項目で1つ)				
					満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	不満である
ア 幼稚園の預かり保育	1	➡	2	➡					
イ 延長保育	1	➡	2	➡					
ウ ベビーシッター	1	➡	2	➡					
エ 土曜の保育	1	➡	2	➡					
オ 休日の保育	1	➡	2	➡					
カ ファミリーサポートセンター	1	➡	2	➡					
キ 一時預かり	1	➡	2	➡					
ク 宿泊を伴う一時預かり	1	➡	2	➡					
ケ 病児・病後児保育	1	➡	2	➡					
コ 地域子育て支援拠点事業 (子育て支援センター)	1	➡	2	➡					

3 乳幼児のお子さんを保育園などに預けている方におたずねします

問 12 お子さんがけがや病気になったときの対応はどのようにすることが多いですか。
(あてはまるものすべてに○)

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 父親または母親が仕事を休む 2. 祖父母など親族や知人にみてもらう 3. 職場などに連れて行く 4. ベビーシッター、家政婦に頼む 5. 病児・病後児保育を利用する 6. 仕方なく子どもだけで留守番させる 7. その他 () |
|--|

4 乳幼児のお子さんを保育園などに預けていない方におたずねします

問 13 この一年間にお子さんの面倒をみられなかったことがありましたか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 主に保育をする者が病気やけがをしたため
2. 主に保育をする者が他の家族の看護や介護をしたため
3. 冠婚葬祭のため
4. 妊娠・出産のため
5. その他 ()
6. そのようなことはなかった

問 13 で「1」～「5」のいずれかをお答えの方にお聞きします

問 13-1 面倒がみられなくなったとき、どのように対応しましたか。(あてはまるものすべてに○)

1. 配偶者など家族にみてもらった
2. 同居していない親族（祖父母など）にみてもらった
3. 近所の人や知人にみてもらった
4. ベビーシッター、家政婦などに頼んだ
5. 保育園の一時保育などの制度を利用した
6. ファミリーサポートセンターを利用した
7. 民間企業などの託児サービスを利用した
8. しかたなく、外出先や病院などに連れていった
9. その他 ()

5 子育ての状況についておたずねします

問 14 次のような家事や子育ては、主にどなたがなさっていますか。(○は各項目で1つ)

	夫婦で 分担	母親	父親	同居の 祖父母	その他
ア 家事全般	1	2	3	4	5
イ 子どもの生活習慣のしつけ	1	2	3	4	5
ウ 子どもの話し相手	1	2	3	4	5
エ 子どもの遊び相手	1	2	3	4	5
オ 子どもの勉強をみる	1	2	3	4	5
カ 子どもが病気のときの看病	1	2	3	4	5
キ 保育参観・授業参観	1	2	3	4	5
ク 保護者会（PTA）	1	2	3	4	5

問 15 お子さんが夜になって、突然熱を出したり、ぐったりして「お医者さんの診察を受けた方がいいのか、静かに寝かせておいた方がいいのか」迷ったりしたことはありますか。(1つに○)

1. よくある

2. 時々ある

3. ない

問 15 で「1」または「2」とお答えの方にお聞きします

問 15-1 そのときどうしましたか。(1つに○)

1. 医療機関に電話して相談した

2. 夜間救急診療所に受診した

3. 医院・病院に受診した

4. 親族・友人に電話して相談した

5. 様子を見た

6. その他 ()

問 16 あなたの近所とのおつきあいはどうですか。(1つに○)

1. あいさつをする程度

2. ときどき道で話をする

3. 相手の家に行って話をする

4. 食事と一緒にいたり、家族ぐるみでつきあったりしている

5. 困っているときに、相談したり助けあったりしている

6. ほとんどつきあいはない

問 17 あなたは日常生活において孤立感を感じていますか。(1つに○)

1. 強く感じる

2. やや感じる

3. あまり感じない

4. 全く感じない

5. わからない

問 18 子育ての不安は主にどんなことですか。(1つに○)

1. 病気

2. しつけ

3. 母乳・ミルク

4. 発育・発達

5. 食事・栄養

6. 経済的不安

7. その他 ()

問 19 あなたは、育児などの悩みがある場合、どのように解決しますか。または解決しましたか。(あてはまるものすべてに○)

1. 身内に相談する・した

2. 友人・知人に相談する・した

3. 幼稚園の先生や保育園の保育士に相談する・した

4. 小児科の医師に相談する・した

5. 専門のカウンセラー等に相談する・した

6. 市役所の保健師、育児相談などに相談する・した

7. 児童相談所を利用する・した

8. 民間の相談機関に相談する・した

9. 育児雑誌・インターネット等を利用する・した

10. 近所の人、民生委員・児童委員に相談する・した

11. その他 ()

12. 誰にも相談できない・できなかった

問 20 子育てについて悩んだ時期はいつですか。(1つに○)

- | | |
|-----------|------------|
| 1. 出産後1か月 | 2. 6か月前後 |
| 3. 1歳前後 | 4. 1歳6か月前後 |
| 5. 2歳前後 | 6. 3歳前後 |
| 7. 特になし | 8. その他 () |

問 21 あなたがお住まいの地域の民生委員・児童委員をご存じですか。(1つに○)

- | | |
|----------|--------------|
| 1. 知っている | 2. 名前だけ知っている |
| 3. 知らない | |

問 22 あなたは、市の子育て支援などの福祉に関する情報を入手できていますか。(1つに○)

- | | |
|-------------|--------------|
| 1. 入手できている | 2. ほぼ入手できている |
| 3. 入手できていない | 4. 必要ない |

問 23 あなたは、現在または今後、市の福祉に関する情報を入手するとき、どこからが入手しやすいですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| 1. 広報や市のパンフレット | 2. 市のホームページ等 |
| 3. 役所等の窓口(保育園・幼稚園等含む) | 4. 家族・親族 |
| 5. 自治会 | 6. 社会福祉協議会 |
| 7. 地域包括支援センター | 8. 地域子育て支援拠点(子育て支援センター) |
| 9. 民生委員・児童委員 | 10. ケアマネジャー、ヘルパー等 |
| 11. 障がい者相談機関 | 12. 高齢者福祉施設、障がい者福祉施設 |
| 13. 障がい福祉相談員 | 14. 市民活動団体(NPO法人など) |
| 15. その他 () | |

問 24 児童手当や小児医療費助成などの一部手続きについて、「e-kanagawa 電子申請システム」により電子申請をすることが可能です。このことをご存知でしたか。また、利用したことはありますか。(1つに○)

- | | |
|--------------|--------------------|
| 1. 利用したことがある | 2. 知っていたが利用したことはない |
| 3. 知らなかった | |

問 25 あなたは、新型コロナウイルス感染症の影響により、住民税非課税世帯に対する臨時特別給付金(1世帯10万円)を受け取りましたか。(1つに○)

- | | |
|------------|-------------|
| 1. 受け取った | 2. 受け取っていない |
| 3. よくわからない | |

6 母子保健事業についておたずねします

問 26 本市では、次のような母子保健事業を実施しています。以下のサービスについて『1. あなたは、保健サービスがあることを知っていますか。』『2. あなたは、保健サービスを利用したことがありますか。』『3. あなたのお考え』それぞれお答えください。(○は各項目で1つ)

サービス名	1. 知っている (あてはまる ものすべてに ○)		2. 利用したこと がある(あては まるものすべ てに○)		3. あなたのお考 え(○は各項目 で1つ)				
					満足して いる	やや満足 している	どちらとも いえない	やや不満 である	不満で ある
ア 4か月児健康診査	1	➡	2	➡					
イ 1歳6か月児歯科・ 内科健康診査	1	➡	2	➡					
ウ 3歳6か月児健康診査	1	➡	2	➡					
エ 8～10か月児健康診査	1	➡	2	➡					
オ 2歳児歯科健診	1	➡	2	➡					
カ 母親教室・父親教室	1	➡	2	➡					
キ こんにちは赤ちゃん 訪問	1	➡	2	➡					
ク 乳幼児訪問指導	1	➡	2	➡					
ケ あやびい子育て お役立ち情報	1	➡	2	➡					
コ 離乳食講習会	1	➡	2	➡					
サ 1歳児歯科育児教室	1	➡	2	➡					
シ 5歳児発達相談	1	➡	2	➡					
ス 子ども健康相談	1	➡	2	➡					
セ あやせ24時間 電話相談	1	➡	2	➡					
ソ 産後ケア事業	1	➡	2	➡					

7 今後の子育てに関することについておたずねします

問 27 子育てや子育て支援に関連した施策について、特に望むものを分野ごとにお答えください。

①まちづくりや施設等の整備について（○は3つまで）

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. 子どもに配慮したまちづくりの推進 | 2. 災害に強いまちづくりの推進 |
| 3. 安全でゆとりある道路・歩道の整備 | 4. ガードレールなど交通安全施設の整備 |
| 5. 良質なファミリー向け住宅の供給促進 | 6. 自然とふれあう場の整備 |
| 7. 雨の日でも自由に遊べる遊び場の整備 | 8. 公園・広場の整備や維持管理 |
| 9. 保育園施設の整備・充実 | 10. 幼稚園施設の整備・充実 |
| 11. 児童館の整備・充実 | 12. 文化施設の整備・充実 |
| 13. スポーツ施設の整備・充実 | 14. その他（) |

②子育てに関連した相談支援等について（○は3つまで）

- | |
|-------------------------|
| 1. 家庭や児童に係る相談体制の充実 |
| 2. 子育ての孤立化を防止するための支援の充実 |
| 3. 子育てに関する情報提供体制の整備・充実 |
| 4. 子育てサークル等への支援の充実 |
| 5. 青少年健全育成活動の強化 |
| 6. 男女が協力しあう家庭生活の啓発活動の強化 |
| 7. その他（) |

③保育の分野について（○は3つまで）

- | |
|-----------------------------|
| 1. 保育園の設備の充実 |
| 2. 保育士の資質の向上 |
| 3. 一時保育の充実 |
| 4. 延長保育の充実 |
| 5. 無認可保育所（家庭保育室など）の整備 |
| 6. 幼児教育の無償化や助成金などの経済的な支援の充実 |
| 7. 障がい児保育の充実 |
| 8. 保育園における子育て相談の充実 |
| 9. その他（) |

④教育・文化活動について

1. 自然や地域とのふれあいなど特色ある幼稚園・小学校教育の充実
2. 個性を大切にした教育の推進
3. ゆとりある教育の推進
4. 国際理解教育の推進
5. 情報化教育の推進
6. ボランティア活動など豊かな心を育成するための教育の推進
7. 障がい児教育の充実
8. 児童・生徒指導の充実
9. 幼稚園・小学校で行う文化活動の充実
10. 幼稚園・小学校で行うスポーツ活動の充実
11. 子どもたちが文化・芸術にふれる鑑賞機会の充実（幼稚園・小学校以外での活動）
12. 子どもたちがスポーツにふれるイベント等の充実（幼稚園・小学校以外での活動）
13. 幼稚園・小学校以外の場での体験活動の充実
14. 小学校の地域への開放や小学校と地域との連携の推進
15. スポーツ少年団活動の活発化
16. その他（)

問 28 子どもを健やかに生み育てるために必要と思われることはどのようなことですか。

(○は3つまで)

1. 出産や育児のしやすい就労条件を整備する
2. 出産や子育てについて気軽に相談できるようにする
3. 妊産婦や乳幼児の検診を充実する
4. 保護者の就労形態や通勤時間に応じた保育を進める
5. 保育園や幼稚園などの費用負担を軽減する
6. 子ども各人の個性を尊重した、ゆとりある教育を進める
7. 児童館や身近な公園など、子どもの安全な遊び場を確保する
8. 子ども会など地域の健全育成活動を進める
9. 子育てを助け合うコミュニティづくりを進める
10. 自然環境を保護し、子どもが自然とふれあう体験の機会を増やす
11. 妊婦や子ども連れでも安心して自由に活動できるまちづくりを進める
12. 質の高い住まいづくりや、住環境の整備を進める
13. 男性と女性が一緒に家事や育児に参加していくという考え方を広める
14. 子育てについて学べる機会を増やす
15. 生活困窮家庭の子どもへの食事や学習の支援
16. その他（)

問 29 最後に、子育ての環境や支援に関してご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

保健・福祉のまちづくりをすすめるための 市民アンケート調査

～調査ご協力のお願い～

本市では、地域福祉を推進するため、皆様のご意見やご要望を幅広くお聞きするアンケート調査を実施します。

この調査は、市民の20歳以上の方を令和4年11月1日現在の住民基本台帳から無作為に選ばせていただき、ご意見やご要望をおうかがいするものです。

なお、ご回答いただきました内容はすべて統計的に処理し、調査目的以外に使用することはありません。

お忙しいところ誠に恐縮に存じますが、ご協力をお願いいたします。

令和4年12月

綾瀬市

【ご記入にあたってのお願い】

1. この調査は、令和4年11月1日現在の状況でお答えください。
2. お答えは特に説明のない限り、あてはまる番号を選び○で囲んでください。
3. お答えが「その他」にあてはまる場合は、()内になるべく具体的にその内容をご記入ください。
4. 質問によっては、次に答えていただく質問が決まっている場合がありますので、矢印(→)など、次にお答えいただく質問番号への案内にご注意ください。

ご記入がすみましたら、誠に恐縮ですが、同封の返信用封筒に入れて12月26日(月)までにご投函ください。

また、記入上の不明な点、調査についてのお問い合わせは下記までお願いいたします。

【連絡先】綾瀬市福祉総務課 福祉・生活支援担当

電話 0467-70-5613

F A X 0467-70-5702

e-mail wm.705613@city.ayase.kanagawa.jp

1 あなたやあなたのご家族のことについておたずねします

問1 あなたの性別は。(1つに○)

- | | | |
|-------|-------|----------------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 3. 選べない・答えたくない |
|-------|-------|----------------|

問2 あなたの年齢は。(1つに○)

- | | | | |
|------------|------------|------------|------------|
| 1. 20～29 歳 | 2. 30～39 歳 | 3. 40～49 歳 | 4. 50～59 歳 |
| 5. 60～69 歳 | 6. 70～79 歳 | 7. 80 歳以上 | |

問3 あなたの世帯構成は。(1つに○)

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1. ひとり暮らし | 2. 夫婦ふたり暮らし |
| 3. 親と同居 (二世帯を含む) | 4. 子どもと同居 (二世帯を含む) |
| 5. 子どもと親または孫の三世帯同居 | 6. その他の世帯 |

問4 あなたがお住まいになっている地域はどこの自治会区分ですか。(1つに○)

- | | | | |
|---------|---------|---------|--------|
| 1. 落合 | 2. 中村 | 3. 上深谷 | 4. 蓼川 |
| 5. 大上 | 6. 寺尾南 | 7. 寺尾綾北 | 8. 寺尾北 |
| 9. 寺尾天台 | 10. 小園 | 11. 早川 | 12. 吉岡 |
| 13. 綾西 | 14. 上土棚 | | |

問5 あなたの職業は、次のどれですか。(1つに○)

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| 1. 農林水産業 | 2. 商工自営、自由業 |
| 3. 勤め人 (正規従業員・正社員) | 4. 勤め人 (嘱託・パート・アルバイト) |
| 5. その他の有職 | 6. 専業主婦 (夫) |
| 7. 学生 | 8. 無職 |

2 近所づきあいや地域での暮らしについておたずねします

問6 あなたは現在、地域の活動にどの程度参加していますか。(1つに○)

- | |
|-----------------------------|
| 1. できるだけ優先して参加している |
| 2. 自分の用事などを優先して都合がつけば参加している |
| 3. あまり積極的には参加していない |
| 4. 全く参加していない |

問7 どのような地域の活動に参加していますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------|-------------------|
| 1. 自治会 | 2. 自主グループ |
| 3. 老人クラブ | 4. 子ども会・青少年健全育成活動 |
| 5. PTA | 6. 公民館活動 |
| 7. お祭り・運動会 | 8. 文化祭 |
| 9. 清掃・リサイクル | 10. 消防団 |
| 11. 地区社会福祉協議会 | 12. その他 () |

問8 地域での健康づくり活動や趣味のグループ活動に担い手として参加してみたいと思いますか。(1つに○)

- | | |
|-------------------------|------------|
| 1. 参加したい | 2. 参加してもよい |
| 3. 参加したくない、参加できない(理由:) | |

問9 あなたのまわりで、次のような問題がありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|-------------|------------------------------|-----------|
| 1. 高齢者虐待 | 2. 児童虐待 | 3. ひきこもり |
| 4. ホームレス | 5. ドメスティック・バイオレンス(配偶者等からの暴力) | |
| 6. 障がい者虐待 | 7. 覚せい剤等の薬物使用 | 8. ゴミ屋敷 |
| 9. ヤングケアラー | 10. 金銭トラブル | 11. 消費者被害 |
| 12. その他 () | 13. 特にない | |

問10 あなたが生活上の問題で相談や助けを必要とするとき、誰に手助けを頼みたいですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1. 親族 | 2. 警察 |
| 3. 自治会や地区社会福祉協議会 | 4. 行政(市役所等) |
| 5. 民生委員・児童委員 | 6. 近所の人 |
| 7. 知人・友人 | 8. 社会福祉法人等の民間団体 |
| 9. 頼みたくない | 10. 誰もいない |
| 11. その他 () | |

問 11 あなたは、どのような窓口があれば相談しやすいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 気軽に話を聞いてもらえるところ
2. 身近なところで相談できるところ
3. 電話やファックス、Eメールなどによりいつでも相談できるところ
4. 自宅等へ訪問に来てもらい、相談できるところ
5. 最初の相談窓口がはっきりしているところ
6. 手話通訳や要約筆記などを配置した窓口があるところ
7. 一か所で用件を済ますことのできる総合的な窓口があるところ
8. 適切なアドバイスができる専門的な人材がいるところ
9. プライバシーへの配慮がなされているところ
10. 相談からサービス提供まで一貫した支援体制があるところ
11. その他 ()
12. わからない

問 12 あなたがお住まいの地域の民生委員・児童委員をご存じですか。(1つに○)

1. 知っている
2. 名前だけ知っている
3. 知らない

問 13 地域での人とのつきあいや関わりについて、あなたの考えに最も近いものはどれですか。(1つに○)

1. 隣人との助け合いや付き合いを大切にしたい
2. 住民が相互に協力して地域をよくする活動に参加していきたい
3. 隣近所の協力はあてにできないので、自分のことは自分でする
4. 時間的に余裕のある人や、やる気のある人が地域と関わるほうがよい
5. 地域社会のためであっても、自分の生活・時間を大切にしたいので、地域的な関わりは持ちたくない
6. その他 ()

3 地域福祉についておたずねします

問 14 あなたは、福祉に関心がありますか。(1つに○)

1. とても関心がある
2. ある程度関心がある
3. あまり関心がない
4. 全く関心がない
5. わからない

問 15 あなたは、福祉に関する研修会やボランティア講座、セミナーなどに参加したことがありますか。
(1つに○)

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1. よく参加している | 2. ときどき参加している |
| 3. あまり参加したことがない | 4. 全く参加したことがない |

問 16 あなたは現在、ボランティア活動に参加していますか。(1つに○)

- | |
|--------------------------------|
| 1. 参加している |
| 2. 以前に参加したことがあるが、現在参加していない |
| 3. 全く参加したことはないが、今後参加したい |
| 4. 全く参加したことはなく、今後とも参加したいとは思わない |
| 5. その他 () |

問 16 で「1」～「3」のいずれかをお答えの方にお聞きします

問 16-1 あなたが今後最も参加したいボランティア活動は何ですか。(1つに○)

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1. 地域福祉に関する活動 | 2. 自然・環境保護に関する活動 |
| 3. 体育・スポーツ・文化に関する活動 | 4. 災害救助活動 |
| 5. 国際交流（協力）に関する活動 | 6. 青少年の健全育成に関する活動 |
| 7. その他 () | |

問 16 で「4」とお答えの方にお聞きします

問 16-2 ボランティア活動に参加しない（したくない）理由は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

- | |
|----------------------------------|
| 1. 仕事や家事が忙しく、時間がとれない |
| 2. 小さな子どもや介護を必要とする家族がいる |
| 3. 健康に自信がない |
| 4. 活動したい気持ちはあるが、きっかけがつかめない |
| 5. 身近に活動グループや仲間がいない |
| 6. 活動のための費用がない |
| 7. 活動のための資格・技術がない |
| 8. 家族や職場の理解が得られない |
| 9. 興味の持てる活動がない |
| 10. 新型コロナウイルス感染症拡大のため、参加したいと思わない |
| 11. その他 () |

問 17 地域の中でボランティア活動を進めていくうえで、必要な条件はどのようなことだとお考えですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 時間的、経済的なゆとりがあること
2. 家族に病人や小さな子どもなどがいないこと
3. 家族の理解が得られること
4. 自分が健康であること
5. 共に活動する仲間や友人がいること
6. 経費（活動費）の支援があること
7. 活動の内容が自分の趣味や特技を生かせる場であること
8. 自治会や婦人会など自分の所属する団体がボランティア活動に熱心に取り組んでいること
9. 自分のまわりの住民の理解や支持が得られること
10. 行政がボランティア活動を積極的に援助すること
11. ボランティア講座など、ボランティアに関する知識や技術を学べる機会や体験の機会があること
12. ボランティア活動の中で生きがいや充実感が得られること
13. ボランティア活動を行える場所があること
14. ボランティア活動中の怪我や事故などに対する補償があること
15. 新型コロナウイルス感染症対策が行われていること
16. その他（)

問 18 あなたは、現在の福祉サービスのあり方についてどのようにお考えですか。(1つに○)

1. 何らかの援助を必要としている人々が、十分な福祉サービスを受けていると思う
2. ある程度満足できる福祉サービスを受けていると思う
3. 十分な福祉サービスを受けているとは思えない
4. その他（)

問 18 で「3」とお答えの方にお聞きします

問 18-1 どのようなサービスが不足しているとお考えですか。()に不足していると思われるサービスの内容や理由をご記入ください。(あてはまるものすべてに○)

- ア. 高齢者に対する福祉サービス
(具体的に：)
- イ. 障がい者に対する福祉サービス
(具体的に：)
- ウ. 子どもに対する福祉サービス
(具体的に：)
- エ. その他
(具体的に：)

問 19 ボランティア活動を希望する市民へ地域活動やボランティア活動のマッチングを行っているアクティブ・シニア応援窓口を知っていますか。(1つに○)

- | | |
|------------------------------|--|
| 1. 知っており、登録している | |
| 2. 知っているが、登録していない(理由: _____) | |
| 3. 知らない | |

問 20 綾瀬市社会福祉協議会では、次のような活動を行っています。『1. あなたは、以下の事業・活動があることを知っていますか。』『2. あなたは、以下の事業・活動を利用したり、参加したことがありますか。』『3. あなたは、今後以下の事業・活動を利用したり、参加したいと思いますか。』それぞれお答えください。

活 動 内 容	1. 知っている (あてはまるものすべてに○)		2. 利用・参加 したことがある (あてはまるものすべてに○)		3. 今後利用・ 参加したい (あてはまるものすべてに○)
ア 綾瀬福祉レクリエーション大会・福祉ふれあいまつりの開催	1	➡	2	➡	3
イ 地区社協活動推進	1	➡	2	➡	3
ウ いきいきサロンの開設、運営	1	➡	2	➡	3
エ 生活支援体制整備事業	1	➡	2	➡	3
オ 地域生活支援事業 (小地域ネットワーク活動)	1	➡	2	➡	3
カ 当事者団体、グループ等活動助成・支援	1	➡	2	➡	3
キ り災世常見舞金の支給	1	➡	2	➡	3
ク 総合相談事業	1	➡	2	➡	3
ケ 小中学校福祉推進のための助成金	1	➡	2	➡	3
コ 福祉教育の推進 (小・中・高校の福祉教育支援)	1	➡	2	➡	3
サ ボランティアセンターの運営 (講座の開催、ボランティアの派遣・登録など)	1	➡	2	➡	3
シ 募金活動 (共同募金・歳末たすけあい運動)	1	➡	2	➡	3
ス 綾瀬あんしんセンターの運営	1	➡	2	➡	3
セ 日常生活自立支援事業	1	➡	2	➡	3
ソ 生活福祉資金・簡易小口生活資金の貸付	1	➡	2	➡	3
タ 住民参加型ホームヘルパーの派遣	1	➡	2	➡	3
チ 送迎サービス (住民参加型移動支援事業)	1	➡	2	➡	3
ツ 移送サービス	1	➡	2	➡	3
テ 活動を1つも知らない	1	➡	2	➡	3
ト 社会福祉協議会そのものを知らない	1	➡	2	➡	3

問 21 成年後見制度についてご存じですか。(1つに○)

1. 名前も内容も知っている
2. 名前は聞いたことはあるが内容はわからない
3. 名前も内容も知らない

問 22 成年後見制度の利用促進に向けての課題は何だと思えますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 制度に関する十分な知識がない
2. 誰に相談して良いか分からない
3. 本人や家族、親族等の理解が得られない
4. 申立費用や後見報酬などの費用がかかる
5. 内容や手続きが煩雑である
6. 適当な後見人候補が見つからない
7. その他 ()
8. 特にない
9. わからない

問 23 あなたは、市民が「成年後見」の担い手となることができる市民後見人に興味がありますか。(1つに○)

1. 市民後見人として活動してみたい
2. 市民後見人になるための講習などを受けてみたい
3. 少し興味がある
4. 市民後見人以外の専門職などが後見人になった方がよい
5. わからない
6. 興味がない

問 24 今後、地域福祉活動を推進していく上で、地域住民として、どのような活動に取り組むべきだとお考えですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------|-------------------------|
| 1. 福祉施設の運営への参加 | 2. 介護者や介護を必要としている人々への支援 |
| 3. 病院への通院等の際の外出支援 | 4. スポーツ、趣味活動への支援 |
| 5. 生涯学習のための支援 | 6. 退職後の再就職を行うための支援 |
| 7. 高齢者と若い世代の交流活動 | 8. 安全で快適な居住環境整備のための活動 |
| 9. 福祉問題に関する話し合い | 10. 子育て支援活動 |
| 11. 青少年健全育成活動 | 12. 自治会など地域組織の活性化 |
| 13. 誰もが自由にふれあえる場づくり | 14. その他 () |

4 災害時の対応についておたずねします

問 25 大地震などの災害に備えて、地域でどのような備えが必要だと思いますか。(防災用品の備えを除いて)(あてはまるものすべてに○)

1. 隣近所での避難場所や避難方法を話し合っ、決めておく
2. 隣近所での住民同士の日ごろのつながりと助け合い
3. 高齢者や障がい者(児)などの支援を必要とする人たちへの支援体制の整備
4. 災害時に役立つ専門技術や知識をもつ人材の育成
5. 防災教育・訓練の実施
6. 心肺蘇生法、応急手当などの救命講習会の開催
7. 地域の行事などでの防災意識の啓発
8. その他()
9. 特に備えは必要ない

問 26 綾瀬市では、災害時に家族等の支援が困難で何らかの助けを必要とする人を対象に「避難行動要支援者登録制度」を実施していますが、あなたはこの制度に登録していますか。(1つに○)

1. 登録している
2. 今後、登録する予定
3. 制度は知っているが、登録しない
4. 制度を知らない

5 新しい地域福祉の課題についておたずねします

問 27 現在、あなたが一番不安に感じていることは何ですか。(1つに○)

1. 健康のこと
2. 生活費のこと
3. 住まいのこと
4. 財産管理のこと
5. 寝たきりや認知症になること
6. 仕事のことや生きがいのこと
7. 相談相手や話し相手がないこと
8. 家族や子どものこと
9. その他()
10. 特に不安はない

問 28 生活困窮者自立支援法(制度)について、ご存じですか。(1つに○)

1. 名前も内容も知っている
2. 名前は聞いたことはあるが内容はわからない
3. 名前も内容も知らない

問 29 就労や心身の状況、地域社会との関係性などの事情で、経済的に困窮し、最低限度の生活を維持することが困難になったとして、必要と思われる支援内容は、次のどれですか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 就労その他の自立に関する相談支援を行う事業
2. 離職により住居を失った人、または、失うおそれのある人に対し家賃相当分を支給する事業
3. 就労に向けての訓練など段階に応じたあっせん、サポートをする事業
4. 住居のない人に対し、一定期間宿泊場所や衣食の提供を行う事業
5. 家計を管理し、生活費を計画的に支出できるようにサポートする事業
6. 経済的理由により学習の機会が少ない子どもに対し、学習支援の場を提供するなどの事業
7. わからない
8. その他 ()

問 30 あなたは、新型コロナウイルス感染症の影響により、住民税非課税世帯に対する臨時特別給付金(1世帯10万円)を受け取りましたか。(1つに○)

1. 受け取った
2. 受け取っていない
3. よくわからない

問 31 あなたはヤングケアラーという言葉を知っていますか。(1つに○)

1. 言葉も内容も知っている
2. 言葉は聞いたことがある
3. 知らない

問 32 ヤングケアラーを支援するために、必要だと思うことはどのようなことですか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 本人の抱えている状況について相談できる場所
2. 家族の介護・介助の内容について相談できる場所
3. 家族の病気や障害、ケアのことなどについてわかりやすく説明する場所
4. 介護・介助のすべてをケアラーに代わって行うサービスの紹介
5. 介護・介助の一部をケアラーに代わって行うサービスの紹介
6. 進路や就職など将来について相談できる場所
7. 学校の勉強や受験勉強など学習のサポート
8. 家庭への経済的な支援
9. その他 ()
10. 特にない
11. わからない

問 33 犯罪をした人が孤立することなく社会に復帰し、犯罪や非行の繰り返しを防ぐため、平成28年に再犯の防止等の推進に関する法律(再犯防止推進法)が施行されました。あなたは、このことを知っていますか。(1つに○)

1. 名前も内容も知っている
2. 名前は聞いたことはあるが内容はわからない
3. 名前も内容も知らない

問 34 刑務所や少年院を出た人の円滑な社会復帰への支援について、どう思いますか。(1つに○)

1. 自分も積極的に支援活動をしたい
2. 協力できる条件が合えば協力したい
3. 近所や職場など身近にそういう人がいれば協力したい
4. 自分は協力できるかわからないが、取り組み自体は必要だと思う
5. かかわりたいとは思わない
6. 特に関心はない
7. その他 ()

問 35 あなたの家族、知人・友人でひきこもりで悩んでいる人はいますか。(1つに○)

1. いる
2. いない

問 36 ひきこもりの人やその家族を支援するためには、どのような施策が必要だと思いますか。
(○は3つまで)

1. 窓口等の相談支援体制の充実
2. ひきこもりの人の居場所づくり
3. ひきこもりの人を支援する地域のネットワークの構築
4. ひきこもりの当事者会や家族会の開催
5. 市民への普及啓発活動
6. ひきこもりの人を支援する NPO 法人等への補助
7. ひきこもりの人を支援するサポーター等の養成
8. その他 ()

6 今後の福祉の方向についておたずねします

問 37 高齢者の住みよいまちをつくるために必要と思われることはどのようなことですか。

(○は3つまで)

1. 相談機能の充実
2. 高齢者に関する保健福祉情報の提供
3. サービス利用手続きの簡素化・スピード化
4. ホームヘルパーや保健師等の人材の確保・養成
5. 地域での社会福祉活動の拠点となる場の整備
6. ボランティアの養成
7. 保健・医療・福祉の連携による在宅サービスの充実
8. 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）等施設の整備
9. 高齢者の就労機会の拡充
10. 高齢者の余暇活動のための施設の整備
11. 高齢者の生きがいを高める事業や他世代とのふれあいの機会の拡充
12. 高齢者の健康づくりの推進
13. 高齢者が利用・移動しやすい道路・建物・駅等の整備
14. 高齢者が暮らしやすい住宅の整備
15. 高齢者の防災・安全対策
16. その他（)
17. 特にない

問 38 子どもを健やかに生み育てるために必要と思われることはどのようなことですか。

(○は3つまで)

1. 出産や育児のしやすい就労条件を整備する
2. 出産や子育てについて気軽に相談できるようにする
3. 妊産婦や乳幼児の検診を充実する
4. 保護者の就労形態や通勤時間に応じた保育を進める
5. 保育園や幼稚園などの費用負担を軽減する
6. 子ども各人の個性を尊重した、ゆとりある教育を進める
7. 児童館や身近な公園など、子どもの安全な遊び場を確保する
8. 子ども会など地域の健全育成活動を進める
9. 子育てを助け合うコミュニティづくりを進める
10. 自然環境を保護し、子どもが自然とふれあう体験の機会をふやす
11. 妊婦や子ども連れでも安心して自由に活動できるまちづくりを進める
12. 質の高い住まいづくりや、住環境の整備を進める
13. 男性と女性が一緒に家事や育児に参加していくという考え方を広める
14. 子育てについて学べる機会を増やす
15. 生活困窮家庭の子どもへの食事や学習の支援
16. その他（)
17. 特にない

問 39 障がい者の住みよいまちをつくるために必要と思われることはどのようなことですか。

(○は3つまで)

1. 障がいのある人々への理解を深めるための啓発・広報活動や学校の充実
2. 障がいのある人々に対するボランティア活動の育成・支援
3. 障がいのある児童などに対する生活支援、相談・指導体制や教育の充実
4. 障がいに応じた職業訓練の充実、就労の場の確保
5. 医療・リハビリテーションの充実
6. 生活の安定のための年金や手当の充実
7. 障がいのある人が安心して生活できるための、相談員や介護人（ヘルパー）などの在宅サービスの充実
8. 福祉機器など障がいのある人々の生活を支援する機器の開発
9. 障がいのある人々に配慮した公共建築物や交通機関などの改善・整備
10. 点字、手話、字幕放送などによる障がいのある人々への情報提供
11. 障がいのある人々が利用しやすい情報機器の開発・普及
12. 障がいのある人々に配慮した防犯・防災対策の推進
13. 障がいのある人々のスポーツ、レクリエーション及び文化活動の充実
14. その他 ()
15. 特にない

問 40 地域における助け合いを活発にするために必要と思われることはどのようなことですか。

(○は3つまで)

1. 地域における福祉活動の意義と重要性をもっとPRする
2. 地域でボランティア等の活動の拠点となる場を整備する
3. 地域における福祉活動の活動費・運営費等の資金的な援助を行う
4. リーダーや福祉活動に携わる人を育成する
5. 福祉活動の相談・指導を担当する専門職の充実を図る
6. 困っている人と助けることのできる人との調整を図る人材を育成する
7. 困っている人、助け合いの場や組織についての情報を得やすくする
8. 介護やボランティア活動の方法に関する研修を行う
9. 学校教育や社会教育での福祉教育を充実する
10. その他 ()
11. 特にない

問 41 最後に、地域福祉に関してご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

保健・福祉のまちづくりをすすめるための 市民アンケート調査

～調査ご協力のお願い～

本市では、地域福祉を推進するため、皆様のご意見やご要望を幅広くお聞きするアンケート調査を実施します。

この調査は、市民の15歳以上の方を令和4年11月1日現在の住民基本台帳から無作為に選ばせていただき、ご意見やご要望をおうかがいするものです。

なお、ご回答いただきました内容はすべて統計的に処理し、調査目的以外に使用することはありません。

お忙しいところ誠に恐縮に存じますが、ご協力をお願いいたします。

令和4年12月

綾瀬市

【ご記入にあたってのお願い】

1. この調査は、令和4年11月1日現在の状況でお答えください。
2. お答えは特に説明のない限り、あてはまる番号を選び○で囲んでください。
3. お答えが「その他」にあてはまる場合は、()内になるべく具体的にその内容をご記入ください。
4. 質問によっては、次に答えていただく質問が決まっている場合がありますので、矢印(→)など、次にお答えいただく質問番号への案内にご注意ください。

ご記入がすみましたら、誠に恐縮ですが、同封の返信用封筒に入れて12月26日(月)までにご投函ください。

また、記入上の不明な点、調査についてのお問い合わせは下記までお願いいたします。

【連絡先】綾瀬市福祉総務課 福祉・生活支援担当

電話 0467-70-5613

FAX 0467-70-5702

e-mail wm.705613@city.ayase.kanagawa.jp

1 あなたやあなたのご家族についておたずねします

問1 あなたの性別は。(1つに○)

- | | | |
|-------|-------|----------------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 3. 選べない・答えたくない |
|-------|-------|----------------|

問2 あなたの年齢は。(1つに○)

- | | | | |
|------------|------------|------------|------------|
| 1. 15～19歳 | 2. 20～24歳 | 3. 25～29歳 | 4. 30～34歳 |
| 5. 35～39歳 | 6. 40～44歳 | 7. 45～49歳 | 8. 50～54歳 |
| 9. 55～59歳 | 10. 60～64歳 | 11. 65～69歳 | 12. 70～74歳 |
| 13. 75～79歳 | 14. 80～84歳 | 15. 85歳以上 | |

問3 あなたの世帯構成は。(1つに○)

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1. ひとり暮らし | 2. 夫婦ふたり暮らし |
| 3. 親と同居(二世帯を含む) | 4. 子どもと同居(二世帯を含む) |
| 5. 子どもと親または孫の三世帯同居 | 6. その他の世帯 |

問4 あなたがお住まいになっている地域はどこ自治会区分ですか。(1つに○)

- | | | | |
|---------|---------|---------|--------|
| 1. 落合 | 2. 中村 | 3. 上深谷 | 4. 蓼川 |
| 5. 大上 | 6. 寺尾南 | 7. 寺尾綾北 | 8. 寺尾北 |
| 9. 寺尾天台 | 10. 小園 | 11. 早川 | 12. 吉岡 |
| 13. 綾西 | 14. 上土棚 | | |

問5 あなたの職業は、次のどれですか。(1つに○)

- | | |
|-------------------|----------------------|
| 1. 農林水産業 | 2. 商工自営、自由業 |
| 3. 勤め人(正規従業員・正社員) | 4. 勤め人(嘱託・パート・アルバイト) |
| 5. その他の有職 | 6. 専業主婦(夫) |
| 7. 学生 | 8. 無職 |

2 健康管理や健康観についておたずねします

問6 あなたは、ふだん健康だと感じていますか。(1つに○)

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. 非常に健康だと感じている | 2. 健康なほうだと感じている |
| 3. あまり健康でない | 4. 健康でない |
| 5. わからない | |

問7 あなたは現在、自分の健康の維持・増進のために、何か心がけていることがありますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------|---------------|
| 1. 休養や睡眠を十分にとる | 2. 規則正しい生活を送る |
| 3. 栄養のバランスのとれた食事をとる | |
| 4. 健康診査などを定期的に受ける | 5. 酒やたばこをひかえる |
| 6. 散歩やスポーツをする | 7. 地域の活動に参加する |
| 8. その他 () | |
| 9. 特に何もしていない | |

問8 自分の健康についてどのようにしたいと思いますか。(1つに○)

- | |
|---------------------------------|
| 1. 今より健康を少しでも良くしたい |
| 2. 今の健康をとにかく保ちたい |
| 3. 健康が今より悪くなるのは困るが、積極的に考えたことはない |
| 4. 健康などはどうでもいいと思っている |
| 5. わからない |

問9 昨年までに健康診断(市の基本健康診査に限りません)をどのくらいの頻度で受けていますか。

(1つに○)

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1. 年に1回以上受けている | 2. 2~3年に1回受けている |
| 3. 4~5年に1回受けている | 4. 昨年までは全く受けていない |

問10 現在、治療中の病気がありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|------------|---------|----------|
| 1. 高血圧 | 2. 脳梗塞 | 3. 心臓の病気 |
| 4. 高脂血症 | 5. 胃の病気 | 6. 糖尿病 |
| 7. その他 () | | |

3 身長・体重についておたずねします

問11 あなたの身長から考えて、体重は適切だと思いますか。(1つに○)

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

4 生活習慣についておたずねします

問 12 あなたは、メタボリックシンドロームの予防や改善のために、適切な食事、定期的な運動、週に複数回の体重計測のいずれかを実践していますか。(1つに○)

1. 実践して、半年以上継続している
2. 実践しているが、半年未満である
3. 時々気をつけているが、継続的ではない
4. 現在はしていないが、近いうちにしようと思っている
5. 現在していないし、しようとも思わない

問 13 あなたは、ふだん欠食することがありますか。(欠食とは三食のうち一食以上食べないことをいいます。)(1つに○)

1. ほとんど毎日1回は欠食する
2. 週4～6回欠食する
3. 週1～3回欠食する
4. ほとんど欠食しない

問 13で「1」～「3」のいずれかをお答えの方にお聞きします

問 13-1 三食のうち、いつ欠食することが多いですか。(1つに○)

1. 朝
2. 昼
3. 夕

5 運動習慣についておたずねします

問 14 日頃から健康維持・増進のために意識的に体を動かすように心がけていますか。(例：早歩きや階段を使うなど)。(1つに○)

1. いつも心がけている
2. ときどき心がけている
3. 心がけていない

問 15 「ロコモティブシンドローム(運動器症候群)」を知っていますか。(1つに○)

1. 内容を知っている
2. 名前は知っている
3. 知らない

6 ストレスについておたずねします

問 16 あなたは現在、ストレスが多いと感じていますか。(1つに○)

1. 多いと思う 2. ふつうだと思う 3. 少ないと思う

問 16で「1」とお答えの方にお聞きします

問 16-1 どんなことでストレスを感じますか。(1つに○)

1. 家庭 2. 職場・学校 3. 金銭
4. 健康 5. その他 ()

問 17 1日の睡眠時間はどれくらいですか。(1つに○)

1. 7時間未満 2. 7～8時間 3. 9時間以上

問 18 健康や病気のことについて、気軽に相談できる人はだれですか。(あてはまるものすべてに○)

1. かかりつけの医師等 2. 市の職員 (保健師・管理栄養士等)
3. 会社の健康管理担当者 4. 友人
5. 兄弟・家族 6. インターネットを活用している
7. その他 ()
8. 相談できる人はいない

7 たばこについておたずねします

問 19 あなたは現在、たばこを吸っていますか。(1つに○)

1. 吸っている 2. 過去に吸っていたがやめた
3. 以前から吸っていない

問 19で「1」とお答えの方にお聞きします

問 19-1 一日何本くらい吸っていますか。(1つに○)

また、喫煙歴は何年ですか。

喫煙本数

1. 1～5本 2. 6～10本 3. 11～20本
4. それ以上 (本)

喫煙歴

() 年

問 20 禁煙のために何か手助けしてほしいことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 禁煙するための情報がほしい | 2. 禁煙するための仲間がほしい |
| 3. カウンセリングをしてほしい | 4. 手助けしてほしいことはない |
| 5. その他 () | |

問 21 喫煙者が直接吸い込む「主流煙」や点火部から立ち上がる「副流煙」が及ぼす影響について知っていますか。(1つに○)

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

問 22 「COPD (慢性閉塞性肺疾患)」という病気を知っていますか。(1つに○)

- | | |
|-------------|-------------|
| 1. 内容を知っている | 2. 名前は知っている |
| 3. 知らない | |

8 飲酒についておたずねします

問 23 あなたは現在、アルコール類(健康酒等も含みます)を飲んでいますか。(1つに○)

- | | |
|-------------|----------------|
| 1. 飲んでいる | 2. 以前飲んでいたがやめた |
| 3. 全く飲んでいない | |

問 23 で「1」とお答えの方にお聞きします

問 23-1 飲み始めたのは何歳からですか。

() 歳

9 歯の健康についておたずねします

問 24 自分の歯(さし歯や治療した歯は自分の歯に含みます)はどの程度ありますか。(1つに○)

- | |
|---------------------------------|
| 1. 自分の歯が全部(28本)そろっている |
| 2. 部分的に入れ歯(取り外しのできる入れ歯、ブリッジ)がある |
| 3. 全部入れ歯である |
| 4. 入れ歯が必要であるが使用していない |

問 25 あなたは、ふだん自分の歯の健康について注意していますか。(あてはまるものすべてに○)

1. ときどき歯科検診(むし歯や歯槽膿漏がないかの検査)を受けたり、歯石をとってもらう
2. 食べ物を食べた後は歯を磨いたり口をすすぐ
3. 甘いものを食べたり飲んだりしないようにしている
4. その他()
5. 注意していない

10 薬や医療、保健サービスについておたずねします

問 26 あなたは、かかりつけのお医者さんがいますか。(1つに○)

1. いる
2. いない

問 27 あなたは、薬や医療についてどのようにお考えですか。(1つに○)

	1 そう思う	2 そう思わない
ア. 医者から処方される薬の量が多すぎて不安を感じることがある	1	2
イ. 薬の目的や効果、副作用の有無などについては、自分でも知っておきたい	1	2
ウ. 病状や治療法について、十分に説明してもらえないことが多い	1	2
エ. 病気の治療法を決定する場合には、医者だけでなく患者自身の意思も尊重されるべきだ	1	2

問 28 あなたは、あやせ 24 時間電話相談を利用したことがありますか。(1つに○)

1. ある
2. ない
3. 知らなかった

問 29 あなたは、地域の医療についてどのような要望をお持ちですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 夜間や休日の救急医療体制を充実してほしい
2. 寝たきりなど長期慢性疾患の場合でも、自宅で安心して療養できるように、往診や訪問看護を受けられるよう対策をたててほしい
3. 医療費、差額ベッド料や付き添い看護費用など、経済的な面の負担を軽くしてほしい
4. 発育歴や過去の病歴などを医療や保健に役立てるシステムをつくってほしい
5. 小児科を有する医療施設をつくってほしい
6. 高度医療が受けられるよう、地域の中核的な医療施設をつくってほしい
7. 身近な医療施設で人間ドックや脳ドックを受けられるようにしてほしい
8. 保健・医療・福祉の連携を強化し、寝たきりなどになっても在宅でさまざまな保健・医療・福祉サービスが受けられるようにしてほしい
9. その他 ()
10. 特に要望はない

問 30 本市では、次のような保健サービスを実施しています。以下のサービスについて『1. あなたは、以下の保健サービスがあることを知っていますか。』『2. あなたは、以下の保健サービスを利用したことがありますか。』『3. あなたのお考え』それぞれお答えください。(○は各項目で1つ)

サービス名	1. 知っている (あてはまるものすべてに○)	➡	2. 利用したことがある (あてはまるものすべてに○)	➡	3. あなたのお考え (○は各項目で1つ)				
					満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	不満である
ア 特定健康診査	1	➡	2	➡					
イ 特定保健指導	1	➡	2	➡					
ウ がん検診	1	➡	2	➡					
エ 糖尿病予防教室 (さよならメタボ教室)	1	➡	2	➡					
オ 高血圧予防食事療法講習会 (血管いきいき教室)	1	➡	2	➡					
カ CKD予防教室 (慢性腎臓病)	1	➡	2	➡					
キ 骨粗しょう症予防教室 (骨こつ教室)	1	➡	2	➡					
ク 健康相談 (いきいき健康食事相談、 あやせ24時間電話相談等)	1	➡	2	➡					
ケ 健康度見える化コーナー	1	➡	2	➡					
コ 保健師・管理栄養士による 訪問指導	1	➡	2	➡					
サ 食生活改善推進員養成講座	1	➡	2	➡					
シ 脂質異常症予防教室 (血液さらさら教室)	1	➡	2	➡					
ス 成人歯科健診	1	➡	2	➡					
セ 妊婦歯科健診	1	➡	2	➡					
ソ 心の健康づくり講演会	1	➡	2	➡					

問 31 今後、あなたが健康づくりに取り組んでいくうえで、市に対して要望したいことは何ですか。
(○は2つまで)

1. 各種検診の内容や受け方についての情報の提供
2. 寝たきりや認知症予防の情報提供
3. 健康づくりについての情報や知識の提供
4. 健康診査の機会の拡充
5. 企業や学校などの運動施設や健康関連施設の地域への開放
6. 健康づくりに関する相談方法の拡充
7. その他 ()
8. 特にない

問 32 最後に、保健や医療の環境や支援に関してご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

保健・福祉のまちづくりをすすめるための アンケート調査

～調査ご協力のお願い～

福祉活動をはじめ、幅広い分野でそれぞれ地域づくりに携っていただいている皆様には、日ごろから市政に深いご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

本市では、地域福祉を推進するため、皆様のご意見やご要望を幅広くお聞きするアンケート調査を実施します。

この調査は、市内の地域福祉に関わる各分野の、福祉関係団体、福祉事業所、NPO法人、ボランティア団体などへお願いしております。

ご回答いただきました内容はすべて統計的に処理し、調査目的以外に使用することはありません。

お忙しいところ誠に恐縮に存じますが、ご協力をお願いいたします。

令和4年12月

綾瀬市

【ご記入にあたってのお願い】

1. この調査は、令和4年11月1日現在の状況でお答えください。
2. お答えは特に説明のない限り、あてはまる番号を選び○で囲んでください。
3. お答えが「その他」にあてはまる場合は、()内になるべく具体的にその内容をご記入ください。
4. 質問によっては、次に答えていただく質問が決まっている場合がありますので、次にお答えいただく質問番号への案内にご注意ください。

ご記入がすみましたら、誠に恐縮ですが、同封の返信用封筒に入れて12月26日(月)までにご投函ください。

また、記入上の不明な点、調査についてのお問い合わせは下記までお願いいたします。

【連絡先】綾瀬市福祉総務課 福祉・生活支援担当

電話 0467-70-5613

FAX 0467-70-5702

e-mail wm.705613@city.ayase.kanagawa.jp

1 貴団体についておたずねします

団体名	
会員数	()人
設立時期	西暦()年
活動内容	

2 地域との関わりについておたずねします

問1 貴団体が行っている地域における活動の分野と活動内容をお答えください。

例：児童福祉、高齢者福祉など

活動分野：

活動内容：

例：施設入居者が住民と接する交流会などを主催、ボランティア訪問の受け入れなど

問2 貴団体と交流のある団体と交流内容をお答えください。

例：自治会、老人クラブなど

団体名：

交流内容：

問3 貴団体が行っている地域における活動の頻度をお答えください。(1つに○)

1. 週4回以上

2. 週1～3回

3. 月1～3回

4. 年6～11回

5. 年1～5回

6. 活動していない

7. その他()

問4 貴団体が地域活動の対象としている主な地域をお答えください。(1つに○)

- | | | |
|------------|------------|---------|
| 1. 町内 | 2. 小学校区 | 3. 中学校区 |
| 4. 市内広域 | 5. 市内と市外 | |
| 6. 特定していない | 7. その他 () | |

問5 貴団体などが地域活動を行う上で問題となることをお答えください。

例：地域の付き合いが薄くなっている、メンバーの高齢化、他団体と交流機会が少ないなど

問6 問5の問題を解決するために、どのような取り組みや支援が必要だと思いますか。具体的に記入してください。

問7 地域の担い手を増やすためにどのような取り組みや支援が必要だと思いますか。

例：イベントの開催、学校との交流など

問8 今後、地域でのボランティアや助け合いなど、地域活動をさらに活性化させるために必要だと思うことをお答えください。

例：住民に向けてPRする、参加できる仕組みづくりをするなど

問9 ボランティア活動を希望する市民へ地域活動やボランティア活動のマッチングを行っているアクティブ・シニア応援窓口を知っていますか。(1つに○)

- | | |
|-------------------|---|
| 1. 知っており、登録している | |
| 2. 知っているが、登録していない | |
| → (理由 : |) |
| 3. 知らない | |

問 10 子ども、高齢者、障がいのある人などの福祉に関する市の情報を十分に入手できていますか。
(1つに○)

1. できている

2. ある程度できている

3. できていない

問 10 で「1」、「2」のいずれかをお答えの方にお聞きします

問 10-1 必要な情報をどこから入手していますか。

問 11 災害発生時に地域の被災者に対してどのような救助活動や支援ができると考えていますか。

例： 要支援者の避難誘導、避難所での支援

問 12 貴団体において、地域福祉の向上を図るために、新たに取り組みたい、若しくは拡張したいと思うことや今後の課題についてお聞かせください。

問 13 新型コロナウイルス感染症拡大により、活動状況や活動方法に変化があれば、お聞かせください。

問 14 綾瀬市の地域福祉をより良くしていくためのご提案やご意見などについてお聞かせください。

以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

保健・福祉のまちづくりをすすめるための アンケート調査

～調査ご協力のお願い～

福祉活動をはじめ、幅広い分野でそれぞれ地域づくりに携っていただいている皆様には、日ごろから市政に深いご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

本市では、地域福祉を推進するため、皆様のご意見やご要望を幅広くお聞きするアンケート調査を実施します。

この調査は、市内の地域福祉に関わる各分野の、福祉関係団体、福祉事業所、NPO法人、ボランティア団体などへお願いしております。

ご回答いただきました内容はすべて統計的に処理し、調査目的以外に使用することはありません。

お忙しいところ誠に恐縮に存じますが、ご協力をお願いいたします。

令和4年12月

綾瀬市

【ご記入にあたってのお願い】

1. この調査は、令和4年11月1日現在の状況でお答えください。
2. お答えは特に説明のない限り、あてはまる番号を選び○で囲んでください。
3. お答えが「その他」にあてはまる場合は、()内になるべく具体的にその内容をご記入ください。
4. 質問によっては、次に答えていただく質問が決まっている場合がありますので、次にお答えいただく質問番号への案内にご注意ください。

ご記入がすみましたら、誠に恐縮ですが、同封の返信用封筒に入れて12月26日(月)までにご投函ください。

また、記入上の不明な点、調査についてのお問い合わせは下記までお願いいたします。

【連絡先】綾瀬市福祉総務課 福祉・生活支援担当

電話 0467-70-5613

F A X 0467-70-5702

e-mail wm.705613@city.ayase.kanagawa.jp

1 貴施設についておたずねします

施設名	
運営法人名	
従業員数	常勤（ ）人 非常勤（ ）人
設立時期	西暦（ ）年
主なサービス	1. 老人福祉関係事業所 2. 介護保険関係事業所 3. 障がい者福祉関係事業所 4. 医療機関 5. その他（ ）

問1 貴施設・事業所の活動にあたって困っていることはありますか。

--

2 地域との関わりについておたずねします

問2 貴施設・事業所が取り組んでいる地域における活動の分野と活動内容をお答えください。

例：児童福祉、高齢者福祉など

活動分野：

活動内容：

例：施設入居者が住民と接する交流会などを主催、ボランティア訪問の受け入れなど

--

問3 貴施設・事業所と交流のある団体と交流内容をお答えください。

例：自治会、老人クラブ、ボランティア団体など

団体名：

交流内容：

--

問4 福祉施設として、どのような地域の活動や行事に参加していますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 地元行事(まつりなどのイベント)	2. 防災訓練
3. 清掃活動	4. 運動会
5. その他()	
6. 参加していない	
→参加していない理由:()	

問5 貴施設・事業所が行っている地域における活動の頻度をお答えください。(1つに○)

1. 週4回以上	2. 週1~3回	3. 月1~3回
4. 年6~11回	5. 年1~5回	
6. 活動していない	7. その他()	

問6 貴施設・事業所が地域活動の対象としている主な地域をお答えください。(1つに○)

1. 町内	2. 小学校区	3. 中学校区
4. 市内広域	5. 市内と市外	
6. 特定していない	7. その他()	

問7 施設の地域活動に地域住民が参画するためにどのような工夫をされていますか。

例：施設で開催される行事などに地域住民を招待しているなど

問8 地域福祉に関して、貴施設・事業所が地域から求められていることは何だと思えますか。

例：地域交流の場の創出、相談窓口としての役割など

問9 福祉施設として、災害発生時に利用者はもちろん地域の被災者に対してどのような救助活動や支援ができると考えていますか。

例：一時避難スペースの提供、必要物資の提供の場としての機能など

問 10 子ども、高齢者、障がいのある人などの福祉に関する市の情報を十分に入手できていますか。
(1つに○)

1. できている

2. ある程度できている

3. できていない

問 10 で「1」、「2」のいずれかをお答えの方にお聞きします

問 10-1 必要な情報をどこから入手していますか。

問 11 新型コロナウイルス感染症拡大により、経営状況に変化があれば、お聞かせください。

問 12 新型コロナウイルス感染症拡大により、利用者の利用方法や利用内容に変化はありましたか。

問 13 綾瀬市の地域福祉をより良くしていくためのご提案やご意見などについてお聞かせください。

以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

保健・福祉のまちづくりをすすめるための
市民アンケート調査報告書
令和5年3月

発行：綾瀬市 福祉総務課 福祉・生活支援担当
神奈川県綾瀬市早川550番地
TEL 0467-70-5613
FAX 0467-70-5702